

113

明治二十九年十月

改正  
神道教規大全

東京 發行社

明治二十九年十月



改正 神道教規大全



東京 隸行







黑任教々師檢定條規	百四十三丁
神道教規	百五十五丁
神道教師檢定條規	百六十五丁
大成教々規	百七十五丁
大成教々規目次	百七十七丁
大成教教師檢定條規	百九十五丁
神習教々規	二百五丁
附規 神習教教約	二百二十五丁
教師檢定規則	二百三十九丁
教師檢定規則細則	二百五十一丁
神道提要二十八述題	二百五十四丁
附規 神習教教約	二百五十八丁

神宮教教規	二百八十五丁
神宮教教師檢定條規	三百七丁
大社教々規	三百十七丁
大社教々導職檢定條規	三百二十七丁
神道扶桑教々規	三百三十九丁
扶桑教教師檢定條規	三百五十一丁
神道禊瀦教規	三百七十三丁
禊教々師檢定條規	三百六十一丁

目次終

持18  
114

# 實任教々規

## 第一章 總規

- 第一條 惟神ノ大道ヲ宣揚スル事  
天祖神ノ生祭ス  
賢所ヲ禮拜ス
- 第二條 皇國ノ靈氣ヲ宣揚シテ無窮ノ國躰ヲ祈爾ス  
惟神ノ靈氣ヲ章明ス
- 第三條 皇國ノ禮典ヲ修明スル事  
神事ハ歷朝ノ儀範ニ則リ執行ス  
冠婚葬祭等ノ禮式ヲ執行ス
- 第四條 皇國ノ教ヲ擴充スル事  
禮典ヲ修明シテ死生ヲ申明ス
- 第五條 實行ヲ專踐シテ虛文ノ弊ヲ矯正ス  
業務ヲ獎勵シテ獨立ノ思念ヲ鼓舞ス
- 第六條 親睦ヲ主張シテ邦家ノ安寧ヲ希圖ス

實任教々規

第二章 名稱

第四條 當教本部ヲ東京ニ置キ實行教本館ト稱スル事

一 本教一切ノ事務ヲ總理ス

第五條 一國一部信徒ノ多少ニ據リ教會所或ハ説教所等ヲ置ク事

一 實行教何々分局ト稱ス

一 該部ノ教務ヲ擔當ス

第三章 役員名稱

第六條 大教正以下ノ教師ヲ總轄スルモノヲ管長ト稱スル事

第七條 教師ヲ教正講義訓導教導職試補ト稱スル事

一 教正ヲ正權大中小ノ六級ニ分ツ

一 講義ヲ正權大中小ノ六級ニ分ツ

一 訓導ヲ正權二級ニ分ツ

一 教導職試補

第八條 教務一切ノ事務ヲ辨理スルモノヲ幹事教長ト稱スル事

第四章 職制

第九條 管長ハ教務一切ヲ總理シテ上下ニ對シ其器ニ任スル事

一 神事道儀教法ヲ傳授ス

一 教師以下ヲ任免進退ス

一 教會講社ノ名稱ヲ許可ス

第十條 幹事ハ東京本部ニ在勤シテ教務ヲ擔當スル事

一 管長ヲ輔佐シテ庶務ヲ監督ス

一 管長事故アルハ代理ヲ勤ム

第十一條 教長ハ一國一部ノ教務ヲ統括スル事

一 管長ヲ輔翼シテ教師ヲ獎勵シ布教ヲ專トス

一 教師ノ勤惰ヲ觀察シ平素德行アルモノヲ布教ニ功勞アルモノ等ヲ管長ヘ具申ス

一 信徒後來ノ見込アル者ヲ撰拔シテ管長ヘ具申ス

第十二條 教師ハ神事布教ノ諸務ヲ分掌スル事

一 神事ヲ修メ信徒ヲ教導ス

一 冠婚葬祭等ノ諸式ヲ奉行ス

一 試補ハ教師ニ隨ヒ教導ヲ補助ス

第十三條 管長ハ一姓氏相續ヲ以テ認可ヲ願フベキ事

第五章 管長

- 一 時宜ニ寄リ副管長ヲ置テ管長ノ補助トナスベキ事
- 第十四條 幹事ハ管長ノ特撰タル事
- 一 品行方正事理ニ通曉スルモノ
- 第十五條 教長ハ管長ノ特撰或ハ部内ノ公撰ニ定ムル事
- 一 講義以上ニアルモノ
- 一 徳望アリテ信徒ヲ統ルニ足ルモノ
- 第十六條 教師ハ試験法或ハ管長ノ特撰ヲ以テ進退スル事
- 一 教長ノ具申ニ係ルモノ
- 一 實行炳ク事理ニ通スルモノ
- 一 試補ハ丁年前ト雖モ向來望アルモノハ之ヲ撰拔ス
- 第六章 公 部
- 第十七條 祠宇教會所説教所等ヲ設置スル事
- 一 教會所説教所等新築ハ従前ノ手續ヲ履ミ地方廳へ願出允許ヲ受其移轉廢合ハ届出ヘシ
- 一 祠宇ヲ設置スル片ハ管轄廳へ請願シテ許可ヲ乞フベシ
- 第七章 服 制

- 第十八條 教導職ノ禮服ヲ祭服狩衣直垂淨衣トスル事
- 一 教正以上祭服狩衣直垂淨衣
- 一 正權大講義狩衣直垂淨衣
- 一 試補直垂
- 但絹ヲ用ヒズ
- 第十九條 華士族平民自家神祭及神式葬儀ノ節戸主ハ勿論家族親屬總テ祭儀ニ關スルモノ狩衣直垂淨衣等ヲ着シ昇夫等ハ白丁ヲ用フル事
- 第八章 理 葬
- 第二十條 葬儀ヲ委託スル者アレバ試補以上成規ノ如ク殷勤鄭重ニ執行シ眞實ヲ主トシ虚飾ヲ省クベキ事
- 一 葬儀取扱ハ教職々務上ノ本分ナレバ自己ノ父母又ハ妻子等ノ葬儀ニ至テハ必ス他人へ依頼スヘシ
- 第九章 懲 戒
- 第二十一條 教職ノ者犯罪等ノ事故有テ免職ノモノ本人悔悟ノ事實及保證書差出ス片ハ其時宜ニ由テ宥免スベキ事
- 第十章 雜 則

第廿二條 教導授産ノ方法ヲ設世ノ公益ヲ謀ル事

一 山海ノ遺利ヲ與シ農漁ノ裨補ヲ謀ル

一 衛生ノ方法ヲ講習シ及行旅ノ便ヲ謀ル

第廿三條 本教ニ入ル者ハ左ノ規約ヲ遵守スヘキ事

一 別紙第一號ノ誓言書ヲ差出ス

一 誓言書ト引換ニ第二號ノ會員證ヲ與フ

一 第三號ノ如キ門標ヲ掲ケシム

一 第四號ノ心得書ヲ授與ス

右之條款ヲ以テ實行教ノ教規トス猶實施ノ上支悟アレハ重テ罰補許可ヲ請フ可シ

明治十八年四月

實行教管長

柴田花守

第廿四條

一 學寮ヲ置キ皇漢洋ノ學ヲ授ク

但シ學寮ヲ分チ普通科教師科ノ二トシ普通科ハ學齡兒童就學時間入學ヲ許

ナス教師科ハ終身教職ニ專從スヘキ誓約ヲ入シム

明治二十六年四月一日認可

實行教信徒心得

第一號 誓言

第一條

一 不二山ハ地球ノ精神ナルヲ信スル事

第二條

一 皇統一系國脉無窮ヲ祈ル事

第三條

一 上下親睦家業ヲ勵ム事

右誓ヲ確守候也

年月日

縣府

國

郡宿町村番地居住

姓名印

實行教信徒心得



第三號

實 行 教 會 員 證	何 縣 管 下 國 郡 村 番 地 居 住	姓 名	明 治 年 月 日
----------------------------	---	--------	-----------------------



川 中

實行教會員

實行教會員證

一尺

第三號

烙印

朱印

全上

第四號 第一條

一 本教ニ信入スルモノハ誓言書ノ旨ヲ跡シ記名捺印管長ニ呈シ印鑑ヲ申請クベキ事

第二條

一 他出旅行必印鑑ヲ携帯シ互ニ相示シ留意ナク交際スベキ事

第三條

一 左ノ木標ヲ門戸ニ掲グベキ事

三號ニ圖ヲ出ス事

第四條

一 毎朝拜式ヲ欠ク可カラザルハ勿論元始祭祀元節天長節春秋二季ノ皇靈祭祈年祭新嘗祭等ヲ始又毎月十七日ヲ期シ御恩禮ト唱ヘ會同シ各説教道話ヲ勤メ互ニ實行ヲ獎勵督促スベキ事

第五條

一 宮嶽ハ國家鎮護ノ靈山大地ノ精神ナルヲ確信シ無窮ノ國脈ヲ祈ルベキ事

第六條

附 毎年八月二日登嶽シテ寶祚ノ無窮國家ノ安寧ヲ祈ルヘシ

一 言フニ易ク行フニ難キハ人世ノ通患ニ付專ヲ意ヲ愛ニ注キ言ヲ後ニシ行ヒテ先ニシ輕薄疎暴懶惰放逸等名實齟齬ノ誹ヲ招キ教名ヲ汚ス可カラサル事

第七條

一 國ヲ愛スルハ家ヲ愛スルニ因リ家ヲ愛スルハ其身ヲ愛スルニ出テ則父母ノ遺跡ヲ敬愛スルノ理ニ原ク依テ先其身ヲ愛シ其家ヲ愛シ大成シテ國ヲ愛スルノ志念忠魂ヲ確立シ專外侮ヲ禦クハ本教ノ主眼タルベキ事

第八條

一 故無ク人ノ救助ヲ受ルハ大ニ一身ノ廉耻ニ關シ人トシテ有ル可ラザル儀ニ付勤行驅勉自ラ助ケ寧ロ他人ヲ救助スルモ人ノ救助ヲ欲スル等ノ劣心ヲ抱ク可カラザル事

第九條

一 國ノ富ハ一人ノ儉勤ヨリ始ル本教ニ入ル者宜シク此意ヲ体認シ奮起シテ業務ヲ勉強スベキ事

第十條

一 恩ヲ知ルチ人ト言ヒ知ラサルチ禽獸ト言フ知テ報イサレハ知ラサルニ均シ依テ天恩國恩父母祖先ノ恩ハ勿論總テ恩誼ニ報酬セサルモノ此教會ニ有ル可カ

ラサル事

第十一條

菲儀ハ終身ノ大典靈魂歸幽ノ要所ニ付鄭重ニ行フ可キ事ナレトモ奢倭華美ニ流レサル様節儉ヲ旨トシテ執行スヘキ事

神道實行教教師檢定條規

本年五月三十日訓令第九號ニ依リ別冊之通  
教師檢定條規規定致度候間御認可相成度此  
段奉願候也

明治二十八年九月十三日

神道實行教管長 柴田禮一 印

內務大臣子爵野村靖殿

(朱書)

割印

書面願之趣認可ス

明治廿八年十一月十五日

内務大臣子爵野村 靖印

神道實行教教師檢定條規

第一章 檢定

第一條 教規第三章第七條檢定ニ規定シタル教師ノ分限及等級ハ檢定條規ニ依リテ施行スル檢定ニ合格シタルモノニアラサレハ之ヲ授與セス

第二條 左ノ諸項ノ一ニ該當スヘキモノハ教師タルコトヲ得ス

- 一 瘋癲白痴盲聾瘖啞ノモノ
- 二 年齢二十歳未満ノモノ
- 三 品行不正ノモノ
- 四 重罪又ハ定役ニ服スヘキ輕罪ニ處セラレタルモノ
- 五 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サルモノ若クハ復權ヲ得テ一箇年ヲ經過セサルモノ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサルモノ若クハ辨償ヲ終ヘテ一箇年ヲ經過セサルモノ
- 六 本教及他神道教派ニ於テ懲戒免職ノ處分ヲ受ケ悔悟ノ實ヲ表セサルモノ若クハ悔悟ノ實ヲ表シ二箇年ヲ經過セサルモノ

第三條 教師檢定ハ教規第五章第十六條ニ依リ左ノ二種ニ別ツ

第一種 試驗  
第二種 特 撰

第四條 第一種ノ檢定ハ第二章第十條乃至第十五條ノ場合ニ檢定委員長檢定委員及立會人試驗員同章第六條乃至第九條又ハ第十六條乃至第二十條ノ手續方法ニ依リ學業上ノ試驗ヲ施行スルモノトス

第五條 第二種ノ檢定ハ第三章第二十一條乃至第二十五條ノ場合ニ限リ檢定委員長及檢定委員ノ銓衡ヲ經テ試驗ニ依ラス管長之ヲ補命シ又ハ其銓衡ヲ換タスシテ管長之ヲ特撰ス

第二章 試驗

第六條 試驗ヲ別チテ教養學科普通學科ノ二トス乃チ別紙表ノ如シ

第七條 試驗ハ十五級ナ七種ニ別チ試補ヲ一種トシ他正權ヲ一種中ニ包含セシム

第八條 三種以上ヲ高等試驗トシ四種以下ヲ尋常試驗トス

第九條 高等試驗ハ本館ニ於テ尋常試驗ハ各分局各教會所ニ於テ臨時之ヲ施行ス但本條以外ノ場所ニ於テ試驗施行ノ必要ヲ生スル時ハ管長ハ檢定委員長ヲ其地方ニ派遣シ檢定試驗ヲ行ハシム

第十條 新補試験ハ十三級以下トス

但第十一條乃至第十三條ノ場合ハ此限ニアラス

第十一條 官國幣社宮司若クハ權宮司タリシモノハ教養學科試驗ヲ免除シ七級以下、其稱宜主典タリシモノ若クハ滿十年府縣社以下神職タリシモノハ教養學科試驗ヲ免除シ十三級以下ノ試驗ヲ受クルコトヲ得

第十二條 神宮皇學館本科卒業生又ハ皇典講究所學正證書ヲ有スルモノハ教養學科試驗ト普通學科試驗ノ全部若クハ一部ヲ免除シ八級以下、其專科卒業生又ハ其五等司業以上ノモノハ教養學科試驗ヲ免除シ十三級以下ノ試驗ヲ受クルコトヲ得

第十三條 高等官タリシモノ若クハ其資格ヲ有スルモノハ普通學科試驗ヲ免除シ七級以下、判任官タリシモノ若クハ其資格ヲ有スルモノハ普通學科試驗ヲ免除シ十三級以下ノ試驗ヲ受クルコトヲ得

第十四條 昇級試験ハ現級滿二年以上勤続スルモノ、外受驗ヲ許サス

第十五條 六級十二級十四級ハ越級試験ヲ許サス

第十六條 試驗問題ハ試驗施行前豫メ管長ノ裁決ヲ經ヘシ

第十七條 高等試験ハ檢定委員長之ヲ審案シ其成績ヲ管長ニ報告スルモノトス

第十八條 尋常試験ハ檢定委員之ヲ審案シ其口述作爲ニ係ル得點ト筆答ニ關スル書類トヲ檢定委員長ニ送附シ檢定委員長ハ筆答書類ヲ審案シ其得點ト檢定委員ノ審

案シタル口述作爲ノ得點トテ合算シ其成績ヲ管長ニ報告スルモノトス  
 第十九條 各學科一百點ヲ滿點トシ教養學科ハ平均六十點以上、普通學科ハ平均五十點以上ヲ合格者トシ一科若四十點未滿ナル時ハ不合格者トス乃チ八十點以上ヲ甲トシ七十九點以下ヲ乙トス甲ヲ正ニ配シ乙ヲ權ニ配ス  
 第二十條 檢定試驗ニ關スル一切ノ書類ハ本館及各分局各教會所ニ保存ス

第三章 特 擧

第二十一條 一級二級ノ教師ハ一級七名二級二十名ノ定員ヲ置キ其缺員ヲ生スル場合ハ試驗ニ依ラス管長之ヲ輔命ス  
 第二十二條 左項ノ一ニ該當スヘキ教師ハ其七級ヨリ六級、十三級ヨリ十二級、十五級ヨリ十四級ニ昇級スル場合ヲ除クノ外試驗ニ依ラス一級ヲ進ムルコトアルヘシ  
 一 布教使ノ海外ニ於テ滿二年以上勤續スルモノ  
 二 絶島蠻荒ノ開教ニ從事スル教師ノ滿二年以上勤續スルモノ  
 三 現級滿三年以上勤續スル本館各分局庶務以上ノモノ  
 四 現級滿四年以上本教ニ勤續シ其行徳顯著ナルモノ  
 五 教養ニ關スル有益ノ著述ヲ爲シタルモノ  
 第二十三條 本教教學寮卒業生ハ試驗ニ依ラス八級以下ノ教師ニ補スルモノトス

但優等生ニ限リ七級教師ニ補スルコトアルヘシ

第二十四條 本教教學寮ノ學科程度ト同等以上ノ他神道教派教校卒業生ハ其教校ノ卒業證書ヲ有スルモノニ限リ試驗ニ依ラス本教教學寮卒業生ヨリ一級以下ノ教師ニ補スルモノトス

第二十五條 復職ノモノ又ハ他神道教派ヨリ轉屬ノモノ又ハ明治十七年八月十一日以前教導職タリシモノハ試驗ニ依ラス其原級ヨリ一級以下ニ補スルモノトス

第四章 委 員

第二十六條 本館ニ檢定委員長一名各分局各教會所ニ檢定委員三名又タ本館分局教會所ニ試驗員各々若干名ヲ置ク

第二十七條 檢定委員長ハ二級以上ノ教師、檢定委員ハ六級以上ノ教師ニ就テ管長之ヲ命ス

第二十八條 試驗員ハ檢定委員長又ハ檢定委員ノ擧舉ニ依リ管長之ヲ命ス

第二十九條 檢定委員長、檢定委員ハ管長ノ監督ヲ受ケ檢定試驗施行以內ノ事務ヲ處理判決ス

第三十條 試驗員ハ檢定委員長又ハ檢定委員ノ監督ヲ受ケ試驗ノ一部ヲ擔當ス

第五章 立 會 人



普通學科											教義學科				學科等級
數學	理科	地理	宗教	哲學	歷史	漢文	國文	法制	說教	作文	作業	教典			
答筆	答筆	答筆	答筆	答筆	答筆	述口	述口	答筆	述口	答筆	筆行 答爲	述口			
			比較宗教	近世哲學		周	萬葉集	出雲風土記	三延今 代喜義 格式解		鎮魂式	六國史	四級		
			比較宗教	古代哲學	日本政紀	近思錄	源氏物語	播磨風土記	法延令 喜義 至要抄	職原抄	禊齋式	六國史	五級		
筆算	生理		佛教ノ大意 基督教ノ大意	心理學 論理學	東鑑 讀史餘論	論語 孟子	枕草子 徒然草	あゆみ抄 かさし抄	皇室典範 制度通	禁秘抄 公事根原	誕生式 祓除式 葬祭式	古事記 古事記 古事記	七級		
算筆	物理			心理學 論理學	鏡水 鏡大	子中	徒然草	明倫歌集	制度通		祝詞 祝詞	古事記 古事記	九級		
算筆	物理	地文學			鏡大 鏡	庸大	土佐日記	玉鐙百首	制度通		祝詞 祝詞	古事記 古事記	十一級		
算珠		萬國地理			萬國歷史	大	詞の八衢	玉鐙百首			祝詞 祝詞	古事記 古事記	十三級		
算珠		日本地理			日本歷史	孝經	假名 姓名 綴				祝詞 往復文 跡	古事記 古事記	十五級		

第三十一條 各委員ノ檢定試験ヲ正確ニ施行スルヤ否ヤヲ監査スル爲メ管長ハ六級以上ノ教師ニ就テ臨時立會人ヲ命ス

第三十二條 立會人ハ試験ニ臨監シ試験終了ノ後其情況ヲ具シ直接ニ管長ニ報告スルモノトス

第六章 懲戒

第三十三條 檢定委員長檢定委員試驗員立會人及本館各分局教會所ノ役員其他教師ニシテ試験問題ヲ受験者ニ漏洩又ハ密示シタルモノハ其情狀ニ依リ委員及役員教師ニアリテハ免職若シクハ降級ニ處シ試驗員ニアリテハ解雇ヲ命シ受験者ニアリテハ其試験ヲ無効トス

第三十四條 檢定委員長以下不當ノ檢定ヲ爲シ又ハ立會人試験ノ情況ニ付虛偽ノ報告ヲ爲シタル時ハ前條ノ例ニ依ル

第七章 附則

第三十五條 教規其他ノ規則ニ依リ從前教師ノ分限及等級ヲ授與セラレタルモノハ引續キ其職ニアルコトヲ得

第三十六條 第三章第二十三條第二十四條ノ場合ハ退テ教學寮設置ノ上施行ス

第三十七條 教令及其他ノ規則ニシテ此條規ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ス

第三十八條 此條規ハ明治二十八年十月一日ヨリ施行ス

神道修成派教規

本派ノ儀明治九年十月別派特立御許可ニ付教規ヲ定メ御届ニ及ヒ爾後教務筋ハ御許可ヲ受ケ或ハ届濟ニテ履行候處十七年八月十九號御布達ニ依リ更ニ教規ヲ定ムル左ノ如シ

第一條

本派ノ主義ハ道ニ在リ道ノ大原ハ天神ニ出ツ即チ天之御中主神高皇產靈神皇產靈神ノ三神是ナリ夫レ人身血氣ヲ父母ニ受ルト雖モ其主トナル心魂ハ此三柱ノ天神ヨリ受ケザルハナシ乃チ天神ト同體ナル至善ノ心魂ニシテ一身ノ根本ナリ此貴重ノ心魂ヲ愛養保存セシムル爲ニ本派ノ教ヲ立ル所ナリ

第二條

神典ニ曰ク天神諸命以詔伊邪那岐命伊邪那美命二柱神修理固成是多陀用幣流之國ト之ヲ活用スレバ心魂ヲ正クスルヨリ修身齊家治國平天下及ヒ我邦ノ光ヲ輝スモ皆修理固成ノ旨ニ非ルハナシ而シテ心魂ヲ練磨スルヲ主眼トス何トナレバ心魂清明ナレバ萬事成ラザルハナシ故ニ修理固成ノ四字實ニ神道ノ大本ニシテ須臾モ離ルベカラザルノ要旨ナリ凡ソ教ル所ハ萬事ニ涉ルト雖モ其要ハ修理固成ニ在リ是我派名ノ因

テ生ズル所ナリ

第三條

修理固成自ラ修ルヲ本トスト雖モ日神光華明彩ノ神德ニ則リ公明正大ノ旨ヲ用トセザルベカラズ即チ修理固成ヲ本體トシ光華明彩ヲ大用トス一日モ此用ヲ失フベカラズ一刻モ此體ヲ離ルベカラズ故ニ本派ノ徒タルモノ神拜ハ勿論行住坐臥此八字ヲ念唱シ一生ノ安神ヲ定ムルモノトス

第四條

第一項 凡ソ人ノ世ニ生レ出テ人事ヲ營ム總テ神道ニ由ル衆庶神德ヲ蒙ラザルハナシ故ニ我派内ノ者ハ平日左ノ祭神ヲ敬拜シ其恩頼ニ報ヒ且吾幸福ヲ祈ルヘシ

第二項 祭神

- |        |       |          |
|--------|-------|----------|
| 天之御中主神 | 高皇產靈神 | 神皇產靈神    |
| 伊邪那岐大神 | 天照大御神 | 天神地祇八百萬神 |
| 別祭神    |       |          |
| 伊邪那美神  | 祓戸神   | 風神       |
| 寒神     | 水神    | 火神       |
| 木神     | 金神    | 土神       |

保食神

石長毘賣神

大穴牟遲神

少名毘古那神

第三項 派内信徒八百萬神ノ中ニテ各自信仰スル處ノ一神ニ神ヲ祠宇等ニ表章シ鎮祭信仰スルハ志次第ナルベシ

第五條

第一項 本派ノ教書ハ皇典ヲ根本トシ儒書ヲ羽翼トス然レトモ心魂ヲ修理固成スルヲ先トスルガ故ニ實行ヲ專一トスベシ依テ一行ノ書ヲ讀メバ直ニ實行ニ施スコトナレバ博學ヲ要セス實行ヲ主トス初學ハ本派ニテ編輯スル所ノ書ヲ讀ミ而後根本羽翼ノ書ニ涉ラシムベシ尤儒書ハ我國體風俗ニ合ハザル件ハ削去リ以テ一部ノ書トシ之ヲ本派ノ教典トス此他外邦ノ書ト雖モ我教法ニ益アルモノハ收テ捨ルナシ

第二項 凡ソ本派ニテ讀ム所ノ書籍ハ本派内ニテ上木スル處ノ教籍類並ニ神皇正統記古事記日本書紀古語拾遺及ヒ四書五經抄錄等ナリ次ニ邦文漢文ヲ學ブベシ且和漢歴史ヲ讀ミ治亂沿革ヲ心得ベシ又各國事情ニ通ジ當世ノ時務ヲ曉知スベシ

第六條

派内教師並ニ信徒タルモノハ平素我國體ヲ保護シ尊王盡忠ノ念須臾モ之ヲ忘ルベカラズ

第七條

人ニシテ食ニ乏シキハ身ノ飢ナリ人ニシテ道ヲ知ラザルハ心ノ飢ナリ本派ハ教ヲ以テ人心ノ飢ヲ救フニ在リ救ノ大ナルナリ心術モ教ヲ守リ身ニ修理固成ノ道ヲ履行スレバ即身修リテ自ラ生業ヲ修理固成スルハ勿論ノコトニテ家富ミ身ハ飽足スベシ

第八條

派内各其生業ニ從事勉勵シテ怠ルヘカラズ特ニ奢侈ヲ禁シ儉約ヲ本トシ派内共同又ハ獨立ニテ務テ金穀ヲ積ミ凶年等不虞ノ用ニ備フル方法アルベシ

第九條

第一項 教務局ハ當派各社各教師ニ關スル事務ヲ統理スル所ナリ乃チ布教庶務ノニ課ヲ設ケ掛員ヲ置ク左項ノ如シ就テハ管長住居スト雖モ都合ニ寄リ各分局各支局ヲ巡廻シ滞在スル事アルベシ其時ハ本局ニ代理トナルベキ者ヲ置クトモ有ベシ

第二項 教務局中職員稱號

- 受付掛 應接掛 櫻翠掛 學務掛 結社掛
- 會計掛 祭典掛 祈禱掛 編輯掛 靈祭掛
- 監察

第十條

第一項 教務分局ハ各縣ニ之ヲ置キ教務支局ハ每一郡ニ之ヲ置ク共ニ教務ニ關スル顧問等ヲ本局ヘ直ニ進達スルヲ得セシム從前設置ノ支局ハ之ニ屬スル事トス分局ハ二年毎ニ其縣内ノ望ミニ應ジ各支局ノ内ヲ撰テ之ヲ移轉スル事アルベシ

第二項 教務支局三種ニ分ツ其一ハ新築支局其二ハ祠宇内ノ支局其三ハ人民家屋ヘ設置ノ支局共ニ支局ハ講社事務所說教所宗學校等ヲ含有シ地方派内一切ノ教務ヲ取扱フモノトス尤信徒ノ願ニ依リテハ支局ノ外ニ單ニ教會所說教所ヲ出願スル事アルベシ

第三項 教務分局支局ヘハ本派ニテ書スル所ノ主神神號軸ヲ渡シ置ナレバ局中ニ祭リ置ベシ派内信仰ノ者ニ限リ參拜ノ儀ハ差支ナキモノトス

第四項 教務分局支局ニハ本派内ニテ出版ノ書籍ヲ悉皆備ヘ置キ平素信徒ニ誦讀セシムベシ

第五項 分局支局ニテハ生徒ヲ置キ本派學科ノ書籍ヲ講求セシメ或ハ說教スベシ學務ノ餘暇ニハ運動ノタメ劍術槍術ヲ修スル妨ゲナシ

第六項 從前分局支局ヲ設立スル手續ハ管長ヨリ出願シ御開届ヲ受シ例ナレバ十七年十月戌第二號御達ノ趣モアレハ從前ノ手續ニ依リ信徒惣代擔任教師連書ノ願書ヲ取り管長ヨリ直ニ地方廳ヘ願出ル事トス



- 第七項 教務分局支局ヲ新ニ設立願並ニ移轉届ノ書面ハ管長ヘ差出スベシ直ニ地方廳ヘ願届書ヲ差出スヲ得ベカラズ
- 第八項 教務分局支局ニ於テ印ヲ作テ禁ズ若シ己ムヲ得ザル事情アリテ印ヲ作ルナレバ教務支局詰何ノ誰ト姓名ヲ記載スヘシ尤モ本局ヘ伺出ノ上施行スベシ
- 第九項 各郡内教務支局ナキ所ハ成規ノ手續ヲ經由シテ漸次設置スベシ
- 第十項 教務分局支局ヲ信徒協議ノ上新築スルニハ該地所永久動キナク當派ノ所有トスルヲ表スル爲ニ地券證ハ管長新田邦光名受トスベシ人民私有地ヘ分支局ヲ新築スルヲ得ベカラズ
- 第十一項 教務分局支局ハ教法ノ役所ナレバ地方廳郡役所等ト體裁ヲ異ニスレバ務テ檢索ニ設クベシ且教務分局支局ト板ニテ門前ニ標識スベシ
- 第十二項 本派教務本局分局支局等ノ名ヲ以テ借金スルヲ禁ズ管長ノ添書無クシテ借用ノ金ハ本人私擅ノ借金トスレバ其者ヨリ辨償スルモノトス
- 第十三項 教務分局支局長并ニ縣郡教務取締ノ儀ハ總テ在職ノ期限アルベシ且分支局長ハ縣郡教務取締ト兼務セザルモノトス
- 第十四項 分局支局職員

教務分局長

教務支局長

縣内教務取締

郡内教務取締

第十一條

- 第一項 本派千七十三社七部ハ各教務支局ヘ屬スベシ各社各部社員ハ神恩ヲ謝スル爲ニ一箇年ニ一兩度支局ヘ出頭シ祭典ヲ執行スベシ又常ニ本派ノ教書ヲ誦讀シ結社ヲ盛大ニスベシ
- 第二項 信徒ノ願ニ應ジ何十社何百社ト唱フルヲ望ミノ字ニ換ヘ社號ヲ部號トスル事ヲ得ベシ
- 第三項 各社ノ内人員數多ニシテ其中ニ修身弘道等ヲ主トスルアリ或ハ某神社ヲ信仰スル等ニテ心ヲ固ムルアリシニ何社トノミ唱ヘテハ分明ナラザル向ハ其主トスル所ニ依テ二字或ハ三四字ヲ加ヘ何社何々組何社何々部ト相唱フベシ
- 第四項 凡ソニ社内一部内ハ吉事相慶シ疾病患難相救助スベシ
- 第五項 各社部人員ハ管長新田邦光門人ナレバ一同品行ヲ方正ニスベシ
- 第六項 前項ニ依リ講社號四種ニ分ツ何社ト唱フルアリ何部ト唱ルアリ何社何部ト唱フルアリ何社何組ト唱フルアリ共ニ當派ノ教ヲ遵守セシメ固結ニ至ルヲ要ス
- 第七項 凡社ハ地方最寄ニテ結ビ便宜ニ隨ヒ部或ハ組ヲ立ベ社シ部内ノ者ハ社中ノ手廣キ家ニ時々集會シテ道ヲ講求スベシ尤產業ノ妨トナラザル日ヲ繰合セ行厨ヲ持參シ會主ヘ厄介ヲ掛ベカラズ



第八項 毎社々員互ニ相教戒シテ修理固成ノ道ヲ守ラシムル爲ニ五家チ一組トシ其中ニテ組頭ヲ立テ四人ヘ示諭セシムベシ二十五家以上ニハ世話掛ヲ置ベシ

第九項 人民戸主タル者捺印入社スレバ家族ハ悉皆入社ノ事トス

第十項 入社ノ者ハ各自印鑑ヲ授與スベシ且門標ヲ掲ゲサセ一自シテ修成派内タル儀知ラル、様スベシ尤本人門標ヲ欲セザレバ掲ゲサルモ勝手タルベシ

第十一項 入社ノ者派名ヲ借リテ財ヲ人ニ借ルノ所行アルベカラズ又派名ヲ借リテ頼母子講無盡等ヲ企テ人ヲ勧誘スルヲ得ベカラズ

第十二項 教法ハ人ヲ善道ヘ導ク本旨ナレバ從前犯罪ノ者タリトモ改心シテ入社ヲ願出レバ入社ヲ許シ教導シテ善人トズルヲ要ス假令犯罪ノ者ニテモ犯罪ノ次第ニヨリ善人トナリシ後三箇年ヲ過レバ教師試補ヘ採用スル事モアルベシ

第十三項 同社中ニ心得違ノ者アレバ忠告シテ改心セシムベシ

第十四項 祭典教導葬儀當派方法ニ隨フ者教義ニ盡力シテ功アル者品行方正ナル者孝子貞婦又布教上ニ就テ金圓ヲ出ス者等ハ本條第十九項ノ等級ヲ授クベシ

第十五項 派内社部中ハ正副社部長分局支局長ノ教ニ隨フベシ社部長分支局長ハ總テ管長ノ指揮ヲ遵守スベシ

第十六項 社中教義ニ屬シ益アル論說ハ派内ヘ廣告スベシ

第十七項 修成ノ教ヲ人民ヘ勸誘スル勿論ナレモ神祇ヲ假テ人ヲ惑ス事アルベカラズ

第十八項 派内ノ者ハ當派方法ヲ守リ妄ニ本局ヘ郵書等差出スベカラズ若シ郵書差出タリトモ教規外ノ事件ハ本局ヘ出頭スルニ非レバ陰謀ニ及ビ難シ依テ其書ハ沒書トスベシ

第十九項 毎社部職員

世話掛見習 大中少世話掛 説諭掛

正副社長 正副部長

信徒區別

初等信徒

中等信徒

上等信徒

第十二條

第一項 祠宇ハ派内五百戸以上ノ協議ヲ以テ建設地ト資本金ヲ備ヘ建設ノ儀出願スベシ

第二項 政府ヨリ祠宇御許可ノ上ハ祭神神體ハ本派ヨリ授與スルモノトス

第三項 祠宇ニハ主神鎮祭所ト靈祭所ノ二箇所ヲ置ベシ主神鎮祭所ニハ八百萬神在  
 スナレバ社員ノ産土神ニ至ル迄此所ニテ拜ム妨ナシ靈祭所ニテハ其祖先ノ神靈ヲ拜  
 ムベシ

第四項 祠宇ニ住居シ其事務ヲ取扱フ者ヲ祠職ト唱ヘシメ正副二名ヲ置ベシ尤一名  
 ニテ事足ルトキハ其便宜ニ從フ右ハ本派學科ノ書籍ヲ卒業シ人望アル者ヲ人撰シ任  
 狀ヲ授與スベシ且婦女教師ニテモ祠職トナルベキ才德アレバ任ズル事アルベシ

第五項 祠宇三種ニ分ツ其一管長ヨリ首トシテ出金創立スル者ハ本派ヨリ祠職ヲ置  
 キ時々交代セシムベシ其二其地方共立ノ祠宇ハ該地ノ人望アル者ヲ副祠職トシ祠職  
 ハ本派ヨリ人撰ノ上寄留セシムベシ其三ハ自己所有地並ニ所持ノ家及其財産ヲ寄附  
 シ一切他人ノ資財ヲ仰ガズシテ建設シタルモノハ其者ヲ世襲副祠職トス祠職ハ本派  
 ヨリ寄留セシムベシ尤祠職ノ在職ハ五年以內タルベシ

第六項 祠宇ニテハ印ヲ作ルヲ許スト雖モ私ニ作ルヲ禁ジ管長ヨリ文字明瞭ニ雕刻  
 シテ授與スルモノトス

第七項 祠宇ニテハ衆庶ヲ參拜セシムレバ衆庶ヨリ獻納スル金穀及ビ何品ニ限ラズ  
 之レヲ受ル妨ゲナシ

第八項 祠宇中神札ハ該祠創立ノ旨ニ基キ作ルベケレドモ本局ヘ伺出ノ上施行スベ

第九項 造化三神ハ無上至尊ノ御神ナルニ當派ノ祭神トシ祠宇ニ鎮祭スル事ナレバ  
 祭典ノ節錦旗ヲ用ル妨ゲナシ

第十項 神國ニ生レ神恩ヲ受タル人ナレバ派内ノ者ハ志次第神葬祭トナルベシ然ル  
 上ハ靈神ト唱ヘシムベシ其祖先ノ靈魂ヲ祠宇ニテ神トシ祭祀スルヲ得セシムベシ且  
 現今葬祭改式ハ勝手ニテ差支ナケレバ當派神葬祭ニ改式スベシ

第十一項 祠宇中ヘ教務支局ヲ設立スルニハ第十條第六項ノ手續ニ依リ届出ルモノ  
 トス

第十二項 祠宇ニハ出納簿ヲ製シ置ベシ本局會計掛ヨリ檢閱スル事アルベシ

第十三項 祠宇地券証ハ神道修成派何々祠ト記載シ地券証ハ祠職之レヲ預リ置ベシ

第十四項 祠宇御許可ノ上ハ建築地所該祠名受ニ地券書換ベシ若シ地券書換ナケレ  
 バ祠宇ノ權利ヲ失フモノトス

第十五項 祠宇ノ財産ニ關スル事ハ正副祠職私ニ進退スルヲ得ベカラズ管長ノ添書  
 ナ以テ其地方廳ヘ願出ベシ

第十六項 正副祠職本派ノ教旨ニ背戻スル所行アレバ何時ニテモ免職セシメ更ニ人  
 撰シ祠職ニ任ズベシ

第十七項 祠職任免ノ節ハ地方廳へ届出ルモノトス

第十三條

第一項 汎内教師等級ヲ定ムル左ノ如シ

管長 大司徒 少司徒 大教正 中教正

少教正 大宣教 中宣教 少宣教

大講義 權大講義 中講義 權中講義

少講義 權少講義 教師試補

第二項 大司徒ハ即チ管長タリ汎内一切ノ教務ヲ管理シ信徒ヲ統轄シ教師ヲ進退黜陟スルモノトス少司徒其所掌大司徒ニ亞ク管長事故アル時ハ其事務ヲ代理スルヲ得教正ハ其言行信徒ノ規範トナルベキモノトス宣教ハ各地へ派出シ本汎教法ヲ人民へ擴張スヘキ學徳アルモノトス講義ハ本汎教書ヲ人民へ講釋シ教ルヲ得ヘキモノトス教師試補ハ講義ヲ補助シ教ヲ布クモノトス我教法ハ神勅ヨリ出タル者ナルニ其教法ヲ布ク所ノ教師へ管長天神ニ代リ授ル處ノ等級ナレバ天爵ナリ人トシテ此天爵ヲ受ル者ハ無上ノ榮譽トス

第三項 教師讀ム所ノ書籍ハ第五條第二項ニ記載スルガ如シ其性行ハ五件トス其一品行端正其二教義ニ篤志其三衆庶ノ信望ヲ受ク其四教務上ニ功勞アリ其五教務ノ爲

ニ資財ヲ抛ツ

第四項 教師試補以上ハ終身本汎教法ニ從事スル所ノ志ヲ立ル者ニ限ルベシ教師試補ハ本汎教籍十册以上ヲ買求メ誦讀シ修理固成ノ道ニ基キ人民ヲ説諭スベキ學事アル者ヲ採用スベシ其年齡ハ滿十七年以上ナルヘシ尤學事優等ナレバ年齡ニ拘ハラズ採用スルコトアルベシ

第五項 講義ハ本汎出版書籍並ニ古語拾遺古事記ヲ了解シ人民ヲ教導スベキ學術アリ且皇朝ノ歴史ニ通ジ文ヲ作ル者ヲ採用スベシ其正權大中少ハ其學ノ精粗ト第三項性行中ノ件ヲ具スル多寡ニ依リ等級ヲ授ルコトス權少講義以上へ採用スルニハ年齡滿二十年以上ナルベシ尤學術優等教務上ニ功勞アル者ハ其以內ニテモ特別登庸スベシ

第六項 宣教ハ第五條第二項ニ記載スル書ヲ悉皆誦讀其書ニ依リ人ヲ教授スル學徳アリ文ヲ作り第三項性行中ノ四件ヲ備具スル者ヲ採用スベシ尤講義ノ職ニアル二年以上ノ者タルベシ

第七項 教正ハ前項ノ如ク書ヲ讀ミ文ヲ作り且徳望衆ニ秀テ言語行狀人ヲ感化セシムルニ足り第三項性行ノ五件ヲ全ク具有スル者ヲ登庸スベシ

第八項 少司徒ハ管長ニ代リ或ハ管長ヲ輔佐スベキ才徳アル人ヲ登庸スルコトス

第九項 前項ノ如シト雖モ本派ノ教ハ言語ヲ主トセス德行ヲ主トズルガ故ニ其德行ニ觀ルヘキアレバ學術至ラザルモ登庸スルヲアルヘシ又德行ヲ失フ者ハ等級ヲ降スベシ猶其擢舉進退等十五條ニ記スヘシ

第十四條

本派ハ元來新田邦光ノ門人ヨリ成立ス明治六年八月三十一日修成講社結集ノ御許可ヲ受ケ九年十月二十三日別派特立ノ御許可ヲ得神道修成派ノ稱號トナリ今日ノ體裁ヲナシタルモノナレバ管長ハ血脈ニ依リ世襲タルベシ是派内教師信徒ノ希望ニ從フナリ

但シ血脈ノモノ幼少等ニテ其任ニ堪ヘサルトキハ派内ニテ學徳アル者ヲ撰ビ大司徒トシ教務ヲ取扱ハシムヘシ

第十五條

第一項 派内ニテ教師タル者ハ管長ノ指揮ヲ受テ違背スヘカラス而シテ教師ノ任至テ重シトス夫派内人民ハ各其本業アレバ平素專ラ祭祀ヲ事トシテ我魂魄ヲ天神ヘ通達シ難シ故ニ教師ハ之ニ代リ神ニ仕ヘ常ニ自ラ清明ニシテ心魂天神ト合一ナラシメ派内人民ノ心魂ヲ天神ヘ通ゼシムルヲ職トス即チ神ト人トノ中間ニアル身ナレハナリ故ニ平日塵汚ヲ脫離シ精神ヲ清明ニシテ神ヲ敬シ人ヲ教ルニ從事スヘシ

第二項 教師教務上ニハ從前ノ教導職ト權利上ニ於テ同様トス  
第三項 教師ハ本派學科書籍ヲ讀說シ或ハ書籍ヲ離レ脱教スル事ヲ得ヘシ教法ハ一朝一夕ニ學ビ得ベキニ非レバ成ヘキハ教師ノ子弟ニハ本派教法ヲ學バシメ世襲セシムベシ  
第四項 教師ハ學術上ニ就テ試験採用スベキハ勿論ト雖モ若シ教務上ニ功勞アリ且人望アル者ハ特別ニ採用スル事アルベシ  
第五項 教師ハ素ヨリ邦光門人ヘ申付ル儀ナレバ最初差出シタル願書ノ廉ニ背クベカラズ依テ終身本派教務ニ從事固結スルモノトス  
第六項 他教教師等ニシテ本派教師トナラン事ヲ志願スルモノハ從前ノ管長ヘ辭職申立或ハ教師證書返還ノ者ニ限リ之ヲ採用スベシ  
第七項 派内信徒ニシテ教師候補タラシトテ願フニハ二名以上ノ保証人アルニ非レバ之ヲ採用スル事ナシ尤其人ニ依リ保証人ヲ待タズシテ採用スル事モアルベシ又本人身分上疑ハシキ廉アレバ其郡役所或ハ戸長役場ヘ照會スル事アルベシ  
第八項 教師ハ其受持社員及人民ヲ教導シ其依頼ヲ受ル所ノ神事祭典ヲ執行スベシ  
第九項 教師ハ婚姻誕生等ニ立合ヒ式ヲ立ベシ又本派方法ニ依リ疑惑アル者ヘ占斷シ且神慮ヲ伺フヲ得ベシ



第十項 教師ハ總テ人民ノ依頼ニ應シ葬儀靈祭ヲ取扱フベシ

第十一項 本派ヨリ教師ヲ派出セシムルニハ派出狀ヲ授ケベシ又教師某地ヘ派出セント願出ルモノアレバ學術ヲ試驗ノ上派出狀ヲ授ケベシ尤豫メ日限ヲ定メ辭令狀ニ記載スベシ依テ其日數ヲ經過スレバ該印証ハ無効トス

第十二項 教師ハ自家ニ於テ農工商ノ業ヲ營ム勝手タルベシ

第十三項 教師不都合アレバ本局ニテ謹慎悔悟セシメ嚴諭ヲ加フベシ若シ本派教法ニ違背シ派内ノ妨害トナルモノハ之ヲ免職ス

第十六條

第一項 毎年本派祭神神號表ニ心得書ヲ添テ派内ヘ授與スベシ就テハ祭神ヲ信仰シ心得書ノ旨ヲ遵守スベシ

第二項 派内ニアル人民ハ其心魂ヲ當派ヘ委託シ當派ハ其心魂ヲ預リタル儀ナレバ生前ニハ教師ヨリ教テ其心魂ヲ修理固成ノ道ニ入ラシメ死後ニハ其靈魂ヲシテ神界ニ至ラシムベシ故ニ生死當派ヘ委託スル儀ナレバ平素外國ノ神ヲ信ズベカラズ且邪說異教ニ入ルベカラズ萬一心得違ノモノアリテ他ノ教法ヲ信ジ本派ヲ離ル、ノ念ヲ生ズレバ本派主神ノ神罰ヲ受ル儀ト心得ベシ

第三項 本派ノ教ハ人ニ厄介ヲ掛ザルヲ主トスレバ旅行等ニハ充分旅費ヲ持參シ路

傍ノ派内ヘ面倒筋ヲ掛ベカラズ

第四項 本派ハ神勅ナル修理固成ノ道ヲ遵奉スル正シキ教ナルヲ以テ派内ニハ不正ノ者ハ有間敷管ナリ然ルニ萬一本派ノ名ヲ以テ不正ノ行ヒチナス者ハ我派内ノ者ト見做ベカラズ依テ不正ノ者ハ派内ニ居ルヲ得ザラシムベシ

第五項 本派ヘ入社スルニハ其志ヲ定ムルヲ主トシ別ニ金穀ノ論ニ及ハズ然シテ入社スレバ本人道ヲ守リ財ヲ殖シ其益勸カラズ道ノ爲メニ務メテ派内ヲ増加盛大ナラシムベシ

第十七條

第一項 教法上ニテ金穀ノ事ハ言フヲ欲セザレバ後世ヘ永續スル方法ハ金穀ノ事モ除クベカラズ依テ聊カ愛ニ記ス教務本局入費ハ派内各教師各縣分局各郡支局又ハ信徒ヨリ之ヲ辨スベシ

第二項 教務分局支局ノ入費ハ其郡内或ハ支局ニ屬スル信徒ヨリ辨スルモノトス

第三項 教師等其受持社中及他ノ人民ヨリ信仰上ニテ差出シタル金穀及ビ諸物品ヲ受ル妨ゲナシ

但シ信仰ナキ者ヘ金穀ヲ課シテ取ルヲ禁ズ

第四項 凡ソ分局支局祠宇等ニ於テ信徒ヨリ納ムル處ノ金穀ヲ計算シ四分ノ一ハ本

局へ差出スヘシ

第五項 本泓ヨリ教師へ派出申付レハ旅費ヲ渡スベシ教師泓内ヲ巡廻シテ謝物ヲ受レバ悉皆本局へ納ルモノトス若シ教師自費ニテ道ノ爲ニ泓内ヲ巡廻スルニハ其謝物ハ本人へ與フト雖モ其四分ノ一ハ本局へ納ムヘシ

第六項 本泓ハ未ダ入社セザル人民ヲ結集スル儀急務トスレバ教費モ亦夥シ依テ泓内有志ノ人ハ其分ニ應ジ出金アルヘシ

第十八條

第一項 毎年十月二十三日ヲ以テ大祭典日ト定メ毎月二十三日ヲ以テ小祭典日トス祠宇并ニ教務本分支局ニ於テ執行フベシ又毎月五日ヲ以テ集會日トシ教務ヲ講究スヘシ右等ノ日ニハ本泓ノ標旗ヲ掲グヘシ

第二項 泓内ニハ農業蠶業ノ者最多シ依テ春ノ内ニ日ヲ撰ヒ五穀豐熟ノ爲ト養蠶倍盛等ノ爲ニ教師祭典スルコトアルヘシ且泓内ニテ火災ヲ防グ爲ニ教師等本派別祭神火神ヲ齋キ祭リ鎮火式ヲ行フ事アルヘシ

第十九條

本泓ノ教ハ八事即修理固成ヲ盡スナ主トス故ニ泓内ノ者常ニ身體ヲ養生シテ疾病ヲカラシメ萬事敬慎シテ災害ナキヲ要ス若シ疾病患難等アレハ之ヲ免ルハ爲ニ神祇へ

對シ禁厭祈禱ヲ執行スヘシ

但シ教師試補以上ハ衆庶ノ依頼ニ應ジ禁厭祈禱スル差支ナシ泓内信徒ハ自己ニ屬スル禁厭祈禱ヲ行フハ差支ナシ世話掛ハ信徒自己ノ禁厭祈禱ヲ行ヒ難キ節ハ本人ニ代リ執行フベシ

第二十條

泓内ノモノ内心ノミナラズ外體ニ於テモ修理固成ノ務メナカルヘカラス故ニ專ラ威儀ヲ慎ミ禮節ヲ守リ親睦ヲ表スヘシ特ニ管長へ對シ至當ノ禮儀アルヘシ

第二十一條

第一項 樂ハ哀樂ヲ別ニス本泓ハ八音ヲ合奏スルヲ主トス尤八音暨ヒ兼ルトキハ大鼓ト木トヲ合セ拍テ假ニ之ニ換フベシ

第二項 總テ祭典ノ節ニハ講釋アルハ勿論ナレド講釋ノ間ニ神慮ヲ慰ムル爲ニ雅樂俗樂ヲ用ルコトモアルヘシ

第二十二條

教師禮服ノ制ハ祭服直垂淨衣袴ヲ交用ス尤少宜教以上ハ其服ノ製錦ヲ用ルヲ許ス權少講義以上ハ絹ヲ用ルヲ許ス教師試補ハ葛織麻等ナルベシ女教師ハ烏帽子ヲ除ク但シ權少講義以上モ本泓儉素ノ教ニ隨ヒ葛織麻等ヲ用ル妨ナシ説諭掛世話掛等祭



事ノ節直垂ノ裁縫ヲ零シタル服ヲ用ルヲ得セシム尤平日教師試補以上ハ在宅他行  
トモ直垂着用致シ候儀適宜タルベシ

第二十二條

汎内人民平生所用ノ器物ハ成ルベキ丈我國産ヲ用ユヘシ衣類ハ寒ヲ蔽チ主トス木綿  
ヲ用ル尤健康ニ益アリ特ニ儉ヲ表ス飲食ハ飢渴ヲ凌グチ主トシ甘美ヲ食ル勿レ家屋  
ハ雨露ヲ禦グチ主トシ華麗ヲ望ム事勿レ總テ道德ヲ求ルヲ務メ衣食住ノ奢ヲ除クチ  
要ス

但シ官職アルモノ其職掌上ノ爲ニシ財產アルモノ其分ニ應スル如キハ此限ニアラ  
ズ

第二十四條

本汎ハ別汎特立以來他ノ汎教ト協議決約スル事ナシ後來モ他派他教ト關涉セザルヲ  
要ス一筋ニ修理固成ノ道ヲ擴充スヘシ

第二十五條

汎内ノ者彼我意見ヲ異ニシ論理決セザル場合ニ於テハ之ヲ本局ヘ申出ヘシ成ヘキ丈  
双方ヘ權利義務ノアル所ヲ説諭シ和平ニ歸セシメシ事ヲ欲ス

第二十六條

一家ノ靈祭ハ其戸主ノ任ナレバ神官ノ神社ヘ仕ル如ク相心得日々敬拜シ時々祭典ヲ  
行ヒ怠ル事アルヘカラス

第二十七條

喪ハ一生中ニ一度ノ大禮ナレバ最モ慎ムヘシ喪家ニハ哀悼ヲ主トシ酒ヲ飲ミ魚ヲ食  
フ事無カルヘシ

但シ死者ノ神靈ヘハ如在ノ禮ヲ盡シ酒魚ヲ備フヘシ

第二十八條

男子滿十七八年女子滿十四五年ニ至レハ必ス本汎祠宇或ハ教務本分支局ノ内ニ至リ  
神拜シ教師ニ就キ修理固成ノ旨即人道ヲ聽キ成人タルノ志ヲ立ヘシ

第二十九條

婚姻ノ禮ハ男有家ヲ治ルノ始メ一生ノ大事ナレハ最モ其禮ヲ正クシ婚家ニハ必ス教  
師ヲ招キ夫婦ノ道修理固成ノ道ヲ聽聞シ終身修成ノ道ニ從事スヘシ  
但シ妻ヲ娶ルハ子孫繼嗣ノ儀ト祖靈ノ祭ヲ助ケシムル爲ト心得ヘシ

第三十條

凡ソ本局ニ關スル件ハ一汎内ニ貫通シテ盡カシ本汎ノ盛大ヲ務ムヘシ汎内ノ人ハ本  
派ノ教法海内ヘ擴充スルハ勿論海外ヘモ擴充セシムルノ規模アルヘシ

第三十一條

凡ノ洞内ニテ行フ所ハ萬般ト雖モ悉皆修理固成ノ道ニ歸着シ天神ノ神徳ニ符合シ本  
洞永積萬億斯年ニ至ルヲ要ス

前書之通教規相定候條御認可被成下度此段奉願候也

明治十八年四月二十五日

神道修成派管長新田邦光



内務卿伯爵松方正義殿

(指令朱書)

印 書面之趣認可候事

明治十八年六月二十五日

内務卿伯爵山縣有朋



神道修成派教規十三條細則

本派教師分限及等級ヲ修正シ且試験學科及試験方法認定等ヲ精詳ニシテ教規十三條細則ヲ設ル左ノ如シ

第一條 本派大司徒ハ即管長タリ少司徒ハ管長代理ノ任ナルヲ以テ大少司徒ヲ普通教師ニ授與セズ少司徒ハ六級以上教師ノ中ヨリ才徳アル者ヲ管長特ニ登庸ス大教正以下教師等級ハ左表ノ如シ

等	級	職名
一級	大教正	大教正
二級	中教正	中教正
三級	少教正	少教正
四級	大宣教	大宣教
五級	中宣教	中宣教
六級	少宣教	少宣教
七級	大講經	大講經
八級	中講經	中講經
九級	少講經	少講經
十級	大講經	大講經
十一級	中講經	中講經
十二級	少講經	少講經
十三級	大講經	大講經

第二條 本派教師分限及等級ハ檢定委員ノ檢定ニ合格スル者ニ非レバ之ヲ授與セズ

- 第三條 左ノ項目ニ觸ル、者ハ教師ニ採用セズ
- 一 品行不正ノ者
  - 二 瀛癩白痴瘡腫ノ者
  - 三 重罪及定役ニ服スベキ輕罪ニ處セラレタル者
  - 四 家資分散者及身代限りノ處分ヲ受ケタル者又復權後若クハ辨償ヲ終ヘ

テ一ケ年ヲ經過セザル者

五項 本派又ハ他教ニ於テ懲戒等ニ依リ免職ノ處分ヲ受ケ滿二ケ年ヲ經過セザル者但滿二ケ年ヲ經過スルモ悔悟ノ實証アラザル者

第四條 教師ノ檢定ヲ分テ左ノ二種トス

甲種 試驗 乙種 認定

第五條 甲種檢定ハ學業ノ試驗ヲ行フモノトシ是ヲ分テ左ノ二種トス

教養學科 普通學科

第六條 教養學科試驗科目左ノ如シ

一	種	二	種	三	種	四	種	五	種	六	種	七	種
六國史筆記	日本紀筆記	古事記筆記	日本代筆記	古事記上卷筆記	神皇正統記筆記	教義略筆記	教義略筆記	教義略筆記	教義略筆記	教義略筆記	教義略筆記	教義略筆記	教義略筆記
延喜式筆記	撰紀宣命筆記	職原抄筆記	古語拾遺筆記	修成道義筆記	教義略筆記	教義略筆記	教義略筆記	教義略筆記	教義略筆記	教義略筆記	教義略筆記	教義略筆記	
修成道義筆記	成錄筆記	成略筆記	原由筆記	吉凶開示筆記	冠婚略式筆記	冠婚略式筆記	冠婚略式筆記	冠婚略式筆記	冠婚略式筆記	冠婚略式筆記	冠婚略式筆記	冠婚略式筆記	
周易講義書	經義中庸講義	中庸講義	論語講義	孝經講義	經義略式筆記	經義略式筆記	經義略式筆記	經義略式筆記	經義略式筆記	經義略式筆記	經義略式筆記	經義略式筆記	
文宣命筆記	文宣命筆記	公文文筆記	公文文筆記	公文文筆記	公文文筆記	公文文筆記	公文文筆記	公文文筆記	公文文筆記	公文文筆記	公文文筆記	公文文筆記	
文宣命筆記	公文文筆記	公文文筆記	公文文筆記	公文文筆記	公文文筆記	公文文筆記	公文文筆記	公文文筆記	公文文筆記	公文文筆記	公文文筆記	公文文筆記	

第七條 普通學科試驗科目左ノ如シ

但此科目ヲ及第セシ者ハ再度ノ試験ヲ要セズ

日本歴史筆記

萬國歴史筆記

日本地理筆記

萬國地理筆記

第八條 試験ノ種目ヲ分テ七種トシ三種以上ヲ高等トシ四種以下ヲ尋常トス

第九條 高等試験ハ毎年二期四月本派本局ニ於テ執行シ尋常試験ハ毎年四期三月六月

本派本分支局ニ於テ執行ス

但時宜ニ依リ臨時試験ヲ執行スルコトアルベシ

第十條 地方ニ於テ高等試験ヲ請フモノアル時ハ管長ハ高等檢定委員ヲ受驗者所轄ノ本派分支局ヘ派出セシメ試験ヲ執行スルコトアルベシ

第十一條 試験方法ハ高等尋常トモ左ノ如クス

一項 問題ノ筆記ハ一書ニ付一節口述ハ一書ニ付二節トス

二項 筆記ハ一節二時間作文ハ一題三時間トス

第十二條 試験點數ハ左ノ如シ

一項 各科百點ヲ以テ滿點トス

二項 各科得點ヲ合算シ平均六十點以上ヲ及第トス

三項 平均六十點ヲ得ルモ一科若シ四十點ニ達セザレハ落第トス

四項 平均八十點以上ヲ甲點トシ以下ヲ乙點トス  
第十三條 第十二條第四項ノ得點ニ依リ職級ヲ定ムル左ノ如シ  
但一種七種ノ試験ハ此限リニアラズ

種目	一	二	三	四	五	六	七
甲點	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
乙點	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級	十五級

第十四條 試験ニ落第セシ者高等ハ滿一ヶ年尋常ハ滿六ヶ月ヲ經過セサレバ再試験  
ヲ請フコトヲ許サス

第十五條 新補試験ハ十一級以下トス尤高等官タリシ者又ハ高等官タルノ資格ヲ有  
スル者ハ直ニ六級以下判任官タリシ者又判任官タルノ資格ヲ有スル者ハ直ニ九級  
以下ノ試験ヲ受クルコトヲ得

但認定ハ第十八條ノ規定ニ依ル

第十六條 昇級試験ハ越級ヲ許サズ尤特別ノ事情アル者ニ限り管長ハ檢定長檢定委  
員ノ具申ヲ經テ特ニ越級試験ヲ受ルコトヲ許可スルコトアルベシ  
第十七條 大教正ハ試験ヲ要セズ管長之ヲ特命ス其人員ハ十名ヲ超過スルコトヲ得

ス

第十八條 認定ハ左項ノ一ニ當ル者ニ限り教養學科普通學科ノ内試験ノ一部ヲ免除  
シ甲部ハ七級以下ニ乙部ハ十一級以下ノ教師ニ補命スルコトヲ得  
但認定時期ハ第九條ノ例ニ依ル

甲部

- 一 項 神宮權禰宜以上官國幣社正權宮司ノ職ニアリシ者
- 二 項 神宮皇學館本科ヲ卒業セシ者及皇典講究所學正タル者  
以上ハ教養學科試験ヲ免除ス
- 三 項 高等官タリシ者及其資格ヲ有スル者  
以上ハ普通學科試験ヲ免除ス

乙部

- 一 項 神宮宮掌以上官國幣社主典以上ノ職ニ在リシ者
- 二 項 神宮皇學館專科卒業者及皇典講究所五等司業以上ノ者
- 三 項 滿十年以上府縣社以下ノ神職ニ在リシ者
- 四 項 教養ニ關スル著述ヲ爲シ學術上顯著ナル成績アル者
- 五 項 十年以上管長邦光ノ教ヲ受タル門人且本派ノ教徒ニシテ布教ニ熱心シ



六項 顯著ナル功績アル者  
八年以上本派各社部ノ世話掛説諭掛等ニシテ教義ニ精勤シ顯著ナル實効アル者  
以上教義學科試験ヲ免除ス

七項 尋常師範學校尋常中學校以上公立學校ヲ卒業セシ者  
八項 判任官タリシ者及其資格ヲ有スル者

九項 教規第六條ニ依リ平素尊王盡忠ノ念篤クシテ有志ヲ團結セシ者又孝ハ道徳ノ本教ノ生スル所ナレバ忠ト孝ヲ行ヒ世人ヲ感動セシムル者  
以上普通學科試験ヲ免除ス

第十九條 本派教師タリシ者ニシテ腹職ヲ請ヒ又他教ノ教師タリシ者ニシテ更ニ本派教師ヲ志願スル者ハ試験ノ一部又ハ全部ヲ免除シ原職級ニ相當スル等級以下ニ補命スルコトヲ得

第二十條 試験以上ノ教師ニ就職シテ左表ノ年限ヲ經過シ教義上功勞アル者ハ其成績ト德行ヲ認定シ一級ヲ進ムルコトヲ得猶本派本分支局ノ事務員及擔任教師縣郡内教務取締ニシテ功績尤著シキ者ハ認定ノ上一年ヲ短縮スルコトアルベシ  
但七級ヨリ六級ニ昇級スルニハ必ず試験ヲ要ス

年限	滿四年	滿四年	滿四年	滿三年	滿三年	滿三年	滿二年	滿二年	滿二年
職級	少教正	大宣教	中宣教	少宣教	大講義	權大講義	中講義	權中講義	少講義
	權少講義	教師試験							

第二十一條 試験以上ノ教師教義上實効アル者疾病危篤ノ節ニ限り試験ヲ要セズ一級ヲ進ムルコトアルベシ

第二十二條 檢定ヲ行フ爲メ檢定長及檢定委員長檢定委員ヲ置キ左ノ資格アル者ヲ以テ檢定長及高等檢定委員トス

一 項 本派教師就職七ヶ年以上ニシテ現職六級以上ノ者

二 項 明治十七年八月十一日以前六級以上ノ教導職ニシテ現職六級以上ノ者

第二十三條 左ノ資格アル者ヲ以テ尋常檢定委員トス

一 項 本派教師就職五ヶ年以上ニシテ現職七級以上ノ者

二 項 明治十七年八月十一日以前八級以上ノ教導職ニシテ現職七級以上ノ者

三 項 本派教師縣郡内教務取締ノ職ニシテ現職八級以上ノ者

第二十四條 檢定長ハ止副二名トシ高等檢定委員資格者中ヨリ管長之ヲ特ニ命ス

第二十五條 檢定委員長及檢定委員ハ高等尋常トモ第二十二條第二十三條各項ノ資格者中ヨリ管長之ヲ特ニ命ス但定員ナシ

第二十六條 試驗臨場檢定委員ハ高等尋常共ニ委員長一名委員三名トス  
 但委員長欠席ノ節ハ委員首座ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

第二十七條 高等檢定委員長及尋常檢定委員長ハ檢定委員ト共ニ受験者ノ筆記以外ニ關スルモノヲ審査シ其成點ヲ檢定長ニ報告シ筆記ニ關スルモノハ其儘檢定長ニ廻附スルモノトス

第二十八條 檢定長ハ高等及尋常檢定委員ヨリ廻附シタル筆記書類ヲ審査シ其成點ヲ高等及尋常檢定委員長ヨリ報告シタル成點ト合算シ其成績ヲ管長ニ具申ス

第二十九條 檢定長及高等檢定委員ハ高等ノ認定ヲ爲シ檢定長及尋常檢定委員ハ尋常ノ認定ヲ爲スモノトス

第三十條 檢定委員ハ檢定ニ關スル諸般ノコトヲ執行ス

第三十一條 檢定長及檢定委員長檢定委員ノ任期ハ高等尋常共ニ三ケ年トス  
 但再任スルコトヲ得

第三十二條 試驗立會人ハ高等尋常共ニ各一名トシ立會人ヲ要スル場合ニハ第三十二條ノ資格者ニ就キ其都度管長之ヲ持命シ試驗ニ臨場シテ試験ノ正否ヲ申告スルモノトス

第三十三條 高等試驗立會人ハ現職八級以上ノ者尋常試驗立會人ハ現職十級以上ノ

者トス

第三十四條 檢定委員ニシテ試験問題ヲ受験者ニ漏洩シ又ハ試験場外ニ於テ試験ニ關スル事務ヲ取扱ヒ或ハ試験點査ヲ口外シタル者ハ委員ノ資格ヲ剝奪シ若クハ降級ス

第三十五條 試驗立會人ニシテ虚偽ノ申告ヲ爲シタル時ハ前條ノ例ニ依ル

第三十六條 試験問題ノ漏洩ヲ受ケタル受験者ノ試験ハ無効トス

第三十七條 試験及認定ニ關スル書類ハ總テ本泓本局ニ保存ス

第三十八條 本泓教規ニ依リ既ニ教師分限及等級ヲ授與シタル者ト雖モ自今昇級ノ場合ニ於テハ教規十三條細則ニ依ル

第三十九條 試験ニ及第シ教師補命スト雖モ若シ品行不正道徳ヲ破ル廉アル者ハ免職ス

黑住教々規 懲誠規約例 教規細則

教規附錄 教規雜則

本月一日付ヲ以テ教規中更正御認可願別紙記載中不完全ノ廉御座候ニ付御取消被下  
今般更ニ別紙之通進達仕候條御詮議ノ上御認可相成候様致シ度尤本願御認可ノ上ハ  
兼テ爲御參考相添進達仕置候教規細則附錄共本願更正ノ文字ニ抵觸之廉々ハ訂正ノ  
上爲御參考更ニ進達仕度候條此段奉願候也

黑住教管長黑住宗篤代理

明治十九年七月十七日

權少教正 長 瀨 直 正

內務大臣伯爵山縣有朋殿

(指令朱書)

印 書面之趣認可候事

明治十九年八月七日 內務大臣伯爵山縣有朋 印

別冊之通教規并附錄懲戒規約例相定度候條至急御認可相成度尤蒙テ教内ニ施設罷在  
候細則及附錄爲御參考相添此段上申仕候也

明治十八年六月廿日

黑住教管長黑住宗篤印

内務卿伯爵山縣有朋殿

(指令朱書)

**印** 書面之趣認可候事

明治十八年八月十二日

内務卿伯爵山縣有朋 **印**

教規更正御認可願

黑住教々規中別紙摘要書之通更正仕度候條至急御認可被成下度此段奉願候也

明治二十四年五月十四日

黑住教管長黑住宗敬印

内務大臣伯爵西郷從道殿

(指令朱書)

**印** 願之趣認可ス

明治二十四年五月二十一日

内務大臣伯爵西郷從道 **印**

(別紙摘要書ハ略ス)

### 黒住教々規

緒言

本教ハ古今未會有ノ教旨ニシテ文化十一年十一月十一日即冬至一陽來復ノ日ヲ以テ教基ヲ立ラレ汚隆數回爲ニ教規派約ヲ改正スルヲ數次ニシテ最後ニ學旨ヲ二類ニ分定シ一ヲ實行學トシ一ヲ研究學トス實行學ハ我ヲ離レ無テ養ヒ心氣ヲ鎮メ無我無念トナリ禁厭ヲ施シ神徳靈驗ノ表章ヲ主トス之中人以下ノ目的トシ研究學ハ倫理ヲ明ニシ諸教ニ涉リ立教ノ淵源ニ遡リ恩波ノ餘瀝ヲ汲ミ教祖神ノ足跡ヲ履ムヲ主トス之中人以上ノ目的トシ信徒一團之ニ因リテ教旨ヲ字内ニ貫徹セシムルヲ要ス夫教會ノ得失ハ民心風俗ニ關スルヤ大ナリ殊ニ本教ハ此學旨ニ由リ此ノ教旨ヲ宗トス故ニ其關係最モ深シ慎マザルベカラザルナリ爰ニ明治十七年八月太政官第十九號ノ御布達ヲ以テ全國ノ教導職ヲ廢止セラレ各教内ノ一ハ總テ各管長ニ委任セラル、ノ盛運ニ遭遇シ教法ノ一大改革ヲ受ケ教旨ヲ字内ニ宣揚スル千載ノ一時ニ際會シタルヲ以テ教内ノ規則ヲ加除刪正シ總テ教規ニ據リ細則雜則ニ照準シ土地人情ヲ酌量シ大道ヲ宣揚シ本教ヲ宣布セザルベカラズ故ニ自然諸規則ノ民心ニ違ヒ風俗ヲ誤リ教義ニ矛盾スルモノアラバ便宜ヲ以テ其理由ヲ本廳又ハ東京出張教務局ヘ開申シ指揮ヲ



受クベシ中教會所ハ一所毎ニ教督ヲ置キ教師諸員ノ勤惰ヲ識別シテ具申スルモノト  
ス因テ布教立教理事ノ三門ヲ開キ教規并細則雜則ヲ立テ之ヲ別冊ニ開示ス主任者夫  
之ヲ領セヨ

布教門

此門ニ從事スル者ハ專ラ本教ノ教旨ヲ練磨シ心氣ヲ鎮靜シ說教禁厭ヲ  
以テ神德靈驗ヲ表章シ報恩謝德ノ實効ヲ奏スルヲ主トスベシ

立教門

此門ニ從事スル者ハ專ラ立教ノ大旨ヲ研究シ教傳ノ錯誤ヲ訂正シ教徒  
ヲシテ我ヲ離テ活タル誠ノ本跡ヲ自得セシメ教ト道トノ區別ヲ知ラシムヲ  
要スベシ

理事門

此門ニ從事スル者ハ百般ノ教務ヲ負擔シ教規ヲ遵守シ本教ノ大旨ヲ了  
得シ尊信ノ實ヲ履ミ小權ヲ以テ大權ヲ犯スヲナキヲ要スベシ

明治十八年六月

黑住教管長 黑住宗篤

教規

第一章 總 規

第一條 惟神ノ大道ヲ宣揚スル事

一 皇大神ノ遺訓ヲ宗旨シ天叙ノ彝倫ヲ勤行ス

一 天照大神ヲ禮祭シ天神地祇ヲ崇祀ス

一 息吹ノ心理ヲ時習シ自然ノ大道ヲ顯彰ス

第二條 皇國ノ神典ヲ修明スル事

一 神事ハ歷朝ノ儀範ニ則リ之ヲ施行ス

一 禁厭ハ教祖ノ神傳ヲ以テ之ヲ施授ス

一 信徒ノ願望ニ依リ神符神札神供ヲ授與ス

一 冠婚葬祭等依願ノ向ヘハ本教ノ禮式ニ據テ之ヲ執行ス

但自己ノ父母妻子等ノ葬儀取扱ヒハ必ズ他人ヘ依頼スルモノトス

第三條 本教ノ教旨ヲ擴充スル事

一 幽顯一致神人不二ノ神理ヲ申明ス

一 學術ヲ研精シ行爲ヲ獎勵ス

一本教ヲ宣布シ民心ヲ教化ス

第二章 名 稱

第四條 大教正以下ノ教師ヲ統轄スルモノヲ管長ト稱スル事

第五條 教師ヲ教正講義訓導ト稱シ事務者ヲ輔教教屬書記ト稱スル事

一 教正講義ハ各正權大中少ノ六級ニ訓導ヲ正權二級ニ別ツ

一 輔教々屬ハ各正權大中少ノ六等ニ別チ書記ハ一等ヨリ四等迄トス

第六條 教法宣布ノ所教務取扱所名稱區分ノ事

一 教法宣布ノ所ヲ大教會所中教會所小教會所說教所場ノ五個ニ別チ兼テ神事ヲ修メ祭儀祈禱禁厭葬儀ノ諸式ヲ傳習實施ノ所トス

但平民ノ居宅タリ共說教開筵ハ支障ナキモノトス

一 教務取扱所ヲ本廳及東京出張教務局トシ自餘教會說教所場ニ於テハ例規ヲ履ミ適宜ニ取扱ヒ兼テ規約ヲ下シ遺例董督ノ事ヲ掌理スルノ所トス

但規約例ハ附録ニ掲載ス

一 大教會所中ニ司教課教務課財務課ヲ置キ本教宣布教務一切ノ事ヲ管理シ合稱シテ本廳ト稱ス

第三章 職 制

第七條 管長ハ教務一切ヲ總轄シ上下ニ對シ其實ニ任スル事

一 教師ノ禮服ハ祭服狩衣直垂淨衣格衣ノ五品ヲ以テ其階級ヲ定ム

一 教師ヲ進退シ各所講社說教場等ノ名稱ヲ許ス

一 修道學校病院貧院等ヲ興設ス

第八條 教師輔教ハ神事布教ノ庶務ヲ分掌スル事

一 神事ヲ修明シ信徒ヲ誘導ス

一 神典ヲ講究シ生徒ヲ教授ス

一 信徒ヲ募集シ講社ヲ結成ス

但結社ハ本教々規ノ細則雜則等ヲ標準トス

一 祭禮及ヒ冠婚葬祭等ノ諸式ヲ執行贊成ス

一 教導職試補ハ教師ニ從ヒ本教ノ要義ヲ練磨シ教書ヲ自修ス

一 教導職々掌上教義擴張ノ見込アラハ管長ヘ具申スルモノトス

第四章 擧 擧

第九條 管長ハ部下教正ノ協議ニ依テ之ヲ擧定スル事

一 教祖神裔孫ノ内學術徳望著シクシテ教師統轄ノ任ニ堪ルモノ

第十條 教師ハ試験法ニ據リ或ハ管長ノ特選ヲ以テ進退スル事

- 一 神事學術優等ニシテ事理ニ通曉セルモノ
- 一 教法熱心品行方正ニシテ人ノ師表タルベキモノ
- 一 平素徳望アリテ布教ニ功勞アルモノ
- 一 教導職試補ハ教法篤志ニシテ將來教師ニ望ミアルモノ

第五章 公 部

第十一條 教會所說教所等ヲ設置スル事

一 教會所說教所等ハ新設廢合共明治十七年十月三十日主務省戊第二號御達ニ照準ス

但參照御達面

教務所（教務所法務所） 說教所（說教所） 取設ハ從前ノ手續ヲ履ミ地方廳へ願出其  
移轉廢合ハ届出ツ可シ

第六章 雜 則

第十二條

教會所ノ衆力ヲ併テ貧民ノ授産ヲ設ケ濟世ノ便益ヲ圖ル事

- 一 山海ノ遺利ヲ與シ農漁ノ裨益ヲ圖ル
- 一 衛生ノ方法ヲ講習シ生徒ノ躰操ヲ練磨ス
- 一 信徒ノ活計ヲ補ヒ行旅ノ便益ヲ圖ル

第十三條 東京出張教務局及各所講教徒ノ紛糾ヲ鎮靜シ邦家ノ安寧ヲ圖ル事  
右ノ條件ヲ以テ通規トシ猶實施ノ上支替アル時ハ稟伺ノ上認可ヲ乞フベシ

附錄懲誠規約例

第一章 教規例

第一條 本教ニ於テ懲誠スル規約ヲ分テ四種トス

其一 重懲誠

其二 輕懲誠

其三 譴誠

其四 諭誠

第二條 重懲誠ハ其部内ニ於テ有心故造或ハ過誤失錯ノ徒ヲ申請スレバ其事由ヲ按檢シ管長之ヲ決行シ畢ヌ

第三條 輕懲誠ハ前條ノ手續キナ以テ意見ヲ附シ管長ノ裁下ヲ經テ之ヲ處斷ス

第四條 譴諭誠ハ各所長及教督適宜之ヲ處置シテ管長ヘ具申ス

第五條 輕重懲誠譴諭誠ハ懲誠爲スベキ違則例ノ條款ニ觸ルヲアラハ教約例ニ照準シテ教規例ノ處置ヲ爲ス

第六條 若違例者アリ其不行跡ノ實證ヲ舉テ直轄教會及ヒ各教會ニ於テ能ク審査ヲ遂ケ其手續證據書類ニ意見書ヲ添ヘ中教會所長及教會長教督若クハ副長并係主任

者總テ三名以上連署ヲ以テ管長ヘ具伸ス

但本文手續ヲ爲サハルモノハ其効ヲ有セス

第七條 懲誠ニ依ルニ非スシテ免職スベキ者ハ中教會所長及教會長教督副長ヨリ旨ヲ諭シ本人ヨリ免職願ヲ出サシム若其旨ニ違ハサル者アラハ管長ヨリ直ニ解免ス

第八條 懲誠ニ依リ免職スル者ハ滿七年以上降級スル者ハ滿五年以上ヲ經テ改良ノ實効アルニ非レバ再補昇級スルコトヲ許サス

第九條 謹慎ヲ命セラレタル者ハ滿三年間昇級スルヲ許サス

但右兩條共悔悟謹慎ノ現狀保證人アリテ改心ノ實効著シキ者ハ此限ニアラス

第十條 譴諭誠ニ係リタル者ハ容易ニ昇級スルヲ許サス悔悟改心ノ實効アル者ハ此限ニ非ラス

第二章 教約例

第十一條 重懲誠ヲ分テ免職降級トス

第十二條 輕懲誠ヲ分テ謹慎譴責トス

第十三條 重懲誠免職ニ係ル者ハ其事由ヲ管轄廳ヘ申報ス

第十四條 謹慎ハ五日以上二十五日以下ノ解除ヲ修メシム

第十五條 譴責ハ其事由ヲ示シ譴誠書ヲ附シテ將來ヲ誠シム

第十六條 諭戒ハ過失ヲ指摘シ悔悟ノ謝狀ヲ出サシム

第三章 遵則例

第十七條 左ノ概目ニ觸ル、者ヲ重懲誠トシ其情狀ヲ酌量シ其重キヲ免職其輕キヲ  
降級トス

- 其一 管長ノ命令ヲ奉セサル者
- 其二 本教ノ教規及細則ヲ遵守セサル者
- 其三 教正輔教以上ノ者ニ對シ公然不敬不遜違令ノ者
- 其四 過誤失錯ト雖トモ怠惰ヨリ生スル者
- 其五 但過誤モ教義ニ害アラハ其情狀ニ因テ之ヲ處分ス
- 其六 妄ニ吉凶禍福ヲ唱ヘ又ハ祈禱符咒等ニ託シ人ヲ惑シ利ヲ圖ル者
- 其七 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ蠱惑シ風俗ヲ紊ル者
- 其八 神號及ヒ七箇條ノ眞蹟ヲ偽造シ又ハ詐術ヲ以テ教徒ヲ誑惑セシムル者
- 其九 宗家徽號ノ濫込アル用紙ヲ猥ニ私用スル者
- 其十 東京出張事務局及ヒ各所講ノ諸教費募集ノ稱呼ヲ以テ詐術ヲ爲ス者
- 其十一 著キ不品行ヲ以テ譴ヲ來シ本教ノ體面ヲ汚ス者
- 其十二 身代限りノ處分ヲ受ケタル者

其十二 重懲誠ヲ受ケ又ハ度々輕懲誠及譴諭誠ヲ受ケテ猶素行修ラサル者

其十三 教費贖金ノ納期兩度ヲ怠ル者

第十四條 教内區域中ニテ當器ノ教職ヲ故意ニ擯擧セサル者

第十八條 左ノ概目ニ觸ル、者ヲ輕懲誠トシ其情狀ヲ酌量シ其重キヲ謹慎其輕キヲ  
譴責トス

- 其一 諸長ノ命令ニ違ハサル者
- 其二 疎虞懈怠ニシテ教規雜則ニ違背スル者
- 其三 本教内ノ者管長ノ聽許ヲ得スシテ懲誠ノ規約例ニ擬似セル方法施設スル者  
座ノ者
- 其四 凡諸達書ヲ受テ時日ヲ遲緩シ事ニ害アル者
- 其五 本廳名アル用紙ヲ猥ニ私用スル者
- 其六 猥ニ訟訴事件ニ關涉スル者
- 其七 各所長ニ對シ公然不敬不遜違令ノ者
- 其八 同職ニ對シ公然罵詈ヲ爲ス者
- 其九 管長及教正輔教教屬各所長等ニ對シ敬禮儀式ヲ遺失スル者
- 其十 教旨研究ヲ怠リ布教ヲ忽ニスル者



- 其十一 所轄教會說教所場及ヒ講社ノ承諾ヲ得スシテ妄ニ所屬轉換ヲ名トシ人氣ヲ煽動スル者
- 其十二 各所場及講社ノ公擧投票ニ故意ヲ以テ奸策ヲ圖ル者
- 其十三 教賞職金ノ納規ヲ怠ル者
- 其十四 詭論誡三度ニ及ヒ猶悔悟セサル者
- 其十五 人ヲ讒誣離間スル者
- 其十六 擧法ニ違ヒ擧登用ヲ圖ル者
- 其十七 偽言詐術ヲ爲ス者
- 其十八 教師ノ服制ニ違ヒ異様ノ服ヲ着用スル者
- 其十九條 左ノ概目ニ觸ル者ヲ諭誡トス
  - 其一 講頭教監ノ指揮ニ從ハサル者
  - 其二 約束ヨリ成立タル臨時教費割等ヲ運納スル者
  - 其三 他事ヲ口實トシ本教ノ義務ヲ怠ル者
  - 其四 各所講ノ約則ニ違フ者
  - 其五 教法ヲ名トシ遊戯ノ興行ヲ爲シテ利ヲ圖ル者
- 第廿條 第十七條ヨリ十九條中ノ諸項ニ觸ル者ハ左ノ三項ニ照準シテ所置ヲ爲ス

- 其一 第十七條ノ概目ニ該當スル違則教内ニテ發覺スル者ハ第二條ニ照準シ他ヨリ發覺シ或金額ヲ掠奪詐僞國律ニ觸ル等ノ一アヲハ警官ニ告公法ノ所置ヲ受ケ
- 第二條ノ教規例ニ附ス
- 其二 第十八條ノ概目ニ該當スル違則ハ第三條教規例ニ附ス
- 其三 第十九條ノ概目ニ該當スル違則ハ係長講頭教監等ヨリ懇諭ヲ加ヘ悔悟改心セシメ或ハ教會所へ入學セシメ第四條ノ教規例ニ附ス
- 第二十一條 凡徳義上ニ於テ責ムベキ者ハ此違則例概目ニ比準シテ所理スルモノトス

更  
正  
黑  
住  
教  
々  
規  
細  
則

教  
務  
條  
例

七十四

- 第一條 教内一般ノ教導職ハ説教禁厭ニ從事シ教祖神ノ遺訓ヲ遵守シ本教々旨ヲ專一ニ宣布爲スベキ事
- 第二條 大教會所祭典係ハ解除祈禱ノ諸式ヲ勤行シ教徒ニ満足ヲ與ヘ報恩謝徳ノ實ヲ表セシムベキ事
- 第三條 大教會所試験係ハ實行研究ノ宗學生徒ヲ識別シ試験科目ノ的當ヲ得セシムベキ事
- 第四條 新置大中少ノ輔教々屬ハ各自ノ地位ニ因テ順序ヲ定メ教務ニ從事シ教義ヲ計畫爲スベキ事  
但輔教ノ本廳總理ハ司教課教務課財務課ノ各課長ト機務ニ參判シ教屬ハ專ラ所掌ノ教務ヲ分理スベシ
- 第五條 大教會所内司教々務財務ノ三課ハ其課長ト所掌ノ教務ヲ審議シ成規ニ因テ決判爲スベキ事
- 第六條 右三課中係リテ分チ越權ヲ慎ミ各自負荷擔當ノ所掌ニ從事爲スベキ事

但規則外ノ事ハ協議ヲ盡シ經伺ノ上所理スベシ

第七條 右三課對立布教々務ニ從事シ事務ノ繁閑ヲ量リ拮据屬精本教宣布ノ教導職ヲ補佐爲スベキ事

第八條 東京出張教務局及各所講ノ諸帳簿其他書類時々點驗シ後証ニ備フベキモノヲ整理格議爲シ置ベキ事

第九條 各所講並教導職教徒等ノ願伺ハ進達ノ順序ヲ逐ヒ成規ニ據リ所理爲スベキ事

第十條 官省並本廳ノ取調ニ係ルモノハ殊ニ注意シ延滞ナキヲ要スベキ事

第十一條 右三課中ノ規則更正等ハ面從後言ナク眞卒ノ意見ヲ述ベ臆測ヲ以テ專斷ノ所業爲スベカラサル事

第十二條 神納所ハ三課中名簿出納祭典ノ係員ト鼎坐シ出納ヲ明瞭ナラシムベキ事  
但當分ノ内ハ祭典係ト受付員ト立合ニテ神納ヲ所理シ出納係ヘ廻送スベシ

第十三條 神納所當直其日ノ神用教務總テ日記ニ記載シ成規ヲ履ミ處分爲スベキ事

第十四條 役員教務ノ爲メ地方在勤或ハ巡廻ノ節ハ分掌セル擔當ノ事務ハ詳細引繼發途爲スベキ事

第十五條 教務ニ關スル上請及ヒ府縣往復ノ文書後証ヲ要スルモノハ能ク成規ヲ履

七十五

行シ處分爲スベキ事  
 第十六條 教導職ハ衆庶ノ師表トナル者ナレバ操履方正品行殊ニ相慎ムベキ事  
 第十七條 教法擴充ノ所見アラバ議案ヲ草シ經伺審判ノ後施行爲スベキ事  
 右教務條例更正候事

更正住教々規細則

教務規約

第一章 教旨

第一條 教ハ皇大神ノ御教道ハ日ノ神ノ大道造物主ハ日ノ神ノ働キタル教旨ヲ遵奉スベキ事

第二章 教基

第二條 訓誡七ヶ條ヲ奉教ノ標準ト爲スベキ事

第三條 教ノ五事ヲ誠ノ大體ト爲スベキ事

第四條 道ノ架ヲ修行ノ階梯ト爲スベキ事

第三章 誓約

第五條 教旨一條教基三條ハ奉教修道行爲ノ要領子々孫々ニ教訓ヲ胎シ置ベキ事

第六條 神徳師恩ヲ仰キ報國ノ實ヲ表シ虚誕ノ妄説ニ惑フマジキ事

第七條 生々ノ神理ニ外レ道理ノ穿鑿ニ泥ムマジキ事

第八條 我教旨ヲ達シ他ノ教法ヲ妨ケズ他ノ妨害ヲ慎ムベキ事

第九條 教内ノ教徒ハ同胞ノ親愛ヲ懷キ吉凶禍福疾病患難ノ際心切ノ義務ヲ盡シ互

ニ相教フベキ事

第十條 本教尊信ノ實ヲ表シ神文ヲ納メムト欲スルトキハ成規ヲ履ミ誓約ヲ爲スベキ事

但其手續ハ附錄第一條第一節ヲ參看スベシ

第四章 神拜 附呼吸法別ニ傳アリ

第十一條 毎朝早起盟ヒ歎キ天照日大御神ヲ拜シ光輝ヲ吸收シ快活ノ陽氣ヲ身軀ノ中府ニ鎮メ次ニ皇大神天神地祇八百万神産土神及教祖宗忠神并祖先ノ神靈等式ノ如ク拜禮爲スベキ事

第五章 禁厭 附禁厭術別ニ傳アリ

第十二條 病者禁厭ヲ請フトキハ先之ニ醫藥治療ノ闕クベカラザルヲ告諭シ能ク醫治ノ効能ヲ説キ服藥ノ有無ヲ質問シ醫師診斷治療中ノ者ニ限り教祖神直接ノ神傳ヲ以テ禁厭施授爲スベキ事

但本教尊信無病ノ教徒施療外ノ信徒ト雖モ實際止ムヲ得ザル者ハ施授ハ此限ニアラス附錄第二條各節ニ照準スベシ又禁厭法術免許ノ手續ハ雜則第五章ヲ參看スベシ

附リ禁厭術

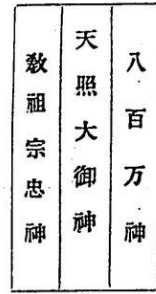
天照大御神大名持神少彦名神八柱神大直神宗忠神ヲ默禱シ禁厭ノ詞ヲ唱ヘ禁厭術ヲ行フベシ

第十三條 禁厭術施行ハ假令教導職ト雖モ管長ノ免許印鑑ヲ有セザル者ハ猥ニ施行ナスベカラザル事

第六章 説教

第十四條 正面ニ神床ヲ設ケ其中央ニ天照大御神右ニ八百万神左ニ宗忠神ノ神號ヲ掛奉リ適宜ノ獻供ヲ以テ齋ヒ奉ルベキ事

第一節 教會説教所場神床ノ裝置左ノ如シ



榊 榊

但信者ノ宅ヲ以テ一時説教ナス時ハ大御神ノ神號ノミ掛奉モ妨ナシ教會所ニ紛敷施設ヲ爲シ成規ヲ犯ス勿レ

第二節 神前ニ神酒洗米其外消鮮ヲ適宜ニ獻供スヘシ説教ノ時ハ正面

表 別 區 所 務 教 會 教

<p>本 廳 大教會所内ニ 司教課教務課 財務課ノ三課 ヲ置キ合稱シ テ本部ト云ヒ 教内百般ノ教 務ヲ綜理スル 所トス出張東 京教務局亞之</p>	<p>廢局ノ理由 從來教務ハ本 局分局又ハ支 局ニテ所理セ シ所布教專務 ノ主義ヲ以テ 本分支局ヲ廢 シ大中小教會 所内ニ主任ヲ 置キ之ヲ兼務</p>	<p>ナサシム理事 門ノ要領小權 ヲ以テ犯スナ キノ實ヲ履ミ 形ヲ忘レ心ヲ 養ヒ最布教ニ 注意スベシ</p>	<p>黒住教管長 黒住宗篤</p>
<p>大教會所 教導職ヲシテ 教内ノ信徒等 ヲ總ヘ教祖神 ノ遺訓ヲ傳習 シ教旨ヲ皇張 シ布教傳道ノ 所トス出張東 京假大教會所 準之</p>	<p>地名 中教會所 每府縣廳下若 クハ每一國ニ 一ヶ所(便宜ノ 地ニ)設置シ大 教會所ニ亞テ 所轄教域内小 教會所ノ布教 ヲ總ベ教旨ヲ 研究スルノ所トス</p>	<p>地名 小教會所 每郡區又ハ數 郡區聯合シテ 一ヶ所ヲ設置シ 該區内ノ說教 所ヲ管理シ地 方ノ教徒ヲ教 化誘導シ本教 宣布ノ所トス</p>	<p>地名 說教所 從來何々教會 所派出說教所 ト稱セシモノ ヲ改稱シ所在 郡區内ノ小教 會所ヨリ管理 シ部内團結ノ 講社集合シテ 教法ヲ敷ク所 トス</p> <p>地名 講社說教場 從來別立教中ト 稱セシモノニ地 名ヲ冠稱シ何々 ト改稱シ何々 講社ト改稱ス故 ニ其講中ニ假設 スル教導職派出 シ以テ其講中ノ 社員ヲ獎勵スル 臨時ノ教場トス</p>

テ外シ便宜ノ所ニ講坐ヲ設聽衆ノ適宜ヲ要スヘシ  
但神酒洗米神水等之ヲ請フ者アラハ授與スヘシ尤教會說教所場ノ外  
獵ニ授與スルヲ許サズ

第三節 說教前教師教徒ト俱ニ神前ニ進ミ再拜短手神言三回ヲ誦シ畢  
テ禮拜拍手スル事前ノ如シ

第四節 教師說教ノ坐ニ臨ム時ハ先神前ニ進ミ一拜拍手天津祝詞ヲ誦  
讀シ拍手禮拜前ノ如シ(幾人講說スルモ前ニ同シ)次ニ說教畢テ坐ヲ  
下リ神前ニ進ミ教徒ト共ニ神言一回ヲ誦讀シ禮拜拍手總テ前ノ如シ

第五節 說教講義ハ教導職試補以上ニ限ルト雖モ教徒ノ教導ニ從事セ  
ント欲スル者ハ教導職ニ附隨シ說教修行スル片袴羽織ニテ勤ムルハ妨  
ケナシ之ヲ稽古講義ト云

第六節 說教ノ要領ハ天地生々自然ノ道理ニ基キ教旨ニ由リ天照大御  
神ノ神德靈驗ヲ説キ明シ聽衆ヲシテ修身齊家ノ本心ヲ提起シ天理人道  
ノ一誠ニ歸セシメ本ヲ忘レサルヲ要ス其之ヲ敷衍スルヤ訓誡七ヶ條教  
ノ五事道ノ渠等ニ據テ神賞冥罰ヲ默識セシメ靈無ヲ養ヒ惟神ノ道ヲ修  
メ吾人快活神人一體ノ神理ヲ感得セシムヘシ



第七章 學問

第十五條 新入門ノ者ハ教師ニ就テ教祖ノ遺訓斯ノ道ノ淵源說教ノ方法等質問研究  
爲スヘキ事

第十六條 本教ノ傳習ニ研究實行ノ二學種アリ之ニ據リ教祖ノ神傳教旨ノ蘊奧ヲ究  
メ我ヲ離レ活物ヲ捉ユルノ妙域ニ悟入爲スヘキ事

第十七條 教徒中父兄ニシテ家業ノ餘暇アル者ハ學事ヲ勤メ子弟アラバ必ズ地方ノ  
小學ニ入レ修學勉強セシメ都テ安信ヲ以テ固陋ニ安ンセシムヘカラサル事

第十八條 教徒中子弟ノ小學ニ入ル者卒業ノ上ハ自立ノ業ニ從事セシメ其學ヒシ教  
ヲ實事ニ施シ我教旨ヲ奉シ終身方向ヲ誤ラサル様遵守ナサシムヘキ事

第八章 教務

第十九條 本教ノ教務ヲ取扱ハシムルハ端正ニシテ材幹アル人ヲ公擢ナスヘキ事

第二十條 教職輔教々屬等所掌ノ職務ニ力ヲ盡シ衆庶ヲシテ國恩ヲ知ラシメ教化ニ  
浴セシムヘキ事

但雜則第一章ヲ參看スヘシ

第二十一條 教會說教所ヲ開クニ當テハ從來ノ成規ヲ履ミ其府縣下在勤教導職教徒  
協議ノ上中教會所ヲ經由シ本廳ヘ真願シ管長ノ副書ヲ得テ地方廳ヘ出願爲スヘキ

事

但雜則第七章ヲ參看スヘシ未許可前擬ニ正講ナスヘカラス  
 第二十二條 東京出張教務局及各所講ノ權限ヲ定メ布教々務ノ區別ヲ明ニシ本末紊亂ノ弊勿ラサシムルヲ要スヘキ事  
 但雜則第一章ヲ參看スヘシ  
 第二十三條 本教道信手厚キ教徒ヘ教級ヲ授與シ幽顯一致神人不二ノ神理ヲ默識神通ナサシムヘキ事  
 但雜則第六條ヲ參看スヘシ  
 第九章 要 結  
 第二十四條 集會ノ節協和ハ勿論禮節ヲ正フシ斯道昌盛ナスヘキ希圖ノ事アラバ哀情ヲ吐露シ假ニモ私意ヲ挾ミ黨派ケ間敷軋轉ヲ爲スヘカラサル事  
 第二十五條 右ノ規約ニ違背スル者アラバ其事由ヲ詳悉シ止ムヲ得サレバ破門ニ及ブヘキ事  
 右教務規約更正候事

表 級 等 教 住 黒

講社	說教所	小教會所	中教會所	職員名稱	等差	教 級		教 師 階 級	
						大	信	大	一 級
				大 輔 教	一 等	大 信 教	正 權 大 教	正 權 大 教	一 級
				大 輔 教	二 等	大 信 教	正 權 大 教	正 權 大 教	二 級
				中 輔 教	三 等	中 信 教	正 權 中 教	正 權 中 教	三 級
				中 輔 教	四 等	中 信 教	正 權 中 教	正 權 中 教	四 級
				少 輔 教	五 等	少 信 教	正 權 少 教	正 權 少 教	五 級
			所	少 輔 教	六 等	少 信 教	正 權 少 教	正 權 少 教	六 級
			所 長 副 所 長 教	大 教	七 等	一 級 信 教	大 講 義 權	大 講 義 權	七 級
			所 長 副 所 長 教	大 教	八 等	二 級 信 教	大 講 義 權	大 講 義 權	八 級
			所 長 副 所 長 教	中 教	九 等	三 級 信 教	中 講 義 權	中 講 義 權	九 級



事

但雜則第七章ヲ參看スヘシ未許可前撰ニ正講ナスヘカラス

第二十二條 東京出張教務局及各所講ノ權限ヲ定メ布教々務ノ區別ヲ明ニシ本末紊亂ノ弊勿ラサラシムルヲ要スヘキ事

但雜則第一章ヲ參看スヘシ

第二十三條 本教道信手厚キ教徒ヘ教級ヲ授與シ幽顯一致神人不二ノ神理ヲ默識神通ナサシムヘキ事

但雜則第六條ヲ參看スヘシ

第九章 要 結

第二十四條 集會ノ節協和ハ勿論禮節ヲ正フシ斯道昌盛ナスヘキ希圖ノ專アラバ哀情ヲ吐露シ假ニモ私意ヲ挾ミ黨派ケ間敷軋轢ヲ爲スヘカラサル事

第二十五條 右ノ規約ニ違背スル者アラバ其事由ヲ詳悉シ止ムヲ得サレバ破門ニ及ブヘキ事

右教務規約更正候事

正 更 黑 住 教 教 規 細 則 附 錄

第一條 本教ヲ尊信シ歸屬セル教徒捧神文ノ事

第一節 神文書式

神文之事

皇祖天照大御神ノ神勅ハ天壤無窮ノ教典ニシテ赫倫ノ綱常畏敬尊信爲スヘキ惟神ノ道規ナリ今回入門ノ上ハ更ニ朝廷ノ御政令ヲ奉戴シ御訓誡ニ背カス忠孝ヲ明カニシ人タルノ職分ヲ盡シ終身ニ念ナキヲ表ス依テ神文ヲ捧呈スル事如件

年 號 月 日  
何 縣 平 民 何 國 何 郡 何 町 何 番 地 居 住  
苗 字 名 印  
年 號 月 日 生  
當 何 月 十 何 年 何 々 月

奉 教 祖 宗 忠 大 神

第二節 神文ハ各地方中教會所(中教會所無之地方ハ小教會所又ハ說教所講社其役員ヨリ)ニ取纏メ置キ姓名目錄相添ヘ三箇月限リ本應又ハ地方便宜ニ因リ東京出張教務局ヘ送達スヘシ遲ク共四箇月ヲ出ツヘカラス其節神納ノ證書夫々相渡スヘシ

但神文神納ノ節ハ入門式(雜則第八章ヲ參看スヘシ)ヲ行ヒ應分ノ束脩ヲ納メ  
サセ之ヲ教費ニ充ツヘシ尤赤貧ノモノハ無束脩モ妨ケナシ

第三節 神文ノ束脩之ヲ二分シ其一ハ地方中教會所ニ止メテ教導入費ニ充テ其  
一ハ本廳ニ送致シテ教費ヲ補フヘシ

但第七條神納表但書ヲ參看スヘシ

第二條 醫師診斷治療外ノ者ハ禁厭施設ノ事

第一節

本教篤志無病ニシテ心氣鎮靜雜念解除ノ爲メ禁厭懇請ノ者

第二節

盲啞瘂塞等ニテ生來癱疾不具ノ者

第三節

刃傷或ハ過誤負傷等ニテ被害治療後尙不具ナル者又ハ多年痼疾ニテ支  
脈不隨氣血閉塞往々癱疾ニ陥リ治療無効ノ者

第四節

病弱ノ徵候モナク性質羸弱ニテ心氣回復ノ爲施設ヲ請フ者

第五節

痰咳溜飲疝氣疝症ノ類ニテ俗ニ持病ト稱シ湯藥ヲ廢シ餘喘ヲ保ツ者

第六節

癩癩肺癆其他難治タルモ其身貧窶ニシテ治療ヲナス能ハサル者

第七節

退阪僻邑ニテ醫師招聘ニ時間移リ或ハ急遽ノ際傍觀ニ堪ヘサル急病人  
或ハ負傷被害ノ者

第三條

大中小教會所說教所場並教務局等ノ名稱區別ノ事

第一節

本教ハ布教ヲ專務トシ教務之ニ亞ク十七年八月(十一日)太政官第十九  
號布達ニ據リ本教ヲ大教會所中ニテ宣揚シ其教會中ニ司教課教務課財務課ノ三

課ヲ置キ教務ニ從事ス東京ハ出張東京教務局ト稱シ局中ニ假大教會所ヲ置キ教  
務ヲ主トシ布教ニ從事セシム本廳ヨリノ出張之ヲ最第一トス各府縣教會所說教

所等亞之施設閉鎖等ハ本廳ノ管理ニ屬ス

第二節

本教ヲ信仰シ入門スル者ヲ教徒或ハ信徒信教ト云此教徒教義ヲ擴充シ  
災厄ト祓除シ義務ヲ盡スハ衆多ノ力ニ據ラザルヲ得ズ故ニ團結一社ヲナス之ヲ

講社ト稱ス

第三節

右ノ講社最寄適宜ニ又一團結ヲナシ布教傳道ノ所ヲ設ク之レテ小教會  
所又ハ說教所ト稱シ教徒ヲ會同セシメ葬儀祭祀等ノ事ヲ管理ノ所トス

第四節

說教所ハ往々小教會所タルノ權與ナレバ位置ヲ撰定シ適宜ノ場所ニ設  
ケ置クベシ其最小ヲ說教場ト稱ス一講社ニテ教義ヲ切實スルノ所トス

第五節

右教會所ヲ統轄シ布教傳道尙教徒隆起ニ隨ヒ弊習ノ生ゼシヲ規箴監督  
スル所ヲ中教會所トス

第四條

同區別表ノ事

第五條

同沿革ノ事



第一節 大教會所 本廳

明治九年十月別派獨立前ハ教會所教務所ヲ合シテ本講社ト稱セシメ獨立後ハ神道黒住派教務本局ト改正シ本局ヲ教務取扱所トナシ本局中ニ大教會所ヲ置キ布教傳道ノ所トセシテ今改メテ大教會所中ニ司教々務財務ノ三課ヲ置キ合稱シテ本廳ト稱ス

第二節 出張東京教務局 出張東京假大教會所

別派獨立ノ際東京講社ヲ教務本局出張所ト改稱シ出張所中ニ假大教會所ヲ置キ教務布教ヲ兼シメシテ明治十四年四月題號ノ如ク改稱ス同所ハ盤穀ノ下ニ在テ主省ニ關スル教務ヲ掌ルヲ主トセリ且正副管長ノ内一名在勤ノ場所トナリシナリ故ニ今改正ニ際スルモ名稱尙舊キニ依ル其釐正スルモノハ自今管長在勤ノ所トシ不在ノトキハ留守居ヲ置キ教務ヲ管理セシム故ニ本廳ヨリノ出張之ヲ最第一ト爲ス

但明治十年中全國教域内ヲ二分シ三重縣以西ヲ西部トシ愛知縣以東ヲ東部トシ西部ヲ本局ヘ東部ヲ教務局ヘ分屬セシメ以テ教務ヲ執行セシモ十七年八月(十一日)太政官布達第十九號ニ基キ教規ヲ制定シ兩部ノ名稱ヲ廢シ教法上ノ所分ハ總テ本廳ニ屬隸セシム其諸顧問等ノ取扱ヒハ最寄教徒ノ便宜ニ任セ

第三節 中教會所

東西ヲ論セス地方ノ都合ヲ以テ本廳又ハ東京出張教務局ヘ差出サシム別派獨立ノ際各府縣第一分講社ヲ分局ト改稱シ明治十三年四月主省稟伺ノ上地名ヲ冠シテ何々分局トシ分局中ニ中教會所ヲ並置シテ布教傳道ノ所トス今又之ヲ改テ分局ヲ廢シ中教會所ニテ布教傳道ヲ主トシ諸教會ノ流弊ヲ規箴董督スルノ所トス

第四節 小教會所

別派獨立ノ際第二以下ノ分講社ニ番號ヲ冠シ何番教會所ト稱セシモ整理上差支アリ更ニ地名ヲ冠シテ何々教會所ト稱セリ明治十三年四月同稟伺ノ上地名ノ下ニ小ノ字ヲ加ヘ何々小教會所ト改稱シ地方ノ教徒ヲ教化誘導シ教法宣布ノ所トス

第五節 說教所

講社盛大ナルトキハ一ノ教場ヲ脩飾シテ之ヲ說教所ト云從來最寄教會所ノ派出說教所ト稱セシヲ明治十三年四月改テ所長ヲ定メ地名ヲ冠稱シテ單ニ何々說教所ト稱ス

第六節 講社

本教信仰ノ者ヲ信者ト汎稱シ就中神文捧呈一意尊信ノ者ヲ信徒又ハ信教ト稱ス  
(信教信徒ヲ總稱シテ教徒ト云)此輩結衆一團ヲ講中ト稱セシ明治十三年四月  
講社ト改稱ス其説教スル所ヲ講社説教場ト稱ス

第六條 本教々師職員等級改正表ノ事

但東京教務局ハ本廳ノ出張ナレバ別ニ其目ヲ掲ケス教師輔教并課長及ヒ各所正  
副長ハ管長ヨリ教屬并各所教督勘査正副教幹正副講頭ハ本廳總理ヨリ大教會所  
三課諸係長以下書記迄モ同上各所講世語掛長以下ハ中教會所長(地方ノ事僧ニ據リ本  
語掛長ニ限リ)雇用ハ係ヨリ命ズルモノトス

第七條 教師派出巡廻在勤中受ル所ノ謝金等ハ教師ノ所有物ト雖モ其多寡各歸省ノ

上明細書ヲ以テ届出ベシ尤束脩其他昇級教級禁服免許等ノ報賽ニ屬スル神納ノ領  
収証ハ本廳又ハ教務局ノ内ヨリ送致爲スベキ事  
但神納表概略圖ノ如シ總テ神納物ハ初穂ニ屬ス

何年何治明	初穂	種類	一月分	二月分	三月分	合計
		束脩				

府縣何所神納表

賽錢	物品	謝金	合計

但領収ノ區分束脩ハ本廳中教會所ト折半(中教會所無之地方ノ小教會説教所講社等ハ  
次々ハ初穂ヲ)初穂ハ本廳刷板ニ係ルモノハ本部七分中教會所三分(此三分ハ  
其二分ヲ與フ)賽錢物品ハ中小兩教會所協議ノ上適宜分配シ謝金ハ  
中教會所諸費ニ充ツ)教師全額ヲ領収スベシ

第八條 各所正副長又ハ講社講頭等ノ職員アルトキハ其部内ノ投票ヲ以テ撰定シ撰

舉狀ハ其所管中教會所(中教會所無之地方ハ小)ヲ經テ本部教務局并地方便宜ノ方ハ願  
出ツベシ(教督教幹以下ノ補充員等之詮議ノ上認可スヘキ事)  
但雜則第五十一條役員願書式ヲ參看スヘシ

第九條 各所長不都合ノ事アル時ハ各教幹講頭以下協議見聞ノ次第封書ヲ以テ本廳

又ハ東京出張教務局ノ内へ便宜開申爲スヘキ事

但講師并教幹等黽陟所長等進退ノ式ニ照準スヘシ世話掛長以下ハ進退ノ上副所長ヨリ届出ヘシ

第十條 各地方教會所又ハ説教所ヲ設置シ説教施行ノ義ハ教規細則第三條并雜則第七章ニ照準シ成規ヲ履ミ開講爲スヘキ事  
但講社説教場ニテ説教稽古講義等ハ細則第十四條第五節ヲ參看スヘシ尤會主ハ教師ニ限ル

第十一條 巡迴教師ハ必ズ管長授與ノ派出證ヲ持參シ其府縣下中教會所員ト協議ノ

上風土人情ヲ諮詢シ甲乙管内各所ノ氣脈ヲ通シ抵牾勿ラシメザルヲ要スヘキ事  
第十二條 巡迴ノ面々不審ノ舉動アラハ其所ニ留置キ中教會所へ通知シ不審ノ事由ヲ詳明スヘシ故意ニ教規并細則雜則等ヲ相犯ス者ヲ看過スルアラハ其地方役員ノ

越度タルヘキ事  
但重大ノ件ハ本廳ノ處分ヲ仰クヘシ

第十三條 各府縣下ノ教徒中年々一回同門中ノ亡靈ヲ簿冊ニ記シ其所ノ教會所ニ於テ招魂ノ祭式ヲ執行シ退テ右名簿ヲ合集シテ本廳へ送致スヘシ每歲三月廿四日ハ

教祖ノ大祭執行ノ日ニ付師弟幽顯ノ親愛ヲ厚クスル爲祭式ニ配享ナスヘキ事  
第十四條 大教會所並東京假大教會所ノ神前ニ供スル金穀諸品等ハ一切積置キ本廳

及東京出張教務局ノ教導入費ニ充ツベキ事

第十五條 各所共神納ノ金穀諸品ハ其所ノ教費ニ充ツベキ物ト雖モ其所ハ能ク本廳東京出張教務局ト氣脈ヲ通シ本廳ノ規則ヲ遵守シ成規ヲ履ミ教費ヲ裨補シ尊信ノ實効ヲ立ツヘシ就中講社ハ尊信ノ志ヲ固結セシメ天授ノ福社ヲ享有シ敬神ノ眞念ヲ慎興シ神道ノ昌盛ヲ感發スルニ注意スヘシ西哲モ教法ヲ離レテ風俗ノ純善ニ進ムヲ見ザルト切言セリ教法ハ生前ノ本心ヲ養ヒ死後ノ幽魂安着ヲ定ムルガ肝要ナリ故ニ教徒ヲ提擲獎勵スルニハ教導職身ヲ以テ之ニ先立道徳ニ基キ虚飾ヲ省キ慈惠ヲ好ミ節儉ヲ行ヒ我ヲ離レシ誠ヲ以テ誘導スヘシ神納ノ諸品教費剩餘ノ分ハ規則ニ照準シ明細仕譯書ヲ以テ本廳又ハ東京出張教務局へ開申シ其指揮ヲ受クヘシ專斷ノ處置成スヘカラサル事

第十六條 本廳並東京出張教務局ノ金錢物品出納等ノ正算ハ毎月課長係長立合成規ニ照準シ處分スヘシ中小教會所モ亦準之ヘキ事

第十七條 教會ノ會計ハ商社ノ會計ト區別アルヲ了得シ會計ヲ以テ教化ヲ犯ス可カラズ何ントナレバ則商社ノ會計ハ規則ニ成リ教會ノ會計ハ信仰ニ成ルモノナレハ容捨自ラ緩急アリ當務ノ者宜敷注意爲スヘキ事  
右附錄條款改訂候事

更正黑住教々規雜則

目次

第一章	職制教務
第二章	派出章程
第三章	教導職并試補選舉
第四章	教職并試補試驗
第五章	禁厭傳授并擢舉
第六章	教級授與附撰舉
第七章	教會教務所設置方法
第八章	講社結衆心得并說教場假設

更正黑住教規雜則

第一章 職制教務

第一條 職制教務區別ノ事

第一節 本廳職制

管長 教旨及教務一切ノ下ヲ總轄シ正副総理ノ具申ニ由テ決判施行ス

教正 本教道統ノ旨ヲ奉シ管長ノ命令ニ由テ布教禁厭ノ下ヲ掌ル

講義 教正ヲ贊襄シ教旨ヲ宣布シ禁厭施行ノ下ヲ掌ル

訓導 所掌講義ニ同シ

試補 本教ヲ一意ニ宗旨シ實行研究ノ二學旨ヲ練磨シ稟性ノ資質ヲ陶冶ス

補教 教務ヲ整理シ紛糾ヲ鎮靜シ本廳諸係等ノ長トナリ管長ノ命令ニ應シ是非曲直ヲ論辨協贊ノ下ヲ掌ル

教屬 輔教ヲ贊襄シ廳務ヲ整頓シ或ハ係長トナリ諸長ニ對シ意見ヲ陳辨シ所講

巡視省察等ノ下ヲ掌ル

書記 輔教々屬ノ指揮ニ應シ諸記簿賬錄簿寫等ノ下ヲ掌ル

第二節 中教會所職制

所員ハ所轄所講ニ關スル一切ノ教務ヲ管理分擔スルノ責ニ任ス

長 一員 監望アル教  
師ヲ擔擧ス

該所轄ノ教導職ヲ統率シ教法宜布禁厭施授布教々化ノ事ヲ掌リ尙所講ヲ巡視シ  
布教々務ノ隆替ヲ監檢シ規箴董督ノ教權ヲ有スヘシ

副長

二員 全  
上

其一 所轄ノ所講一切ノ教務ヲ所理シ及ヒ教導職并試補副教幹以上ノ良否ヲ具  
狀シ級外信徒並世話係長以下ノ進退ハ專行ノ後届出ツヘシ

其二 報賽神納ノ金穀物品ノ處分ハ附錄第六條ニ照準スヘシ若教費不足スルハ

ハ所講教導職ヘ協議シ適宜ノ方法ヲ立辨償スヘシ

但教導職職金ハ地方中教會所ヘ取纏メ本廳出納係ヘ送納スヘシ尤地方ノ便  
宜ニ據リ東京教務局ヘ送納スルモ妨ケナシトス

教督

一員 境内各堂アル  
人ヲ擔擧ス

所務ヲ監檢シ教費ヲ審查シ教域内所講ノ教務ニ參判シ褒貶黜陟ノ事ニ關シ副長  
ヲ翼贊シ教徒ヲ提起シ怠惰懈廢ノ弊ヲ匡救スル事ヲ要スヘシ

教幹

一員 全  
上

副長所掌ノ教務ヲ補ヒ事故アルハ教務ヲ代理スヘシ

一等副教幹

人員不定

職務教幹ニ準スト云ヘテ專ラ教務ヲ整理シ教費ヲ斟酌シ結果ヲ事トスヘシ

二等副教幹

全上

職務一等副教幹ニ同シ以下五等迄同上

三等副教幹

全上

四等副教幹

全上

五等副教幹

全上

世話係長并係

人員人撰其地方適宜

副長教幹等ノ命ヲ受ケ教務ニ從事シ俗務ヲ取扱フヘシ

第三節 中教會所教務ハ分テ上下ノ二款ト爲ス其上款ハ副長ノ意見ヲ具シ(所長  
與會)  
本廳ヘ伺テ經テ然後施行スルモノトス其下款ハ副長ノ意見ヲ以テ專行スルヲ  
得上下二款共ニ事務ノ擧ヲサルハ副長其責ニ任ス

上款

其一 所講ノ教師職員ノ勤惰ヲ監檢シ褒貶黜陟スル事

其二 所講ヲ廢置移轉スル事

其三 所講諸般ノ方法ヲ釐正スル事



- 其四 教務ニ關スル費用ヲ募集スル事
- 其五 神納ノ集金ヲ以テ常費外ノ辨償ニ充ル事
- 其六 誠實篤志教義ニ盡力スルノ教徒ヲ昇級褒賞スル事
- 其七 過誤失錯アル教徒忠告意見ヲ用キナル者ヲ貶黜スル事
- 其八 所中ノ費額ヲ豫定スル事

下款

- 其九 教徒教義上ノ可否ヲ論辨スル者アラハ之ヲ判決スル事
- 其十 教徒ヲ集會シ教義ヲ講究スル事
- 其十一 教域内ノ教師布教ノ爲臨時巡廻ノ可否ヲ判決スル事
- 其十二 無免許ニテ禁服施行ノ者ヲ停止スル事
- 其十三 既定ノ會日變更スル事

第四節 小教會所職制

所長ハ其教區内布教一切ノ責ニ任ズ  
一員名望アル教師ヲ推舉ス

- 其一 區内ノ教徒ヲ教化シ教法ヲ宣布シ且葬儀春秋祭式年祭等ノ禮式ヲ管理執行スヘシ

但葬祭ハ葬祭略式ニ據ラシムベシ佛葬祭ノ者ハ其宗規ニ任セ撰ニ于涉スヘカラス

- 其二 諸教職ト協議シ教徒ヲシテ頑陋ヲ開化セシメ風俗ヲ純善ナラシメ時々中教會所員ト會議シテ布教ノ便宜ヲ講究スヘシ
- 其三 神納ノ集金ハ教費ニ充テ神文東修ハ中教會所ヘ納附シ成規ヲ履行スヘシ
- 其四 區内ノ諸願伺届書等ハ調査ヲ遂ゲ成規ニ照ラシ中教會所正副長ノ内ヘ奥書ヲ乞ヒ進達スヘシ

但特派巡廻教師巡教中ノ片ハ其副書ヲ要ス尤直管ハ所長(次員ノト)副長(キ)奥書ノ上進達スヘシ

副長 人員不定上

職務所長ニ準ス所長事故アル時ハ代理スルヲ得  
 勘査 一員名望アル人置否ハ適宜

區内諸役員并教徒ノ向背奉教ノ厚薄布教ノ隆替ヲ視察シ教職教徒ノ勤怠ヲ具申シ兼テ黜陟褒貶ノ事ヲ要請スルノ責ニ任ズ  
 教幹以下配置ノ職務ハ總テ中教會所ノ職制ニ準ス尤副教幹ハ四等ニ止ムヘシ

第五節

小教會所ノ教務ハ中教會所ノ教務ヲ參酌スヘシ  
但中教會所ノ域内廣遠ニシテ數十里ヲ隔テタル不便宜ノ地止ムヲ得ザレバ小  
教會所内ニ支部ヲ並置シ所長ニ支部長ヲ兼務セシメ區域ヲ限リ權限ヲ豫定シ  
中教會所ノ教務ヲ代辨セシムヘシ尤中教會所ト抵牾無キヲ要ス支部ヲ設置ス  
ルハ本教ノ内規ニシテ主省地方ヘ關係ナキモノトス

第六節

說教所職制ハ小教會所ニ同シ  
長 一員名望アル教  
師ヲ撰舉ス

其一 部内ノ教職ト協和シ教徒ヲ教化シテ布教ヲ專務トスヘシ

其二 部内諸顧問屆書等ノ進達方ハ小教會所長ノ職務ニ照準スヘシ

副長

人員不定  
上全

職務所長ニ準ズ所長事故アルキハ代理スルヲ得

教幹以下配置ノ職務ハ總テ中教會所ノ職制ニ準ス尤副教幹ハ三等ニ止ムヘシ

第七節

說教所ノ教務ハ中教會所ノ教務ヲ參酌スヘシ  
講社說教場

一員名望アル教  
師ヲ撰舉ス

其一 社員ヘ教旨ヲ傳ヘ一致協和ノ事ヲ掌ルヘシ

其二 社員中諸顧問屆書等ノ進達方ハ第四節其四ニ同ジ

一等副講頭

一員名望アル人  
ヲ撰舉ス

二等副講頭

一員全

三等副講頭

一員全

本員心得ハ講頭ニ準ズト雖モ專ラ教幹ノ心得ヲ以テ教用ヲ辨ズベシ講頭事故  
アルトキハ代理スルヲ得

世話掛長並係ノ配置取扱ハ正副講頭ノ意見ニ任ス

第二章 派出章程

第二條 派出ノ要領タルヤ教旨ヲ擴充シ聽衆ヲシテ本教ニ薰陶セシメ日常家職ニ勉  
強セン事ヲ要スベキ事

第三條 教職并候補各地方懇請ニ應シ派出スルハ能ク生々ノ妙用ヲ布教擴張ナス  
ベキ事

第四條 各府縣下ヘ派出巡廻又ハ所講在勤共必ズ派出証書ヲ携帶シ其地方中教會所  
又ハ小教會說教所講社ヘ出頭シ該地方ノ請求ニ應シ巡廻說教爲スベキ事

但新ニ布教ノ諸縣ハ管長ヨリ該地方長官ヘ照會アルベシ巡廻在勤共無証書ニテ  
ハ布教スルヲ許サス故左ノ書式ニ因テ出願スベシ

願書式(用紙適宜)

派出(在勤)証御下附願

今般何府國何々所講へ年月日ヨリ何年月日迄在勤(又ハ何府國市町何ノ誰方へ年  
號月日ヨリ何年月日迄派出)懇請ノ所々巡廻布教致度御差問無之候ハ、派出(在勤)  
証御下附被成下度此段奉願候也

年月日

何府華士族何國市町何番邸居住  
何縣平民何郡村何番邸居住

職名何之誰印

黒住教管長姓名殿  
右出願之通相違無之ニ付奥書進達仕候也

黒住教特派巡廻教師(又ハ)  
又ハ何府國何々中教會所長(又ハ副長)

職名何之誰印

第五條 大教會所ヨリ説教ノ巡廻ハ各地方中小教會所并説教所講社等へ教規并細則  
ノ旨趣ヲ告諭シ教旨ノ要領訓誡七箇條教ノ五事道ノ彙等ノ心理ヲ丁寧反覆説明シ  
教旨ヲ徹底セシメ聽衆ヲシテ感悟信從セシム事ヲ要スベキ事

第六條 本廳ヨリノ巡廻ハ各府縣下中教會所會計檢査ノ爲メナレハ出納ノ整否人氣  
ノ向背ニ注意スベシ總テノ心得方ハ巡廻教職ノ所理ニ照準ナスベキ事

第七條 巡廻先ニ於テ自己ノ臆斷ヲ以テ他教派ノ教師又ハ事務員等へ對シ虛傲ノ慢  
言ヲ吐露シ管長無委任ノ事件猥ニ取扱フヘカラザル事

第八條 教規并細則等ヲ犯シ破門セシ者ト雖モ悔悟ノ實蹟三人以上ノ保証アラバ其  
事故詳細檢査ノ上係主任者二名ノ証印ヲ徵シ再神文ヲ入ルレハ協和故ノ如クニ隔  
心ナク同胞ノ交リヲ結ブヘキ事

第九條 教師巡廻中各所ニ於テ篤志信仰ノ者ヨリ本廳大教會所并東京假大教會所へ  
奉納ノ金錢物品等ハ其所ノ係主任者ノ明細書相添へ歸省又ハ便宜ノ節納附スヘシ  
但神納ノ物品ハ附錄第六條ヲ參看スヘシ

第十條 派出在勤証書雜形左ノ如シ  
用紙奉書四ツ切

朱

第何號

證

大教會自何月何日  
所割印至何月何日

何府華士族何國區町  
何縣平民何郡村

職名何ノ誰

何府  
 右縣下 管長印  
 何々所講へ在勤懇請ノ所々巡廻差候事  
 年月日  
 黒任教管長姓名印

第十一條 教職汎出中ハ殊更品行方正ニシテ俗務ニ干渉セス專ラ布教ニ從事シ俗務ハ地方係員ノ處分ニ任セ猥褻傲慢ノ舉動ナスヘカラサル事  
 第十二條 汎出中所在宿料飲食并人車雇用賃等目辨ハ勿論ナレモ篤志ノ人辨償ハ其意ニ任スヘキ事  
 第十三條 巡廻中新ニ入門セント欲スル者アラハ能ク教旨ヲ開示シ神文捧呈ノ上入門式ヲ執行シ神文ハ束脩金ト共ニ地方役員ヲシテ其所管中教會所正副長又ハ巡廻教師ヲ經テ大教會所へ神納セシムヘキ事  
 但派出教師歸省ノ節便宜ヲ以テ直ニ大教會所へ神納スルモハ其旨詳細該地方ノ所講へ通知スルモノトス附録第六條ヲ參看スヘシ  
 第十四條 中教會所無之各府縣下ノ神文ハ小教會說教所又ハ講社ニテ取扱フヘシ大教會所又ハ東京出張教務局へノ送致ハ前項ノ手數ニ因ルヘキ事

第十五條 說教ハ細則規約第六章ヲ參看シ說教ノ要領ニ基キ公布ノ大意ヲ辨シ教旨ヲ敷衍シテ敬神ノ實効相立ヘキ事  
 第十六條 禁厭ヲ免許ナスヘキ篤志ノ教徒之アル時ハ成規ニ因テ傳授ノ準備ナスヘキ事  
 第十七條 巡廻地方禁厭免許ノ者ヲ呼出シ授受ノ次第又ハ其爲人ヲ取調べ靈驗ノ有無ヲ亂シ置キ其舉動歸省ノ上具狀ナスヘキ事  
 但閣キ難キ所業有之モノハ免許印鑑預リ歸ルヘシ  
 第十八條 教導職并試補教徒等ノ勤惰品行ヲ諮詢探知シ本教ノ隆否尊信ノ厚薄等注意見聞致シ置キ歸省ノ上具狀ナスヘキ事  
 第十九條 滿期歸省ノ節ハ巡廻日誌相添へ派出又ハ在勤証返納ナスヘキ事  
 第二十條 滿期後尙勤積ヲ要スルモハ其旨詳記シ第四條ノ書式ヲ參酌シ更ニ延期ノ証書下渡方出願ナスヘキ事  
 但十日以内ノ延期ハ出願ニ及バス速ニ其旨詳細開申スヘシ  
 第三章 教導職并試補選舉  
 第二十一條 第四章第二十八條第三科以上合格ノ實力アル者ト雖モ最初ハ必ス教導職試補へ具狀スベキ事

但書式左ノ如シ

第一書式(用紙半紙壹通)

教導職試補具狀

何府縣華士何區何村何番邸居住

(附籍又ハ寄留家族等ハ其旨詳記スベシ)

戶主農(工商ハ其職業)又ハ無職業

教級名何ノ誰

年號月日生  
當何月何十年何ヶ月

學術(皇學ヲ主トス其他長所ヲ記スベシ)

性行(各自ノ性質ヲ視察監識シテ簡單ニ摘載スベシ)

履歷年月日神文捧呈

、、、何々信徒

、、、禁厭免許

、、、所講役名

(其他維新以後公邊ニ係ル事件并教内ニ關スル履歷總テ無洩様詳細前項ニ照準順次列記スヘシ)

右之者(共)教義篤志教導職志願ニ付試験候處(何レモ)及第致候間試補御申付相成度勿論平素ノ品行端正ニシテ他ニ不都合無之候條別紙保証書并試験及第書共相添此段奉願候也

黒住教何々中教會所長(次員ノ共)

又ハ特派巡廻教師(又ハ補)

職名何、、、印

年月日

○中教會所未設特派教師未派遣ノ府縣并直管内ヨリ具狀スル分ハ本文中試験候處及第致候間ノ九文字ヲ御試験ノ上ノ五文字ニ替ヘ尙并試験及第書共ノ七文字ヲ删除スヘシ

何府縣何國何郡何村又ハ直管何國

何々小教會所長又ハ何々講社講師

職名(教級名)何之誰印

黒住教管長黒住宗敬殿

第二書式(用紙適宜)

保証書

(肩書詳細第一書式ニ準ス)



右教法篤志ノ者ニテ終身教義ニ從事致度志願相違無之候仍之我等保証ニ相立候上  
 ハ本人身上ノ義ハ一切私共引受若不都合ノ廉有之候ハ、屹度其責負擔可仕候爲其  
 保証人連署仕候也

何 之 誰  
年 號 月 日 生  
當 何 月 何 十 何 年 何 月 何 日 何 生

年 月 日

(肩書詳細全上)

保証人親戚(又ハ)職名(教級)何之誰印

(、、、、、)  
 (、、、、、)  
 (、、、、、)  
 (、、、、、)

學師(又ハ)職名(教級)何之誰印

黑住教管長姓名殿  
 第三書式(用紙適宜)  
 試驗及第書

朱書  
 甲(又ハ乙丙丁)

(肩書詳細第一書式ニ準ス)

教 級 名 何 之 誰

第四科

素讀

正講

說教

御小傳

七ヶ條

實施靈驗何々

(以下何名アルモ列記方同上)

右何某(外何名)試驗候處(何レモ)朱書所標ノ通及第致シ候也

黑住教何々中教會所長(又ハ)副長(又ハ)又ハ特派巡廻教師(又ハ)補)

職 名 何 之 誰 印

第何段

第何條何々

禁厭未相傳ノモノナラバ  
 實施テ神徳ニ換認スベシ

年 月 日

年 號 月 日 生

當 何 月 何 十 何 年 何 月 何 日 何 生

黑住教管長姓名殿

○朱書所標ハ左標ニ基キ區別スヘシ尤表中ノ數字ハ誤點ノ數ナリ

教導職試驗及第區別表

素讀	正講	說教	甲	乙	丙	丁
○	○	○	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—

第二十二條 教導職試補ノ者第四章第二十八條第三科及第ノ者ハ新補（少講義以下）撰擧スヘキ事

但撰擧狀左ノ如シ  
撰擧狀（用紙適宜）

何々（明治何年何月試補拜命） 教導職試補何之誰

右之者（共）試驗課程第三科試驗候處（何レモ）及第致候ニ付朱書所標之通新補被成下度試驗及第書相添此段奉願候也

黒任教何々中教會所長（欠員ノキハ副長）  
又ハ特派巡廻教師（又ハ補）

中教會所未設巡廻教師未派遣ノ府縣并直管内ヨリ撰擧スルキハ本文中試驗候處及第致候ニ付ノ十文字ヲ御試驗ノ上ノ五文字ニ替ヘ尙試驗及第書相添ノ七文字ヲ删除スヘシ

何府何國何市何町又ハ直管何國

年月日 職名（教級名）何之誰印

黒任教管長姓名殿

○試驗及第書ハ試補具狀書式中第三書式ニ準シ認ムヘシ

第二十三條 第四章第二十八條第三科試驗濟ノ者少講義以下（訓導歟權訓導歟）ノ職ニ在ル者昇級ヲ要スル分ハ滿一ケ年ヲ經過シテ昇級願ヲ差出スヘキ事

但願書式左ノ如シ  
教導職昇級願（用紙適宜）

何講義（明治何年何月當職拜命） 訓導（又ハ權）何之誰

右之者（共）朱書所標當器ノ者ニ付昇級被成下度此段奉願候也

黒任教何々中教會所長（欠員ノキハ副長）  
又特派巡廻教師（補）

年月日 職名何之誰印

何府何國何市何町又ハ直管何國

何々小教會所長又ハ何々講社講師

職名(教級名)何之誰印

黑住教管長姓名殿

第四章 教導職并試補試驗

第二十四條

教導職并試補ノ試驗ハ大教會所傳習係又ハ特派巡迴教師ニテ負擔ナス

キ事

第二十五條

出張東京教務局最寄志願者ノ試驗ハ當分教務局事務取扱ニテ負擔ナス

キ事

第二十六條

各地方ニ於テ試驗志願ノ教徒アラハ其旨申出ツヘシ第三十四條ノ手續

キ事

第二十七條

試驗係員派出ノ節ハ重立タル教導職(教導職無之)ニ就キ本人教義ニ熱心

尊信ノ厚薄及ヒ品行ノ正否ヲ監査シ而テ後試驗ノ手數ニ及フヘキ事

第二十八條

試驗ノ順次ハ左ニ設タル試驗課程ニ就キ其科目ニ從ヒ合格ノモノヲ採用ナスヘキ事

試驗課程

第一科

素讀二十條(古事記)中一條ノ誤讀四點ヲ減ス

正講四回(古事記)兼或乃心傳五問(誤明辨)一問ニ二點ヲ減ス

說教三座(古事記)兼或乃心傳五問(誤明辨)一問ニ二點ヲ減ス

第二科

素讀二十條(祝詞式)中一條ノ誤讀三點ヲ減ス

正講三回(祝詞式)七ヶ條ノ誤明辨一問ニ二點ヲ減ス

說教二座(本教)乃心傳三問(誤明辨)一問ニ二點ヲ減ス

第三科

素讀十條(心傳)一條ノ誤讀二點ヲ減ス

正講二回(心傳)七ヶ條ノ誤明辨三點ヲ減ス

第四科

說教一座(皇國々体)ノ說

素讀十條教祖小傳一條ノ誤讀一點ヲ減ス

正講一回七ヶ條隨意通讀三點ヲ與フ 問一問ニ四點ヲ與フ

第二十九條

說教一座實施威應ノ神德靈驗但發願未相傳ノ輩ハ他人ノ靈驗傳聞スルモノヲ演說スヘシ

第三十條

試驗課程中第一第二ノ兩科ハ大教會所ニ於テ管長(又ハ代理) 臨席ノ上試驗ナスベキ事

第三十一條

但東京假大教會所モ準之  
十六年六月達第十六號ノ諸項ニ觸レ或ハ傍證有夫親族姦逃亡賭博其他

第三十二條

但東京假大教會所試驗日ハ毎月七ノ日ヲ以テ定日トシ午前第九時ヨリ始ムヘキ事

第三十三條

試驗志願ノモノハ定日午前第八時迄ニ左ノ雛形ノ通り願書相認ノ差出スヘキ事

但各地方ヨリ試験係ノ派出チ乞フキハ試験願書ハ其節取纏メ置傳習係(田邊東京教務局等)ヘ郵送スヘシ

御試驗願

何府華士族 何國何市何町何番地居住

戶主(何其長男又ハ附籍)

年號月日生

當何月何年何ヶ月

教級名 何之 誰

教導職志願ニ付御試驗相願候也

右 何之 誰印

黑住教

大教會所傳習係(又ハ出張東京教務局等務取城) 御中

前書之通相違無之ニ付與書進達致候也

何々小教會所長又ハ何々講社教頭

何職名何之誰印

第三十四條 事故有之大教會所(又ハ東京最大教會所)ハ出頭難致者試験係ノ派出ヲ乞フモ  
ノアラハ係員(大教會所ハ監督係員取次)ノ都合ヲ以テ時日ヲ定メ派出スベキ事  
以テ報知スベキ事

但一地方十名以上ニ非レバ派出セス尤場所ハ志願人居任ノ中央ヲ見込ニ便宜ノ  
所ニ定ムベシ

第三十五條 本章第二十八條第一第二ノ兩科ハ大教會所ニ於テ管長(又ハ代理)臨席ノ上  
試験ヲ要スル義ニ付該科合格ノ者ト見込ム者アラバ其旨開申ナスベキ事  
但其書式左ノ如シ(幾人アルモ認メ方同一以下皆做之)

御試験之義開申(用紙適宜)

何府華土族 何國何郡何町何番居住

(附籍又ハ寄留家族等ハ其旨詳記スベシ)

戶主農(工商ハ其職業ヲ詳記スベシ)又ハ無職業

何講義 何之誰

明治何年何月當職拜命

年 號 月 日 生  
當 何 月 何 年 何 月

右之者(共)試験課程第一科(又ハ第二科)合格ノ資力アルモノト見込候ニ付御試験  
ノ上可然御辭令被成下度素ヨリ教法熱心教義勉勵衆教徒ノ推舉モ不勘候條此段開  
申仕候也

黒任教何々中教會所長(又ハ副長)  
又ハ特派巡廻教師(又ハ補)

年 月 日

職 名 何 之 誰 印

何縣何國何郡何町又ハ直管何國  
何々小教會所長又ハ何々講社講頭

職 名(教級名)何 之 誰 印

黒任教管長姓名殿

第五章 禁厭傳授附擧

第三十六條 新ニ教徒ハ禁厭ヲ授與スルニハ先ツ本人年齢二十五歳以上ノ者ニシテ  
神文捧呈以後滿一ケ年ヲ經過シ且ツ級外一等信徒以上ノ地位ニ進ミ(教導職試補  
以上ノ教師ハ八年齡此限ニ非ス)斯道ノ教旨ヲ研究シ禁厭靈妙ノ神理ヲ默識シ品  
行正敷地方衆庶ノ人望アリ所講ノ異存無キ者ニ限り書式ノ通り願書差出サセ成規



ノ通り履行ノ上相傳免許ノ印鑑ヲ授與スベキ事  
 但神文捧呈後一ケ年未滿ト雖凡品行方正ニシテ教旨了得妙理ニ通セシモノハ級  
 外一等以上ノ地位ニ進メ且ツ該理由テ詳記シタル特別願書ヲ差出サセ證議ノ上  
 出格ニ相傳スルコトアルベシ尙各地方ニ於テ代相傳ヲ受クル者ハ退テ大教會所  
 へ參拜ノ節詞書ノ與へ宗家相傳ノ證ヲ受クルモノトス  
 ○願書式(用紙適宜正副一通)  
 禁厭御免許願

何府<sup>府</sup>士族<sup>士族</sup> 何國<sup>國</sup>何市<sup>市</sup>何町<sup>町</sup>何番<sup>番</sup>居住  
 (附籍寄留家族等ハ其旨詳記スベシ)  
 戸主<sup>戸主</sup>農<sup>農</sup>(工<sup>工</sup>商<sup>商</sup>ハ其願書<sup>其願書</sup>)又ハ無職業  
 教級<sup>教級</sup>(又ハ)名<sup>名</sup>何<sup>何</sup>之<sup>之</sup>誰<sup>誰</sup>  
 年<sup>年</sup>號<sup>號</sup>月<sup>月</sup>日<sup>日</sup>生  
 當<sup>當</sup>何<sup>何</sup>月<sup>月</sup>何<sup>何</sup>日<sup>日</sup>月

右之者年號月日神文捧呈爾來本教々旨研精尊信不撓品行方正ニシテ地方教徒ノ推  
 薦少ナカラザルニ付今般禁厭御免許相願度勿論御成規堅ク相守可申義ハ相違無御  
 慮候條保証連署ヲ以テ此段奉願候也  
 (肩書詳細)

明治年月日

親族 何 之 誰 印

黒住教管長姓名殿

○各地方直管其所講主幹ノ役員ニ於テハ此處へ與書スルノ例規ノ通り  
 第三十七條 特派教師巡廻ノ節前條ノ願書ヲ差出スルハ更ニ調査シ不都合無之キハ  
 直ニ指令成規ノ手順ヲ爲シ代相傳執行ノ上免許印鑑授與スベキ事  
 第三十八條 禁厭教徒改姓名又ハ結婚離縁等ニテ變姓轉任等ハ勿論印鑑紛失燒失盜  
 難等ノ節モ其都度理由詳記ノ上書替又ハ再授ノ義本人ヨリ出願ナスベキ事  
 第三十九條 禁厭教徒死亡ノ節ハ印鑑相添親族又ハ所講役員等ヨリ成規ノ通り本部  
 へ届出ツヘキ事

第六章 教級授與附擧

第四十條 教級ハ其尊信手厚ク篤行教導職ト同ジキモ職業ノ都合ニ依リ教職ニ列ス  
 ル能ハザル者へ地方ノ推薦又ハ本廳<sup>本廳</sup>(又ハ中<sup>中</sup>)ノ特舉ニ因リ之ヲ授與シ以テ教内教職  
 同等ノ地位ヲ得セシムベキ事  
 第四十二條 教級ノ名稱ヲ信教信徒級外ト區別スル事

信教ヲ正權大中少及二級乃至四級ノ十等ニ別ツ

一信徒ヲ一級乃至四級並級外一等二等ノ六等ニ別ツ

第四十二條 初等即チ級外二等信徒ハ神文捧呈ノ後品行正敬尊信確實ト見認ルモノハ直ニ授與ナスベキ事

但年齢七十歳以上ノ者ハ地方ノ推薦ニ因リ初等直ニ級外一等ヲ授與スルハ此限ニアラズ(願書ハ第一書式ニ照準ナスベシ)

第四十三條 級外一等以上一級信徒迄ハ各自其當級授與ノ後滿一ケ年ヲ經過シ益信仰不撓教義研精布教盡力ノ者ハ授與ナスベキ事

但本人在任地方又ハ在勤ノ所講部内ニ於テ禁厭教徒ニ乏シキ箇所ハ其資格アル者ニ限り本條ニ拘ラズ級外一等信徒ノ証標ヲ授與シ以テ禁厭免許ヲ得セシムル事アルベシ(第二第四書式ヲ參看照準スベシ)

第四十四條 神文捧呈以後既ニ五ケ年以上ヲ經過シ奉教尊信確乎不撓ノ聲ハハ初等ヨリ直ニ超過シ級内信徒(四級信徒以上ヲ云以下倣之)ヲ授與シ或ハ第四十三條ノ年限ニ拘ラズ級外一等信徒ヲ授與ナスベキ事(第五書式ニ照準ナスベシ)

第四十五條 教級授與以來尊信不撓教義研精布教盡力抄カラザルモ昇等遲延ニシテ數年ヲ經過スル者ハ一二等ヲ超テ地方推薦又ハ特舉ニ因リ授與ナスベキ事(第

二第三書式ヲ參看スベシ)

第四十六條 四級信教以上ハ二ケ年權少信教以上ハ三ケ年何レモ毎等間當級授與以來年月經過ノ後授與ナスベキ事

但非常功勞アリテ特舉ニ係ル者ハ此限ニアラズ  
第一書式(用紙適宜)通以下各書式準之

教 級 願

何府華士族 何國何市何町何番地 居住

(附籍寄留家族等ハ其旨詳記スヘシ)

朱母 級外二等信徒(年號月日 神文捧呈)

何 戶主(農工商ハ其職業)又ハ無職業 誰

年號月日 生

右之者(其)神文捧呈以來品行正敬尊信勉勵罷在候間朱書所標之通御授與相成度此段相願候也

年號月日

黒任教々務課御中

何府華士族 何國何市何町何番地 居住

師職名又ハ教 何之誰印

又ハ

中教會所部内ハ

黒住教何々中教會所

御 中

右奥書ハ所管所講ノ主幹役員ノ所掌タルヘシ以下各書式共直管内ハ右同斷其他ハ各府縣中教會所正副長又ハ特派教師ニテ奥書スヘシ

第一書式

教級昇等願(第三書式以下標題準之)

朱書

級外一等信徒年號月日當級拜受

(肩書詳記第一書式ニ準ス)

級外二等信徒

何之誰年號月日生

右之者(共)當級拜受以來信仰不撓教義研精布教盡力ノ廉モ不少候ニ付朱書所標之通昇等御授與相成度此段相願候也

(肩書詳記)

年號月日

宛ハ第一書式ニ同シ

師職名又ハ教級名

何之誰印

第三書式

朱書

何級信徒年號月日當級拜受

(肩書第一書式ニ準ス)

級外一等信徒

何之誰年號月日生

右之者(共)當級拜受以來益信仰不撓教義研精布教盡力不淺候ニ付朱書所標之通昇等御授與被成下度此段相願候也

(肩書詳記)

年號月日

黒住教々務課

御 中

師職名又ハ教級名 何之誰印

第四書式

級外一等信徒年號月日當級拜受

(肩書第一書式ニ準ス)

級外二等信徒

何之誰年號月日生

右之者(共)當級拜受以來日淺シト雖片神徳靈驗ニ感佩致シ教旨研究日夜勉勵罷在候然ル處當地方(部内)ニ於テ禁厭教徒ニ乏シク信者ノ招請ニ差支旁以現下禁厭御

免許出願致度見込モ有之候ニ付朱書所標ノ通昇級御授與相成度此段相願候也

(肩書詳記)

年號月日 師職名又ハ教級名 何之誰印

宛ハ第一書式ニ同シ  
第五書式

朱書

何級信徒

年號月日  
當級拜受  
年對月日神文捧呈  
禁厭免許

(肩書第一書式ニ準ス)

級外二等信徒

何之誰

年號月日  
當何月何年何月生

朱書

何級信徒

(肩書同上)

右之者(共)神文捧呈(續テ禁厭御免許)以來品行正敷當級拜受爾後益敷義勉勵會信實効亦不少候ニ付朱書所標之通超遷昇等御授令被成下度此段相願候也(級外二等ヨリ同一等へ昇等ノ節ハ本文圈點ノ六字ヲ省キ被成下度ノ四字ヲ相成度ノ三字ニ換ヘ尙宛所ハ第一書式ニ準ス)

(肩書詳記)

年月日

黒住教々務課

御 中

師

印

第六書式

順次昇等超遷共手續書ニ基キ各書式ニ準シテ出願スヘシト雖モ末文ニ相願ヲ奉願ト換ヘ宛所ハ左ノ通り

△所標一級信徒迄ハ

黒住教本廳

御 中

△同權少信教以上ハ

黒住教管長姓名殿

第七章 教會教務所設置方法

第四十七條

地方結衆ノ講社(講社組織並就教場ノ假設ノ)增加スルトキハ說教所設置ナス

ヘキ事

但所講設置スルトキハ左案ニ照準シ東京最寄ハ出張東京教務局(以下)へ出願スヘ

說教所設置願

當〔地名〕講社ノ義進々有教隆昌結社增加致候ニ付今般部内各講中熟議ノ上將來永  
 續維持ノ方法議定候間何郡(市)何村(町)何番邸居住職名(又ハ教級名)何ノ誰外何  
 名共有同村(町)字何々第何番宅地ハ(新築又ハ何某控家或ハ居宅借受)豫テ假設有  
 之當說教場ヲ以テ何々說教所ト相唱ヘ申度即チ別紙繪圖面并維持方法書相添進達  
 仕候條速ニ御開届被成下度此段奉願候也

年月日

府(縣)國郡(市)村(町)番邸居住

共有地主總代(又ハ家主)何之誰印

府、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、

講中總代 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、

、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、

何々講社(正)講頭 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、

職名何之誰印

黒任教管長姓名殿

前書之通相違無之候條與書進達仕候也

黒任教何々中教會所(正)長

職名何之誰印

一府縣巡廻ノ特派教師ノ與書モ準之

一直管内ハ其郡(市)内所在ノ小教會所(正)長與書スヘシ尤小教會所未設地方並

各府縣中教會所未設特派教師未派遣ノケ所等ハ與書ニ及ハズ

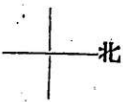
一繪圖面ノ雜形

府(縣)國郡(市)村(町)

字、 、 、 、 、

第何番 一宅地何畝歩 持主 (任所肩書) 何之誰

何々說教所 何十何坪



一永續維持方法書式

何々說教所永續維持方法書

一積金(穀)何程



但通常ノ教費ハ時々ノ神納物ヲ以テ支辨シ若シ不足ヲ生スルハ預ケ金ノ利子ニテ補充致候

(又ハ他ノ方法等議定ノ條項ヲ詳記スヘシ)

今般說教所設置出願ニ付右ノ通各講中議定候上ハ將來嚴重ニ維持可任勿論教費等決テ御厄介相願申間敷候仍テ爲後日連署仕置候也

何々講社講頭

明治年月日

同	副講頭	職名	何	之	誰印
信徒惣代		職名	何	之	誰印
、、、					印
、、、					印

右實地調査仕候處相違無之候也

一本願ニ於テハ時宜ニ依リ管長ヨリ該地方廳衙へ差支(場所)ノ有無ヲ照會セラ

本願書へ奥書ノ者署名スヘシ

レ回答濟ノ上聞届ケラル

但無奥書ノ分ハ時宜ニ據リ本願ヨリ役員出張實地調査ノ上本願へ指令スル事アルヘシ

第四十八條

右ノ願書差出シ差支之ナキニ於テハ管長ヨリ左ノ指令ニ相成候事願之趣聞届別紙副申書下附候條地方廳へ出願スヘシ

但許可ノ上ハ寫ヲ以テ速ニ届出ツヘシ

一右ノ指令ヲ得テ左ノ書式ニ倣ヒ地方廳衙へ願出ヘシ

但出願人ハ中教會所(証)長又ハ特派教師ノ内ニテ取扱フヘキモノトス

黒住教說教所設置願

當縣下何國何市何郡何番地居住何ノ誰居宅(又ハ何ノ誰所持ノ何區何町何番地ニ有之(建築))ヲ借受豫テ假設有之候說教場ノ義追々布教隆昌結果増加致候ニ就テハ今般永續維持ノ方法確定候ニ付(別紙圖面ノ通り何郡市)何村(町)何番地居住何之誰所持地借受說教所新築)何々說教所下相唱申度速ニ御聞届被成下度別紙繪圖面相添連署ヲ以テ此段奉願候也

肩書、、、

年號月日

共有地主總代(又ハ持主)何之誰印

教徒總代職 職名 何之 誰印  
黑任教何々中教會所(正)長  
又ハ特派巡廻教師(補)

府縣長官又ハ郡區長殿宛

第四十九條

右地方廳衙開屆濟ノ上ハ指令寫ヲ以テ速ニ本廳ヘ届出ツベシ此手數終  
ラバ開講式執行ナスベキ事

第五十條

前條手數濟ノ上ハ開講並ニ説教ノ定日及ヒ稽古講義等ノ事ヲ左案ニ照シ  
届置ベキ事

黑任教説教所開講並説教定日御届

御管下何郡市(郡市役所ナレバ其御部内)何村何番地ヘ設立セル本教何々説教所本

月何日開講爾後毎月何ノ日ヲ以テ教導職説教ノ定日ト致シ尙晝夜共臨時稽古講義  
爲致候間此段及御届候也

黑任教何々中教會所(正)長  
又ハ特派巡廻教師(補)

年月日 職名 何之 誰印

府縣知事又ハ郡區長何ノ誰殿

同上文

警察署宛

第五十一條

新ニ説教所ヲ設置シ管長開届ノ上ハ部内協議投票ヲ以テ所長以下ノ役  
員ヲ撰定シ左ノ書式ニ依ヒ例規之通教徒總代連署ノ願書差出認可ヲ乞フベキ事

役員願書式

何々説教所役員御認可願

(肩書詳記)

所長

職名 何之 誰

年 號 月 日 生  
當 何 月 何 年 何 月

以下列記方準之

右ハ今般附屬教徒協議ノ上投票ヲ以テ撰定勿論篤志誠實品行正敷者ニ御座候條未  
書所標之通り御認可被成下度連署ヲ以此段奉願(世語孫長以下ノ)候也

(住所肩書)

何々説教所教徒總代

年號月日

職名 何之 誰印

(二名以上連署スヘシ)

第五十二條 宛名ハ細則附錄第六條ヲ參看記載スベシ

ハ適宜ノ場所ヘ新築又ハ移轉)小教會所ヲ設置スベキ事

但出願ノ書式左ノ如シ(新築又ハ移轉モ準之)

小教會所設置願

當說教所ノ儀道々布教隆盛教徒増加維持確定候ニ付今般各教徒協議ノ上所々小教會所ト改稱致シ度即別紙永續維持方法書相添進達仕候條速ニ御開届被成下度此段奉願候也

府(縣)國郡(市)又ハ直管何國郡(區)

何々說教所長

年月日

職名 何之 誰印

(肩書詳細)

教徒惣代 何之 誰印

黒住教管長姓名宛

一 奥書指令ノ手數ハ第四十七條ニ準ス永續維持方法書式ハ左ノ通り

一 永續維持方法書式

何々小教會所永續維持方法書

一 積金(貳百圓以上)

但通常ノ教費ハ時々ノ神納物ヲ以テ支辨シ若シ不足ヲ生スルキハ預ケ金ノ利子ニテ補充致候

(又ハ他ノ方法等確定ノ條項ヲ詳記スベシ)

今般小教會所設置出願ニ付右之通り各議中議定ノ上確立將來嚴重ニ維持可仕勿論教費等決テ御厄介相願申間敷候仍テ預リ證相添爲後日連署仕置候也

何々說教所長

年號月日

職名 何之 誰印

同 副長

同附屬信徒惣代

何之 誰印

右實地調査仕候處相違無之候也

本願書へ奥書ノ者署名スベシ

第五十三條 前條ノ出願本應ニ於テ開届済ノ上ハ左案ニ照準シ奥書人(無奥書ノ分ハ特派教師)ヨリ地方廳衙へ届置クベキ事

黒住教小教會所改稱御届

御管下何郡市(其御部内)何町村番地ニ設置有之本教説教所ノ義今般布教ノ都合有之何々小教會所ト改稱候條此段及御届候也

黒住教、

年號月日

府縣知事又ハ郡市長宛

第五十四條 一府縣内又ハ一箇國內ニ小教會所數多相開ケタル時中教會所設置出願ノ手續ハ小教會所ト異ナルヲナシト雖モ願書式中何々中教會所(新築)設置云々ノ旨趣ヲ記載スヘキ事

第五十五條 中小教會所説教所等設置ノ後更ニ之ヲ移轉スルハ左ノ手續ヲナスベキ事

小教會所新築移轉改稱願書(中教會所改稱(改稱)之)  
當小教會所ノ義今般何々ノ事情(移轉セザルベカラザル理由ヲ詳記スベシ)有之教徒協議ノ上何郡市町村、、、ハ新築移轉何々小教會所ト改稱仕度即別紙繪圖面相添進達仕候條速ニ御届届被成下度此段奉願候也

年號月日

共有地主惣代(又ハ持主)何之誰印

教徒惣代

何々小教會所副正長

職名何之誰印

管長宛

第五十六條 前條ノ願書本應ニ於テ開届ノ上地方廳衙へノ届出方ハ第五十三條ニ照準シ前條ノ旨趣ヲ略記ナスヘキ事

第八章 講社結衆心得并説教場假設

第五十七條 講社ニ入ラント欲スル者ハ結業簿ヘ記名調印ノ上便宜ヲ以テ入社式執  
行ナスヘキ事

但入社式左ノ如シ

先 祓式ヲ執行スヘシ

但祭式ノ次第常ノ如シ

次 神床ヘ供物ヲ獻スベシ

但供物ハ 神酒 神饌 神饌ハ洗米甘藷 淨水 鏡餅 生魚 乾魚

海草 野菜 時菓 總テ時宜ニ隨フベシ

次 神言ヲ奏スベシ

教導職首座ノ者祝詞ヲ奏スベシ

祝詞

維明治何年何月何日乎生日乃足日止撰定天掛卷毛恐支天照大御神乃大前及天  
神地祇入百万神等教祖宗忠神乃御前爾微音職名何其慎美敬比畏美畏美白左今  
日乎吉日止撰定豆此乃講社爾氣合竹入組集當諸人等波斯道乃誠程世爾難有支  
物波有止字豆乃幣帛乎(各毛各毛)進留狀乎平介安介所聞食豆幣幣爾常幣爾守  
給比幸反給止惶美々美白須

第五十八條

社員ニシテ神文未捧呈ノ者教旨ヲ了得シ入門センヲ欲セバ其日ヲ撰  
ニ教師或ハ先輩ニ附テ神文ヲ捧呈ナサシムヘキ事

但入門式左ノ如シ

先 祓式ヲ執行スヘシ

但祭式ノ次第常ノ如シ

次 神床ヘ供物ヲ獻ズヘシ

但供物ハ 神酒 神饌 神饌ハ前條ニ同シ時宜ニ隨フヘシ

次 神言ヲ奏スヘシ

次 教師(或ハ先輩)祝詞ヲ奏スヘシ

祝詞

掛卷毛畏支天照大御神乃大前及八百万神等教祖宗忠神乃御前爾微音職名伊今日  
乎生日乃足日止撰定豆慎美敬比畏美畏美白久靈幸布神代乃道乎履美行閉今日毛神代止  
教乃祖神乃教閉給比傳閉給比大御教乎飲美器比奉留誰其乎始米許々良乃人等神文乎  
捧計自今日始豆身毛心毛惟神乃教乃隨爾動美勉留其清明支心乎相字豆奈比給比神  
習比習米給閉字豆乃幣帛捧持豆(各毛各毛)額突奉留狀乎平介安介聞食豆夜乃守日  
乃護爾爾利惠美幸閉給止畏美畏美白須



第五十九條

講社員ハ時々集會シテ教義ヲ談スヘキ事  
但教徒自宅ニテ説教セント欲スル時ハ各所(正)長(或ハ近傍在勤教師)ヘ宛左業  
ノ手續ヲ經テ所理スベシ尤臨時説教モ準之ト雖地方慣習アリ一概ニ泥ムベカ  
ラス

其一

私儀豫テ本教尊信罷在毎度説教聽聞感佩仕候就テハ自今自宅ヘ御招請申候間何卒  
毎月何度御出席ニテ説教禁厭御施授被成下度尤御承諾ノ上ハ所轄(市)役所并警察  
(分)署ヘ相届申度此段相願候也

年號月日

何(府)下何國何(市)何村何番地居住

何 姓 名 印

黒住 教

職名何ノ誰殿

書面ノ趣承置候條(何ノ日)派出致申スヘキ事

年 月 日

職 姓 名 印

其二

私儀年來黒住教尊信罷在候ニ付爾後毎月何ノ日本教々師招請ノ上説教施行ノ義依

類致候條此段豫テ御届申上候也

何(市)何(町)何番地居住

何 姓 名 印

年 月 日

何々(市)長宛

其三

同文言

警察署宛

第六十條 講社組織説教場假設ノ手續ハ左ノ書式ニ依ヒ手數ナスヘキ事

第一書式

講社組立願

今般當地方本教信仰ノ者協識ノ上講社結衆仕候間何々講社ト相唱ヘ候義御開届被  
成下度則別冊結衆簿相添此段奉願候也

府縣、、、、

年號月日

信者惣代 姓 名 印

教徒惣代 姓 名 印

黒住教管長宛

前書之通相違無之候ニ付奥書進達仕候也

何々<sup>正</sup>教會所<sup>副</sup>長

職 姓 名 印

教會說教所未設ノ地方ハ奥書ニ及バスト雖<sup>正</sup>特派教師巡教ノ節ハ奥書スル<sup>正</sup>モ  
アルヘシ

第二書式

黒住教何々講社說教場假設願

今般當縣下何國何郡何市何村何番<sup>正</sup>居住何ノ誰居住(又ハ何ノ誰控家)借受本教何々講  
社說教場ヲ假設シ毎月何ノ日說教執行益々講中結成退々說教所開設候様仕度則別  
紙繪圖面相添進達仕候間速ニ御許可被成下度此段奉願候也

肩書、

年月日

家 主 何 之 誰 印

何々講社教徒惣代 何 之 誰 印

黒住教管長宛

奥書手數ハ第一書式ノ通り

第三書式

黒住教說教場假設願

今般當縣下何國何郡(市)何村(町)何番<sup>正</sup>居住何ノ誰居住(又ハ何ノ誰控家)借受說  
教場ヲ假設シ何々講社說教場ト相唱申度速ニ御聞届被成下度別紙繪圖面相添此段  
進署ヲ以テ奉願候也

肩書詳記

年月日

家 主 何 之 誰 印

黒住教何々<sup>正</sup>教會<sup>副</sup>所<sup>正</sup>長 教徒惣代 何 之 誰 印

職 名 何 之 誰 印

府縣知事又ハ郡市長姓名殿

○繪圖面ハ說教所ノ分ニ倣ヒ認ムヘシ尤結業簿ハ左式ノ通り

結衆簿冊書式

○上表紙書式

明治年月日調

何々講社結衆簿ノ一

○人名列記ノ書式

何府縣國郡市

何町村、何ヶ町村

何府何市何町番地居住

何族又平民(農又何商工)

神祭式(或ハ何宗)  
年號月日神文捧呈

何主何

之誰印  
年月日生

家族

父

母

妻

長男(女)

二男(女)

合計何千何百人内

戸主何百人  
家族何百人

第六十一條 前條手數濟ノ上ハ左案ノ門標ヲ掲ケ脱教ナスヘキ事

長二尺

黒住教

何々講社假説教場

第六十二條

講社ニ入ル者ハ入社式執行ノ後護身ノ守札授與ナスヘキ事  
但入社セシ者ハ其講頭ヨリ左ノ雛形ニ照準シ門標ヲ授ケ以テ社員タルノ證ト  
スヘシ

木札 長五寸五分

表  
（朱ノ内）  
白字教  
教 黒住教會

裏  
第何號  
何縣族籍國郡區何番地居住  
何ノ誰  
年月日入社  
年月日生

第六十三條 講社ニハ正副講頭世話係ヲ置クヘキ事  
但擧方ハ第一章第一條第七節并附錄第五條ヲ參看スヘシ  
第六十四條 講社員ハ正副講頭ノ差圖ヲ能ク相守社則チ重シ互ニ睦敷相親ミ地方ノ  
慣習善良ナラシムルニ最注意ナスヘキ事  
但役員自然不當ノ差圖ト見込ム時ハ穩和純良ノ心ヲ以テ社中ニ議シ教徒多分ノ  
意見ヲ述テ忠告スヘシ  
第六十五條 社中多人數トナラハ何々講社第一番講第二番講ト適宜ニ組合ヲ分チ尙  
其組合三組四組モ増加セバ又之ヲ合シテ一團トナシ布教傳道ノ場所ヲ設ケ説教所  
ト爲スヘキ事  
但説教所ノ設置ハ第七章ヲ參看スヘシ

黒住教々師檢定條規  
應令第一號

特派巡廻教師全補  
各所講

本年五月内務省訓令第九號ニ據リ本教々師檢定條規別冊之通制定認可相成候條自  
今教師ノ任命ハ總テ本條規及ヒ全細則ニ準做取扱フベシ  
遲テ地方係員等ハ不日薦任ノ上告示スベシ  
右相達候事

明治廿八年十月

黒住教管長 黒住宗敬

黑住教々師檢定條規御認可伺

本年五月第九號ノ訓令ニ基キ本教々師檢定條規別冊之通制定致候條至急御認可相成度此段相伺候也

追而本檢定條規御認可之上ハ全取扱細則トシテ別紙教内ニ發布致度御參考ノ爲一本相添置候也

明治廿八年九月十六日

黑住教管長 黑住宗 敬

内務大臣子爵野村靖殿

(指令朱書)

内務省指令甲第五八號

本年九月十六日付伺教師檢定條規認可ス

印 割

明治廿八年十月二日

内務大臣子爵野村靖 印

黒住教々師檢定條規

第一章 檢定

- 第一條 教規第二章第五條第一項及教規細則附錄第六條ニ掲グル教師ノ分限並等級ハ本條規ニ據リ檢定委員ノ檢定ニ合格シタルモノニ非レハ之ヲ授與セス
- 第二條 左項ノ一ニ該當スルモノハ教師タル事ヲ得ス  
 一 瘋癲白痴癩癧ノ者  
 二年齡滿二十歲以下ノ者  
 三重罪及定役ニ服スヘキ輕罪ニ處セラレタルモノ  
 四 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者復權ヲ得テ一ケ年ヲ經過セサル者又ハ身代限リノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサルモノ若クハ辨償ヲ終ヘテ一ケ年ヲ經過セサル者
- 五 本教及他教派ニ於テ懲戒免職ノ處分ヲ受ケ改心ノ實ヲ表セサル者若クハ改心ノ實ヲ表シ二ケ年ヲ經過セサル者
- 第三條 檢定ヲ分テ左ノ二種トス  
 第一種 試驗

第二種 認定

- 第四條 第一種ノ檢定ハ學業ノ試驗ヲ行フ者トス學業ノ試驗ヲ分ツコト左ノ如シ  
 一 教義學科本試驗  
 一 教義學科豫備試驗  
 一 普通學科試驗
- 第五條 教義學科本試驗科目ハ教規雜則第廿八條及第二十九條ノ規定ニ據ル
- 第六條 教義學科豫備試驗科目左ノ如シ

教義學科豫備試驗科目

學科	等級	講義	口述	筆記	作文	作業	說教
三級	四級	六國史	東國史	六國史	令義解令義	魂式神祭	訓七ヶ條全
五級	六級	萬葉集	日本記	職原抄	誠の心傳道ノ	魂式神祭	上教の五事
七級	八級	日本記	職原抄	祝詞	體物語體物	魂式神祭	道の祭全
九級	十級	日本記	職原抄	祝詞	體物語體物	魂式神祭	の祭全
十一級	十二級	古語拾遺	古語拾遺	古語拾遺	體物語體物	魂式神祭	上神理概論
十三級	十四級	古語拾遺	古語拾遺	古語拾遺	體物語體物	魂式神祭	教祖神小傳
十五級		古語拾遺	古語拾遺	古語拾遺	體物語體物	魂式神祭	



第七條 普通學科試驗科目左ノ如シ

但此科目ニ合格シタルモノハ再度之ニ就キ試驗スルヲ要セズ

- 一 倫理口述
- 一 國語讀文
- 一 漢文讀解
- 一 習字
- 一 日本及萬國歷史筆答
- 一 數學筆答
- 一 理科筆答
- 一 日本及萬國地理筆答

第八條 新補試驗ハ十三級以下トス

但高等官タリシモノ又ハ高等官タルノ資格ヲ有スルモノハ直チニ六級以下判任官タリシモノ又ハ判任官タルノ資格ヲ有スルモノハ直チニ十級以下ノ試驗ヲ行フコトヲ得

第九條 教師三級以下六級以上ノ試驗ヲ爲サントスルトキハ檢定委員總長ハ豫メ管長ニ具狀シ許可ヲ得タル后執行スベシ

第十條 昇級試驗ハ越級ヲ許サス七級以下ハ現級滿二年三級以下六級以上ハ現級滿三年ヲ經過スルニアラサレハ之ヲ行フヲ得ス

第七級以下十四級以上ニシテ宣教ニ關シ著シキ功勞アリテ檢定上其資格ヲ得タルモノハ特ニ二級ヲ越ヘテ昇級ヲ授與スルコトアルヘシ

第十一條 第二種ノ檢定ハ第十二條乃至第十六條ノ場合ニ限り檢定委員總長及檢定

委員長ハ之ヲ調査シ意見ヲ具シテ管長ニ申告スルモノトス

第十二條 一級二級ノ教師ヲ補命スルハ別ニ試驗ニ依ラス管長ノ特撰ニ任ス

但時宜ニ由リ管長ハ三級四級ノ教師ニ諮詢シ其協贊ヲ得テ補命スルコトアルベシ

一級教師五名二級教師七名ヲ定員トシ其關員アル場合ノ外之ヲ補任セス

第十三條 尋常中學校卒業生又ハ其學科程度ト同等以上ノ學校卒業生ハ其學校ノ證明書ヲ有スルモノニ限り普通學科試驗ヲ免除スルコトヲ得

第十四條 教師ニシテ左項ノ一ニ該當スル者ハ一級ヲ進ムルコトヲ得

一 大教會所又ハ各中小教會所並説教所教幹以上ノ職ヲ承ケ現級滿三年以上ヲ勤務シ其功績顯著ナルモノ

二 現級六級以上ニシテ滿三年以上勤務シ其功績顯著ナル特派巡廻教師

三 教養ニ關スル有益ノ著述ヲ爲シタルモノ

四 現級滿四年以上勤務シ神徳靈驗ヲ表示シ又ハ勤行上功績顯著ナルモノ

第十五條 本教々師タリシモノニシテ再ヒ本教ニ復歸セント欲スルモノハ其原級ニ該當スベキ等級ヨリ一級以下ニ補スルモノトス

第十六條 神道他教派ノ教師タリシモノニシテ本教ノ教師タラント欲スルモノハ教養學科及普通學科試驗ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

但此場合ニ於テハ原等級ヨリ一級以下ニ補スルモノトス

第二章 試驗

第十七條 試驗ハ本廳及教務局並各中教會所ニ於テ隨時之ヲ執行ス

但教師六級以上三級以下相當ノ試驗ハ本廳ノ外他所ニ於テ執行スルヲ得ス

第十八條 前條規定外ノ場所ニ於テ試驗ノ必要アルトキハ檢定委員總長及檢定委員

長ヨリ其狀ヲ具シ特ニ管長ノ許可ヲ請フベシ

第十九條 本廳ニ於テ執行スル試驗ハ檢定委員總長及檢定委員長之ヲ審按シ其成績

ヲ管長ニ申告スモノトス

第二十條 教務局及各中教會所ニ於テ執行スル試驗ハ檢定委員長並檢定委員ハ受験

者ノ口述及講讀行為ニ關スルモノヲ審案シ及得點其他ノ事項ヲ檢定委員總長ニ報

告シ其筆答筆記ニ關スルモノハ之ヲ取纏メ直ニ檢定委員總長ニ送附スルモノトス

但習字數學理學ノ一部若クハ普通學全部ノ成績ハ時宜ニ由リ檢定委員長ヲシテ

之ヲ檢定セシムルヲアルベシ

第二十一條 前條ノ場合ニ於テ檢定委員總長ハ檢定委員ト共ニ筆答筆記ヲ審按シ其成

點ハ檢定委員長ヨリ報告シタル成點ニ通算シ及ヒ其他ノ事項成績ヲ併セ管長ニ申

告スルモノトス

第廿二條 試驗問題ハ本廳ニ於テハ檢定委員總長教務局及各中教會所ニ於テハ檢定

委員長之ヲ定ム

第廿三條 試驗ハ檢定委員三名以上出席スルニアラザレハ之ヲ施行セス

第廿四條 檢定試驗ニ關スル一切ノ書類ハ本廳及教務局各中教會所ニ於テ保存スル

モノトス

第三章 檢定委員

第廿五條 本廳ニ檢定委員總長一名教務局及中教會所内ニ檢定委員長各一名ヲ置キ

本廳教務局中教會所内ニ檢定委員各五名ヲ置ク

但數中教會所ニ一人ノ檢定委員長ヲ置クヲアルベシ

第廿六條 檢定委員總長ハ二級以上ノ教師檢定委員長ハ四級以上ノ教師ニ就キ管長

ノ特擢ヲ以テ之ヲ命ス

第廿七條 檢定委員ハ六級以上ノ教師中ヨリ本廳及教務局ハ委員總長各中教會所ハ

委員長ノ選舉ニ依リ管長之ヲ命ス

第廿八條 檢定委員總長及檢定委員長ハ管長ノ監督ヲ受ケ其受持部内檢定ニ關スル

事務ヲ處理シ及疑義ヲ判決ス

第廿九條 檢定委員總長ハ六級以上ノ檢定ト本廳内ノ檢定並教務局各中教會所ニ於

テ施行シタル筆答筆記ニ關スル檢定ヲ爲シ檢定委員長ハ一中教會所若クハ數中教會所内ノ筆答筆記ニ係ルモノヲ除クノ外七級以下教師ノ檢定ヲ爲ス

第三十條 第十八條ニ掲グル規定外ノ場所ニ於テ試験ヲ執行スルトキハ管長ハ檢定委員長以下係リ員ヲ其地方ニ派遣シ檢定試験ヲ行ハシム

第四章 立會人

第卅一條 檢定委員ノ試験ヲ正確ニ施行スルヤ否ヤヲ監督スルカ爲メ管長ハ左ノ立會人ヲシテ檢定所ニ臨席セシム

本廳ニ於テ檢定試験ヲ行フトキ

司教、教務、課長並補教ノ職ニ在ルモノ

四級以上ノ教師

教務局ニ於テ檢定試験ヲ行フトキ

局長並補教ノ職ニ在ルモノ

六級以上ノ教師

各中教會所ニ於テ檢定試験ヲ行フトキ

所長

副所長

參人 貳人 貳人 壹人 壹人 全上

六級以上ノ教師

第卅二條 立會人ハ試験ヲ監督シ試験終了シタルトキハ直ニ試験ノ實況ヲ管長ニ報告スルモノトス

第卅三條 教務局及各中教會所又ハ第十八條ノ場合ニ依リ檢定試験ヲ施行スルトキ管長ニ於テ取締ノ必要ヲ認ムルトキハ司教々務ノ課長若クハ輔教ノ職ニ在ルモノヲシテ臨時派遣ヲ命ジテ臨監セシムルトアルベシ

第五章 懲 戒

第卅四條 檢定委員立會人本廳教務局各中教會所職員及其他教師ニシテ試験問題ヲ受験者ニ漏洩若クハ密示シタルモノハ其情況ニ依リ職員及教師ニ在リテハ懲戒規約例第十一條ノ重懲戒ヲ以テ處分ス其受験者ニアリテハ其試験ヲ無効トシ終身受験セシメサルモノトス

檢定委員不當ノ檢定ヲ爲シ又ハ立會人試験ノ實況ニ付虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ亦全シ

第六章 附 則

第卅五條 教規及其他ノ規則ニ依リ従前教師ノ分限及等級ヲ授與セラレタルモノハ引續キ其數ニ在ルヲ得

全上

但自今補命進退ハ此條規ニ據ル

第卅六條 教令及其他ノ規則ニシテ此條規ニ牴觸スルモノハ總テ廢止ス

### 神道教規

#### 第一章 教 旨

第一條 惟神ノ大道ヲ擴張シ皇國固有ノ本教ヲ宇内ニ宣揚スルヲ以テ主旨トス

#### 第二章 主 神

第二條 宮中所齋ノ神靈ヲ奉戴シ殊ニ天之御中主神高皇產靈神皇產靈神伊邪那岐

神伊邪那美神天照大御神須佐之男神皇孫命大國主神天津神八百萬國津神八百萬ノ神ヲ奉祭ス

第三條 教會講社ヲ開設スル時ハ天神地祇ノ中其崇敬スル所ノ神祇ヲ表名合祀ス

#### 第三章 教 憲

第四條 敬神愛國ノ旨ヲ體スヘキ事

第五條 天理人道ヲ明ニスヘキ事

第六條 皇上ヲ奉戴シ朝旨ヲ遵守セシムヘキ事

#### 第四章 名 稱

第七條 本管ヲ名ケテ神道ト稱ス

第八條 本管一切ノ事務ヲ整理スル所ヲ神道本分支局ト稱ス

第九條 本教ヲ宣布スル所ヲ神道本分支院ト稱シ信徒子弟ヲ教育スル所ヲ神道本分支校ト稱シ共ニ本分支局ニ隸屬ス

第十條 本管ノ教職ヲ進退シ及教務一切ヲ統轄スル者ヲ管長ト稱ス

第十一條 本管ノ教師ヲ教正講義訓導教導職試補ト稱シ教正講義ヲ正權大中少ノ六級ニ訓導ヲ正權ノ二級ニ分ツ

第十二條 本分支局ニ各理事者ヲ置キ本局ニアルヲ幹事ト稱シ分支局ニアルヲ某長ト稱ス

但幹事ハ若干員ヲ置キ某長ハ正副ヲ置ク尤時宜ニヨリ長ヲ闕キ或ハ副ヲ闕クコト有ヘシ

第十三條 分局ノ外ニ立チテ布教スルヲ直轄教會ト稱シ其理事者ヲ某教會長ト稱ス

第十四條 支局ノ外ニ立チテ布教スルヲ普通教會ト稱シ其理事者ヲ某教會長ト稱ス

第十五條 本管ノ派師國ノ中外ヲ問ハス派出宣教スルモノヲ宣教使ト稱ス

第五章 職 制

第十六條 管長ハ教師ヲ進退黜陟シ有功者ヲ退賞勳獎シ局院校及教會講社ノ廢置分合ヲ許否シ其他神道一切ヲ統理シ上下ニ對シテ其實ニ任ス

第十七條 幹事ハ管長ヲ輔ケ諸般ノ事務ヲ幹理シ管長事故アル時ハ其代理タルヲ得

第十八條 分支局長及教會長ハ管長ノ命ヲ受ケ部内ノ教師信徒ヲ管轄シ諸般ノ教務ヲ整理ス

第十九條 屬員ハ幹事ノ指揮ヲ受ケ局院校ノ事務ニ從事ス

但分支局院校及教會ノ屬員ハ某長ノ指揮ヲ受ケ其事務ニ從事ス

第二十條 大教正以下教導職試補以上ノ者ハ神事祈禱神占禁厭宣教祝禱冠婚葬儀靈祭ノ諸式ヲ行ヒ教會ヲ開設シ講社ヲ結收シ信徒ニ神符ヲ授與シ山海ノ遺利ヲ與シ國家ノ公益ヲ圖ル事等ニ從事ス

第六章 教 區

第二十一條 本管ノ教區ヲ分ツコト左ノ如シ

一 武藏	相模	安房	上總	下總	常陸
上野	下野	甲斐	信濃	尾張	美濃
二 伊豆	駿河	遠江	參河	尾張	美濃
飛騨	伊賀	伊勢	志摩	攝津	紀伊
三 山城	大和	河内	和泉	攝津	紀伊
丹波	丹後	但馬	近江	越中	越後
四 若狹	越前	加賀	能登	越中	越後



五	佐渡	美作	備前	備中	備後	因幡
六	長門	出雲	石見	隱岐	安藝	周防
七	日向	淡路	阿波	讃岐	伊豫	土佐
八	豐前	豊後	肥前	肥後	筑前	筑後
九	日向	大隅	薩摩	壹岐	對馬	筑後
十	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
十一	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
十二	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
十三	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
十四	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
十五	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
十六	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
十七	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
十八	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
十九	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
二十	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
二十一	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
二十二	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
二十三	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
二十四	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
二十五	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
二十六	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
二十七	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
二十八	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
二十九	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
三十	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
三十一	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
三十二	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
三十三	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
三十四	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
三十五	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
三十六	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
三十七	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
三十八	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
三十九	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
四十	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
四十一	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
四十二	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
四十三	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
四十四	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
四十五	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
四十六	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
四十七	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
四十八	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
四十九	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後
五十	日向	岩代	陸前	陸中	陸奥	筑後

第七章 教場

第二十二條 局院校及祠宇教會所說教所并出張所等ノ新設ハ地方官衙ノ許可ヲ得其  
 移轉分合ハ届出ツヘク他管轄地へ移轉分合スルハ更ニ該官衙ノ准允ヲ得ヘシ  
 第二十三條 本教ヲ宣布スルハ專ラ本分支院並教會所說教所ニ於テストイヘ信徒  
 ノ請求ニヨリテハ一時神社民家ニ於テ執行スルコトアルヘシ  
 第八章 服制  
 第二十四條 教師ノ正服ハ齋服狩衣淨衣直垂トス  
 但有位叙爵者ハ此限ニ非ス

第九章 撰擧

第二十五條 管長ハ本管教師一般ノ公撰ニヨル  
 第二十六條 幹事ヲ分チテ二トス一ヲ分局及直轄教會長ノ公撰員トシ一ヲ管長ノ特  
 命員トス  
 但在職期限ハ四ケ年トス  
 第二十七條 分支局長及教會長ハ該部下教師ノ公撰ニヨル  
 但分支局長ハ在職期限四ケ年トス  
 第二十八條 教師ハ試験又ハ管長ノ特撰ヲ以テ補ス  
 第二十九條 公權停止以上ノ處分ヲ受ケタル者ハ教師ニ補スルヲ許サス  
 但赦免後年限ヲ經過シ悔悟ノ實證アル者ハ此限ニ非ス  
 第十章 教校  
 第三十條 學科ヲ分チテ正科兼科傍科トス  
 第三十一條 正科ハ本教ノ典籍ヲ講明ス  
 第三十二條 兼科ハ漢學梵學洋學等トス  
 第三十三條 傍科ハ禮式音樂ヲ講習ス  
 第十一章 試驗



第三十四條 試驗ハ本局ニ於テハ幹事二名以上分局並直轄教會所ニ於テハ長副二名以上立會ノ上施行ス

第十二章 教會

第三十五條 教憲三條ノ大旨ハ終身之ヲ遵守スヘシ

第三十六條 倫常ノ道ヲ守リ各自其實行ヲ竭スヘシ

第三十七條 凡ソ同胞ノ親ミテ爲シ吉凶禍福ヲ慶弔シ疾病患難ヲ相救フヘシ

第三十八條 異端邪說ヲ信仰スヘカラス

第三十九條 會中ノ子弟其父兄ノ教誨ヲ受ケス言行道ニ背ク者アラハ會中ニテ規戒セシメ尙服從セサル者ハ會長親シク懇諭ヲ加フヘシ

第四十條 會中申合ヲ以テ適宜ニ出金シ宜教會費等ニ充ツヘシ

第十三章 法 例

第四十一條 本管ニ於テ懲戒スル法ヲ分チテ三種トス

一 重懲戒

二 輕懲戒

三 諭戒

第四十二條 重懲戒ハ本局ハ幹事其他ハ分局長直轄教會長ヨリ管長ヘ具申ス

第四十三條 輕懲戒ハ本局ハ幹事其他ハ分局長直轄教會長之ヲ決行シ後管長ニ具申ス

第四十四條 諭戒ハ本局ハ幹事其他ハ分局長教會長之ヲ處置ス

第四十五條 重懲戒輕懲戒トモ懲戒スヘキ者ハ其行跡實證ヲ得幹事及分局直轄教會ニ於テ審查ヲ遂ケ其手續證據書類ニ意見書ヲ添ヘ幹事及分局長直轄教會長若クハ副長並係主任者總テ三名以上連署シ管長ニ具申ス

但本文ノ手續ヲ爲サハルモノハ其効チ有セス

第四十六條 懲戒ニ依ルニ非スシテ免職スヘキ者ハ幹事及分局長直轄教會長ヨリ旨ヲ諭シ本人ヨリ免職願ヲ出サシム若シ其旨ニ違ハサル者ハ直ニ免職ス

第四十七條 懲戒ニ依リ免職スル者ハ滿一ケ年降級スル者ハ滿一ケ年半經過シ改良ノ實効アルニ非サレハ再補昇級スルヲ許サス

第四十八條 謹慎ヲ命シタル者ハ滿一ケ年間昇級スルヲ許サス

第十四章 懲 例

第四十九條 重懲戒ヲ分テ免職降級トス

第五十條 輕懲戒ヲ別テ謹慎譴誡トス

第五十一條 重懲戒免職ニ係ル者神官ナルトキハ其所轄管處ヘ其事由ヲ申達ス

第五十二條 謹慎ハ五日以上二十五日以下解除ヲ修メシム

第五十三條 隨誠ハ其事由テ示シ隨誠書ヲ付シテ將來ヲ誠シム  
第五十四條 隨誠ハ過失ヲ指摘シ悔悟ノ謝狀ヲ出サシム

第十五章 遵 例

第五十五條 左ノ概目ニ觸ル、者ヲ重懲誠トシ其情狀ヲ酌量シ其重ヲ免職其輕ヲ降級トス

- 一 管長ノ命令ヲ奉セザル者
- 二 本管教規ヲ遵守セザル者
- 三 本分局及諸教會講社ノ規律ニ違反スル者
- 四 妄リニ吉凶禍福ヲ説キ及祈禱神占禁厭ニ託シ人ヲ惑惑シ私利ヲ射ル者
- 五 妄リニ神符神像ヲ授ケ醫藥ヲ妨グル者
- 六 竊ニ邪教ヲ信スル者
- 七 本分支局院校及教會講社ノ名稱ヲ濫用スル者
- 八 著キ不品行ヲ以テ譏ヲ來シ教師ノ体面ヲ汚ス者
- 九 三度謹慎ヲ受ケテ猶業行修マラザル者
- 十 教費金納期ヲ怠ル者
- 十一 其部内當器ノ教職ヲ故意ニ昇級ノ具申ヲセザル者

十二 公權停止以上ノ處分ヲ受タル者

第五十六條 左ノ概目ニ觸ル、者其重ヲ謹慎其輕ヲ隨誠トス

- 一 分支局長及教會長ノ命令ニ遵ハサル者
  - 二 疎虞懈怠ニシテ本分支局及教會講社ノ規律ニ違フ者
  - 三 管長ノ許可ヲ得スシテ教規ニ擬似スル者ヲ施行スル首座ノ者
  - 四 凡ソ達書ヲ受ケテ時日ヲ稽緩差失シ事ニ害アル者
  - 五 約束ヨリ成立タル臨時教費割ヲ遲納スル者
  - 六 猥リニ訴訟ヲ爲ス者
  - 七 認可ヲ得スシテ妄リニ所屬教區ヲ變換スル者
  - 八 詐術ヲ爲ス者
  - 九 服制ヲ紊ル者
  - 十 三度隨誠ヲ受ケテ猶悔悟セサル者
- 第五十七條 左ノ諸件ニ觸ル、者ハ隨誠トス
- 一 講社ヲ口實トシテ分支局院ノ義務ヲ闕ク者
  - 二 豫定ノ會場ヘ開レナク出頭セサル者
  - 三 招喚狀ヲ得テ開レナク出頭セサル者

四 遊戯ノ興行ヲ爲シ利ヲ圖ル者  
第五十八條 凡ソ德義上ニ於テ實ムヘキ者ハ此違例概目ニ比例ス

### 神道教師檢定條規

#### 第一章 檢定

第一條 神道教師ノ分限及等級ハ檢定委員ノ檢定ニ合格スルモノニ非レハ之ヲ授與セズ

第二條 左ノ項目ニ觸ル者ハ教師タルヲ得ス

- 一 項 品行修テサル者
  - 二 項 瘋癲 白痴 瘡癩ノ者
  - 三 項 男子ハ二十年女子ハ二十五年未滿ノ者
  - 四 項 重罪及定役ニ服スヘキ輕罪ニ處セラレタル者
  - 五 項 家資分散者破産者及身代限ノ處分ヲ受ケタル者又復權後若クハ辨償ヲ終ヘテ一ケ年ヲ經過セサル者
  - 六 項 本管又ハ他教派ニ於テ懲誡等ニ依リ免職ノ處分ヲ受ケ滿一ケ年ヲ經過シ悔悟ノ實証アラサル者
- 第三條 教師ノ檢定ヲ分テ左ノ二種トス
- 甲種 試驗

神道教師檢定條規

乙種 認定

第二章 試驗

第四條 甲種檢定ハ學業ノ試驗ヲ行フモノトシ是ヲ分テ左ノ二種トス

教養學科

普通學科

第五條 教養學科試驗科目左ノ如シ

一	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述
二	六國史筆記 口述	日本紀筆記 口述	古事記筆記 口述	神代卷筆記 口述	古事記上卷筆記 口述	古語拾遺筆記 口述	神道要旨筆記 口述
三	萬葉集口述 延喜式筆記 口述	高橋氏文口述 今鏡解口述 口述	撰紀宣命筆記 口述	祝詞式筆記 口述	每朝神拜式筆記 口述	土佐日記筆記 口述	神德略述筆記 口述
四	延喜式口述 口述	令鏡解口述 口述	撰紀宣命筆記 口述	祝詞式筆記 口述	每朝神拜式筆記 口述	土佐日記筆記 口述	神德略述筆記 口述
五	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述
六	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述
七	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述	神道要旨筆記 口述

第六條 普通學科試驗科目左ノ如シ

但此科目ヲ及第セシ者ハ再度ノ試驗ヲ要セス

- 一 修身
- 一 日本歴史
- 一 萬國地理
- 一 算術
- 一 一人身生理
- 一 萬國歴史
- 一 術
- 一 漢文
- 一 日本地理

第七條 試驗ノ種目ヲ分テ七種トシ二種以上ヲ高等トシ三種以下ヲ尋常トス

第八條 高等試験ハ毎年二期四月神道本局ニ於テ執行シ尋常試験ハ毎年四期二月五月

神道本分局直轄教會ニ於テ執行スルモノトス

第九條 地方ニ於テ高等試験ヲ請フモノアル時ハ管長ハ高等檢定委員ヲ受驗者所轄

ノ神道分局直轄教會ニ派出セシノ試験ヲ執行スルヲアルヘシ

第十條 試驗時期ハ前條ノ例ニ依ル

但試驗時期ハ前條ノ例ニ依ル

一項 問題ノ筆記ハ一書ニ付一節口述ハ一書ニ付三節トス

二項 筆記ハ一節二時間作文ハ一題三時間トス

三項 試験ノ點法左ノ如シ

一項 各科百點ヲ以テ滿點トス

二項 各科得點ヲ合算シ平均六十點以上ヲ及第トス

三項 平均六十點ヲ得ルモ一科若シ四十點ニ達セザレハ落第トス  
 四項 平均八十點以上ヲ甲點トシ以下ヲ乙點トス  
 第十二條 第十一條第四項ノ得點ニ依リ職級ヲ定ムル左ノ如シ  
 但七種ノ試験ハ此限ニ非ス

種	目	一 種	二 種	三 種	四 種	五 種	六 種	七 種
甲	點	三 級	五 級	七 級	九 級	十一 級	十三 級	
乙	點	四 級	六 級	八 級	十 級	十二 級	十四 級	教導職試補

第十三條 試験ニ落第セシ者高等ハ滿一ヶ年尋常ハ滿六ヶ月ヲ經過セザレハ再試験ヲ請フヲ許サス  
 第十四條 新補試験ハ十二級以下トス尤高等官タリシ者又ハ高等官タルノ資格ヲ有スル者ハ直ニ六級以下列任官タリシ者又ハ列任官タルノ資格ヲ有スル者ハ直ニ十二級以下ノ試験ヲ受クルコトヲ得但本條ノ場合ニ於テハ六級ノ教師ニ限り檢定委員ハ豫シメ管長ノ許可ヲ得テ試験ヲ執行スルコトヲ要ス  
 但認定ハ第三章第十八條ノ規定ニ據ル

第十五條 昇級試験ハ現職滿二ヶ年以上ノ者ニ非レハ之ヲ許サス  
 第十六條 昇級試験ハ越級ヲ許サス但特別ノ事情アル者ニ限り管長ハ檢定長檢定委員長及檢定委員ノ銜衡ヲ經テ特ニ越級試験ヲ受クルヲ許可スルヲアルヘシ此場合ト雖モ十二級九級及六級ヲ超越スルヲ許サス

第三章 認定

第十七條 正權大教正ハ試験ヲ要セス管長之ヲ特命ス  
 但大教正七名權大教正二十名ヲ超過スルヲ得ス  
 第十八條 認定ハ左項ノ一ニ該當スル者ニ限り教養學科普通學科ノ内試験ノ一部ヲ免除シ甲部ハ七級以下ニ乙部ハ八級以下ニ丙部ハ十三級以下ノ教師ニ補命スルヲ得  
 但認定時期ハ第二章第八條ノ例ニ依ル

- 甲 部
  - 一項 神宮權禰宜以上官國幣社正權宮司ノ職ニアリシ者
  - 二項 神宮皇學館本科ヲ卒業セシ者及皇典講究所學正タル者
- 乙 部
  - 以上教養學科試験ヲ免除ス

一 項 高等官タリシ者及其資格ヲ有スル者  
以上普通學科試驗ヲ免除ス

丙 部

- 一 項 神宮宮掌以上官國幣社主典以上ノ職ニ在リシ者
- 二 項 神宮皇學館專科卒業者及皇典講究所五等司業以上ノ者
- 三 項 滿十年以上府縣社以下ノ神職ニ在リシ者
- 四 項 教義ニ關スル著述ヲ爲シ學術上顯著ナル功績アル者
- 五 項 十年以上本管ノ教徒ニシテ布教ニ熱心シ顯著ナル功績アル者  
以上教義學科試驗ヲ免除ス
- 六 項 尋常師範學校尋常中學校以上公立學校ヲ卒業セシ者
- 七 項 判任官タリシ者及其資格ヲ有スル者  
以上普通學科試驗ヲ免除ス

第十九條 本管教師タリシ者ニシテ復職ヲ請ヒ又明治十七年八月十一日以前教導職  
タリシ者及他教派ノ教師タリシ者ニシテ更ニ本管教師ヲ志願スル者ハ試驗ノ一部  
又ハ全部ヲ免除シ原職級ニ相當スル等級以下ニ補命スルヲ得

第二十條 試補以上ノ教師ニ就職シ左表ノ年限ヲ經過シ教義上功勞アル者ハ其成績

ヲ認定シ一級ヲ進ムルヲ得猶神道本分局及直轄教會ノ理事者ニシテ功績尤著ナ  
ル者ハ認定ノ上一年ヲ短縮スルコトアルヘシ

但七級ヨリ六級ニ十級ヨリ九級ニ十三級ヨリ十二級ニ昇級スル場合ハ必ず試験  
ヲ要ス

年 限	滿四年	滿四年	滿四年	滿四年	滿三年	滿三年	滿三年	滿三年	滿三年	滿三年	
職 級	權中教正	少教正	權少教正	大講義權	大講義中	講義權中	講義少	講義權少	講義助	導權訓導	教導職試補

第四章 檢定長及檢定委員

- 第二十一條 檢定ヲ行フ爲メ檢定長及ヒ檢定委員長檢定委員ヲ置ク
- 第二十二條 左ノ資格アル者ヲ以テ檢定長及ヒ高等檢定委員トス
- 一 項 博士學士ノ稱號アリテ現職六級以上ノ者
  - 二 項 神道本局顧問ノ任ニ在ル者
  - 三 項 本管教師就職十ヶ年以上ニシテ現職六級以上ノ者
  - 四 項 明治十七年八月十一日以前六級以上ノ教導職ニシテ現職六級以上ノ者
  - 五 項 高等學校高等師範學校以上ノ公立學校教授タリシ者ニシテ現職六級以上ノ者
- 第二十三條 左ノ資格アル者ヲ以テ尋常檢定委員トス



一項 神道分局直轄教會顧問ノ任ニ在ル者  
 二項 本管教師就職五ヶ年以上ニシテ現職六級以上ノ者  
 三項 明治十七年八月十一日以前八級以上ノ教導職ニシテ現職六級以上ノ者  
 第二十四條 檢定長ハ正副二名トシ高等檢定委員資格者中ヨリ管長之ヲ特命ス  
 第二十五條 檢定委員長及ヒ檢定委員ハ高等尋常共ニ第二十二條第二十三條各項ノ資格者中ヨリ管長之ヲ特命ス但定員ナシ  
 第二十六條 試驗臨場檢定委員ハ高等尋常共ニ委員長一名委員三名トス  
 但委員長欠席ノ節ハ委員首座ノ者ヲ以テ之ニ充ツ  
 第二十七條 高等檢定委員長及尋常檢定委員長ハ檢定委員ト共ニ受験者ノ筆記以外ニ關スル者ヲ審査シ其成點ヲ檢定長ニ報告シ其筆記ニ關スルモノハ其儘檢定長ニ廻附スルモノトス  
 但算術ハ時宜ニヨリ檢定委員長ヲシテ審査セシムル事ヲ得  
 第二十八條 檢定長ハ高等及尋常檢定委員長ヨリ廻附シタル筆記書類ヲ審査シ其成點ヲ高等及尋常檢定委員長ヨリ報告シタル成點ト合算シ其成績ヲ管長ニ具申ス  
 第二十九條 檢定長及高等檢定委員ハ高等ノ認定ヲ爲シ檢定長及尋常檢定委員ハ尋常ノ認定ヲ爲スモノトス

第三十條 檢定委員ハ檢定ニ關スル諸般ノ一ヲ執行ス  
 第三十一條 檢定長及檢定委員長檢定委員ノ任期ハ高等尋常共ニ四ヶ年トス  
 但再任スルヲ得

第五章 試驗立會人

第三十二條 試驗立會人ハ高等尋常共ニ各一名トス  
 第三十三條 試驗立會人ハ試驗場ニ臨ミ試驗終了セハ其正否ヲ管長ニ申告ス  
 第三十四條 高等試驗立會人ハ現職六級以上ノ者尋常試驗立會人ハ現職八級以上ノ者トス  
 第三十五條 高等尋常共ニ試驗立會人ハ前條ノ資格者ニ就キ其都度管長之ヲ特命ス

第六章 懲 戒

第三十六條 檢定委員ニシテ試験問題ヲ受験者ニ漏洩シ又ハ試験場外ニ於テ試験ニ關スル事務ヲ取扱或ハ試験點査ヲ口外シタル者ハ輕キハ委員ノ資格ヲ剝奪シ重キハ教規ニ照シ免職若クハ降級ス  
 第三十七條 試驗立會人ニシテ虚偽ノ申告ヲ爲シタル時ハ前條ノ例ニ依ル  
 第三十八條 第三十六條ノ場合ニ於テハ試験ヲ無効トシ其受験者ハ猶十ヶ年間試験ヲ請フヲ許サス

第七章 附 則

第三十九條 試驗認定ニ關スル書類ハ總テ神道本局ニ保存ス  
第四十條 教規ニ依リ既ニ教師分限及等級ヲ授與シタル者ト雖モ自今昇級ノ場合ニ  
於テハ本條規ニ依ル  
第四十一條 檢定ニ關スル手續ハ別ニ之ヲ定ム

大成教々規

當教々規今般別冊之通改正仕度候間至急御認可被成下度此段奉願候也

明治二十八年十二月十六日

大成教管長從四位 中山 信 徵印

内務大臣子爵野村 靖殿

書面願之趣認可ス

印 割

明治廿八年十二月廿七日

内務大臣子爵野村 靖 印

大成教規目次

第一章	教旨
第二章	名稱及位置
第三章	祭式
第四章	管長
第五章	職員及職制
第六章	教師
第七章	特待員
第八章	教區
第九章	布教
第十章	教會講社
第十一章	會議
第十二章	會計
第十三章	賞譽例
第十四章	懲戒例

第一條	自第一條至第一條
第二條	自第二條至第二條
第三條	自第三條至第三條
第四條	自第四條至第四條
第五條	自第五條至第五條
第六條	自第六條至第六條
第七條	自第七條至第七條
第八條	自第八條至第八條
第九條	自第九條至第九條
第十條	自第十條至第十條
第十一條	自第十一條至第十一條
第十二條	自第十二條至第十二條
第十三條	自第十三條至第十三條
第十四條	自第十四條至第十四條
第十五條	自第十五條至第十五條
第十六條	自第十六條至第十六條
第十七條	自第十七條至第十七條
第十八條	自第十八條至第十八條
第十九條	自第十九條至第十九條
第二十條	自第二十條至第二十條
第二十一條	自第二十一條至第二十一條
第二十二條	自第二十二條至第二十二條
第二十三條	自第二十三條至第二十三條
第二十四條	自第二十四條至第二十四條
第二十五條	自第二十五條至第二十五條
第二十六條	自第二十六條至第二十六條
第二十七條	自第二十七條至第二十七條
第二十八條	自第二十八條至第二十八條
第二十九條	自第二十九條至第二十九條
第三十條	自第三十條至第三十條
第三十一條	自第三十一條至第三十一條
第三十二條	自第三十二條至第三十二條
第三十三條	自第三十三條至第三十三條
第三十四條	自第三十四條至第三十四條
第三十五條	自第三十五條至第三十五條
第三十六條	自第三十六條至第三十六條
第三十七條	自第三十七條至第三十七條
第三十八條	自第三十八條至第三十八條
第三十九條	自第三十九條至第三十九條
第四十條	自第四十條至第四十條
第四十一條	自第四十一條至第四十一條
第四十二條	自第四十二條至第四十二條
第四十三條	自第四十三條至第四十三條
第四十四條	自第四十四條至第四十四條
第四十五條	自第四十五條至第四十五條
第四十六條	自第四十六條至第四十六條
第四十七條	自第四十七條至第四十七條
第四十八條	自第四十八條至第四十八條
第四十九條	自第四十九條至第四十九條
第五十條	自第五十條至第五十條
第五十一條	自第五十一條至第五十一條
第五十二條	自第五十二條至第五十二條
第五十三條	自第五十三條至第五十三條
第五十四條	自第五十四條至第五十四條
第五十五條	自第五十五條至第五十五條
第五十六條	自第五十六條至第五十六條
第五十七條	自第五十七條至第五十七條
第五十八條	自第五十八條至第五十八條
第五十九條	自第五十九條至第五十九條
第六十條	自第六十條至第六十條
第六十一條	自第六十一條至第六十一條
第六十二條	自第六十二條至第六十二條
第六十三條	自第六十三條至第六十三條
第六十四條	自第六十四條至第六十四條
第六十五條	自第六十五條至第六十五條
第六十六條	自第六十六條至第六十六條
第六十七條	自第六十七條至第六十七條
第六十八條	自第六十八條至第六十八條
第六十九條	自第六十九條至第六十九條
第七十條	自第七十條至第七十條
第七十一條	自第七十一條至第七十一條
第七十二條	自第七十二條至第七十二條
第七十三條	自第七十三條至第七十三條
第七十四條	自第七十四條至第七十四條
第七十五條	自第七十五條至第七十五條
第七十六條	自第七十六條至第七十六條
第七十七條	自第七十七條至第七十七條
第七十八條	自第七十八條至第七十八條
第七十九條	自第七十九條至第七十九條
第八十條	自第八十條至第八十條
第八十一條	自第八十一條至第八十一條
第八十二條	自第八十二條至第八十二條
第八十三條	自第八十三條至第八十三條
第八十四條	自第八十四條至第八十四條
第八十五條	自第八十五條至第八十五條
第八十六條	自第八十六條至第八十六條
第八十七條	自第八十七條至第八十七條
第八十八條	自第八十八條至第八十八條
第八十九條	自第八十九條至第八十九條
第九十條	自第九十條至第九十條
第九十一條	自第九十一條至第九十一條
第九十二條	自第九十二條至第九十二條
第九十三條	自第九十三條至第九十三條
第九十四條	自第九十四條至第九十四條
第九十五條	自第九十五條至第九十五條
第九十六條	自第九十六條至第九十六條
第九十七條	自第九十七條至第九十七條
第九十八條	自第九十八條至第九十八條
第九十九條	自第九十九條至第九十九條
第一百條	自第一百條至第一百條

第十五章 附則  
以上通計 十五章 七十七條

自第七十六條

百七十八

### 大成教規

#### 第一章 教旨

- 第一條 本教ハ惟神ノ大道ヲ宣揚スルヲ以テ本旨トス其大綱左ノ如シ
- 一 天神地祇ヲ崇奉シ賢所及御歷代ノ皇靈ヲ遙拜ス
  - 二 天壤無窮ノ神勅ヲ主旨トシ國体ヲ恢張ス
  - 三 天叙ノ尋倫ヲ章明ス
  - 四 神事ハ歷朝ノ儀範ニ則テ之ヲ執行ス
  - 五 教旨ヲ宣布シ人心ヲ感化ス
  - 六 顯幽ヲ一貫シ死生ヲ洞明ス
  - 七 修道眞法ヲ修シ安心立命ノ基ヲ定ム
- 第二章 名稱及位置
- 第二條 本教ハ大成教ト稱ス
- 第三條 本教一切ノ事務ヲ處理スル所ヲ教務廳ト稱シ東京ニ置ケ
- 第三章 祭式
- 第四條 神祭及婚姻葬儀等ハ凡テ本教所定ノ式ニ依テ之ヲ執行ス
- 第五條 本教ハ左ニ掲ル式日ニ祭典或ハ遙拜式ヲ執行ス

百七十九

但信徒ノ外衆庶ノ參拜ヲ禁ス

新年祭 一月一日

元始祭 一月三日

孝明天皇祭 一月三十日

祈年祭 二月四日

紀元節 二月十一日

春季皇靈祭 三月春分ノ日

神武天皇祭 四月三日

大祓 六月三十日

秋季皇靈祭 九月秋分ノ日

神嘗祭 十月十七日

天長節 十一月三日

新嘗祭 十一月廿三日

大祓 十二月卅一日

本教慰靈祭 五月廿二日

本教創立祭 九月十二日

一月次祭 十二日、廿二日

第六條 教會所ニ於テハ都テ毎朝神拜ヲ爲シ特ニ寶所ヲ遙拜ス

第四章 管長

第七條 管長ハ左ノ資格ノ一ヲ備フル者之ヲ繼承ス

一 道統相傳信徒歸向ノ者

二 學識徳望著ルシキ者

三 教師總統ノ任ニ堪フル者

第八條 管長退職セントスルトキハ後任者ヲ特選シテ内務大臣ノ認可ヲ請フベシ

第九條 管長ノ死亡其他ノ事故ニ由リ前條ノ手續ヲ爲ス事能ハサルトキハ贊襄顧問ノ合議ニ由リ管長ヲ選定シテ認可ヲ請フヘシ

第十條 管長適任ノ候補者ナキトキハ在京六級以上教師ノ投票ヲ以テ顧問ノ中ヨリ事務取扱二名ヲ選定シ内務大臣ノ認可ヲ經テ管長ノ職務ヲ攝行セシムルモノトス

此場合ニ於テ事務取扱ハ成ルヘク速ニ管長ヲ選定シテ認可ヲ請フヘシ

第十一條 管長ハ當然大教正タルヘシ

第十二條 管長ハ教規ニ依リ教務一切ヲ綜理シ政府ニ對シ其實ニ任ス

第十三條 管長ハ會議ヲ開テ教務ヲ諮問ス

第十四條 管長ハ法令及教規ノ範圍内ニ於テ教令ヲ發ス

但教規ノ補則トナルヘキモノハ内務大臣ノ認可ヲ請フモノトス

第十五條 管長ハ教務廳ニ關スル事務細則ヲ制定シ職員ヲ任免ス

但本教規ニ特例ヲ掲グル者ハ各其條項ニ依ル

第十六條 管長ハ教規ノ範圍内ニ於テ教師ノ分限ヲ定メ及其任免進退ヲ爲ス

第十七條 管長ハ教會講社ノ設立其名稱規約及廢置分合ヲ承認シ教會長及講社長ヲ

任免ス

第十八條 管長ハ教規ニ依リ有功者ヲ賞譽シ違例者ヲ懲戒ス

第十九條 管長ハ教旨ヲ傳教シ教書ヲ述作シ又教師ノ著作シタル教書ヲ檢定ス

第五章 職員及職制

第二十條 本教ニ左ノ職員ヲ置ク

贊襄 無定員

顧問 三名以内

監督 一教區一名若クハ二名

布教師 五名以内

第二十一條 贊襄ハ位置名望アリテ本教ヲ贊養スル者ノ中ヨリ管長特ニ之ヲ委囑ス

贊襄選定ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

第二十二條 贊襄ハ管長ノ諮問ニ應シ及本教規ニ依リ重要ノ事件ニ參與ス

第二十三條 顧問ハ二級以上ノ教師ニシテ學識徳望著シキ者ノ中ヨリ贊襄ノ諮問ヲ

經テ管長之ヲ選定ス

第二十四條 顧問ハ管長ノ下問ニ應シ且教義及教務ニ付其意見ヲ管長ニ獻替ス

第二十五條 監督ハ第八章各教區内六級以上ノ教師中本教ニ功勞アル者又ハ名望著

シキ者ノ中ヨリ管長ノ特選ヲ以テ之ヲ命ス

第二十六條 監督ハ管長ノ命ヲ受ケテ教區内ノ教會講社及教師ヲ監督シ兼テ意見ヲ

管長ニ具申ス

第二十七條 布教使ハ六級以上ノ教師ニシテ布教ニ棟達セル者ノ中ヨリ管長之ヲ命

ス

第二十八條 布教使ハ管長ノ命ヲ受ケテ地方ヲ巡廻シ教會講社及説教所ニ出張シ布教

傳道ヲ爲シ兼テ地方ノ教務ヲ視察スルモノトス

但巡廻區域ハ管長之ヲ定ム

第二十九條 教務廳ニ左ノ三課ヲ置ク其分掌ノ事務ハ別ニ之ヲ定ム

教務課



庶務課  
會計課  
第三十條 教務廳ニ左ノ職員ヲ置ク

理事 一名  
課長 三名  
課員 若干名

第三十一條 理事ハ教師中教務ニ練達ノ者ヲ選任シテ之ニ充ツ

但顧問中ヨリ一人選任シ之ヲ兼ネシムルコトアルヘシ

第三十二條 理事ハ管長ヲ補佐シ其命ヲ受ケテ教務ヲ處理シ監督以下ノ職員ヲ監督ス

第三十三條 課長及課員ハ教師ト否トナ問ハス其任ニ適スル者ヲ以テ之ニ任ス

第三十四條 課長ハ管長ノ命ヲ受ケ理事ニ真議シテ主任ノ課務ヲ提掌ス

第三十五條 課員ハ主任課長ノ命ヲ受ケ其課務ニ従事ス

第六章 教師  
第三十六條 教師ノ名稱及等級左ノ如シ  
大 教 正 一 級

權大教正	二級
中教正	三級
權中教正	四級
少教正	五級
權少教正	六級
大講義	七級
權大講義	八級
中講義	九級
權中講義	十級
少講義	十一級
權少講義	十二級
訓導	十三級
權訓導	十四級
教導職試補	十五級
第三十七條 教師ハ教師檢定條規ニ依リ管長之ヲ命ス	
第三十八條 教師ハ三條ノ教憲ヲ奉シ <small>(第九條第四十五條ニテアリ)</small> 本教ノ教旨ヲ體シ左ノ事項ニ從	

事ス

一 衆庶ニ對シ布教傳道ス

二 信徒ヲ募リ教會講社ヲ結集ス

三 神祭及婚姻葬儀等ノ禮典ヲ執行ス

第三十九條 本教々師ニシテ他教ノ教師ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第四十條 教師ハ管長ノ允可ヲ經テ衆庶ノ請求ニ應シ常ニ神占禁厭祈禱ニ從事スルコトヲ得

神占禁厭祈禱ニ關スル規則ハ教令ヲ以テ之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第四十一條 教師ニシテ教書ヲ編纂シ本教々師ノ資格又ハ教會講社ノ名義ヲ用キテ

刊行シ若クハ教會講社ニ於テ之ヲ使用セシメントスルトキハ豫メ管長ノ檢閲ヲ經

ヘシ

第七章 特待員

第四十二條 信徒中歸向最モ篤ク德行著シキ者又ハ修道眞法ヲ修行シタル者ニハ左

ノ名稱ヲ授與シ特ニ待遇スルヲアルヘシ

一 修 教 自壹級至十五級

第四十三條 前條特待員ハ管長之ヲ特選シ或ハ教會講社長ノ選舉ニ依リ之ヲ命ス

第八章 教 區

第四十四條 全國ヲ分チテ左ノ十一教區ヲ置ク

第一 東京府一圓

第二 神奈川、埼玉、群馬、千葉、茨城、栃木ノ六縣

第三 宮城、福島、岩手、青森、山形、秋田ノ六縣

第四 愛知、靜岡、山梨、滋賀、岐阜、長野ノ六縣

第五 京都、大坂、兵庫、奈良、三重、和歌山ノ二府四縣

第六 鳥取、嶋根、岡山、廣島、山口ノ五縣

第七 新潟、福井、石川、富山ノ四縣

第八 徳島、香川、愛媛、高知ノ四縣

第九 長崎、福岡、大分、佐賀ノ四縣

第十 熊本、宮崎、鹿児島、沖縄ノ四縣

第十一 北海道一圓

第九章 布 教

第四十五條 布教ハ左ノ三條ノ教憲ヲ奉シ本教ノ教旨ヲ傳道スルヲ目的トス

第一條 敬神愛國ノ旨ヲ體スヘキ事

第二條 天理人道ヲ明ニスヘキ事

第三條 皇上ヲ奉戴シ朝旨ヲ遵守セシムヘキ事

第四十六條 教師ニアラサレハ布教ヲ爲スヲ得ス

第四十七條 布教ノ方法ヲ分チテ左ノ三種トス

一 管長巡教

二 布教使派遣

三 説教々話

第四十八條 管長ハ時宜ニ依リ若クハ教會講社又ハ教師信徒ノ請願ニ依リ巡教ヲ爲

スコトアルヘシ

第四十九條 布教使ハ管長ノ命ニ依リ定時又ハ臨時ニ全國又ハ一地方ニ派出スルモ

ノトス

第五十條 教會講社又ハ教師信徒ニ於テ布教使ノ派出ヲ請願セントスルトキハ必ス

監督ヲ經由シテ教務廳ニ申出ツヘシ

外國布教ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

第五十一條 説教話ハ教會講社説教所等ニ於テ之ヲ舉行スヘシト雖トモ地方ノ狀

況ト信徒ノ請求ニ依リ假ニ民家ニ於テ執行スルコトアルヘシ

但民家ニ於テハ月次説教日ヲ定ムルヲ得ス

第十章 教會講社

第五十二條 教會講社ノ規則ハ教令ヲ以テ別ニ之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第五十三條 教會説教所等ヲ新設セントスルトキハ管長ノ添書ヲ得テ地方廳へ出願

シ其移轉廢合ヲ爲サントスルトキハ管長ノ添書ヲ得テ地方廳へ届出ツヘシ

第五十四條 教會講社ニ於テハ常ニ職員教師信徒ノ名簿ヲ備へ其増減表ヲ調製シテ

毎年六月十二月教務廳ニ差出スヘシ

第十一章 會議

第五十五條 會議ハ教義ヲ諮問スル爲ニ教ヲ開キ各教區ノ監督及在京四級以上ノ教

師ヲ以テ議員トス

第五十六條 會議ハ管長ニ於テ諮問ノ必要アリト認ル場合ニ於テ之ヲ開ク

但少クトモ三年毎ニ一回ハ之ヲ開クモノトス

第十二章 會計

第五十七條 本教ノ經費ハ教師及教會講社ヨリ徵集スル教費金其他臨時收入ヲ以テ

之ニ充ツ

第五十八條 教師及教會講社ニ係ル教費金ハ現行方法ニ依リ之ヲ賦課徵收ス其方法

ヲ變更セントスルトキハ會議ノ諮問ヲ經ヘシ

第五十九條 歳入歳出ノ決算ハ顧問ノ検査確定ヲ經テ教會長講社長ニ報告スヘシ

第六十條 本教所有ノ地所建物其他財産ハ總テ管長之ヲ管理ス

第六十一條 本教所有ノ財産ハ財産目録ヲ調製シ其種類購入價額又ハ評價額並出納ノ期日及事由ヲ記入スヘシ

第六十二條 本教一切ノ收支ハ之ヲ會計簿ニ明記スヘシ  
會計簿ニ關スル様式ハ別ニ定ム

第十三章 賞譽例

第六十三條 本教部内ニ於テ特ニ有功又ハ篤志ノ者アルトキハ左ノ三種ヲ以テ賞譽ヲ行フモノトス  
一 表功牌  
二 賞品  
三 賞狀

第十四章 懲戒例

第六十四條 本教々師ニシテ懲戒スヘキ者ハ本例ニ依テ處分シ内務大臣ヘ届出ツルモノトス

第六十五條 懲戒ノ種目左ノ如シ

- 一 免職
- 二 降級
- 三 罷戒
- 四 謹慎

第六十六條 免職ハ教師ノ分限ヲ視奪ス

第六十七條 降級ハ其情狀ニ依リ二級以内ニ於テ教師ノ等級ヲ降ス

第六十八條 罷戒ハ其理由ヲ示シ罷戒書ヲ附シテ將來ヲ戒シム

第六十九條 謹慎ハ降級罷戒ニ處セラレタル者ニ對シ其情狀ニ依リ三日以上十五日以内管長指定ノ場所ニ於テ解除ヲ修セシム

- 第七十條 左項ノ一ニ當ルモノハ其情狀ニ依リ免職又ハ降級トス
  - 一 管長ノ命令ヲ奉セサル者
  - 二 本教ノ教規教令ニ違背シタル者
  - 三 本教ノ名稱ヲ藉テ詐術其他不正ノ所業ヲ爲ス者
  - 四 家資分散ノ處分ヲ受ケタル者
  - 五 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

- 六 不品行又ハ不徳義ヲ以テ教師ノ体面ヲ汚ス者
  - 七 公然政事ニ關スル談論演舌ヲナシ又ハ其著書ヲナセシ者
  - 八 教務廳教會講社ノ職員ニシテ部下ノ教費金ヲ濫用シ若クハ專斷ヲ以テ貸借セシ者
  - 九 本教々費金納期四度ヲ怠ル者
  - 十 本教ノ教旨ニ違背シタル演説々教ヲ爲シ又ハ文書著書ヲ公ニシタル者
  - 十一 教派ノ分合若クハ轉教ヲ強願シ又ハ誘説シ本教ノ協和ヲ害スル所爲アル者
  - 十二 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符咒等ニ託シ衆庶ヲ惑ス者
  - 十三 流言浮説ヲ造テ人心ヲ蠱惑シ又ハ風俗ヲ紊ル者
  - 十四 罷戒ノ處分ヲ受クルコト三度ニ及ブ者
  - 十五 管長ノ允可ヲ得スシテ教會講社ノ規約及之ニ類スル規則ヲ造リ部内ニ施行スル者
  - 十六 違書ヲ受ケテ故意ニ日時ヲ稽緩差失シ事ニ害アル者
  - 十七 管長ノ允可ヲ得スシテ常ニ衆庶ノ請求ニ應シ神占禁厭祈禱ヲ爲シ神符供物ト稱シ配賦スル者
- 但請求ニ應シ神符送附ノ取扱ヲ爲スハ此限ニアラス

- 十八 名ヲ教會講社說教所等ノ設立移轉又ハ廢合等ニ託シ妄ニ勸財ヲ爲シタル者
- 第七十一條 左項ノ一ニ當ル者ハ罷戒トス
- 一 本教職員教會長講社長ノ命令ニ從ハザル者
  - 二 說教演説集會等ニ於テ自讃毀他ノ甚シキ者
  - 三 禮式ニ違フ者
  - 四 本教々費金ヲ怠納スル者
  - 五 教會講社ノ規約ニ違背シタル所爲アル者
  - 六 本教ニ對シ約束ヨリ成立タル納金ヲ怠ル者
  - 七 教會講社說教所ヲ貸與シテ政談演説歌舞演劇等ヲ爲サシムル者
- 第七十二條 免職ノ者ニシテ情狀惘諒スヘク且改悛ノ實アルトキハ滿五年經過ノ後特ニ原級ヨリ一級以下ノ教師ニ補スルコトヲ得
- 第七十三條 降級ノ者ハ滿三年經過ノ後改悛ノ實蹟ヲ認ムルニアラサレハ昇級試験ヲ受クルコトヲ許サス
- 第七十四條 懲戒スヘキ者ハ監督又ハ教會長講社長ヨリ其行跡ノ審査ヲ遂ケ證據書類ニ意見書ヲ付シ管長ニ申請スルモノトス
- 但管長ハ場合ニ依リ直ニ懲戒ニ處スルコトアルヘシ

第七十五條 懲戒ニ依ラス疾病其他ノ事故ヲ以テ免職スヘキ者ハ管長ヨリ旨ヲ諭シ  
辭職願ヲ出サシム其旨ニ遵ハサル者ハ管長之ヲ處分ス

第十五章 附 則

第七十六條 本教規ヲ改正シ若クハ修正セントスルトキハ管長ハ會議ノ諮問ヲ經内  
務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第七十七條 従前ノ教規教令其他ノ規則ニシテ本教規ニ牴觸スル者ハ總テ廢止ス

大成教教師檢定條規

本年五月三十日御訓令ニ依リ別冊之通り教師檢定條規相定度候間御認可被成下度此  
段奉願候也

明治二十八年九月廿八日

大成教事務取扱

大教正 村越 鐵 善 印

同

大教正 東宮 千 別 印

内務大臣子爵野村 靖殿

書面願之趣認可ス

印 割

明治廿八年十二月廿四日

内務大臣子爵野村 靖 印

大成教教師檢定條規



### 大成教々師檢定條規

#### 第一章 檢定

- 第一條 本教々規ニ掲グル所ノ教師ノ分限及等級ハ檢定委員ノ檢定ニ合格シタル者ニアラザレバ之ヲ授與セス
- 第二條 左項ノ一ニ該當スル者ハ教師タルコトヲ得ス
  - 一 瘋癲白痴ノ者
  - 二 年齢二十歳以下ノ者
  - 三 重罪及定役ニ服スヘキ輕罪ニ處セラレタル者
  - 四 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者及復權ヲ得テ一箇年ヲ經過セサル者
  - 又ハ身代限りノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及辨償ヲ終ヘテ一箇年ヲ經過セサル者
- 五 本教又ハ他教派ニ於テ懲戒免職ノ處分ヲ受ケ改心ノ實ヲ表セサル者及改心ノ實ヲ表シ二箇年ヲ經過セサル者
- 第三條 檢定ヲ分テ左ノ二トス

業作	行爲	筆記	鎮魂式	神祭諸式	修眞法	同	同上	婚禮式	神祭式	同上	同上	學科	種一	種二	種三	種四	種五	種六	種七	
													(三級)	(五級)	(七級)	(九級)	(十一級)	(十三級)	(十四級)	(十五級)
義	講	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	講	義	義	義	義	義	義	
筆記	口述	筆記	筆記	筆記	筆記	筆記	筆記	筆記	筆記	筆記	筆記	筆記	東國史	萬葉集	日本書紀	日本書紀	古事記	古事記	古語拾遺	同上
作	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	鎮魂教門	修眞法	神鏡教門	玉璽教門	修眞法	實劍教門	本教眞訣	同上
作	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	鎮魂教門	修眞法	神鏡教門	玉璽教門	修眞法	實劍教門	本教眞訣	同上

一 試驗  
二 認定

第四條 試驗ハ三級以下ヲ七種ニ分チ學業ノ試驗ヲ行フ者トス  
但試補ヲ七種トシ他正榜ヲ一種中ニ包含セシム

第五條 學業ノ試驗ヲ分ツコト左ノ如シ  
一 教義學科試驗  
二 普通學科試驗

第六條 教義學科試驗科目左ノ如シ

說

教

神道大意

同

上 教立大意

同

上

同

上

同

上

百九十八

第七條 普通學科試験科目左ノ如シ

但此科目ニ合格シタル者ハ再度之ニ就キ試験スルコトナシ

一 修身口

一 入身生理口

一 漢文讀

一 日本歴史

一 日本地理

一 算術

一 習字

第八條 教義學科試験ハ二種以上ヲ高等トシ三種以下ヲ尋常トス

第九條 試験問題ハ各科目ニ就一問題ト定メ各科百點ヲ滿點トシ平均六十點ヲ及第

トシ八十點以上ヲ甲トシ七十九點以下ヲ乙トシ甲ヲ正ニ配シ乙ヲ權ニ配ス

一科若シ四十點未滿ナレハ落第トス

第十條 新補試験ハ十三級以下トス

但高等官ト成ルヲ得ルモノハ六級以下判任官ト成ルヲ得ルモノハ十級以下ノ試

験ヲ受ルコトヲ得

第十一條 昇級試験ハ二箇年以上現職ニ在ル者ノ外受験ヲ許サス

第十二條 昇級試験ハ越級ヲ許サス特ニ檢定委員ノ詮衡ヲ經テ試験ニ應スルヲ許ス

コトアルモ十二級ハ級六級ハ越級ヲ許サス

第十三條 正權大教正ハ試験ヲ要セス

但大教正七名權大教正十三名ニ超過スルヲ許サス

第十四條 認定ハ左項ノ一ニ該當スル者ニ限り教義學科普通學科ノ内試験ノ一部ヲ

免除シ甲部ハ七級ニ乙部ハ八級以下ニ丙部ハ十三級以下ノ教師ニ補命スルコトヲ

得

甲 部

一 項 神宮權禰宜以上官國幣社正權宮司ノ職ニ在リシ者

二 項 神宮皇學館本科ヲ卒業セシ者及皇典講究所學正タル者

以上教義學科試験ノ一部ヲ免除ス

乙 部

一 項 高等官タリシ者及其資格ヲ有スル者

以上普通學科試験ヲ免除ス

丙 部

一 項 神宮々々以上官國幣社主典以上ノ職ニ在リシ者

二 項 神宮皇學館專科卒業者及皇典講究所五等司業以上ノ者

三 項 滿十年以上府縣社以下ノ神職ニ在リシ者

百九十九

四項 教義ニ關スル著述ヲ爲シ學術上顯著ナル成績アル者  
五項 十年以上本管ノ教徒ニシテ布教ニ熱心シ顯著ナル功績アル者

以上教義學科試験ノ一部ヲ免除ス

六項 尋常師範學校尋常中學校以上公立學校ヲ卒業セシ者  
七項 判任官タリシ者及其資格ヲ有スル者

以上普通學科試験ヲ免除ス

第十五條 教師ニシテ左項ノ一ニ該當スル者ハ一級ヲ進ムルコトヲ得  
一 現級滿三年以上勤務シ其功績顯著ナル教務廳課長及各教會長以上ノ者

二 教義ニ關スル有益ノ著述ヲ爲シタル者  
三 現級滿四年以上勤務シ其功績顯著ナル者

第十六條 本教々師タリシ者ニシテ再ヒ本教ニ復職セント欲スル者又ハ神道他教派  
ノ教師タリシ者ニシテ本教ヘ附屬セント欲スル者明治十七年八月十一日以前教導  
職タリシ者ハ教義學ノ一部及普通學ノ全部ヲ免除シ原級以下ニ補スルコトヲ得

第十七條 試驗ハ教務廳ニ於テ隨時之ヲ行フ

第十八條 試驗ハ檢定委員總長及檢定委員之ヲ審案シ其成績ヲ管長ニ申告ス

第二章 試驗

第十九條 地方ニ於テ試験ノ必要アルトキハ檢定委員總長及檢定委員ヨリ申請シ特  
ニ管長ノ許可ヲ受ケヘシ  
第二十條 地方ニ於テ執行スル試験ハ檢定委員長及檢定委員其口述及講讀行爲ニ關  
スルモノヲ審案シ其成績ヲ檢定委員總長ニ報告シ其筆答筆記ニ關スルモノハ之ヲ  
取纏メ直ニ檢定委員總長ニ送附スルモノトス  
第二十一條 前條ノ場合ニ於テ檢定委員總長ハ檢定委員ト共ニ筆答筆記ヲ審案シ其  
成績ヲ地方檢定委員長ヨリ報告シタル成績ト通算シ其成績ヲ管長ニ申告スルモノ  
トス  
第二十二條 試験問題ハ檢定委員總長之ヲ定ム  
第二十三條 試験ハ檢定委員三分ノ二以上出席スルニアラサレハ之ヲ施行セス  
第二十四條 檢定試験ニ關スル一切ノ書類ハ教務廳ニ保存スルモノトス  
第三章 檢定委員  
第二十五條 教務廳ニ檢定委員總長一名檢定委員五名ヲ置ク  
第二十六條 地方ニ於テ試験場ヲ設ケルトキハ一箇所毎ニ檢定委員長一名檢定委員  
三名以上五名以内ヲ置ク  
第二十七條 檢定委員總長ハ三級以上ノ教師委員長及委員ハ六級以上ノ教師及學術

専門ノ者ニ就キ管長ノ特選ヲ以テ之ヲ命ズ

第二十八條 檢定委員總長及檢定委員長ハ管長ノ監督ヲ受ケ檢定ニ關スル事務ヲ處理シ及疑義ヲ判決ス

第二十九條 檢定委員總長ハ六級以上教師ノ試験ト教務廳内ノ試験及地方ニ於テ施行シタル筆答筆記ニ關スル試験及教師ノ認定ヲ爲シ檢定委員長ハ其地方ノ筆答筆記ニ關スルモノヲ除クノ外七級以下教師ノ試験及認定ヲ爲ス

第三十條 地方ニ於テ六級以上教師ノ試験ヲ行フノ必要アルトキハ管長ハ檢定委員總長ヲ其地方ニ派遣シ檢定試験ヲ行ハシムルコトアルヘシ

第四章 立會人

第三十一條 檢定委員試験ヲ正確ニ施行スルヤ否ヤヲ監査スルカ爲ニ管長ハ八級以上ノ教師ヲ立會人ニ定ム

第三十二條 立會人ハ試験ニ臨監シ試験終了シタルトキハ直ニ試験ノ實況ヲ管長ニ報告スルモノトス

第五章 懲戒

第三十三條 檢定委員立會人教務廳職員其他教師ニシテ試験問題ヲ受験者ニ漏洩シ若クハ密示シタルモノハ其情狀ニ依リ職員及教師ニアリテハ免職若クハ降級ニ處

シ受験者ニアリテハ其試験ヲ無効トシ終身受験セシメサルモノトス

第二十四條 檢定委員不當ノ檢定ヲ爲シ又ハ立會人試験ノ實況ニ付虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキハ前條ノ例ニ依ル

第六章 附則

第三十五條 教規其他ノ規則ニ依リ従前教師ノ分限及等級ヲ授與セラレタルモノハ引續キ其職ニ在ルコトヲ得

第三十六條 従前ノ教規及規則ニシテ此條規ニ抵触スルモノハ總テ廢止ス

神習教々規

明治十七年八月太政官第十九號御布達ニ基キ別冊之通教規並附錄教約撰定仕永遠當  
教之通規例格ト相定メ度候條至急御認可相成度此段上申仕候也  
明治十八年十二月廿五日

神習教管長 芳村 正 秉 印

內務大臣伯爵 山縣 有 朋 殿

(指令朱書)

割 印  
書面之趣認可候事

明治十九年二月二日

內務大臣伯爵 山縣 有 朋 印

### 神習教々規

○教規緒言三則

一 謹テ按スルニ我が

皇朝惟神ノ道不言ノ教其ノ之ヲ傳ルコト尙矣抑モ斯道ハ我が

天神中主神ノ造化ニ始リ高皇產靈神神皇產靈神ノ氣化ニ行レ伊弉諾尊伊弉册尊ノ

体化ニ成リ

天照大御神之ヲ

皇孫尊ニ傳フ即チ

歷朝ノ儀典ニシテ而シテ之ヲ我が大中臣家ニ傳ヘ奉事セシム（饒速日命大國主命

少彥名命ノ遺傳モ亦道中ニ存在シテ遺漏有ルコトナシ）今ヤ教内ノ事之ヲ管長ニ委

任セラル（明治十七年八月太政官第十九號ノ御布達ヲ以テ教導職ヲ廢止セラレ之

ヲ管長ニ委任セラル）即チ之ヲ本源トシ之ヲ神習シ而シテ

天皇ノ法令ヲ遵守シ將ニ斯道教ヲ天下ニ宣揚セムトス即チ之ヲ宣布スルニ當テ其

施行ノ教規ヲ立テ以テ之ヲ類別ス

一 其施行ノ教規タル教内ニ神事局。宣教局。祝部局。辦事局。ノ四局ヲ置キ其局内一般

ノ務ニ執筆ス

一 神事ハ道教ノ由テ生ル處ナリ故ニ首ニ此局ヲ置キ大凡神事ニ關スル一般ノ事項ヲ

蒐規ス

○ 宣教ハ道教實施ノ急務ナリ次ニ此局ヲ置キ總テ布教ニ關スル全体ノ事項ヲ集規

ス○ 祝部ハ人ノ大故ナル葬儀ヲ行フ要務ナリ次ニ此局ヲ置キ葬事ニ關スル總体ノ

事項ヲ蒐規ス○ 辦事ハ道教實施上教内萬般ノ事務有リ次ニ此局ヲ置キ其事務ニ關

スル一切ノ事項ヲ採規ス以上之ヲ教規トシ之レニ次クニ教約ヲ附録トシ實際ノ施

行ニ便ニシ併テ以テ神習教内一般ノ通規トス

神習教管長芳村正秉識



神習教々規

第一章 神事總規

第一條 神事ハ天神地祇ノ神律記紀ニ典歷朝ノ儀範我が大中臣家ノ遺訓相傳ニ則リ之ヲ施行スル事

第二章 神事細規

第二條 天津神國津神ヲ祭祀シ神事ヲ神習執行スル事

- 一 混沌未分ノ傳
- 一 天地剖判ノ傳
- 一 天之御柱ノ傳
- 一 二神御柱廻ノ傳
- 一 吐普加美依身多米ノ傳
- 一 太占ノ傳
- 一 日月星産ノ傳
- 一 國産ノ傳
- 一 草木産ノ傳

- 一 高天原ノ傳
- 一 夜見國ノ傳
- 一 大八洲國ノ傳
- 一 天地旋轉ノ傳
- 一 造化氣化体化ノ傳
- 一 地球外ノ傳
- 一 南北極ノ傳
- 一 國ノ御柱ノ傳
- 一 大八洲繫維ノ傳
- 一 八種化生ノ傳
- 一 掛卷ノ傳
- 一 息吹ノ傳
- 一 身禊ノ傳
- 一 祓除ノ傳
- 一 左右洗眼ノ傳
- 一 八華鏡圓鏡ノ傳

- 一 日文ノ傳
- 一 十種神寶ノ傳
- 一 神人成格ノ傳
- 一 八足臺滑米ノ傳
- 一 祈禳禁厭ノ傳
- 一 探湯式ノ傳
- 一 鎮火式ノ傳
- 一 御勤事ノ傳
- 一 布留部ノ傳
- 一 日貴目ノ傳
- 一 日貴目鳴絃ノ傳
- 一 御符神祕符ノ傳
- 一 御幣四垂ノ傳
- 一 降神昇神ノ傳
- 一 神殿御裝束ノ傳
- 一 庭上神坐布設ノ傳

- 一 神主ノ傳
  - 一 審神者ノ傳
  - 一 鎮靈ノ傳
  - 一 物忌ノ傳
  - 一 別火ノ傳
  - 一 二喰ノ傳
  - 一 齋能美屋ノ傳
  - 一 鎮魂ノ傳
  - 一 神拜ノ傳
- 以 上
- 第三條 神習教本祠ノ祭神ヲ表名鎮祭スル事
- 一 天御中主神
  - 一 高皇產靈神
  - 一 神皇產靈神
  - 一 伊弉諾尊
  - 一 伊弉冉尊

- 一 天照大御神
  - 一 歷代皇靈神
  - 一 天津神國津神
  - 本祠相殿祭神
  - 一 國常立尊
  - 一 大國主命
  - 一 少彥名命
  - 以上三神ヲ御嶽三柱ノ大神ト稱ス
  - 一 饒速日命
  - 一 底筒男命
  - 一 中筒男命
  - 一 表筒男命
- 以上
- 第四條 宮中賢所ノ大神ヲ遙拜スル事
- 第五條 祭禮神事ヲ施行スル事
- 一 諸祭禮諸祭事及體操ヲ執行ス

- 一 諸神事ヲ施行ス
  - 一 天津神國津神ノ分位ヲ限定ス
  - 一 靈號ヲ贈リ崇禮ヲ鎮祭ス
  - 一 祈禳禁厭ハ我が大中臣家ノ神傳ヲ以テ之ヲ施行ス
  - 一 幽顯守護神系ヲ授與ス
  - 一 本祠ヨリ札守神符神供神水等ヲ授與ス
  - 一 本祠ヨリ靈代ヲ授與ス
- 以上
- 第三章 宣教總規
- 第六條 惟神ノ道ヲ宣揚シ惟神ノ國体ヲ恢復スル事
- 第四章
- 第七條 惟神之道不言ノ教ヲ宣揚申明スル事
- 一 惟神ノ道ヲ申明ス
  - 一 幽顯一致ノ理ヲ申明ス
  - 一 神人威格ノ理ヲ申明ス
  - 一 四魂ノ(和魂荒魂奇魂幸魂)理ヲ申明ス

- 第八條
- 一 魂心氣ノ理ヲ申明ス
  - 一 神氣凝散轉旋ノ理ヲ申明ス
  - 一 生死ノ理ヲ申明ス
  - 一 神魂靈魄賦與歸着之理ヲ申明ス
  - 一 禍津日ヲ矯正シ直毘ニ復歸ス
  - 一 顯世ノ權限ヲ減損シ幽世ノ權限ヲ增益ス
  - 一 飲食ヲ轉換シ氣質ヲ變化ス
  - 一 嗜欲ヲ節減シ身命ヲ保養ス
  - 一 家靈ヲ敬祭シ子孫ヲ蕃息ス
  - 一 姓氏ヲ審辨シ事業ヲ獎勵ス
  - 一 凶禍ヲ移轉シ吉祥ヲ祈請ス
  - 一 典籍ヲ講習シ物理ヲ研精ス
- 以上
- 惟神之國体ヲ依張スル事
- 一 神集神謀之傳
  - 一 瑞積國ノ傳

- 第九條
- 一 國之御柱ノ傳
  - 一 寶祚無窮ノ傳
  - 一 皇孫尊降臨ノ傳
  - 一 三種之神寶ノ傳
  - 一 日神御血統ノ傳
  - 一 十六菊章ノ傳
  - 一 日章ノ傳
  - 一 天津日嗣ノ傳
  - 一 天疎向津姬撞賢木嚴靈守護ノ傳
  - 一 五部神配侍ノ傳
- 第十條
- 一 寶祚ノ無窮國運ノ隆旺ヲ祈願スル事
  - 一 皇室邦家ノ安寧幸福ヲ祈禳ス
  - 一 玉體ノ健全壽福ヲ祈禳ス
  - 一 皇族華族百官有司及人民ノ寧福ヲ祈禳ス
  - 一 天地燮和五穀豐饒ヲ祈禳ス
  - 一 邦家ノ禮典ヲ修明執行スル事

- 一 君臣上下ノ禮儀ヲ申明ス
- 一 男女長幼尊卑ノ禮節ヲ申明ス
- 一 吉禮凶禮ノ式法ヲ申明ス
- 一 冠婚ノ禮式ヲ申明ス
- 一 男女頭髮衣服ノ制ヲ申明ス
- 一 諸ノ儀式ヲ申明ス

第五章 祝部總規

第十二條 葬儀靈祭ヲ施行スル事

第六章 祝部細規

第十二條 葬儀葬運靈祭ヲ執行スル事

- 一 祝部ノ傳
- 一 不淨ヲ祓除ス
- 一 幽冥守護ノ神系ヲ授與ス
- 一 獻幣宣告ノ禮ヲ執行ス
- 一 靈號ヲ贈與ス
- 一 葬具ヲ指示ス

一 入棺ノ品物ヲ指示ス

但邦家ノ財寶ヲ入棺スルヲ許サス

一 墓形墓表ヲ指示ス

一 忌服ノ制ヲ申明ス

一 七十五日祭ヲ行ヒ靈魂ヲ鎮祭ス

一 年月日ノ靈祭ヲ執行ス

一 靈舎ヲ指示ス

一 靈祭ノ年月日ヲ申明ス

一 祠宇内ニ靈駕ヲ設置ス

以上

第七章 辨事總規

第十三條 教内ノ事務ヲ總理スル事

第八章 辨事細規

第十四條 教内ノ統紀一切ノ事務ヲ執行スル事

一 教名ヲ神習教ト稱シ其祠宇ヲ神習教本祠ト稱シ一教ノ事務ヲ總轄スル所ヲ神習教大教廳ト稱シ之ヲ東京ニ設置ス

但廳内ニ神事宣教祝部辨事ノ四局ヲ設ケ分掌ス  
 一大教廳内ニ從來御嶽教會ヲ置キ該會一切ノ教務ヲ總理ス  
 一各地方ニ本祠本教出張所分祠及ヒ直轄教會所分支教會所講社事務取扱所ヲ  
 設立シ其部内一切ノ教務ヲ整理ス尤モ該所ニ一等ヨリ五等迄ヲ置キ之ヲ區  
 分ス

第十五條

但本條設立廢合移轉ノ義ハ明治十七年十月三十日內務省戊第二號布達ニ  
 照準ス  
 祠宇境内ニ齋館美屋ヲ建設スル事  
 但前條款但書ニ照準ス

第十六條

管長ヲ定ムル事  
 一管長ハ現在管長ノ子孫ヲ以テ永遠傳統スル者トス若シ子孫之レ無キ時ハ其  
 血統ヲ以テ之ヲ定メ前管長ノ高弟子之ヲ補翼スル者トス  
 但前管長ヨリ神事道統ヲ相傳シ學術德望アル者  
 一管長ハ前管長之ヲ撰定捺印シ教内高級ノ教師二名以上加印シテ其認可ヲ請  
 フ

第十七條

管長ハ教務一切ヲ擔任總理スル事

一神事道統教旨學術ヲ傳教ス

一祭事祭禮禮儀神拜ノ舊式ヲ傳教ス

一教師ヲ進退シ職員ヲ任免ス

一教會ヲ開設シ講社ヲ結集スル者ニ其名稱ヲ許ス

一教内ニ於テ祈禱禁厭ヲ爲ス者ニ免許狀ヲ授與ス

一教級ヲ授ケ靈號ヲ撰定ス

一神拜詞祝詞ヲ撰定纂述ス

一教師ノ禮服ヲ指定ス

一教規教約ヲ撰定シ或ハ刪補シ其允可ヲ請フ

一教師教子ノ諸請願ヲ指揮ス

一修道專門學校及ヒ教義普通學校ヲ設立ス

一教旨教書ヲ編述ス

第十八條

教師ヲ教正講義訓導ト稱シ職員ヲ神教使。祝部。辨事。ト稱スル事  
 一教正ヲ正權大中少ノ六級ニ分ツ  
 一講義ヲ正權大中少ノ六級ニ訓導ヲ正權二級ニ別ツ  
 一教導職試補ヲ置キ教師教級十五級ニ當ツ



一 神教使ニ一等ヨリ十六等迄ヲ置キ神事宣教ノ事ヲ掌トラシム  
 但教師ヲ以テ之ニ當ツ

一 祝部ニ一等ヨリ八等迄ヲ置キ葬儀ノ事ヲ掌ラシム  
 但教師ヲ以テ之ニ當ツ

一 辨事ニ一等ヨリ八等迄ヲ置キ事務ヲ掌トラシム  
 但辨事ハ教師外ノ者モ之ニ當ツ

一 教級ニ一級ヨリ八級迄ヲ置キ神教子ニ授ク  
 一 教子中ニ大社長權大社長正副社長正副取締世話掛ヲ置キ講社中ノ事務ヲ掌  
 ラシム

一 本教ニ信徒スル者ヲ汎稱シテ教子ト云ヒ神文ヲ呈出スル者ヲ神教子ト云フ

第十九條 教師ハ試験法或ハ管長ノ特撰ヲ以テ進退スル事

一 神事學術優等ニシテ事理ニ通曉スル者

一 品行方正ニシテ人ノ師表タルベキ者

一 德行有テ宣教ニ熱心ノ者

一 物忌行法ヲ履行シ神理ヲ自得スル者

一 教導職試補ハ教義篤志ニシテ向來望ミアル者

第二十條 職員ハ擧或ハ管長ノ特撰ヲ以テ進退スル事

一 神教使ハ神事宣教ノ事ニ特達スル者

一 祝部ハ葬儀ノ事ニ通達スル者

一 辨事ハ事理法律筆算世態ニ通シ懇切ナル者

第二十一條 教師職員ハ神事宣教葬儀事務ヲ成規例格ニ從ヒ分掌スル事

一 神事學術ヲ脩明シ教子生徒ヲ教導ス

一 信徒教子ヲ募集シ講社ヲ結集ス  
 但結社ハ教約中教務規約ニ準據ス

一 神事祭禮及ヒ冠婚葬祭靈祭等ノ諸式ヲ執行ス

一 神禮ヲ奉シ各地ヲ巡教ス

一 文書記録庶務會計ヲ分掌ス

一 教導職試補ハ教務ヲ練習施行ス

一 本教施設上若シ有益有害ノ事アラハ共ニ管長ニ具申ス

第二十二條 本祠出張所分祠直轄教會所分支教會所講社事務取扱所及ヒ教導職教子  
 等ニテ本祠再建營繕費本教教費永續費ヲ負擔スル事

第二十三條 教導職ノ禮服ヲ撰定スル事

一教師ハ齋服袴衣直垂淨衣格衣ノ五品ヲ以テ禮服トシ其階級ヲ定メ管長之ヲ指示ス

第二十四條 報本反始ノ典ヲ舉ケ慎終追遠ノ實ヲ表シ皇化ヲ翼賛シ民徳ヲ歸厚スル事

事

一邦家ニ大勳有テ其巧徳民庶ニ光被スル神靈ハ其靈祠ヲ建テ之ヲ鎮祭シテ尙邦家安寧ノ冥福ヲ希圖ス

但靈祠設立ハ其筋ヘ出願ス

一國益ノ爲ニ身命ヲ天シ或ハ國事ニ体軀ヲ斃シ無慮ノ靈ハ之ヲ鎮祭シ其冥福ヲ祈念シ邦家ヲ鎮護ス

第二十五條 博施濟衆ノ方ヲ設ケ厚生利用ノ道ヲ圖ル事

一山海ノ遺利ヲ興シ農魚ノ裨補ヲ謀ル

一衛生ノ方ヲ講シ疾病ヲ未萌ニ防ク

一道路橋梁ヲ經營シ行路ノ便益ヲ謀ル

一感化院救濟院貧病院等ヲ興設ス

一文部省學則ニ照準シ教子講社中ニ小學校ヲ設立ス

第二十六條 名勝舊跡古代ノ建造物ヲ保持スル事

第二十七條 古今治教宗教制度文物ノ沿革ヲ商量纂述スル事

第二十八條 自他教派ノ紛糾ヲ未萌ニ慎省シ邦家ノ安寧ヲ希圖スル事

以上

右條款ヲ以テ神習教規トス

附錄 規 神習教 教約

- 神習教約中別テ五種トス
- 其一ヲ神事内外傳修業規約トス
- 其二ヲ教導職試験規約トス
- 其三ヲ教務規約トス
- 其四ヲ祈禱禁厭免許規約トス
- 其五ヲ懲戒規例トス

神習教約

附錄 神習教教約

○神事内外傳修業規約

第一章 總 規

一我皇朝ノ神事其傳ルヲ尙矣  
天孫降臨ノ時天上ヨリ神傳スル有リ又饒速日命降世ノ時天上ヨリ神傳スルアリ又  
大己貴命少彥名命ヨリ相傳スル有リ以上ノ三傳即歷朝ノ儀典ニシテ(歷朝天皇天  
神地祇ヲ敬祭シ玉ヒ又神祇官ノ設アリ又神主祝部呪禁博士呪禁師等ヲ置レタルヲ  
以テ見ルヘシ)而シテ悉ク我大中臣家ニ傳リ以テ之ヲ繼承護持ス其神事タル所謂  
不言ノ教ニシテ即我惟神ノ道ノ由テ出ル所ナリ斯道獨リ我皇國ニ在リテ而シテ未  
曾テ他ノ國ニアルヲ聞カズ今之ヲ神習スル者勇進勵精勉メテ已マザレハ其神事内  
外傳全科ヲ相傳シ而シテ造化氣化体ノ三化ヲ始メ神祕ノ蘊奧ヲ極ムルヲ得ベシ

第二章

一神事ヲ相傳修業スルニ當テヤ尤物忌法祓除法ヲ勵行シ食色飲酒ヲ節シ嗜欲ヲ屏ケ  
洗心養氣以テ天地ノ御柱ト對峙シ天地ノ神氣ト來往シ神人和融スルノ神機ヲ默契  
ス可シ

第三章

一我惟神ノ道教タル幽顯一致ナルカ故ニ眼ヲ開キテハ顯世ノ顯理ヲ觀察シ眼ヲ閉テ  
テハ幽世ノ幽理ヲ見證シテ天地萬物ノ神理ヲ默識神通實踐行スルニ在リ之ヲ學  
習スル者其性ノ近キニ因リテ或ハ顯理而已ニ拘リ或ハ幽理而已ニ泥ミ一隅ヲ舉テ  
以テ小成ニ安ンス可ラス

第一條 細 規

一神事内傳ノ相傳ヲ受ケント欲スル者ハ先ツ誓書ヲ差出シ而シテ後就業スベシ○神  
事外傳ノ傳授ヲ乞フ者ハ入門書ヲ差出シ脩行スヘシ

第二條

一神事ヲ行フニ至リテハ戒慎惕若シ苟モ他言スヘカラス如何トナレハ神機ヲ漏洩ス  
ルト又人ヲ誤ルト躓等ノ弊トノ恐レアレハナリ

第三條

一神事内傳ヲ八科ニ分子神事外傳ヲ八級ニ分子粗ヨリ密ニ淺ヨリ深ニ入り終ニ道ノ  
本源ニ達セシム其科級次第左ノ如シ

第四條

一 神事外傳 第八級

○一行身禊ノ傳 相傳自修

○大諄詞ノ傳 同

○造化詞唱ヘノ傳 同

○一物忌ノ傳 同

○神事外傳 第七級

○二行身禊ノ傳 相傳自修

○二物忌ノ傳 同

○身禊祓詞ノ傳 同

○息吹ノ傳 同

一 神事外傳 第六級

○三行身禊ノ傳 相傳自修

○三物忌ノ傳 同

○大祓詞ノ傳 同

○息吹ノ傳 自修

一 神事外傳 第五級

○四物忌ノ傳 相傳自修

○神拜詞ノ傳 同

○御幣ト申ノ傳 同

○息吹ノ傳 自修

一 神事外傳 第四級

○五物忌ノ傳 相傳自修

○神拜式ノ傳 同

○金木ノ傳 同

○四垂ノ傳 同

○息吹ノ傳 自修

一 神事外傳 第三級

○六物忌ノ傳 相傳自修

○卷太麻行事ノ傳 同

○祓式ノ傳 同

○五元神御幣ノ傳 同

○息吹ノ傳 自修

一 神事外傳 第二級

- 七物忌ノ傳 相傳自修
  - 別火ノ傳 同
  - 鹽水行事ノ傳 同
  - 神坐御裝束ノ傳 同
  - 神饌ノ傳 同
  - 息吹ノ傳 自修
- 一 神事外傳 第一級
- 八物忌ノ傳 相傳自修
  - 八方金木清米ノ傳 同
  - 八方火清米ノ傳 同
  - 祈禱坐法ノ傳 同
  - 守護神方面ノ傳 同
  - 二鏡備ノ傳 同
  - 息吹ノ傳 自修
  - 二嘘ノ傳 相傳自修

以上

一 神事內傳 第五條 第一科

- 九物忌ノ傳 相傳自修
  - 祓除ノ傳 同
  - 內部物忌ノ傳 同
  - 身觀祓詞ノ傳 同
  - 祈禱禁厭ノ傳 同
  - 八足清米ノ傳 同
- 一 神事內傳 第二科
- 十物忌ノ傳 相傳自修
  - 最要祓詞ノ傳 同
  - 內部物忌ノ傳 同
  - 探湯式ノ傳 同
  - 祈禱禁厭ノ傳 同
  - 八足清米ノ傳 同



一神事內傳

第三科

○十一物忌ノ傳

相傳自修

○內部物忌ノ傳

○國産之傳

○日文之傳

○祈禱禁厭ノ傳

○八足清米ノ傳

一神事內傳

第四科

○十二物忌ノ傳

相傳自修

○內部物忌ノ傳

○草木産之傳

○鎮火之傳

○祈禱禁厭ノ傳

○八足清米ノ傳

○日月星産ノ傳

一神事內傳

第五科

○十三物忌ノ傳

相傳自修

○內部物忌ノ傳

○混沌未分之傳

○天地剖判之傳

○八足清米ノ傳

○崇神祭之傳

一神事內傳

第六科

○十四物忌ノ傳

相傳自修

○內部物忌ノ傳

○天御柱ノ傳

○二神御柱廻之傳

○造化詞ノ傳

○太古之傳

○八足清米ノ傳

○左右洗眼ノ傳

○鎮靈之傳

同

一神事內傳 第七科

- 十五物忌ノ傳
- 高天原之傳
- 夜見國之傳
- 國御柱ノ傳
- 大八洲國ノ傳
- 天地旋轉ノ傳
- 造化氣化体化ノ傳
- 降神身神式ノ傳
- 神主ノ傳
- 審神ノ傳
- 大八洲繫維ノ傳
- 八足清米ノ傳
- 一神事內傳 第八科
- 十五物忌ノ傳
- 南北極ノ傳

相傳自修

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 相傳自修

- 十種神寶ノ傳
- 登杵呂許志ノ傳
- 神人威格之傳
- 掛卷之傳
- 日岐目之傳
- 同鳴絃之傳
- 齋能美屋ノ傳
- 御柱事物ニ有ル之傳
- 布留部之傳
- 鎮魂之傳
- 地球外之傳

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

以上

附錄 神習教教約

○教導職試檢規約

第一章 總 規

一 凡神道教導職タル者其職任ニ堪ルハ甚タ重ク且ツ難シ矣我惟神ノ道ヲ窮メ我神習ノ業ヲ修メ而シテ幽顯ニ途ニ貫通セザレハ其職ニ適ヒ其任ニ堪ル者ト謂ベカラス今其道ヲ學フ豈又容易ナランヤ其法宜シク我皇朝固有ノ神事ヲ神習シ記紀ニ典ノ真理ヲ講明シ天地事物ノ真理ヲ審辨シ而テ后幽顯一致ノ妙境ニ至ルベク又傍ヲ諸哲學ノ蘊奧ヲ研精シ以テ斯道ヲ培養スベキ也然リ而シテ道之玄邈ナル教之曠大ナル博ク學テ方無シト雖正然レモ亦其目的ヲ極定シ歸着ヲ確守セザル可ラス因テ博ヲ約シ繁ヲ簡ニシ本教ノ旨趣ニ據リ試験及第ノ法ヲ設ケ以テ其職ニ補シ斯道ヲ擔任セシム

第二章 全

一 我皇國ハ惟神育舉セザル國体ニシテ所謂不言ノ教ナレハ應試就職スル者斯道ヲ實驗實行シ身ヲ以テ人ヲ教化スルニ在リ彼ノ舞文弄筆空談虛飾ノ弊ニ流ルハ此教ノ尤モ深ク戒ムル所ナリ

第三章 全

初テ教導職タルヲ欲スル者ハ先ツ終身教導職ニ從事シ志操變セサル旨ノ保証書ヲ親戚朋友ヨリ差出シ應試及第シテ就職スベシ○試験ノ法博文浩翰ナル書籍ト悟心修道ノ造詣トヲ一々試問スル能ハズ因テ斯道ニ切實簡約ナル神事内外傳ノ科級并ニ記紀ニ典神道三要神道提要等ヲ以テ試験法ノ十六科ヲ設ケ應試及第スル者ヲ採補ス其次第左ノ如シ

教師檢定規則

本年五月第九號ヲ以テ教師檢定方法可伺出旨訓令有之候ニ付左ノ通り教規中試驗方法改正増補シ細則理由書相添へ上申仕候間至急御認可被下度候也

明治廿八年十一月

神習教管長 芳村正秉 印

内務大臣子爵野村靖殿

(朱書)

書面願之趣認可ス

印 割

明治廿八年十二月十三日

内務大臣子爵野村靖 印

教師檢定規則

### 教師檢定規則

#### 第一章 資格

第一條 本教々師タラント欲スル者ハ品行方正ニシテ終身本教ノ教導ニ從事スルノ志望ヲ有シ試験ニ合格スル者ヲ以テ補命ス

第二條 左ニ掲グル事項ノ一ニ觸ル者ハ教師タル事ヲ得ス

- 一 年齢廿歳未滿ノ者
- 二 重罪其他悖德醜行ノ犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ改悛ノ實ナキ者
- 三 家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ復權又ハ辨償ノ義務ヲ終フルト雖モ一ケ年ヲ經過セサル者
- 四 本教又ハ他教派ニテ懲戒ニ依テ免職セラレ改心ノ實ナキ者及改心ヲ表スト雖モ二ケ年ヲ經サル者

#### 第二章 檢定種目

第三條 教師檢定ヲ分ツテ左ノ二種トス

第一種 試験

第二種 認定

第四條 第一種ノ試験ヲ分ツコト左ノ如シ

#### 第一 普通學試験

#### 第二 神事及道學試験

第五條 普通學試験科目左ノ如シ

但此試験ニ合格シタル者ハ再ビ普通試験ヲ爲ス事ナシ

- 一 國體 口述
- 一 倫理 筆記
- 一 國文 筆記
- 一 漢文 講讀
- 一 歴史 筆記
- 一 地理 筆記
- 一 作文 筆記
- 一 習字 筆記
- 一 算術 筆記

第六條 神事及道學ノ試験科目ハ左ノ七科ニ分テ優等者ヲ甲級ニ補シ尋常者ヲ乙級ニ補ス

但第七科ノ試験ハ甲乙ノ別ヲ設ケス。

神事道學試驗科目表

學科等級	神事試行	暗誦	誦讀	講義			講義書	作文	祝文	祝教	祝歌	作樂
				神道提要	萬葉集	古事記						
學科一級	神事內傳											
學科二級	全											
學科三級	全											
學科四級	全											
學科五級	全											
學科六級	全											
學科七級	全											
學科八級	全											
學科九級	全											
學科十級	全											
學科十一級	全											
學科十二級	全											
學科十三級	全											
學科十四級	全											
學科十五級	全											

二百四十一

第七條 試驗科目中神事内外傳ハ本教ニ於テ修業ヲ爲サスト雖モ多年神事ヲ修シ自得ノ實アル者ハ委員ノ試験ヲ以テ神事試行ノ各級科ニ照準シ採用スルモノトス

第八條 試験ノ順序ハ初メ普通學試驗ヲ爲シ次ニ神事及道學ノ試験ヲ爲ス受験者若第一ノ試験ニ合格セサル時ハ第二ノ試験ヲ受ケル事ヲ得ス

但第一ノ試験ニ合格シ第二ノ試験ニ不合格トナリタル時ハ普通試験ノ合格証ヲ請求シ滿六ヶ月以上ヲ經過シ修業進學ノ上應試スル事ヲ得

第九條 新補試験ハ十三級以下トス

但高等官タリシ者又ハ高等官タルノ資格ヲ有スル者ハ六級以下列任官タリシ者又ハ列任官タルノ資格ヲ有スル者ハ十級以下ノ試験ヲ爲ス事ヲ得

第十條 教師六級以上ノ試験ヲ爲サントスル時ハ委員總長ヨリ管長ヘ具申シ豫メ聽許ヲ得ル事ヲ要ス

第十一條 昇級試験ハ現級滿二年ヲ經過シ十二級以下ノ者ハ十二級ヲ越ユルヲ許サス九級以下ノ者ハ九級ヲ越ユルヲ許サス六級以下ノ者ハ六級ヲ越ユルヲ許サス

但現級六級九級十二級ノ三者其一ニ在ルキハ越級ヲ許サス

第十二條 檢定第二種ニ屬スル認定ハ左ノ數項ニ之ヲ分ツ

一 一級二級ノ教師ヲ補命スルハ試験ニ依ラス管長ノ特選ニ任ス但一級八名二級

二百四十三



十八名トシ關員アルニ非レバ補任セズ

二 一度本教ノ教師タリシ者ニシテ職ヲ辭シ再教師ニ復サントヲ願者ハ情狀ヲ審察シ試験ニ依ラスシテ原等級以下ノ教師ニ補スル事ヲ得

三 明治十七年八月十一日以前教導職タリシ者及他教派ノ教師タリシ者ニシテ更ニ本教教師タラムトヲ志願スル者ハ試験ノ一部或ハ全部ヲ免除シ原等級以下ノ教師ニ補スルコトヲ得

第十三條 二年以上本教ノ神事内外傳ヲ修業シ其八級八科ノ全部ヲ卒業スル者ハ試験ニ依ラス七級以下ノ教師ニ補スルコトヲ得  
但神事内外傳修業志願者ハ高等小學校卒業相當ノ學力ヲ備フル者ニ限ル

第十四條 左ニ掲グル條項ニ該當スル者ハ神事及道學ノ試験ヲ要セス普通學ノ試験ヲ爲シテ十二級以下ノ教師ニ補スルコトヲ得

一 五年以上祓除神法ヲ修業シ太占法祈禱禁厭法ヲ鍊達シ教導救濟ノ任ニ堪ユル者  
二 六年以上山籠シ神氣ニ通シ有神ノ實證ヲ顯シ身ヲ以テ人民ヲ感化救道スルノ任ニ堪ユル者

第十五條 左ニ掲グル條項ニ該當スル者ハ普通學試験ヲ要セス本教ノ主要ナル神事

及道學ノ一部或ハ數部ヲ試験シテ甲部ハ七級以下乙部ハ八級以下丙部ハ十三級以下ノ教師ニ補ス

甲 部

一 神宮權禰宜以上官國幣社宮司權宮司ノ職ニ在リシ者  
二 神宮皇學館本科ヲ卒業セシ者及皇典講究所學正ノ者

乙 部

一 高等官タリシ者及其資格ヲ有スル者

丙 部

一 神宮々掌以上官國幣社主典以上ノ職ニ在リシ者  
二 神宮皇學館專科卒業者及皇典講究所五等司業以上ノ者  
三 神道ノ教義ニ關シ有益ノ著述アル者  
四 滿十年以上府縣社以下ノ神職ヲ勤續シタル者

第十六條 左ニ掲グル條項ニ該當スル者ハ普通學試験ヲ要セス直ニ神事及道學ノ試験ヲ行ヒ十三級以下ノ教師ニ補ス

一 尋常中學校卒業生若クハ其學科程度ト同等以上ノ學校卒業生  
二 行政官吏判任官以上ヲ滿三年以上止勤務シタル者

三 小學校以上ノ教員ヲ滿三年以上勤續シタル者  
第十七條 本教々師ニシテ左ノ各項ノ一ニ該當スル者ハ一級ヲ進ムル事ヲ得

但進級ハ二回以上連續スルヲ得ス

- 一 本廳局課長ニシテ滿三年以上勤務シ功勞著シキ者
- 二 各教院教會所及講社事務所ノ主任者ニシテ滿三年以上勤務シ信徒ヲ結集シ功勞著シキ者
- 三 滿四年以上勤務シ布教傳道ニ功績アル者
- 四 教義道學ニ關シ裨益アル著述ヲ爲シタル者

第三章 試驗諸則

第十八條 試驗ハ本廳宣教局并各地方教院教會所ニ於テ隨時之ヲ執行ス  
但地方ノ狀況ニヨリ一縣下ニ數ヶ所二三縣下ニ一ヶ所ノ教院教會所ヲ以テ試驗場ニ充ツルコトアルヘシ

第十九條 前條豫定外ノ場所ニ於テ試驗ノ必要アル時ハ本廳ノ委員長及總長ノ合議ヲ具シ管長ノ聽許ヲ得テ開場スヘシ

第二十條 第二科以上ノ試驗ハ本廳ノ外他所ニ於テ執行スル事ヲ得ス  
但本廳委員長ニ於テ必要ト認ムル時ハ第十九條ノ例ニ倣ヒ本廳ノ委員ヲ派シテ

臨時セシムルハ本條ノ限ニ非ス

第二十一條 本教廳ニ於テ執行スル試驗ハ試驗委員及委員長之ヲ檢定シ其成績ヲ委員總長ニ報告シ委員總長ハ其評點ヲ審察シ之ヲ管長ニ報告ス

第二十二條 各教院教會所ニ於テ執行スル試驗ハ委員ハ受験者ノ講義口述ニ誦讀係分作業ニ係ル者ヲ檢案シ一々評點ヲ下シ意見ヲ附シ委員長ヨリ委員總長ヘ報告ス其筆記答案ニ係ル者ハ其儘一纏シテ委員總長ニ回附スル者トス

但普通學科ハ地方委員之ヲ檢定シ成績表ニ參考書類ヲ添附シテ委員長ヨリ委員長ニ進達シ指揮ヲ請フ可シ

第四章 試驗委員

第二十三條 本教廳宣教局ニ試驗委員總長一名試驗委員八名ヲ置ク  
第二十四條 各地方ハ本管長ノ必要ト認メタル教院教會所毎ニ各三名ノ委員一名ノ委員長ヲ置ク

但十八條但書ノ場合ニ於テハ一名ノ委員長ヲシテ數ヶ所ノ職務ヲ兼子シメ數名ノ委員ヲシテ數ヶ所ノ檢定事務ヲ兼子シムルコトアルヘシ

第二十五條 試驗委員總長ハ二級以上委員長ハ本廳ハ三級以上各地方教會所ハ五級以上委員ハ本廳ハ五級以上各地方ハ六級以上ノ教師中ヨリ管長之ヲ特選ス

第二十六條 試験委員總長以下ノ委員任期ハ各滿三年トシ期限ニ至リ尙職務ヲ繼續セシメントスル時ハ更ニ辭令ヲ發シテ之ヲ命ス

但時宜ニヨリ臨時委員ヲ設ク其指定シタル任期間ニ於テ三科以下ノ試験ヲ檢定セシムルヲアルヘシ

第二十七條 試験委員長ハ委員ヲ監督シ試験問題ヲ定ム委員若シ試験上偏倚ノ所爲アルカ又ハ行爲不適任ト認ル時ハ委員總長ヲ經テ管長ヘ解任ヲ申請スルヲ得

第二十八條 委員總長若クハ委員長疾病事故アル時ハ委員長若クハ首席ノ委員代リテ其職務ヲ行フ者トス

第五章 立會人

第二十九條 試験委員ノ試験ヲ正確ニ施行スルヤ否ヤヲ監査スル爲メ監長ハ時宜ニ依リ本廳ニ於テハ四級以上各教院教會所ニ於テハ六級以上ノ教師ヲ立會員トシテ試験場ニ臨席セシム

但時宜ニヨリ委員長ノ見込ヲ以本廳ハ神事局長宣教局長各教院教會所ハ其所長ヲ以テ立會人ニ換ユルヲ得

第三十條 立會人ハ試験場ニ臨監シ其試験終了シタル時ハ直ニ試験ノ實況ヲ委員總長ニ報告スヘシ

第六章 懲 戒

第三十一條 試験委員立會人或ハ本廳各教院教會所ノ職員又ハ教師ニシテ試験問題ヲ受験人ニ漏泄シタル時ハ職員教師ニ在テハ免職或ハ降級ニ處シ受験人ニ在テハ其試験ハ無効ニ歸シ十ヶ年間受験セシメサル者トス

第三十二條 試験委員不當ノ檢定ヲ爲シ又ハ立會人虚偽ノ報告ヲ爲シタル片ハ前條ノ例ニ據ル

第六章 附 則

第三十三條 教規教約ニ依リテ既ニ教師ニ補職セラレタル者ハ引續キ其職ニ在ルヲ得

但從來本教ノ教師ニシテ未ダ奉神文ヲ呈出セサル者ハ此際無洩差出スヘシ

第三十四條 此規則制定以後ノ補命進退ハ總テ此條規ニ依ル

第三十五條 此規則ニ抵觸スル從前ノ諸規則ハ爾後總テ消滅ニ屬ス

以上

教師檢定規則細則

第一條 本教ノ教師ダラント欲スル者ハ先ツ本教ニ信從スル爲メ奉神文(教規教約中第一條)ヲ呈出シ次ニ教師志願書(本教ニテ印シテ出シテ後試験ヲ受ク可シ)ヲ出シテ後試験ヲ受ク可シ

但己ニ奉神文ヲ出シ神教子タル者ハ此限ニ非ス

第二條 教師志願書ハ府下ハ本廳へ各地方ハ最寄ノ教院教會所へ差出ス可シ

但東京附近ノ地又ハ遠隔セル各地方ノ者ト雖本廳ニ於テ試験ヲ受ント欲スル者ハ其望ニ任ス

第三條 本廳及各教院教會所ハ教師志願書ヲ受タル片ハ其當否ヲ檢シ正當ト認ムル片ハ之ヲ委員へ交付シ受験人ニ向ツテ試験ノ時日ヲ報道ス可シ

第四條 普通學科試験ノ評點ハ每項一百點ヲ滿點トシ平均點八十點以上ニシテ各項

六十點以上ヲ得タル者ヲ合格トス

普通學科試験科目左ノ如シ

- 一 國體
- 一 倫理
- 一 國文
- 一 皇室典範
- 一 論語
- 一 徒然草
- 一 帝國憲法

- 一 漢文 文章範範
  - 一 歷史 日本通史 萬國新歷史
  - 一 地理 日本地理新書 萬國地理新書
  - 一 作文 公文體
  - 一 習字 楷行
  - 一 算術 四則
- 第五條 神事道學試験ノ評點ハ毎項一百點ヲ滿點トシ六十點以上ヲ得テ平均點數八十點以上ヲ甲級トシ以下ヲ乙級トシ六十點ニ滿タサル者ヲ不合格トス。
- 第六條 昇級試験ハ本人ヨリ本廳或ハ各地敎院敎會所ニ出願ス可シ。
- 但試験ノ階級ニヨリテ試験場ヲ分ツコト檢定規則第三章第廿條ノ例ニ依ル。
- 第七條 檢定規則第二章第十七條ノ進級ニ係ル者ハ其所管ノ敎會所又ハ本敎ノ敎師中ヨリ本廳ニ申請シテ命ヲ俟ツヘシ。
- 第八條 試験ハ規則及細則ニ規定シタル者ノ外傍聽ヲ許サス。
- 但本管長臨席シ又ハ管長特ニ參列ヲ許可シタル者ハ此限ニ非ス。
- 第九條 神事道學ノ試験ニ合格シタル者ハ別ニ合格證ヲ與ヘス直チニ補職ノ辭令書ヲ授與スヘシ。

第十條 試験ニ用ヒタル受験人ノ答案ハ本廳敎局ニ保存スル者トス  
以 上

神道提要二十八述題

- 第一 一天御中主神ノ神徳ヲ述フ
- 第二 高皇產靈神ノ神徳ヲ述フ
- 第三 伊弉諾尊ノ神徳ヲ述フ
- 第四 天照大御神ノ神徳ヲ述フ
- 第五 國常立尊ノ神徳ヲ述フ
- 第六 天津神國津神八百万神ノ神徳ヲ述フ
- 第七 歷代皇靈神ノ神徳ヲ述フ

神道提要二十八述題

- 第八 庶眞男命ノ神徳ヲ述フ
- 第九 天津神國津神分位ノ理ヲ述フ
- 第十 神明ニ敬事スベキ理ヲ述フ
- 第十一 無窮ノ國體ヲ依張スヘキ理ヲ述フ
- 第十二 祖靈ヲ敬祭スベキ理ヲ述フ
- 第十三 一人體化生ノ理ヲ述フ
- 第十四 神魂靈魄賦與ノ理ヲ述フ
- 第十五 四魂ノ作用ヲ述フ



- 一 魂心氣ノ活動ヲ述フ 第十六
- 一 神魂靈魄歸着ノ理ヲ述フ 第十七
- 一 神氣聚散轉旋ノ理ヲ述フ 第十八
- 一 生死ノ理ヲ述フ 第十九
- 一 衛生保命ノ理ヲ述フ 第二十
- 一 氣質ヲ轉化スル理ヲ述フ 第二十一
- 一 物忌ノ理ヲ述フ 第二十二
- 一 禰津日ヲ矯正シ直日ニ復歸スル理ヲ述フ 第二十三

- 一 神人感格ノ理ヲ述フ 第二十四
- 一 祈禱祭厭ノ理ヲ述フ 第二十五
- 一 祭祀葬祭ノ理ヲ述フ 第二十六
- 一 幽顯一致ノ理ヲ述フ 第二十七
- 一 惟神ノ道ヲ述フ 第二十八

教規 神習教教約 附錄

○教務規約

第一章 總規

一凡ノ教務ヲ執掌スルヤ誠實ヲ主トシ懇切丁寧以テ之ヲ導キ勝接勸奨以テ之ヲ施行スルニ在リ其實施ヲ行ノ統紀節目多端ナリト雖モ勉メテ之ヲ簡約ニシ其教務ノ事項ヲ條記シ着手ノ順序ヲ左ニ條掲ス

第二章 細規

第一條 教名ヲ神習教ト稱シ其祠殿ヲ神習教本祠ト稱シ其事務ヲ總轄スル所ヲ神習教大教廳ト稱シ東京ニ設立ス

第二條 神習教内ニ從來御嶽教會ヲ置キ該會ニ係ル一切ノ教務ヲ掌ル

第三條 各地ノ便宜ニ依リ本祠出張所及ヒ分祠直轄教會所分支教會所講社事務所ヲ設置シ其事務ヲ掌ル尤モ該所ニ一等ヨリ五等迄ヲ置キ之ヲ區分ス

但一國內ニ本條分祠四所ヲ數ケ所設クル時ハ地名又ハ緣故アル名稱ヲ冠シテ之ヲ分ツアルヘシ○又之ヲ設ルニ當テヤ明治十七年十月内務省戊辰第二號布達ニ照準スヘシ○願面雜形別ニアリ

第四條 從來結成セシ他ノ教會講社ニシテ本教ニ屬スル者ハ神習教何教會何講社ト稱スベシ

第五條 本祠出張所分祠ハ本祠ヨリ御分靈ヲ鎮祭スベク又直轄教會所分支教會所講社事務所等ヘハ本祠鎮坐ノ御神號掛軸ヲ奉掲シ朝夕獻饌奉仕スヘシ

第六條 本祠出張所分祠直轄教會所分支教會所講社事務所ハ其主任者及ヒ教子惣代三名以上ヲ定メ届ケ出ツヘシ該所ニ係ル一切ノ諸務ハ主任者及ヒ惣代ノ責任タルヘシ

第七條 前條分祠四所ヘハ非常ノ時用キル鑑札挑灯ヲ本廳ヨリ請ケ置クヘシ

第八條 本教ニ信徒歸依シ鑑札ヲ授クル者ヲ汎稱シテ教子ト云ヒ就中神文ヲ呈出シテ幽顯守護ノ神系ヲ授與スル者ヲ稱シテ神教子ト云フ此輩數人團結スル者ヲ稱シテ講社ト云ヒ數講社集合團結スル所ヲ出張所分祠分支教會所ト云ヒ又一教會創立歸屬スル者ヲ直轄教會ト云フ

第三章 教子細規

第九條 本教ノ神教子ト爲ランヲ欲スル者ハ先神文ニ住所姓名年齢ヲ記載シ捺印或ハ拇印シテ差出スヘシ 但神文并ニ用紙共下付施與スヘシ

第十條 神文ヲ呈出セバ神前ニ於テ入致式ノ祭典ヲ執行シ幽顯守護神系ヲ授與シ一級ヨリ八級迄ノ教級ヲ授ケベシ

第十一條 本教部内教導職職員教子ハ御神號ヲ與座ニ奉掲シ神鏡ヲ襟端ニ掛ケ門標ヲ門戸ニ掲ケ本教ノ職員教子タルヲ表彰スヘシ  
但神鏡門標雜形四十二條ニ在リ

第四章 祭祀細規

第十二條 毎期早起盥嗽洗眼シ神氣ヲ靜定シ自家ノ神前ニ向ヒ太尊詞ヲ唱ヘ敬拜シ本祠産土神ヲ遙拜シ祖先歷代ノ靈ヲ拜シ報本反始ノ禮ヲ盡シ以テ安全幸福ヲ祈ルヘシ

但洗米御酒御饌水等ハ適宜ニ献供スベシ

第十三條 宮中賢所ノ大神等ヲ遙拜シ祖先以來受ケル所ノ鴻恩ヲ謝スヘシ

第十四條 寶祚ノ無窮國運ノ隆旺天地ノ榮和五穀ノ豐饒教内ノ安全幸福ヲ祈ル爲メ例年四月八日九日十日ノ三日間九月十六日十七日兩日間大中祭ヲ執行シ毎月九日二十七日小祭ヲ行ヒ説教ヲ爲シ毎月十五日祓除修行ヲ脩ム

但各地本祠出張所各教會所ハ本條ニ照準シ祭日ハ遙拜シ又説教祓除修行等ヲ爲スベク本條大中祭ノ日ハ參拜スベク參拜スル能ハサル者ハ必ラス遙拜スヘシ

第十五條 朝廷ノ御祭日中左ノ定日ハ各自ノ神座ニ神饌ヲ奠供シ鴻恩ヲ謝シ且那家ノ安寧幸福ヲ祈ルベシ

一月一日	四方拜	一月三日	元始祭
一月卅日	孝明天皇祭	二月十一日	紀元節
二月四日	祈年祭	三月	春季皇靈祭
四月三日	神武天皇遙拜日	九月	秋季皇靈祭
十月十七日	神嘗祭	十一月三日	天長節
十一月廿三日	新嘗祭	六月十二日	大祓

第十六條 本教殿内ハ勿論出張所分祠各教會所内ニ靈場ヲ設ケ依頼者ノ靈ヲ鎮祭シ其靈祭ヲ執行スヘク又祖靈社ヲ設ケル時ハ成規ノ通出願スヘシ  
但春秋二季皇靈祭ノ日ヲ以テ大靈祭ヲ行フヘシ  
此日新ニ靈祭ヲ請ハントスル者ハ祭日前ニ申出ベシ○但該日ハ一同參拜スヘシ

第十七條 父母ノ忌日ハ其靈ニ供饌シ其墓所ニ拜禮シ又祖先以下ノ墓所ヲ時々掃除スヘシ

第十八條 那家ニ大勳有リテ其德澤民庶ニ光被スル神靈ハ其靈祠ヲ建テ之ヲ鎮祭シ

其ノ功德ヲ不朽ニ傳フルハ本教一般ノ義務トス但靈祠ヲ建ルニ當テハ官廳ニ出願スヘシ

第十九條 國事ニ斃レ無懣ノ靈ハ之ヲ鎮祭シ其靈ヲ慰ム又國益ノ爲ニ勤勞シ非命ニ死没シ其名顯レズ其迹湮滅シタル者ハ其靈ヲ祭リ之ヲ慰ムルハ本教ノ義務トス

第五章 學習細規

第二十條 本廳ハ勿論出張所各分詞各教會所ニ於テ教義普通學校ヲ設立シ又ハ教義普通學○哲學課等ヲ置キ教内ノ子弟并ニ生徒ヲ教養シ其成材ニ隨テ教導職ニ登庸スヘシ○文部省ノ教則ニ照準シ小學校ヲ設立スルモアルヘシ

第二十一條 本教ニ於テ神事學術祭式共ニ相傳修行スヘキ諸式法アリ本教ニ從事スル者精勵學脩シテ其奧義ヲ究メ自カラ安心立命ノ域ニ超入シ以テ人ヲ教化スベシ  
第二十二條 本教ニ從事スル者ハ渾テ實行實踐ヲ主トシ身ヲ以テ率先シ神人ヲ感格シ人ヲ善ニ誘導スルヲ以テ本旨トス苟クモ空言虛飾弄筆舞文ノ所業有ル可カラズ又說教及ヒ修業ハ時ノ便宜ニ隨ヒ行フヘシ

第六章 教子心得細規

第二十三條 本教ノ教子ハ第一品行ヲ方正ニシ朝廷ノ法令ヲ遵奉シ租稅兵役ヲ始メ邦家ニ對シ服從スルノ務メヲ盡シ率先シテ他ノ模範トナルベク萬一國法ニ違犯シ

赤衣懸字紋ヲ着スル等ノアレハ教子一同ノ大耻辱ナレハ精々素行ヲ謹慎スヘキナリ又法律ヲ知ラズシテ罪戾ニ陷ル者アリ故ニ平生相互ニ法律ヲ講習スベシ

第二十四條 本教ノ教子ハ渾テ同胞ノ親ヲ爲シ吉凶互ニ相慶吊シ疾病患難ヲ救済スヘク又各自使用ノ具ハ成丈ケ自國ノ品物ヲ用キル様注意スベシ

第二十五條 本教ノ教子ハ平常質素節儉ヲ守リ救荒ノ豫備ヲ爲シ自他救済ノ法ヲ設ケ置クベク又タ協心戮力シテ國家ノ公益ヲ經營シ愛國ノ實功ヲ奏スベシ

第二十六條 本教教子中若シ父兄ノ教誨ヲ受ケズ言行道ニ背ク者アレハ教子職員ニ於テ懇諭ヲ加フベシ又父兄タル者其子弟ノ教育ヲ惰ル可カラズ又感化院救濟院貧病院等ヲ興設スベシ

第二十七條 本教ノ教子ニシテ若シ私黨及ヒ健訟雀角ヲ爲ス等ノアレハ實ニ本教ノ耻辱ナルガ故ニ職員中ニテ精々取扱ヒ法術ヲ煩ハナハル様平生厚ク注意スヘシ

第二十八條 各地教子中互ニ往來シ氣脈ヲ通シ美事良法ハ相協議シ一般ノ公益トナルヲ見認ルトキハ其旨ヲ本廳ニ申出ツベシ

第二十九條 教導職及職員神教子ニシテ儕輩ニ超ヘ非常ノ篤志若クハ特別勉勵スル者ハ不次ノ擢擢又ハ殊別ノ賞與ヲ行フベシ

第三十條 教内ニ於テ平生敬神忠孝貞女義僕及ヒ慈善ノ行アリ或ハ一技一業ニ長ス

ル者ハ其事述ヲ詳記シ社中一般ニ報告獎勵スヘキニ付其旨管長ニ具申スベシ  
第三十一條 葬儀靈祭ヲ行フニ當テヤ丁寧ニ情誼ヲ盡シ其式法ヲ執行シ喪家ヲシテ  
遺憾勿ラシムベク又本祠靈舎ヘ鎮靈ヲ乞ヒ又ハ諡號檢定ヲ乞フ時ハ其請ニ應スベ  
シ

第七章 教子心得細規

第三十二條 毎日本祠ニ於テ教内教子一般ノ安全幸福ヲ祈念スルヲ以テ毎年一度部  
内教子ヘ神札ヲ授與スベシ

第三十三條 教内各所ハ協議ヲ以テ平生金錢品物等ヲ醜集累積シテ其教費ニ充ツベ  
ク尤モ各地ノ便宜ニ任セ適宜ノ法ヲ施行スベシ

第三十四條 各出張所分祠直轄教會分支部會講社事務所又教導職教子其分ニ應シ本  
祠再建營繕永續資金并ニ本教教費永續費等ヲ負擔スル者トス

第三十五條 各教導職大正副社長副取締世話掛ハ春秋二季本祠大中祭之節ハ幣帛ヲ  
獻スル者トス

第三十六條 教導職ハ齋服狩衣直垂淨衣格衣ノ五品ヲ以テ禮服トシ於衣指貫ヲ以テ  
女禮服トシ其階級ヲ定メ管長之ヲ指示ス

第三十七條 教導職各地方巡教之節ハ管長ヨリ派出證書ヲ授ク各地ヲ巡教スルヤ其

風土人情ヲ觀察シ地方民治衛生ノ裨補ヲ爲ス様精々注意スベシ  
第三十八條 祈禳禁厭ヲ執行シ神水御符等ハ適宜ニ授與スルモ妨ナシ但シ祈禳禁厭  
免許ヲ所持スル者ニ限ル

第八章 職員細規

第三十九條 本教職員職制左ノ如シ

一 管長本教内教務一切ヲ擔任總理ス

但副管長又ハ代理ヲ置クモアルヘシ

一 教師ニ左記ノ名稱ヲ付シ本廳局課并ニ出張所分支部直轄教會所分教會所等ノ諸務  
ヲ分掌セシム

一 神教使ニ一等ヨリ十六等迄ヲ置キ神事宣教ノ事ヲ掌ラシム

一 祝部ニ一等ヨリ八等迄ヲ置キ葬儀ヲ掌トラシム

一 辨事ニ一等ヨリ八等迄ヲ置キ事務ヲ掌トラシム

以上

一 講社員ニ左ノ名稱ヲ付シ各講社事務所ノ事務ヲ分掌セシム

一大 社長

一 正副社長

一 權大社長

一 正副取締

一正副出納取締

一正副世話掛

以上

第四十條 各局所ニ於テ簿書會計ヲ嚴重ニ詳記シ備ヘ置クヘシ  
第四十一條 教師撰舉保証書雛形

○教師撰舉保証書 履歷書ヲ添ヘ出スヘシ

職名(朱書)

何府縣何國何(區郡)何(町村)何番地族籍  
姓 名

(何年何月生) (當何年何ヶ月)

一右之者終身御教ノ教義ニ從事仕度志願之者ニ付教師被命度且身分之儀ハ諸事引  
受可申候間仍而此段撰舉保証仕候也

何府縣何國何(區郡)何(町村)何番地族籍

親戚保証人

年號月日

何府縣何國何(區郡)何(町村)何番地族籍

身元引受人

何 誰 印

○職員 神敎使 祝部 辨事 撰舉狀 雛形

職名(朱書)

何府縣何國何(區郡)何(町村)何番地族籍

何

某

辨事ハ教師外モ採用スヘシ

何年何ヶ月

一右者朱書所標之職員當器之者ニ有之候間何卒本敎役員ニ被命度身分之儀ハ諸事  
引受可申此段撰舉保証仕候也

何府縣何國何(區郡)何(町村)何番地族籍

親戚保証人

何

某

印

撰舉人

何

某

印

○講社職員撰舉狀 雛形

神習敎管長芳村正秉殿

職名(朱書) (大社長正權社長取締世話掛等内) 何 某

何

某



一右者一講社中ニ於テ敬神篤志人望モ有之者ニ付何卒本教役員被命度此段撰舉仕候也

何年何ヶ月  
何府縣何國何(區郡)何(町村)何番地族籍  
撰舉人 何 某 印

年號月日  
神習教管長芳村正秉殿  
○請書 雜形

辭令書ノ原文ヲ掲ク  
右謹而御請仕候也

年月日  
何府縣何國何(區郡)何(町村)何番地  
職名 何 某 印

第四十二條 一教内非常通常ニ用キル挑灯鑑札ハ左圖ノ如クス尤モ火災等ノ節ハ門戸ニ掲ケ同教員タルヲ表スベク同教員ハ之ヲ目標トシテ救援スベシ

用員社常通 用常非



札鑑常非



用員職



神習教  
○非常鑑札

十級	九級	八級	七級	六級	五級	四級	三級	二級	一級	階級	教級
權中講義	中講義	權大講義	大講義	權少教正	少教正	權中教正	中教正	權大教正	大教正	名稱	師職
十等	九等	八等	七等	六等	五等	四等	三等	二等	一等	分等	職員
同	同	同	同	同	同	同	同	同	神教使	名稱	員職
六等	五等	四等	三等	二等	一等					分等	員職
同	同	同	同	同	祝部					名稱	員職
五等	四等	三等	二等	一等						分等	員職
同	同	同	同	辦事						名稱	員職
五級	四級	三級	二級	一級						教級	神教子
同	同	同	同	神教子							

第四十四條 本教教師職員神教子等級表左ノ如シ

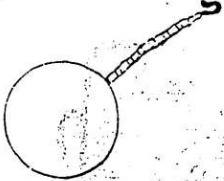
講社鑑札 表



裏

何府何國何郡何町何番地  
 華士族平民  
 姓 名  
 何年何月日生

神鏡表



裏



門標

惟神習教  
 何々講社

金箔

第四十三條 本教教導職員教子ノ標形スベキ神鏡門標及ヒ教子鑑札左圖ノ如シ

十一級	少講義	十一等	同	七等	同	六等	同	六級	同
十二級	權少講義	十二等	同	八等	同	七等	同	七級	同
十三級	訓導	十三等	同			八等	同	八級	同
十四級	權訓導	十四等	同						
十五級	試補	十五等	同						
十六級	(及門生)	十六等	同						

第四十五條 本教出張所分祠教會所講社事務所區別位置左ノ如シ  
 本祠出張所分祠一直轄教會所一分教會所一支教會所一講社事務所  
 第四十六條 本教内へ入寮シ神事學術ヲ傳習セント欲スル者ハ入學證書ヲ保証人連署ニテ差出スヘシ  
 第四十七條 教子ノ呈出スル神文左ノ如シ  
 ○奉神文之事  
 一天神地祇ニ誓ヒ神教子ニ列セシレ幽顯守護神系ヲ授與相成候上ハ生死共御教旨ヲ確守シ安心立命以テ惟神ノ道ヲ神習ヒ

印割

朝廷ノ御法令ヲ遵守シ人間本分ノ職務ヲ精勵シ信心無懈怠可致仍テ赤心ヲ表スル爲ノ奉神文如件

年號月日

何(府縣華士族平民區郡村町)番地

姓 名 印 或ハ拇印

(年月日生年何年何ヶ月)

神習教管長芳村正乘殿

第四十八條 教師派出証及ヒ祈禳禁厭免許願同施行免許狀左ノ如シ

○派出証

右者今般布教傳道教子募集講社結集之爲ノ何府縣へ派出教務擔當可致候事  
 年號月日

○祈禳禁厭施行免許願

神習教管長 芳村正乘 印  
 何(府縣)何族何國何(區郡)何(町村)何番地  
 教師職名 姓 名

(何年何月何日生何年何ヶ月)

右者從來惟神ノ道ヲ修メ其神事ヲ神習罷在候ニ付御教約中祈禳禁厭免許規約之條々堅ク遵守可仕候條該御免許狀授與被成下度此段相願候也

年月日

右 姓名 印  
保証人 姓名 印

神習教管長芳村正乘殿  
○祈禳禁厭施行免狀

何(府縣)何族 姓名

何年何ヶ月

印割

惟神ノ道ヲ神習ヒ其神事内傳第何科卒業自得ヲ證認ス因テ祈禳禁厭免許規約ニ照據シ此神事何等免許狀ヲ授與候事

年月日

以上 神習教管長 芳村正乘 印

教規 附錄 神習教約

○祈禳禁厭免許規約

第一章 總 規

一 祈禳禁厭ハ我大中臣家ニ傳フル所ノ神事ヲ相傳シ其卒業ノ科級自得ノ淺深ニ從ヒ神事一等ヨリ八等迄ノ免許狀ヲ授與シ施行セシム其授與ノ順序實施ノ例規等下款ノ通り心得ベキ事

第二章

一 祈禳禁厭ヲ爲ス者神事ヲ精勵シ平生物忌躬行堅固ナラサレハ之ヲ行フモ其願少シ故ニ本職ト雖モ管長ノ免許ヲ所有スル者ニ非サレハ施行スルヲ得ス若シ無免許ニテ祈禳禁厭ヲ爲ス者ハ之ヲ停遏スヘキ事

第三章

一 祈禳禁厭ヲ實施スルニ當テハ平素相傳スル旨趣ヲ不誤ハ勿論行政上ノ公布ヲ遵守シ醫師治療中ノ者ニ限リ施行スベキ事

第四章

一 無病ノ者ニテ豫防ノ爲メ天質虛弱ニシテ神氣回復ノ爲メ又不具瘵疾ノ者慢性病ノ

者又俗ニ持病ト稱シ湯藥無効ノ者難治ニシテ醫師藥劑ヲ不投者又邊陲ノ地ニシテ急發ノ患者負傷者等ニテ醫師來診迄ニ時間ヲ移シ傍觀スルニ忍ヒサル者等祈禳禁厭ヲ乞フ時ハ醫師ノ未ダ施療セサル者ト雖モ施行シテ妨ケナキ事

第五章

一 已ニ免許狀ヲ所有スト雖モ若シ不正ノ所業アル歟又ハ他教ニ轉属スル時ハ免許狀ヲ返還セシムヘキ事

第六章

一 祈禳禁厭法ヲ己ニ修業自得スル者ハ試験ノ上神事内傳科條ニ照ラシ免許狀ヲ授與スヘキ事

第七章

一 免許狀ハ神前ニ於テ授與式ノ祭典ヲ行ヒ之ヲ授ク其六等以上ハ神道ニ要圖說ノ卷物ヲ添授スヘク其科目左ノ通り心得ヘキ事

但授與祭ノ節報謝スルハ其等ニ應シテ差アリ

第八章 細規

一 神事内傳第一科ヲ相傳シ卒業自得スル者ハ祈禳禁厭神事八等免許狀ヲ授與ス  
一 神事内傳第二科ヲ相傳シ卒業自得スル者ハ祈禳禁厭神事七等免許狀ヲ授與ス

一 神事内傳第三科ヲ相傳シ卒業自得スル者ハ祈禳禁厭神事六等免許狀ヲ授與ス  
一 神事内傳第四科ヲ相傳シ卒業自得スル者ハ祈禳禁厭神事五等免許狀ヲ授與ス  
一 神事内傳第五科ヲ相傳シ卒業自得スル者ハ祈禳禁厭神事四等免許狀ヲ授與ス  
一 神事内傳第六科ヲ相傳シ卒業自得スル者ハ祈禳禁厭神事三等免許狀ヲ授與ス  
一 神事内傳第七科ヲ相傳シ卒業自得スル者ハ祈禳禁厭神事二等免許狀ヲ授與ス  
一 神事内傳第八科ヲ相傳シ卒業自得スル者ハ祈禳禁厭神事一等免許狀ヲ授與ス  
以上

附錄 神習教約

○懲戒規約例

第一章 總 規

一 教導職ハ躬行ヲ以テ率先シ衆庶ノ標準模範ト爲ルヘキ者ナレハ固ヨリ過誤失錯ヲ爲シ懲戒違則例等ニ觸ル、者ハ無之キ管ナレト亦此形体アレハ時トシテ過失全ク無シト保スベカラス因テ此懲戒法ヲ設ク其之ヲ設ル所以ノ意ハ之ヲ未前ニ示シ以テ之ヲ未前ニ防キ究竟懲戒ヲ爲スヘキモノ無キヲ希圖スル所以ナリ

第二章 教 規 例

第一條 懲戒スル法ヲ分テ三種トス

一 重懲戒

一 輕懲戒

一 爲行誠

第二條 重懲戒ハ其實跡ノ事狀理由ヲ檢按シ管長ヘ申請シ管長之ヲ決行ス

第三條 輕懲戒ハ前條ノ手續ヲ以テ意見ヲ附シ管長ヘ申請シ裁下ヲ得テ之ヲ斷行ス

第四條 爲行誠ハ其局所長主任者適宜之ヲ處置シテ管長ヘ具申ス

第五條 重懲戒爲行誠ハ懲戒爲スヘキ違則例ノ條款ニ觸ル、事アラハ教規例ニ照ラシ斷行ス

第六條 違則者アリ懲戒スヘキ者ハ其不行跡ノ實証ヲ得テ局所ニ於テ審査ヲ遂ケ其手續証據書類ニ意見書ヲ添ヘ局所ノ主任者並ニ懲代三名以上連署ヲ以テ管長ヘ具申ス

但本文ノ手續ヲ爲サザル者ハ其効ヲ有セス

第七條 ○局所ハ大教廳ノ四局及出張所直轄教會所分支教會講社事務取扱所ナク懲戒ニ依ルニ非ズシテ免職スベキ者ハ局所主任者ヨリ旨ヲ諭シ本人ヨリ免職願ヲ出サシム若シ其旨ニ違ハザル者アラバ管長ヨリ直ニ解免ス

第八條 懲戒ニ依リ免職スル者ハ滿五年以上降級スル者ハ滿三年以上ヲ經テ改良ノ實効著ハル、ニ非ザレハ再補昇級スルヲ許サス

第九條 謹慎ヲ命ゼラレタル者ハ滿二年間昇級スルヲ許サス

但謹慎ノ實狀悔悟改心ノ實功著シキ者ヲ保証シ出ツル時ハ此限ニアラズ

第十條 爲行誠ニ係リタル者ハ容易ニ昇級スルヲ許サス悔悟改心ノ實功アル者ハ此限ニアラス

第二章 教 約 例



第十一條 重懲誠ヲ分テ免職降級トス

第十二條 輕懲誠ヲ分テ謹慎譴責トス

第十三條 重懲誠免職ニ係ル者ハ其事由テ各管長ヘ通牒スベシ

第十四條 謹慎ハ五日以上三十日以下ノ物忌法ヲ守修セシム

第十五條 譴責ハ其事由テ示シ謹慎書ヲ附シテ將來ヲ誠シメ謝狀ヲ出サシム

第十六條 爲行誠ハ過失ノ輕重ニ隨ヒ祓除ヲ修行セシム

第三章 違則例

第十七條 左ノ概目ニ觸ル、者ヲ重懲誠トシ其情狀ヲ酌量シ其重キヲ免職其輕キヲ降級トス

其一 神事内傳ヲ他人ヘ漏洩スル者

其二 管長ノ命令ヲ奉セサル者

其三 本教ノ教規教約條例ヲ遵守セサル者

其四 教正局所長ニ對シ公然不敬不遜違令ノ者

其五 過誤失錯ト雖モ怠惰ヨリ生スル者

但過失モ教義ニ害アラハ其狀ニ因テ之ヲ處分ス

其六 妄ニ吉凶禍福ヲ唱ヘ人ヲ惑シ私利ヲ圖ル者

其七 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ欺惑シ風俗ヲ紊ル者

其八 管長眞跡ノ御神號ヲ僞書スル者

其九 本廳諸局ノ所用物品ヲ僞用スル者

其十 本廳諸局所ノ諸教費募集ノ稱呼ヲ以テ詐術ヲ爲ス者

其十一 著シキ不品行ヲ以テ譴ヲ來シ本教ノ体面ヲ汚辱スル者

其十二 屢重輕懲誠爲行誠ヲ受ケ習素行修ラサル者

其十三 教費金幣帛料及ヒ盟約諸納金納期兩度ヲ怠ル者

其十四 本祠ノ神札守ヲ僞造スル者

第十八條 左ノ概目ニ觸ル、者ヲ輕懲誠トシ其情狀ヲ酌量シ其重キヲ謹慎其輕キヲ譴責トス

其一 局所諸長主任ノ命令ニ違ハサル者

其二 疎放懈怠ニシテ本教ノ教規教約ノ條例ニ違フ者

其三 管長ノ許可ヲ得スシテ規約條例ニ擬似スルモノヲ部内ヘ施設スル者

其四 本廳ノ許可ヲ得スシテ本廳ノ名義ヲ以テ告達ヲ爲ス者

其五 凡ソ諸達書ヲ受ケテ時日ヲ遲緩シ事ニ害アル者

其六 本廳ノ名アル用紙ヲ猥リニ私用スル者

- 其七 猥リニ訴訟事件ニ關涉ル者
- 其八 局所長教正以上ニ對シ公然不敬不遜違令ノ者
- 其九 同職ニ對シ公然罵詈ヲ爲ス者
- 其十 管長及教正局所長ニ對シ敬禮儀式ヲ遺失スル者
- 其十一 教旨研究ヲ怠リ布教ヲ放下スル者
- 其十二 局所講社ノ承諾ヲ得スシテ妄ニ所屬轉換ヲ名トシ人氣ヲ煽動スル者
- 其十三 局所及講社ノ公擧投票ヲ故意ヲ以テ奸策スル者
- 其十四 教費金諸定約金納期ヲ怠ル者
- 其十五 爲行賊ニ度ニ及ヒ猶悔悟セサル者
- 其十六 人ヲ讒謔シ離間スル者
- 其十七 擧法ニ違ヒ擧登用ヲ圖ル者
- 其十八 偽言詐術ヲ爲ス者
- 其十九 教導職ノ服制ニ違ヒ異様ノ服ヲ着用シ衆目ヲ亂ス者
- 其二十 左ノ概目ニ觸ル、者ヲ爲行誠トス
- 其二十一 辨事社長ノ指揮ニ從ハサル者
- 其二十二 約束ヨリ成立タル臨時教費割等ヲ還納スル者

其三 他事ヲ口實トシ本教ノ義務ヲ怠ル者

其四 局所講社ノ約則ニ違フ者

第二十條 凡ソ德義上ニ於テ責ムベキ者ハ此違則例概目ニ比準シテ處理スル者トス  
以 上

神宮教規

甲第二十三號

今般當教規之儀各本部長ノ會議ヲ開キ議決ノ上別冊之通修正仕度至急御認可被下  
度仍予會議々長並議員連署書相添此段奉願候也  
明治二十六年六月廿六日

神宮教管長 田中賴庸 印

內務大臣伯爵 井上馨殿

內務省指令秘乙第二六四號

神宮教管長

割 印

本年六月廿六日付甲第二十三號

願教規修正ノ件認可ス

明治廿六年七月十三日

內務大臣伯爵 井上馨 印

神宮教規

### 神宮教規

#### 第一章 總則

- 第一條 神宮教ハ明治五年以來神宮司應ノ創設シタル教院各本部教會ヲ一括シ十五年一月神宮教導職分離ノ際内務省ノ允許ヲ得テ神宮教ト稱ス
- 第二條 本教ハ教院本部及教會所分教會所所屬教會所等ニ左ノ主神ヲ奉齋ス  
天照坐皇大神
- 第三條 本教ハ皇祖ノ葬訓ヲ奉シ國体ヲ明ニシ惟神ノ大道ヲ修メテ世教ヲ立ルヲ以テ本旨トス
- 第四條 本教ニ於ケル神祇ノ祭祀冠婚喪祭ノ儀式ハ皇國固有ノ典範ニ基キ之ヲ執行ス
- 第五條 本教ハ信徒ノ請ニ應シ祈禱報賽ヲ修メ神符神饌ヲ授ク
- 第六條 本教ハ教旨ヲ宣布シ講社ヲ結収ス
- 第七條 本教ノ學寮ハ皇國ノ典籍ヲ主トシ傍漢洋ノ學ヲ講習ス  
第二章 教務所
- 第八條 本教ノ教務ヲ總轄スル所ヲ東京ニ置キ之ヲ神宮教々院ト稱ス

- 第九條 伊勢ノ國度會郡宇治山田町ニ特ニ神宮教本院ヲ置キ本教ノ教務ヲ分擔ス
- 第十條 全國ヲ大別シテ教區ト爲シ各教區ニ本部ヲ置ク  
教區ハ神宮教某(本部所在) 教區本部ハ神宮教某(地名) 本部ト稱ス
- 第十一條 教區ヲ小別シテ小教區ト爲シ各小教區ニ教會所ヲ置ク小教區ハ神宮教某(地名) 教會所ト稱ス
- 第十二條 小教區ヲ更ニ分テ分教區ト爲シ各分教區ニ分教會所ヲ置ク  
分教區ハ神宮教某(分教會所) 分教區分教會所ハ神宮教某(地名) 分教會所ト稱ス
- 第十三條 教院本部ニ學寮ヲ置ク  
教院ニ設ケルモノハ管長之ヲ設置シ其事務ハ教院ニ於テ之ヲ掌理シ本部ニ設ケルモノハ本部長之ヲ設置シ其事務ハ本部ニ於テ之ヲ掌理ス
- 第十四條 本教ノ教旨ヲ奉シ別ニ教會ヲ設立セント欲スル者アルトキハ本部長ヲ經テ管長ニ申請シ教會所ヲ設ケルヲ得セシム其教會所ヲ神宮教某(教立) 教會所ト稱シ其所在教區ノ本部ニ屬ス

但信徒他ノ教區ニ且ル者アルキ其地方ニ係ル教務ハ其教區ノ本部ニ屬セシム  
 第十五條 信徒ヲ結合シテ一團ヲ爲ス者ヲ神風講社ト稱シ番號ヲ以テ之ヲ區分シ便  
 宜ニ講社事務扱所ヲ置ク其位置ハ本部長之ヲ定メ管長ニ報告ス  
 所屬教會ニ於テ結合スル講社ハ前項ノ番號ニヨラス單ニ某(設立ノ講社ト稱ス  
 講社事務扱所ヲ設ケルハ前項ニ同シ

第三章 職員教師  
 第十六條 教院ニ左ノ職員ヲ置ク

- 一 管長 一名
- 二 辨理 常在一名交代一名
- 三 課長 五名
- 四 錄事 廿五名
- 五 布教使 八名
- 一 長 一名
- 二 課長 三名

第十七條 神宮教本院ニハ別ニ職員ヲ置カス教院ノ職員ヲ以テ之ヲ兼攝ス  
 第十八條 各本部及教會所分教會所所屬教會所ニ左ノ職員ヲ置ク

第十九條 各番神風講社及所屬教會講社ニ左ノ職員ヲ置ク  
 一 社長 無定員  
 二 副社長 無定員  
 三 取締 無定員  
 四 副取締 無定員  
 五 世話係 無定員  
 本教ニ左ノ教師ヲ置ク

第二十條 本教ニ左ノ教師ヲ置ク

- 一 大教正 一級
- 二 權大教正 二級
- 三 中教正 三級
- 四 權中教正 四級
- 五 少教正 五級
- 六 權少教正 六級
- 七 大講義 七級

八 權大講義	八 級
九 中講義	九 級
十 權中講義	十 級
十一 少講義	十一 級
十二 權少講義	十二 級
十三 訓導	十三 級
十四 權訓導	十四 級
十五 教師試補	十五 級

第二十一條 本教ノ教務ヲ輔翼スル者ノ名稱左ノ如シ  
 一 自一等教監  
 二 自二等教監  
 三 自三等教監  
 四 自四等教監  
 五 自五等教監  
 六 教監ニ相當ス  
 七 教監ニ相當ス  
 八 教監ニ相當ス  
 九 教監ニ相當ス  
 十 教監ニ相當ス

第二十二條 本教員ノ客員ヲ待遇スルニ左ノ名稱ヲ置キ管長之ヲ依屬ス  
 一 贊 喪  
 二 協 贊  
 三 贊 助  
 第四章 職員教師選舉

第二十三條 管長ハ本教ニ適スル學術ヲ修メ徳望アル者ニ就キ通常會ニ於テ三分ノ二以上ノ贊同ヲ得テ之ヲ撰ヒ辨理各本部長ノ連署ヲ以テ政府ノ認可ヲ乞フ  
 管長ノ任期ハ滿六年トシ通常會々議ノ終ニ於テ之ヲ改撰ス但再撰スルコトヲ得  
 管長ノ補欠ヲ要スルトキハ臨時通常會ヲ開キ第一項ノ手續ヲ執行ス此場合ニ於テモ管長ノ任期ハ滿六年トス

第二十四條 常在辨理ハ教師二級以上ノ者ヨリ諮詢會ニ於テ二名ヲ豫撰シ管長其一ノ名ヲ命ス其任期ハ滿三年トシ諮詢會ノ終ニ於テ之ヲ改撰ス但再撰スルコトヲ得  
 交代辨理ハ本部長中有効ノ者ヨリ諮詢會ニ於テ二名ヲ豫撰シ管長其一ノ名ヲ命ス其任期ハ滿一年トシ諮詢會ノ終ニ於テ之ヲ改撰ス但再撰スルコトヲ得  
 辨理ノ補欠ヲ要スルトキハ臨時諮詢會ヲ開キ第一項第二項ノ手續ヲ執行ス此場合ニ於テモ常在辨理ノ任期ハ滿三年交代辨理ノ任期ハ滿一年トス

第二十五條 本部長ハ左ニ列記スル者ノ中ヨリ諮詢會ニ於テ二名ヲ豫撰シ管長其一ノ名ヲ命ス  
 一 管長ニ從學シ現ニ教師六級以上ノ職ニアル者  
 二 著書又ハ徳望アリテ現ニ教師六級以上ノ職ニアル者  
 三 十ヶ年以上本教ニ從事シ現ニ教師六級以上ノ職ニアル者



- 四 教師六級以上ニシテ現任本部長五名以上ノ推薦ニ係ル者
- 五 教師六級以上ニシテ欠員アル教區内ノ各教會長及六級以上ノ教師過半數ノ推薦ニ係ル者
- 六 教師六級以上ニシテ欠員アル教區内ノ本教翼賛員及講社正副社長過半數ノ推薦ニ係ル者
- 第二十六條 教會長ハ教師八級以上分教會長所屬教會長ハ教師十級以上ノ者ヨリ本部長之ヲ擢舉シ管長之ヲ命ス
- 第二十七條 教院ノ課長録事ハ管長之ヲ命シ本部各教會ノ課長録事ハ本部長之ヲ命ス
- 第二十八條 布教使ハ教師四級以上ノ者ヨリ管長之ヲ命ス
- 第二十九條 教師ハ左ニ掲ル科目ニ依リ宜教志望ノ者ニツキ隨時ニ合格試験ヲ行ヒ管長之ヲ命ス
- 但管長ニ於テ行狀人ヲ率キルニ足リ且德望衆ヲ服スル者ト認ルトキハ試験ニヨラス之ヲ登用スルコトヲ得
- 一 十五級ヲ登用スヘキモノハ立教大意講義
- 二 十四級十三級ハ祝詞作文

- 三 十二級十一級ハ古語拾遺講義作文
- 四 十級九級ハ古事記上卷講義作文
- 五 八級七級ハ日本紀神代卷講義作文
- 六 六級五級四級三級ハ古事記日本紀講義作文
- 第三十條 二級ノ教師ハ試験ニ依ラス三級四級ノ教師ヨリ諮詢會ノ贊同ヲ得テ管長之ヲ命ス
- 第三十一條 教監輔教ハ本教々務ヲ輔師スルモノニツキ管長之ヲ命ス
- 第三十二條 講師ハ本教地方教導ニ從事シ教務ヲ輔ルモノニツキ本部長之ヲ命ス
- 第三十三條 講社職員ハ講社員中人望資産アルモノニツキ正副社長ハ管長正副取締世話係ハ本部長之ヲ命ス
- 第五章 職 權
- 第三十四條 管長ハ本教ノ全体ヲ統轄シ百般ノ機務ニツキ政府及教内ニ對シ其責ニ任ス
- 第三十五條 管長ハ教院ノ職員本部長教會長分教會長所屬教會長教監輔教正副社長ヲ任免ス
- 但辦理本部長正權大教正ハ諮詢會ノ贊同ヲ得教會長分教會長所屬教會長及三級

以下ノ教師教監輔教正副社長ニシテ教院ニ屬スルモノハ辨理教區ニ屬スルモノ  
 ハ其本部長ノ具申ニ依ルニ非ラサレハ之ヲ進退セス  
 第三十六條 管長ハ緊急ノ事項アル場合ニ於テ本部長ヲ停職シ又ハ臨時本部長ヲ命  
 シ置キ諮詢會ノ贊同ヲ得テ其處分ヲ爲ス  
 第三十七條 管長ハ本教ニ功勞アル者ヲ褒賞シ及職員教師ヲ懲戒ス尤教院ニ屬スル  
 モノハ辨理教區ニ屬スルモノハ本部長ノ具申ニヨル  
 但金壹百圓以上若クハ之ニ該當スル賞與及六級以上ノ教師之ニ相當スル職員ノ  
 免職ハ諮詢ノ贊同ヲ得  
 第三十八條 管長ハ諮詢會ノ贊同ヲ得テ會議ノ議決ヲ認否ス  
 第三十九條 辨理ハ管長ヲ輔佐シ課長以下ヲ監督シ教務學務ヲ整理ス  
 第四十條 課長ハ管長及辨理ノ命ヲ受ケ該課ノ事務ニ服ス録事ハ該課ノ事務ニ從事  
 ス  
 第四十一條 布教使ハ特ニ管長ノ命ヲ受各教區ヲ巡教監督ス  
 第四十二條 教師ハ宣教結社ノ事ヲ掌ル  
 第四十三條 本部長ハ管長ノ委任スル所ニ依リ其教區内ノ事務ヲ掌ル  
 本部長ハ教會長分教會長所屬教會長ノ進退ヲ管長ニ具申ス本部長ハ課長録事講社

正副取締世話掛ヲ任免ス

但教會分教會所屬教會及講社職員ハ其教會長ノ請ニヨル  
 第四十四條 教會長ハ本部長ノ委任スル所ニ依リ分教會長ハ教會長ノ委任スル所ニ  
 依リ各其教區内ノ事務ヲ掌ル  
 第四十五條 所屬教會長ハ所轄ノ事務ヲ掌ル  
 第四十六條 講社長ハ社中ノ事務ヲ掌ル  
 副社長ハ社長ヲ輔ケ社長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス  
 取締ハ講社中ノ庶務ヲ掌ル  
 副取締ハ取締ヲ輔ケ  
 世話係ハ社中ノ雜務ニ從事ス  
 第六章 會 議  
 第四十七條 會議ハ通常會諮詢會ノ二トス  
 第四十八條 通常會ノ議員ハ各本部長ヲ以テ組織ス議長ハ毎回議員中ヨリ議員ノ投  
 票ヲ以テ三名ヲ豫撰シ管長其一名ヲ命ス  
 副議長ノ撰舉モ前項ノ例ニ依リ三名ヲ豫撰シ管長其一名ヲ命ス  
 第四十九條 通常會ハ各教區ノ氣脈ヲ通シ布教ノ方法ヲ議スル爲メ滿三年ニ一回之

ヲ開ク若緊急ノ事項アルトキハ臨時會ヲ開クコトヲ得  
通常會ノ開閉期日ハ諮詢會ノ贊同ヲ得テ管長之ヲ定ム管長欠員ノ場合ニ於テハ辨  
理前條ノ手續ヲ執行ス

第五十條 會議ハ議員過半數出席スルニアサレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス  
議事ハ出席議員過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル處ニヨル

第五十一條 左ニ掲グル事項ハ通常會ノ贊同ヲ得ヘシ  
一 教規ノ修正  
二 管長ノ撰定

三 教院本院ノ位置變換

四 教院本院ノ地所建物什器及基本財産管理ノ方法  
五 前項ニ記載シタル物件ノ買入書入及賣却

第五十二條 議案ハ管長之ヲ提出ス

議員ハ議案ヲ提出スルコトヲ得教師六級以上ノ者ハ議員ノ紹介ヲ以テ請願書ヲ提出  
スルコトヲ得  
但管長ノ提出シタル議案ヲ議シタル後ニアラサレハ之ヲ議スルコトヲ得ス尤  
モ管長提出ノ議案ニ附帶シタルモノハ此限ニアラス

第五十三條 諮詢員ハ本部長并ニ二級以上ノ教師ヲ以テ被撰人トシ通常會ニ於テ十  
人ヲ豫撰シ管長其中ヨリ五人ヲ撰ヒ之ヲ命ス其任期ハ通常會ノ一期トシ會議ノ終  
ニ於テ之ヲ改撰ス但再撰スルコトヲ得  
通常會閉會ノ場合ニ於テ諮詢員ノ補欠ヲ要スルトキハ管長ハ通常會議員(各本部長)ヘ  
通知シ書面ヲ以テ二人ノ補欠員ヲ投票セシメ投票多數ノ二名ニツキ其中ノ一人ヲ  
撰ヒ之ヲ命ス

交代辨理布教使ノ外教院内ノ職員ハ諮詢員ヲ兼ルコトヲ得ス

第五十四條 諮詢會ハ管長ノ諮詢ニ應シ又ハ管長ニ献替スル爲メ毎年一回之ヲ開ク  
若シ緊急ヲ要スルトキハ臨時會ヲ開キ或ハ管長ヨリ書面ヲ發シ贊同ヲ求ムルコト  
アルヘシ諮詢會ノ開閉期日ハ管長之ヲ定ム

管長欠員ノ場合ニ於テハ辨理前項ノ手續ヲ執行ス

第五十五條 左ニ掲グル事項ハ諮詢會ノ贊同ヲ得ヘシ  
一 辨理本部長及教師二級以上ノ豫撰并解免

二 教區ノ分合

三 通常會ノ開閉及其議決ノ認否

四 大庠曆本授與金額ニ關スル事件

- 五 豫算案及決算報告
- 六 豫算外ノ支出豫算不足金ノ補充
- 七 本部長建議ノ採否
- 八 金額百圓以上又ハ之ニ該當スル賞與并教師六級以上之ニ相當スル職員ノ免職

第七章 會計

- 第五十六條 教院各本部ノ經費ハ寄附金及内務省明治十六年神社甲第九百十五號達ニ基キ頒布スル所ノ大麻曆本ノ收納金ヲ以テ之ニ充
- 第五十七條 神宮司廳ニ對スル大麻曆本製造費其他ノ納金ハ締約書ニ基キ教院之ヲ納メ教院ニ對スル保證金其他ノ納金ハ頒布規約ニ基キ各本部ヨリ之ヲ納ム
- 第五十八條 教院所有ノ財産ハ管長之ヲ管理ス
- 第五十九條 教院所有ノ地所建物什器及基本財産ハ教院所有財産臺帳ヲ製シ明瞭ニ之ヲ記載シ管長辨理會計課長連署捺印シ諮詢會通常會ノ檢閱ニ附ス諮詢會通常會閉會ノ場合ニ於テ臺帳ニ増減アルトキハ其旨ヲ附記シ管長辨理會計課長之ニ捺印シ次期ノ開會ヲ待テ檢閲セシム
- 臺帳ノ管理ハ會計課長ノ任トス
- 第六十條 教院所有ノ地所建物什器基本財産ノ買入書入又ハ賣却ハ通常會ノ贊同ヲ得

得諮詢員ノ連署ヲ要ス

- 第六十一條 教院ノ職員及各本部長ノ俸給ハ諮詢會ノ贊同ヲ得テ管長之ヲ定ム
- 第六十二條 教院ノ歳入歳出ハ毎年二月會計課ニ於テ豫算案ヲ調製シ諮詢會ノ贊同ヲ得
- 第六十三條 教院歳入歳出ノ決算ハ諮詢會ノ調査ヲ經テ各本部ニ報告ス
- 第六十四條 豫算外ニ生シタル事項ニ付費用ヲ要シ又ハ豫算ニ不足アルトキハ諮詢會ノ贊同ヲ得テ之ヲ支出ス
- 第六十五條 會計課長ハ一切ノ收入支出ヲ元簿ニ記載シ管長辨理ノ檢印ヲ受クヘシ會計課長ハ其收支ニ關スル帳簿證書其他ノ書類ヲ保存スルモノトス
- 第六十六條 諮詢員ハ臨時元簿證書其他收支ニ關スル書類ヲ點檢スルコトヲ得
- 第六十七條 本章ノ規定ニ違ヒ其他不正當ノ行爲アルトキハ其行爲者ヲシテ之ヲ取消サシメ又ハ損害ヲ賠償セシムル等總テ其責ニ任セシム
- 第六十八條 本部教會所分教會所所屬教會所ノ所有財産ハ其本部長各教會長之ヲ管理ス
- 第六十九條 本部教會所分教會所所屬教會所所有財産ノ管理處分法ハ前數條ニ照準シ本部ニ在テハ本部長之ヲ定メ管長ノ認可ヲ經各教會ニ在テハ其教會長之ヲ定メ

第七十條 本部長ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スヘシ

ルモノハ本部ノ所有トシ教會所分教會所所屬教會所ニ屬スルモノハ其教會ノ所有トシ各財産ヲ異ニスルヲ以テ其財産上互ニ責ヲ受ケサルモノトス

第八章 褒賞懲戒

第七十一條

職員教師信徒ニシテ左ノ諸項ニ該當スル者ヲ褒賞ス

- 一 教院本部及教會所分教會所所屬教會所等ヲ創立シ及建築シタル者
- 二 教院本部及教會所分教會所所屬教會所等ノ永續方法ヲ立タル者
- 三 滿十ヶ年以上教務ニ勉勵シタル者
- 四 本教學ニ功勞アル者
- 五 本教翼賛ノ功アル者
- 六 信徒數百名ヲ結取シ教徒數百名ヲ改式セシメタル者
- 七 學術品行衆ニ瞻ニ德行世ノ模範タルヘキ者
- 八 說教講談ヲ以テ囚徒ヲ感化シ成績アル者
- 九 著作ヲ以テ世教ヲ裨益シタル者
- 十 教務ヲ贊ケ及ヒ慈善ノ行ヒ著シキ者

第七十二條 褒賞スル目左ノ如シ

- 一 年金授與 職員教師ニ限ル
  - 二 表功章 職員教師ヨリ信徒ニ及フ
  - 三 金圓授與 同上
  - 四 物品授與 同上
  - 五 賞狀 同上
- 第七十三條 教師及信徒ニシテ生前特別功勞アルモノハ贈職追祭退賞ヲ行フ
- 第七十四條 職員教師ニシテ左ノ諸項ニ觸ル、者ハ之ヲ懲戒ス
- 一 神明ニ對シ誠敬ノ念薄ク衆庶ノ不歸依ヲ招クモノ
  - 二 本教ノ教規管長ノ命令ヲ守ラサルモノ
  - 三 大麻曆本頒布規約其他ノ諸規則ニ違背シ約束ヲ履行セサルモノ
  - 四 三年以上ヲ經過シテ教義ノ實踐揚テサルモノ
  - 五 擅ニ任所ヲ離レ二週間以上管外ニ滞在スルモノ
  - 六 有給職員ニシテ管長允許ナク他ノ職務ニ關與シ俸給ヲ得ルモノ
  - 七 流言浮説ヲナシ教内ノ平和ヲ破リ若クハ人ヲ譏謔スルモノ
  - 八 品行不正ニシテ本教ノ体面ヲ汚スモノ



九 謂レナクシテ服制ヲ紊ルモノ  
十 職務怠慢ニ依リ教義ヲ害スルモノ  
第七十五條 懲戒スル目左ノ如シ

- 一 隨 責
- 二 減 俸
- 三 降 級
- 四 停 職
- 五 免 黜

第九章 服 制

第七十六條 本教々師ノ服制ヲ定ムルコト左ノ如シ  
一級二級教師ノ大禮服

- 有紋冠
- 明衣若クハ齋服
- 菱綾單衣
- 同通常禮服
- 烏帽子
- 三級四級ノ大禮服
- 狩衣
- 有紋差貫
- 扇

冠 差貫 明衣若クハ齋服 菱綾單衣

同通常禮服

烏帽子

五級六級ノ大禮服

冠

同通常禮服

烏帽子

七級八級九級十級十一級十二級ノ大禮服

烏帽子

同通常禮服

烏帽子

十三級十四級ノ大禮服

折烏帽子

同通常禮服

折烏帽子

狩衣

明衣若クハ齋服

狩衣

絹淨衣

直垂

絹淨衣

直垂

紫色差袴

單衣

淺黃色差袴

單衣

扇

單衣

扇

扇

差袴

扇

差袴

扇

差袴

扇



十五級ノ大禮服

折烏帽子

布淨衣

單衣

布袴

扇

同通常禮服

折烏帽子

布直垂

扇

凶禮ノ節ハ冠ヲ巻纒ニシ單衣直垂トモ總テ無効白色ヲ用キ飾紐ハ鈍色扇ノ地紙ハ  
鐵色トス

第十章 雜 則

第七十七條

教院ハ教務學務ノ實況ヲ各本部ニ通告シ本部ハ其教區内ノ實況ヲ教院  
ニ報告ス

第七十八條

本教規ハ左ノ手續ニ依ルニアラサレハ之ヲ改正スルコトヲ得ス  
一 管長ニ於テ教規中改正ヲ要スルコトアリト認ルトキハ諮詢會ノ贊同ヲ得テ議  
案ヲ通常會ニ付ス

二 本部長ニ於テ修正ヲ要スルコトアリト認ルトキハ  
本部長三分ノ一以上連署シ諮詢會ノ贊同ヲ得テ通常會ニ建議ス

第七十九條

管長ハ本部若クハ教區内ニ紛議ヲ生シ其他整理ヲ要スル場合ニオイテ  
諮詢會ノ贊同ヲ得テ事務擔任或ハ監督ヲ置クコトヲ得

第八十條 本部長ハ部下教務取扱上ニオイテ必要ヲ感スルトキハ本部若クハ教會所  
分教會所所屬教會所ニ幹事ヲオクテ得幹事ハ本部長ノ撰舉ニ依リ管長之ヲ命ス  
第八十一條 本教規ニ贊同ト稱スルハ特ニ規定アル外半数以上ノ同意ヲ云フ  
第八十二條 本教規施行ニ關スル細則ハ諮詢會ノ贊同ヲ得テ管長之ヲ定ム  
第十一章 附 則

第八十三條 本教規ニ規定アル職員ノ任期ハ本教規施行ノ日ヨリ起算ス

神宮教師檢定條規

甲第四十四號

本年五月二十日御訓令ニ依リ別冊之通教師檢定條規相定度候間御認可被成下度此段奉願候也

明治廿八年八月廿二日

神宮教事務取扱

大教正 篠田時化雄 

大教正 藤岡好古 

內務大臣子爵野村 靖殿

書面之趣認可ス

割印

明治廿八年九月五日

內務大臣子爵野村 靖 

神宮教師檢定條規

神宮教教師檢定條規

第一章 檢定

- 第一條 教規第三章第二十條ニ掲クル所ノ教師ノ分限及等級ハ檢定委員ノ檢定ニ合格シタル者ニアラサレハ之ヲ授與セス
- 第二條 左項ノ一ニ該當スル者ハ教師タルヲ得ス
- 一 憲癩白痴盲聾瘖啞ノ者
  - 二 年齡滿二十歲以下ノ者
  - 三 重罪及定役ニ服スヘキ輕罪ニ處セラレタル者
  - 四 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者及復權ヲ得テ一ケ年ヲ經過セサル者又ハ身代限リノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及辨償ヲ終ヘテ一ケ年ヲ經過セサル者
  - 五 本教又ハ他教派ニ於テ懲戒免職ノ處分ヲ受ケ改心ノ實ヲ表セサル者及改心ノ實ヲ表シニケ年ヲ經過セサル者
- 第三條 檢定ヲ分テ左ノ二種トス
- 第一種 試驗

第二種 認定

- 第四條 第一種ノ檢定ハ學業ノ試驗ヲ行フ者トス學業ノ試驗ヲ分ツト左ノ如シ
- 一 教義學科本試驗
  - 二 教義學科豫備試驗
  - 三 普通學科試驗
- 第五條 教義學科本試驗科目ハ教規第四章第二十九條一項乃至六項ノ規定ニ依ル
- 第六條 教義學科豫備試驗科目左ノ如シ

學科等級	講義	作文	作業	說教
三四級	六國史 口述	探宣命 題物語	鎮魂式 筆記	神道大意 口述
五六級	三萬葉集 筆記	宣命體 物語體	神祭諸式 筆記	神道大意
七八級	古事記 延喜式	皇室典範 物語體	誕生式 婚禮式	立教大意
九十級	日本紀 職原抄	土佐日記 宣命體	解除式 葬祭式	立教大意
十一級	古語拾遺 祝詞式	祝詞二 祝詞	神祭式 神祭式	立教大意
十二級	古語拾遺 祝詞式	祝詞二 祝詞	神祭式 神祭式	立教大意
十三級	古語拾遺 祝詞式	祝詞二 祝詞	神祭式 神祭式	立教大意
十四級	古語拾遺 祝詞式	祝詞二 祝詞	神祭式 神祭式	立教大意
十五級	古語拾遺 祝詞式	祝詞二 祝詞	神祭式 神祭式	立教大意

第七條 普通學科試驗科目左ノ如シ

但此科目ニ合格シタル者ハ再度之ニ就キ試験スルコトナシ

- 一 修身
- 一 國語雅文
- 一 漢文讀
- 一 日本及萬國歷史答
- 一 日本及萬國地理答
- 一 習字
- 一 數學答
- 一 理科答

第八條 新補試験ハ十三級以下トス但高等官タリシ者又ハ高等官タルノ資格ヲ有スル者ハ直ニ六級以下判任官タリシ者又ハ判任官タルノ資格ヲ有スル者ハ直ニ二十級以下ノ試験ヲ受クルコトヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ六級ノ教師ニ限り檢定委員ハ豫シメ管長ノ許可ヲ得テ試験ヲ執行スルコトヲ要ス

第九條 昇級試験ハ越級ヲ許サス七級以下ハ現級滿二年三級以下六級以上ハ現級滿三年ヲ經過セサレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第十條 第二種ノ檢定ハ第十一條以下第十七條ノ場合ニ限り檢定委員總長及檢定委員長之ヲ行ヒ意見ヲ具シテ管長ニ報告スルモノトス

第十一條 一級二級ノ教師ハ教規第四章第三十條ノ規定ニ依リ一級五名二級七名ノ定數ニ欠員アル場合ニ於テ之ヲ補ス

第十二條 神宮教々校卒業生ハ試験ニ依ラス八級以下ノ教師ニ補スルコトヲ得但最優等生ニ限り七級ノ教師ニ補スルコトヲ得

第十三條 本教々校ノ學科程度ト同等以上ノ學校卒業生ハ其學校ノ證明書ヲ有スル者ニ限り教養學科ノ一部及普通學科試験ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得但此場合ニ於テハ教校卒業生ヨリ一級以下ニ補スルモノトス

第十四條 尋常中學校卒業生又ハ其學科程度ト同等以上ノ學校卒業生ハ其學校ノ證明書ヲ有スル者ニ限り普通學科試験ヲ免除スルコトヲ得

第十五條 教師ニシテ左項ノ一ニ該當スル者ハ一級ヲ進ムルコトヲ得  
 一 現級滿三年以上勤務シ其功績顯著ナル敎院本院各本部各教會錄事以上ノ者  
 二 教養ニ關スル有益ノ著述ヲ爲シタル者  
 三 現級滿四年以上勤務シ其功績顯著ナル者

第十六條 本教々師タリシ者ニシテ再ヒ本教ニ歸入セント欲スル者ハ其原級ニ該當スヘキ等級ヨリ一級以下ニ補スルモノトス

第十七條 神道他教派ノ教師タリシ者ニシテ本教ノ教師タラント欲スルモノハ教養學科ノ一部及普通學科試験ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

但此場合ニ於テハ原等級ヨリ一級以下ニ補スル者トス  
第二章 試 験

第十八條 試験ハ教院本院各本部ニ於テ隨時之ヲ行フ

但本條以外ノ場所ニ於テ試験ノ必要アルハ檢定委員總長及檢定委員長ヨリ申請シ特ニ管長ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 教院ニ於テ執行スル試験ハ檢定委員總長及檢定委員長之ヲ審案シ其成績ヲ管長ニ報告スルモノトス

第二十條 本院各本部ニ於テ執行スル試験ハ檢定委員長及檢定委員其口述及講讀行為ニ關スルモノヲ審案シ其成績ヲ檢定委員總長ニ報告シ其筆答筆記ニ關スルモノハ之ヲ取纏メ直ニ檢定委員總長ニ送付スルモノトス  
但數學習字ハ時宜ニ依リ檢定委員長ヲシテ之ヲ檢定セシムルコトヲ得

第二十一條 前條ノ場合ニ於テ檢定委員總長ハ檢定委員ト共ニ筆答筆記ヲ審案シ其

成點ヲ檢定委員長ヨリ報告シタル成點ト通算シ其成績ヲ管長ニ報告スルモノトス  
第二十二條 試験問題ハ教院ニ於テハ檢定委員總長本院各本部ニ於テハ檢定委員長之ヲ定ム

第二十三條 試験ハ檢定委員三分ノ二以上出席スルニアラサレハ之ヲ施行セス

第二十四條 檢定試験ニ關スル一切ノ書類ハ教院本院各本部ニ保存スルモノトス  
第三章 檢定委員

第二十五條 教院ニ檢定委員總長一名本院各本部ニ檢定委員各一名ヲ置キ教院本院各本部内ニ檢定委員各五名ヲ置ク  
但數本内ニ一名ノ檢定委員長ヲ置クコトアルヘシ

第二十六條 檢定委員總長ハ二級以上ノ教師委員長ハ四級以上ノ教師ニ就キ管長ノ特撰ヲ以テ之ヲ命ス

第二十七條 檢定委員ハ六級以上ノ教師中ヨリ教院本院ハ委員總長各本部ハ委員長ノ撰擧ニ依リ管長之ヲ命ス

第二十八條 檢定委員總長及檢定委員長ハ管長ノ監督ヲ受ケ其受持部内檢定ニ關スル事務ヲ處理シ及疑義ヲ判決ス

第二十九條 檢定委員總長ハ四級以上教師ノ試験ト教院内ノ試験及本院各本部ニ於テ施行シタル筆答筆記ニ關スル試験及六級以上教師ノ認定ヲ爲シ檢定委員長ハ一部若クハ數本内筆答筆記ニ係ルモノヲ除クノ外五級以下教師ノ試験及七級以下教師ノ認定ヲ爲ス  
第三十條 第十八條但書ノ場合ニ於テハ管長ハ檢定委員長以下ヲ其地方ニ派遣シ檢

定試験ヲ行ハシム

三百十四

第四章 立會人

第三十一條 檢定委員試験ヲ正確ニ施行スルヤ否ヤヲ監査スルカ爲メ管長ハ時宜ニ依リ四級以上ノ教師ヲ立會人ニ定ム

第三十二條 立會人ハ試験ニ監監シ試験終了シタルトキハ直ニ試験ノ實況ヲ管長ニ報告スルモノトス

第五章 懲戒

第三十三條 檢定委員立會人教院本院各本部職員及其他教師ニシテ試験問題ヲ受驗者ニ漏洩シ若クハ密示シタルモノハ其情狀ニ依リ職員及教師ニアリテハ免職若クハ降級ニ處シ受驗者ニアリテハ其試験ヲ無効トシ終身受驗セシメサルモノトス

第三十四條 檢定委員不當ノ檢定ヲ爲シ又ハ立會人試験ノ實況ニ付虚偽ノ報告ヲ爲シタルハ前條ノ例ニ依ル

第六章 附則

第三十五條 教規及其他ノ規則ニ依リ従前教師ノ分限及等級ヲ授與セラレタルモノハ引續キ其職ニ在ルコトヲ得  
但自今補命進退ハ此條規ニ依ル

第二十六條 教令及其他ノ規則ニシテ此條規ニ牴觸スルモノハ總テ廢止ス

三百十五



大社教々規

大社教一般

本教規別紙ノ通リ内務大臣ノ認可ヲ得候條遵奉確守可致此旨相達候事

神道大社教管長

從三位出雲國造 千家尊福

明治十七年第十九號御布達第四條之旨ニ因リ神道大社教規別紙之通相定候條至急御認可被下度此段相願候也

明治十七年七月二十四日

神道大社教管長

從三位男爵 千家 尊 福

內務大臣伯爵山縣有朋殿

印 割

書面之趣認可候事

明治十九年八月七日

內務大臣伯爵 山縣有朋

內務大臣之印

大社教教規

立教要旨

天日隅宮ニ鎮坐ス大國主神ノ經國治幽ノ神意ヲ奉戴遵守シ惟神ノ大道ヲ講明シテ斯民ノ天性ヲ全クセシメ上ハ國家ニ報ヒ下ハ其分ヲ盡サシムルヲ主要トス

第一章 總 規

- 第一條 本教ハ幽冥主宰大國主神ヲ主神トシ天御中主神高皇產靈神皇產靈神天照大御神產土神ヲ併セテ六神ヲ奉齋スル者トス
- 第二條 本教奉齋ノ神ヲ鎮祭シ說教及葬祭ヲ執行スル爲ニ祠宇ヲ設ク
- 第三條 出雲國神門郡杵築東村ニアル祠宇ヲ本祠トシ各地ニアルヲ分祠トス
- 第四條 本教々務ヲ總轄スル所ヲ稱シテ大社教本院トス
- 第五條 一府縣或ハ一國內ノ教務ヲ管掌スル所ヲ稱シテ大社教分院トス
- 第六條 一區或ハ數村內ノ教徒ヲ會合シテ說教ヲ執行シ并ニ教會ヲ管理スル所ヲ稱シテ教會所トス
- 第七條 本教々義及教務ヲ總管スル者ヲ稱シテ管長トス
- 第八條 本教宣布ニ從事スル者ヲ稱シテ教導職トス

- 第九條 本教ヲ協賛スルモノヲ稱シテ協賛員トス
  - 第十條 教會講社ノ事務ヲ主トル者ヲ稱シテ講社役員トス
  - 第十一條 教導職及協賛員講社役員ハ管長之ヲ命ス
  - 第十二條 本教々會ニ入ル者ヲ稱シテ教徒トス
  - 第十三條 教會結社式執行ハ管長ノ允可シタル者ニ限ル
  - 第十四條 祈禱式祭服式ハ管長之ヲ傳授シ證狀ヲ與フル者トス
  - 第十五條 教徒ニ授與スル神符ハ出雲大社ニ請求シテ本院ヨリ下符ス故ニ各分院教會所ニ於テ製造スルヲ得ス
- 第二章 本院
- 第十六條 本院ハ本祠内ニ設ケ學寮ヲ具備スル者トス
  - 第十七條 本院出張所ヲ東京麻布區材木町三十九番地東京分祠内ニ置ケ
  - 第十八條 全國ヲ二分シテ西部ハ本院之ヲ直管シ東部ハ東京出張所之ヲ管轄ス
  - 第十九條 本院及東京出張所ニ於テ管長不在ノ時ハ副管長ヲシテ事務代理セシム
  - 第二十條 本院ニ左ノ職員ヲ置キ教務ヲ處理ス  
但總監ハ副管長ト待遇ヲ同ウス
- 總監 一員 幹事長 一員

- 幹事 若干 幹事補 若干
  - 屬員 若干
  - 第廿一條 總監ハ旨ヲ管長ニ承ケ幹事長以下職員ヲ統率シテ教務ヲ總監ス
  - 第廿二條 幹事長ハ總監ヲ助ケテ教務ヲ監督ス總監事故アルトキハ代理スルヲ得
  - 第廿三條 幹事ハ總監ノ指揮ニ因リ各擔任ノ課務ヲ整理ス
  - 第廿四條 屬員ハ各課ノ主務ニ從事ス
  - 第廿五條 東京出張所ニ左ノ職員ヲ置キ教務ヲ處理ス  
但副管長現任ノ時ハ所長ヲ置ズシテ副管長其職務ヲ總掌ス
- 所長 一員 幹事長 一員
- 幹事 若干 幹事補 若干
- 屬員 若干
- 第廿六條 所長ハ旨ヲ管長ニ承ケ幹事長以下職員ヲ統率シテ教務ヲ總掌ス
  - 第廿七條 幹事長ハ所長ヲ助ケテ教務ヲ監督ス所長事故アル時ハ代理スルヲ得
  - 第廿八條 幹事ハ所長ノ指揮ニ因リ各擔任ノ課務ヲ整理ス
  - 第廿九條 屬員ハ各課ノ主務ニ從事ス
  - 第卅條 本院及東京出張所職員ハ管長之ヲ命ス

第三章 分院

第卅一條 分院ハ各地ニ設ケ學寮ヲ具備スル者トス

第卅二條 分院ノ建設ハ本院ニ於テ審査シ其願書ニ管長連署シ地方官廳ノ認可ヲ得テ開設スル者トス

但移轉廢合モ此手續ニ因ル

第卅三條 分院ハ所在ノ地名ニ因テ大社教某分院ト稱ス

第卅四條 分院ニ左ノ職員ヲ置キ教務ヲ處理ス

院長 一員

副長 一員長アレハ欠ク  
コトアルヘシ

理事 若干

理事補 若干

屬員 若干

第卅五條 院長ハ管長ノ示命範圍内ニ於テ教區内ノ教務ヲ管理ス

第卅六條 副長ハ掌院長ニ同シ院長事故アル時ハ代理スルヲ得

第卅七條 理事理事補屬員ハ院長ノ指揮ニ因リ各課ノ主務ニ從事ス

第卅八條 分院正副長ハ管長ノ意見ヲ以テ之ヲ命シ理事理事補屬員ハ院長ノ具狀ニ

因リ管長之ヲ命ス

第卅九條 分院長ハ所長ノ教務ニ付キ本院ニ對シ其實ニ任ス

第四章 教會所

第四十條 教會所ノ建設ハ本院ニ於テ審査シ其願書ニ管長連署シ地方官廳ノ認可ヲ得テ開設スル者トス

但移轉廢合モ此手續ニ因ル

第四十一條 教會所ハ所在ノ地名ニ依テ大社教某教會所ト稱ス

第四十二條 會所ニ左ノ職員ヲ置キ教會ノ事務ヲ處理ス

所長 一員

副長 一員長アレハ欠ク  
コトアルヘシ

理事 若干

屬員 若干

第四十三條 所長以下職掌ハ分院職員ニ同シ

第四十四條 教會所正副長ハ分書内教導職及協賛員講社役員建設本願者ノ公擢ニ因

リ分院長本院ニ具狀シ管長之ヲ命ス理事屬員ハ所長ノ具狀ニ因リ分院長之ヲ命ス

但本院分院長ノ意見アル時ハ前記ノ者ヘ諮問ノ上命スルヲアリ

第四十五條 教會所長ハ所管ノ事務ニ付本院ニ對シ其實ニ任ス

第五章 管長

第四十六條 管長ハ出雲國造正統ヲ以テ襲職ス

第四十七條 管長讓職ハ管長ノ特撰ヲ以テ主務大臣ニ具申シ認可ヲ得テ讓狀ヲ與フ

ル者トス

但管長亡シ後任未決ノ時ハ副管長及大教正連署ノ上後任ノ者ヲ主務大臣ニ具申シ認可ヲ受クル者トス

第四十八條 管長ハ本教々義及教務上ニ付政府ニ對シ其實ニ任ス

第四十九條 副管長ハ管長其器ト認ムル者ヲ特撰シ辭令ヲ與フル者トス

第五十條 副管長ハ管長ヲ補翼シ管長事故アルトキハ事務代理スルヲ得

第六章 教導職

第五十一條

教導職ヲ分テ十五級トシ其名稱等級ハ本教職員表ノ如シ

第五十二條 教導職ハ試験褒賞懲戒ノ課目ニ因リ進退ス

但品行人望ヲ以テ特撰ニ中ル者ハ此限ニアラス

第五十三條

教導職々務上ニ係ル上進下達及取締ノ爲一郡區内ニ主事ヲ置ク

第五十四條

主事ハ分書内教導職ノ公撰ヲ本院ニ具狀シ管長之ヲ命シ

第五十五條

主事ハ分書内教導職取締上ニ付本院ニ對シ其責ニ任ス

第七章 協贊員

第五十六條

協贊員ヲ分テ十五級トシ其名稱等級ハ本應職員表ノ如シ

第五十七條

協贊員ハ教導職ヲ獎勵補助シ教義擴張ノ事ヲ務ル者トス

第八章 役員

第五十八條

講社役員ヲ分テ九等トシ其名稱等級ハ本教職員表ノ如シ

第五十九條

講社役員ハ所在地ノ講社員ヲ監督調和シ且社員ヲ増殖シ専ラ教會ノ隆盛ヲ規畫スル者トス

第九章 試験

第六十條

教導職ヲ試験スル爲ニ神教提要二十題ヲ設ク

一 造化之神徳

二 天地分掌

三 五治幽之思願

四 七神道之起原

五 九祈禱之所以

六 十一追祭之禮

七 十三神魂之靈徳

八 十五鎮魂之要旨

九 十七蒼生之行務

一 二經國之功徳

二 四幽顯分任

三 六國躰ノ尊嚴

四 八祭祀之典

五 十大戒之功用

六 十二神魂之命脈

七 十四神魂氣之作用

八 十六神魂之歸着

九 十八報本反始之義務

二十教會之目的

十九人倫之大義

第十章 褒賞

第六十一條

本教ニ功勞アル者ニハ其厚薄ニ因リ等差ヲ別チテ褒賞ヲ行フ者トス

第十一章 懲戒

第六十二條

本教ノ規律ニ背ク者ヘハ其輕重ニ因リ免職又ハ謹慎ノ二法ヲ以テ懲戒スル者トス

寺級

- 十一級
- 十二級
- 十三級
- 十四級
- 十五級
- 十六級
- 十七級
- 十八級





# 大社教職職員表

## 教導職及協賛員講社役員名稱并等級

級	職名	備考
二級	正權大教正	
三級	中教正	
四級	中教正	
五級	少教正	
六級	少教正	
七級	大講義	
八級	中講義	
九級	中講義	
十級	少講義	
十一級	少講義	
十二級	少講義	
十三級	一等督事	
十四級	二等督事	
十五級	三等督事	
十六級	會 二等講生 三等講生	
十七級	世話掛 副世話掛	
十八級	試 補	

## 本院及東京出張所分院教會所職員名稱并等級

等級	職名	備考
一級	大講義	教會ノ規律ニ從ヒ郡内各講社役員ヲ指揮シ宣但シ一郡一名ヲ置ク
二級	大取締	教會ノ規律ニ從ヒ郡内各講社役員ヲ指揮シ宣但シ一郡一名ヲ置ク
三級	大世話掛	取締ヲ輔ケ教育ヲ著セ且一郡一名ヲ置ク但シ實際ノ都合ニ因テ三名マテ増減スルコトアルヘシ
四級	大講義	取締ヲ輔ケ教育ヲ著セ且一郡一名ヲ置ク但シ實際ノ都合ニ因テ三名マテ増減スルコトアルヘシ
五級	大講義	取締ヲ輔ケ教育ヲ著セ且一郡一名ヲ置ク但シ實際ノ都合ニ因テ三名マテ増減スルコトアルヘシ
六級	大講義	取締ヲ輔ケ教育ヲ著セ且一郡一名ヲ置ク但シ實際ノ都合ニ因テ三名マテ増減スルコトアルヘシ
七級	大講義	取締ヲ輔ケ教育ヲ著セ且一郡一名ヲ置ク但シ實際ノ都合ニ因テ三名マテ増減スルコトアルヘシ
八級	大講義	取締ヲ輔ケ教育ヲ著セ且一郡一名ヲ置ク但シ實際ノ都合ニ因テ三名マテ増減スルコトアルヘシ
九級	大講義	取締ヲ輔ケ教育ヲ著セ且一郡一名ヲ置ク但シ實際ノ都合ニ因テ三名マテ増減スルコトアルヘシ
十級	大講義	取締ヲ輔ケ教育ヲ著セ且一郡一名ヲ置ク但シ實際ノ都合ニ因テ三名マテ増減スルコトアルヘシ
十一級	大講義	取締ヲ輔ケ教育ヲ著セ且一郡一名ヲ置ク但シ實際ノ都合ニ因テ三名マテ増減スルコトアルヘシ
十二級	大講義	取締ヲ輔ケ教育ヲ著セ且一郡一名ヲ置ク但シ實際ノ都合ニ因テ三名マテ増減スルコトアルヘシ
十三級	大講義	取締ヲ輔ケ教育ヲ著セ且一郡一名ヲ置ク但シ實際ノ都合ニ因テ三名マテ増減スルコトアルヘシ
十四級	大講義	取締ヲ輔ケ教育ヲ著セ且一郡一名ヲ置ク但シ實際ノ都合ニ因テ三名マテ増減スルコトアルヘシ
十五級	大講義	取締ヲ輔ケ教育ヲ著セ且一郡一名ヲ置ク但シ實際ノ都合ニ因テ三名マテ増減スルコトアルヘシ

# 大社教本院

年十月改正

幹事長 總監督又ハ東京出張所長分府  
 幹事長 總監督又ハ東京出張所長分府  
 副幹事長 總監督又ハ東京出張所長分府  
 理事 總監督又ハ東京出張所長分府  
 屬員 各課ノ主務ニ從事ス

大社教々導職檢定條規

本教々導職檢定條規別冊ノ通制定致候間御認可被下度此段願上候也

明治廿八年九月三十日

大社教管長 千家尊愛

内務大臣子爵 野村靖殿

(指令朱書)

印刷

書面願ノ趣認可ス

明治廿八年十二月廿七日

内務大臣子爵 野村 靖

印

大社教々導職檢定條規

第一章 檢定

第一條 教規第六章第五拾壹條ニ掲グル所ノ教導職ハ總テ此條規ニ依リ管長之ヲ補ス

第二條 左ノ一項ニ該當スル者ハ教導職タルゴトヲ得ス

- 一 瘋癲白疾聲啞ノ者
- 二 年齢二十歳未滿ノ者
- 三 重罪及定役ニ服スヘキ輕罪ニ處セラレタル者
- 四 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セス又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘザル者
- 五 法律ニ觸レサルモ品行不正ナル證據アル者
- 六 本教又ハ他教派ニ於テ懲戒免職處分ヲ受ケタル者ニシテ改心實ヲ表スルモ二ケ年ヲ經過セサル者

第三條 檢定ヲ分テ左ノ二種トス

第一種 試驗

第二種 試驗

第二種 認定

第四條 第一種ノ試驗ハ第五條乃至第十壹條ニ於テ學業ノ試驗ヲ行フモノトス學業ノ試驗ヲ分ツコト左ノ如シ

- 壹 教義學科試驗
- 貳 普通學科試驗

第五條 教義學科試驗ハ之ヲ七等ニ分チ二等以上ヲ高等トシ三等以下ヲ尋常トス其科目左ノ如シ

學科等級	認	定	對	口	述	或	問	筆	記	作	業
壹等	日本書記	萬葉集	神教撮要ノ	中	文法	二題	三題	鐵	魂	式	式
貳等	日本書記	古事記	神教撮要ノ	中	文法	二題	二題	神	祭	諸	式
參等	古事記上卷	日本紀宣	神教撮要ノ	中	文法	一題	二題	婚	禮	生	式
四等	古事記上卷	古事記	神教撮要ノ	中	文法	一題	三題	葬	祭	式	式
五等	古語拾遺	大島室典	立教ノ大意	中	二題	二題	神	祭	式	式	式
六等	古語拾遺	教旨大要	立教ノ大意	中	二題	二題	祈	念	式	式	式
七等	本教神徳大意	出雲問答	立教ノ大意	中	一題	一題	解	除	式	式	式

第六條 普通學科試驗科目ハ左ノ如シ

但シ此試驗ニ及第シタル者ハ再度之ニ就キ試驗スルコトナシ

- 一 修身
- 一 國文 讀取
- 一 漢文 講讀
- 一 日本及萬國歴史 筆答
- 一 日本及萬國地理 筆答
- 一 哲學
- 一 數學 筆答
- 一 理科 筆答
- 一 習字

第七條 試驗ノ點數ハ一科目全點ヲ百點トシ平均六十點以上ヲ得タルモノヲ及第トシ一科目四十點未滿ナル者ハ落第トス而シテ平均八十點以上ヲ甲トシ其以下ヲ乙トス甲ヲ正ニ配シ乙ヲ權ニ配ス則チ左表ノ如シ  
但七等ハ甲乙ヲ分タス

等級	區別
一 等	甲點ヲ得タル者
二 等	中教正
三 等	少教正
四 等	大講義
五 等	中講義
六 等	少講義
七 等	權中教正
	權少教正
	權大講義
	權中講義
	權少講義
	權訓導
	教導職試補
	乙點ヲ得タル者
	權中教正
	權少教正
	權大講義
	權中講義
	權少講義
	權訓導
	教導職試補

第八條 新補試驗ハ六等以下トス

但新補試驗ヲ受タル後滿二年ヲ經過シタル者ニシテ適當ノ學力ヲ有スル者ハ檢定委員總長又ハ檢定委員副總長檢定委員長ノ具申ニ依リ管長ハ特ニ四等以下ノ試驗ヲ許可スルコトアル可シ

第九條 昇級試驗ハ三等以下ハ現級滿二年壹等貳等ハ現級滿三年ヲ經過セザレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第十條 昇級試驗ハ越級ヲ許サスト雖モ檢定委員總長檢定委員副總長檢定委員長ノ銜ヲ經テ管長ハ特ニ之ヲ許可スルコトアル可シ

但第八條但書ノ場合ヲ除ク外ハ六等五等二等ハ越級ヲ許サズ

第十一條 試驗ニ落第シタル者ハ滿一年ヲ經過セザレバ再試驗ヲ許サズ

第十二條 第二種ノ認定ハ第十三條ノ規定ハ管長之ヲ行ヒ第十四條乃至第十七條ノ規定ハ檢定委員總長又ハ檢定委員副總長檢定委員長及檢定委員三名以上ニ於テ之ヲ行ヒ管長ニ具申スルモノトス

第十三條 正權大教正ハ試験ヲ要セス大教正七名權大教正二十名ヲ限リ管長之ヲ補命ス

第十四條 左ノ各種ハ教義學科試験又ハ普通學科試験ノ全部ヲ免除ス

壹種

一 神宮權禰宜以上官國幣社正權宮司ノ職ニアリシ者

二 神宮皇學館本科卒業生及皇典講究所學正タル者

以上ハ教義學科ノ試験ヲ免除シ權少教正以下ニ補命ス

貳種

一 高等官タリシ者及其資格ヲ有スル者

以上ハ普通學科試験ヲ免除シ權少教正以下ニ補命ス

三種

一 神宮々掌以上官國幣社主典以上ノ職ニアリシ者

二 神宮皇學館專科卒業生及皇典講究所五等司業以上ノ者

三 滿十年以上府縣社以下ノ神職タリシ者

四 教義ニ關スル著述ヲ爲シ學術上顯著ナル功績アル者

以上ハ教義學科試験ヲ免除シ少講義以下ニ補命ス

四種

一 尋常師範學校及尋常中學校以上公立學校ヲ卒業セシ者

二 判任官タリシ者及其資格ヲ有スル者

以上ハ普通學科試験ヲ免除シ少講義以下ニ補命ス

五種

一 滿十年以上本教々徒ニシテ教義ニ熱心シ功績顯著ナル者

以上ハ教義學科試験ヲ免除シ訓導以下ニ補命ス

第十五條 左ノ各項ニ該當スル者ハ試験ノ一部又ハ全部ヲ免除シ其原級ヨリ一級以下ニ補命ス

但原級ニ相當シタル試験ヲ受クルコトヲ得

一 本教々導職タリシ者ニシテ復職スル者

二 明治十七年八月十一日以前教導職タリシ者

三 神教他教派ヨリ轉屬スル者



第十六條 本院又ハ各分院ノ學寮ニ於テ其學科ヲ卒業シタル者ハ試驗ニ依ラズシテ左ノ各級ニ補スルコトヲ得

但最優等生ニ限リ一級ヲ進ムルコトヲ得

一 本院學寮卒業生權少教正以下

一 分院學寮卒業生權大講義以下

第十七條 本院學寮又ハ分院學寮ノ學科程度ト同等以上ノ學校卒業生ニシテ其學校

ノ證明書ヲ有スル者ニ限リ三等又ハ四等以下ノ試驗ヲ受クルコトヲ得

但教養學科試驗ノ一部及普通學科試驗ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

第十八條 左ノ一項ニ該當スル者ハ試驗ニ依ラズシテ一級ヲ進ムルコトヲ得

但權訓導權少講義權少教正ニ昇級スル者ハ必ズ試驗ヲ受クルヲ要ス

一 教養ニ關スル有益ノ著述ヲ爲シタル者

二 現級滿三年以上勤績シ本院又ハ東京出張所各分院教會所及直轄教會ノ理事者

ニシテ功績顯著ナル權少教正以上ノ者

三 現級滿二年以上勤績シ本院又ハ東京出張所各分院教會所及直轄教會ノ理事者

ニシテ功績顯著ナル大講義以下ノ者

四 現級滿四年以上勤績シ功績顯著ナル權少教正以上ノ者

五 現級滿三年以上勤績シ功績顯著ナル大講義以下ノ者

第貳章 試驗手續

第十九條 高等試驗ハ本院及東京出張所ニ於テ隨時之ヲ行ヒ尋常試驗ハ本院及東京出張所又ハ分院ニ於テ隨時之ヲ行フ

但本條外ノ場所ニ於テ尋常試驗ヲ執行スルノ必要アルトキハ檢定委員總長又ハ檢定委員副總長檢定委員長ヨリ申請シ特ニ官長ノ許可ヲ受ク可シ

第二十條 高等試驗ハ其筆答以外ノ書類ヲ檢定委員長及檢定委員ニ於テ精査シ筆答

ニ關スル書類ハ其儘之ヲ檢定委員總長又ハ檢定委員副總長ニ報告シ檢定委員總長又ハ檢定委員副總長ハ之ヲ審案シ得點ヲ合算シテ其成績ヲ管長ニ具申スルモノトス

第二十一條 尋常試驗ハ其筆答以外ノ書類ヲ檢定委員ニ於テ精査シ筆答ニ關スル書

類ハ其儘之ヲ檢定委員長ニ報告シ檢定委員長ハ之ヲ審案シ得點ヲ合算シテ其成績

ヲ檢定委員總長又ハ檢定委員副總長ノ檢閲ヲ經テ管長ニ具申スルモノトス

第二十二條 試驗問題ハ檢定委員總長又ハ檢定委員副總長之ヲ定メ管長ノ認可ヲ受

ク可シ

第二十三條 高等試驗ハ檢定委員總長又ハ檢定委員副總長及ヒ檢定委員三名以上尋

常試験ハ檢定委員長及檢定委員三名以上出席スルニアラサレハ行フコトヲ得ス  
第二十四條 試験ニ關スル一切ノ書類ハ本院又ハ東京出張所ニ保存スルモノトス

第三章 檢定委員

第二十五條 檢定委員ハ檢定委員長檢定委員副總長各壹名檢定委員長貳名檢定委員拾五名ヲ定員トシ本院及ヒ東京出張所ニ置ク

但分院又ハ其他ノ場所ニ於テ試験ヲ行フトキハ臨時檢定委員長壹名及ヒ檢定委員三名以上ヲ選定スルコトアル可シ

第二十六條 檢定委員總長檢定委員副總長ハ權大教正以上檢定委員長ハ權中教正以上檢定委員ハ權少教正以上ノ教導職ニ就キ管長ノ特選ヲ以テ之ヲ命ス

但檢定委員ハ博士學士ノ稱號アル本教協贊員又ハ學識アル權大參教以上ノ協贊員ヘ囑托スルコトアル可シ

第二十七條 檢定委員總長檢定委員副總長檢定委員長檢定委員等ノ任期ハ凡テ滿三年トス

第四章 立會人

第二十八條 檢定試験實地監査ノ爲メ管長ハ教正以上ノ教導職ヲ立會ハシム

第二十九條 立會人ハ試験ニ臨監シ試験終了シタルトキハ直チニ試験ノ實況ヲ管長

ニ具申スルモノトス

第五章 懲 戒

第二十條 檢定委員ニシテ試験問題ヲ漏洩シタルモノハ其情狀ニ依リ免職若クハ降級ニ處シ受験者ニアリテハ其試験ヲ無効トス

第二十一條 檢定委員不當ノ檢定ヲ爲シ又ハ立會人試験ノ實況ニ付虚偽ノ具申ヲ爲シタルトキハ前條ノ例ニ依ル

第六章 附 則

第三十二條 本條規實施前ヨリ在職ノ者ハ引續キ其職ニアルコトヲ得

第三十三條 本院及分院ノ學寮ハ目下未設ニ付之ニ係ル各規定ハ追テ内務大臣ノ認可ヲ得テ實施ス可シ

第三十四條 從來ノ令達及其他ノ規則ニシテ此條規ニ抵觸スルモノハ總テ無効トス  
第三十五條 本條規ハ明治廿九年一月一日ヨリ施行ス

神道扶桑教々規

別冊ノ通教規立定仕度候條御差支無之候ハ、御認可有之度此段相願候也  
明治十九年八月九日

扶桑教事務取扱 田中頼庸 印

内務大臣 山縣有朋殿

(指令朱書)

割 印

書面之趣認可候事

明治十九年八月十九日

内務大臣伯爵 山縣有朋

印

神道扶桑教々規

扶桑教ハ造化參神ノ無量無邊ノ神徳ヲ尊崇シ惟神ノ大道ヲ修メ本教ヲ宣布スルヲ主トス

第一章

第一條 本教ハ富士山ニ據リ興教セシヲ以テ神道扶桑教ト稱ス

第二條 本教ノ主神

高皇產靈神

天之御中主神

神皇產靈神

合殿

天照大御神

月夜見神

彦火邇々杵命

木花開耶姬命

第三條 皇國ノ禮典ヲ脩明シ神事ハ歷朝ノ儀範ニ則リ冠婚喪祭等ハ本朝禮式ヲ執行

ス

第四條 天神地祇ヲ崇祀シ幽顯死生ノ理ヲ申明ス

第五條 教師ハ總テ教導職ト稱シ名稱等級ハ第一條ニ掲ケ

第六條 教師ノ外信徒結集ノ爲講長傳教子修行者周旋方等ノ名稱ヲ置ケ

第七條 教導職補任ノ際ハ必ス二條ノ教憲ヲ授與ス

第八條 大小教區取締ハ太教廳詰員臨時派出シ之ヲ監督ス

第九條 信徒ノ請求ニ應シ鑑札ヲ授與ス

第十條 說教ヲ分ケテ定期臨時ノ式種トス

第二章 名稱

第十一條 本教ノ主神ヲ鎮祭スル所ヲ東京芝區神明町ニ置テ之ヲ稱シテ扶桑教太祠

ト稱ス

第十二條 本教ノ教務ヲ總掌スル所ヲ太祠ノ境内ニ置キ之ヲ稱シテ扶桑教太教廳ト

稱ス

第十三條 教務ノ都合ニ依リ各地ニ太教廳出張所ヲ置ケ

第十四條 信徒教徒ノ便宜ニヨリ各地ニ教會講社ノ本部ヲ置ケ

第十五條 教區ハ祠宇ノ統轄部内ヲ大教區トシ教會所部内ヲ小教區トス

第十六條 大小教區内ノ布教取締ハ祠宇主祠宇掌殿及ヒ本部長教會所長之ヲ擔任ス  
 第十七條 各地ニ信徒ヲ結集シ之ヲ稱シテ某名講社トス  
 第十八條 教師及教務員等ノ名稱等級ヲ定ムル事左ノ如シ

員	務	教	稱名師教	級等	特
長	管	大	大	等	一
元	參	正	大	等	二
事	諫	正	中	等	三
長	務	正	中	等	四
督	監	正	中	等	五
主	查	正	少	等	六
殿	監	正	少	等	七
掌	掌	正	少	等	八
長	事	義	大	等	九
部	錄	義	大	等	十
本	大	義	中	等	十一
會	權	義	中	等	十二
教	大	義	中	等	十三
所	事	義	中	等	十四
長	錄	義	中	等	十五
張	中	義	中	等	十六
應	權	義	中	等	十七
大	少	義	中	等	十八
出	權	義	中	等	十九
	事	義	中	等	二十
	錄	義	中	等	二十一
	少	義	中	等	二十二
	權	義	中	等	二十三
	事	義	中	等	二十四
	錄	義	中	等	二十五
	少	義	中	等	二十六
	權	義	中	等	二十七
	事	義	中	等	二十八
	錄	義	中	等	二十九
	少	義	中	等	三十
	權	義	中	等	三十一
	事	義	中	等	三十二
	錄	義	中	等	三十三
	少	義	中	等	三十四
	權	義	中	等	三十五
	事	義	中	等	三十六
	錄	義	中	等	三十七
	少	義	中	等	三十八
	權	義	中	等	三十九
	事	義	中	等	四十
	錄	義	中	等	四十一
	少	義	中	等	四十二
	權	義	中	等	四十三
	事	義	中	等	四十四
	錄	義	中	等	四十五
	少	義	中	等	四十六
	權	義	中	等	四十七
	事	義	中	等	四十八
	錄	義	中	等	四十九
	少	義	中	等	五十
	權	義	中	等	五十一
	事	義	中	等	五十二
	錄	義	中	等	五十三
	少	義	中	等	五十四
	權	義	中	等	五十五
	事	義	中	等	五十六
	錄	義	中	等	五十七
	少	義	中	等	五十八
	權	義	中	等	五十九
	事	義	中	等	六十
	錄	義	中	等	六十一
	少	義	中	等	六十二
	權	義	中	等	六十三
	事	義	中	等	六十四
	錄	義	中	等	六十五
	少	義	中	等	六十六
	權	義	中	等	六十七
	事	義	中	等	六十八
	錄	義	中	等	六十九
	少	義	中	等	七十
	權	義	中	等	七十一
	事	義	中	等	七十二
	錄	義	中	等	七十三
	少	義	中	等	七十四
	權	義	中	等	七十五
	事	義	中	等	七十六
	錄	義	中	等	七十七
	少	義	中	等	七十八
	權	義	中	等	七十九
	事	義	中	等	八十
	錄	義	中	等	八十一
	少	義	中	等	八十二
	權	義	中	等	八十三
	事	義	中	等	八十四
	錄	義	中	等	八十五
	少	義	中	等	八十六
	權	義	中	等	八十七
	事	義	中	等	八十八
	錄	義	中	等	八十九
	少	義	中	等	九十
	權	義	中	等	九十一
	事	義	中	等	九十二
	錄	義	中	等	九十三
	少	義	中	等	九十四
	權	義	中	等	九十五
	事	義	中	等	九十六
	錄	義	中	等	九十七
	少	義	中	等	九十八
	權	義	中	等	九十九
	事	義	中	等	一百
	錄	義	中	等	外
	少	義	中	等	補
	權	義	中	等	試
	事	義	中	等	職
	錄	義	中	等	導
	少	義	中	等	教
	權	義	中	等	

第三章 職制權限

第十九條 大教正以下ノ教師ヲ統轄スルモノヲ管長ト稱ス  
 第二十條 管長ハ大教主ニシテ教務一切ヲ總理シ上下ニ對シ其實ニ任ス  
 一 神事教旨禮節ヲ傳授ス  
 一 教師及ヒ應員祠宇主祠宇掌殿本部長教會所長等ノ役員ヲ進退シ教會講社ノ名稱ヲ許否ス  
 第廿一條 教師ハ試補以上總テ神事布教ノ諸務ヲ分掌ス  
 一 神事ヲ脩メ信徒ヲ教導ス  
 一 太占及禁厭鎮火祭等ヲ執行ス  
 一 祭禮冠婚及喪祭等ノ諸式ヲ奉行ス  
 第廿二條 各祠宇掌殿ハ教正以上ノ者ヲ以テ之ニ充ツ  
 第廿三條 各祠宇主祠宇掌殿及本部長教會所長ハ部下講社ノ諸務ヲ整理ス  
 第四章 祭典  
 第廿四條 祭典ヲ分テ大小臨時祭ノ三種トス  
 第廿五條 扶桑教太祠ノ大祭ハ春秋兩季トシ小祭ハ例月十二日トス  
 第廿六條 本曆掲戴ノ大祭祝日ハ本祠及各祠ニ於テ實所ヲ遙拜ス

第廿七條 各祠宇祭典ハ地方ノ適宜ニ任スト雖モ管長ノ認可ヲ得テ然ル後ニ施行ス

第廿八條 教祖ノ忌日ハ本祠及ヒ各祠ニ於テ神饌ヲ設ケ其祭典ヲ行フ

第五章 進退

第廿九條 管長ハ本教ノ締盟ニ依リ世襲トナシ太教廳詰正權大教正連署シ出願認可ヲ請フベシ

一 管長未成年ナルキハ管長ハ教務ヲ處理セシムルカ爲ニ參元謀事事務長ニ諮問シ正權大教正中ヨリ教務總理一名若クハ二名ヲ定メ前項ノ手續ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ請フベシ

第三十條 各祠宇掌殿ノ世襲ハ功勞ニ依リ管長之ヲ許ス

但シ世襲ヲ許スルハ之ヲ祠宇主トス

第卅一條 世襲ノ掌殿ト雖モ本教ニ信義ヲ欠ク者ハ管長其職ヲ免ス

第卅二條 教師ハ試験或ハ管長ノ特選ニ依リ之ヲ進退ス

一 神事學術優等ニシテ事理ニ通曉スル者

一 品行方正ニシテ人ノ師表タルヘキ者

一 德望及布教ニ功勞アル者

一 試補ハ教義篤志ニシテ後來望アル者

第卅三條 本教ノ教職ハ假令功勞學術アリト雖モ必ス試補ヨリ昇等スル者トス但特別者ハ此限ニアラス

第六章 施設

第卅四條 太教廳出張所教會所説教所設置ハ其管轄廳へ請願ス

第卅五條 教會所ノ名稱ハ管長之ヲ允許ス

第卅六條 教會所説教所ノ廢合ハ其都度管轄廳へ届出ルモノトス

第七章 服制

第卅七條 管長教師ノ禮服ハ齋服狩衣直垂淨衣トス

一 教正以上齋服狩衣直垂淨衣

一 正權大講義狩衣直垂淨衣

一 中講義以下權訓導直垂淨衣

一 試補 直垂

第八章 雜則

第卅八條 信徒以上ノ履歷名簿ハ扶桑教太祠ノ掌殿ヲシテ之ヲ掌ラシメ其姓名ヲ不

朽ニ存セシム

第卅九條 信徒タラン事ヲ願フモノハ必ス神誓セシメ教誡及ヒ神符ヲ授與シ教旨ヲ



体認セシム

第四十條 授産ノ方法ヲ設ケ山海ノ遺利ヲ興シ農漁ノ裨補ヲ謀ル

第四十一條 衛生ノ方法ヲ講習シ及行旅ノ便益ヲ謀ル

第四十二條 教費ハ教師及ヒ信徒ヨリ之ヲ徴收ス

第四十三條 自他教派ノ紛争ヲ未萌ニ鎮定シ邦家ノ安寧ヲ圖ル

第四十四條 教規ハ勿論管長ノ命令ニ違犯スル者ハ懲戒規約ヲ以テ懲戒ス

神道扶桑教懲戒規約

第一章 大綱

第一條 本教ニ於テ懲戒スル方法ヲ別テ三種トス

一 重懲戒

一 輕懲戒

一 諭戒

第二條 重懲戒ハ統轄者ヨリ管長ヘ具申ス

第三條 輕懲戒ハ統轄者之ヲ決行シテ後ニ管長ニ具申ス

第四條 諭戒ハ教會長之ヲ處置ス

第五條 重懲戒輕懲戒トモニ懲戒スヘキ者ハ其行踪實體ヲ得本教々會並ニ出張所ニ

於テ審査ヲ遂ケ其手續證據書類ニ意見書ヲ添ヘ教會長若クハ副長並ニ係リ主任ノ者總テ三名以上連署シ統轄者ヘ具申ス

但本文ノ手續ヲ爲サ、ル者ハ其功ヲ有セス

第六條 懲戒ニ依ルニ非ラスシテ免職スヘキ者ハ統轄者ヨリ旨ヲ諭シ本人ヨリ免職願ヲ出サシム若シ其旨ニ違ハサル者ハ統轄者ヨリ直ニ管長ニ具申ス

第七條 懲戒ニ依リ免職スル者ハ滿二年或ハ三年ヲ經テ改良ノ實効アルニ非レハ再補スルコトヲ許サス

第八條 謹慎ヲ命セラレタル者ハ滿一年間昇級ヲ許サス

第二章 罰例

第九條 重懲戒ヲ免職トス

第十條 輕懲戒ヲ分テ謹慎懲戒トス

第十一條 重懲戒免職ニ係ル者アルハ各教管長ヘモ之ヲ通牒ス

第十二條 謹慎ハ五日以上十五日以下統轄者ヨリ書面ヲ以テ申付

第十三條 諭戒ハ其事由ヲ示シ謹戒書ヲ付シテ將來ヲ戒シム

第十四條 諭戒ハ過失ヲ指摘シ悔悟ノ謝狀ヲ出サシム

第三章 迹例

第十五條 左ノ概目ニ觸ル、者ヲ重懲戒トス

- 一 管長ノ命令ヲ奉セサル者
- 一 本教ノ規約條例ヲ遵守セサル者
- 一 正權大教正及有位ノ教正ニ對シ不敬不遜ノ舉動ヲ爲ス者
- 一 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又祈禱符呪等ニ托シ人ヲ惑シ私利ヲ計ル者
- 一 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ蠱惑シ風俗ヲ紊ル者
- 一 本教廳及ヒ諸教會講社ノ名稱ヲ以テ詐術ヲ爲ス者
- 一 不品行ヲ以テ職ヲ來シ教職ノ体面ヲ汚ス者
- 一 身代限リノ處分ヲ受ケタル者
- 一 謹慎ヲ受猶素行修ラサル者
- 一 教義用若クハ廳務ヲ名トシ伺テ經スシテ出張スル者
- 一 當器ノ教職ヲ故意ニ昇級具申セサル者

第四章 違 例

- 第十六條 左ノ概目ニ觸ル、者ヲ輕懲戒トシ其情狀ヲ酌量シ其重ヲ謹慎トシ其輕ヲ隨戒トス
- 一 太教廳出張所長ノ命令ニ遵ハサル者

- 一 疎虞懈怠ニシテ本教ノ規約條例ニ違フ者
- 一 管長ノ允許ヲ得スシテ教規類似ノ者ヲ部内ニ施設シ或ハ鑑札辭令書等ヲ信者ニ授與スル者

- 一 凡違書ヲ受テ時日ヲ稽緩差失シ事ニ害アル者
- 一 本部教會長或ハ教正以上ニ對シ不敬不遜ノ舉動ヲ爲ス者
- 一 同職ニ對シ陵厲ヲ爲ス者
- 一 教義禮式ヲ違失スル者
- 一 所轄教會ノ認可ヲ得スシテ忘リニ所轄ヲ轉換スル者
- 一 本教諸教會講社ノ公選投票ヲ増減スル者
- 一 祭服ノ制ヲ紊タル者
- 一 諭戒ヲ受猶悔悟セサル者

第五章

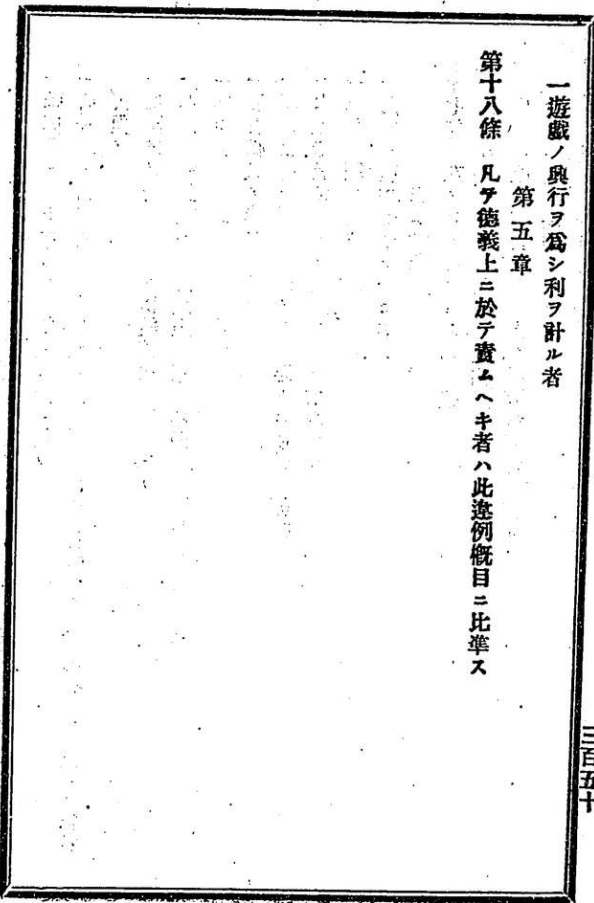
第十七條 左ノ件ニ觸ル、者ハ諭戒ス

- 一 約束ヨリ成立タル臨時教費割ヲ遲納スル者
- 一 他ノ事故ヲ口實トシテ太教廳教會所等ノ義務ヲ欠者
- 一 教會講社ノ規約ニ違フ者

一遊戯ノ興行ヲ爲シ利ヲ計ル者

第五章

第十八條 凡テ徳義上ニ於テ實ムヘキ者ハ此遵例概目ニ比準ス



扶桑教師檢定條規

未教達乙第一號

教師一般

本年五月内務省訓令第九號ニ依リ教師檢定條規則別冊之通相定候條此段示達候事

明治廿八年十二月

扶桑教管長 尖野健丸

教師檢定條規認可願

本年五月御訓令第九號ニ依リ別冊之通教師檢定條規相定度候間御認可被成下度此段奉願候也

明治廿八年九月廿八日

扶桑教管長 尖野健丸 印

内務大臣子爵野村靖殿

扶桑教師檢定條規

(指令朱書)

割 印

書面願之趣認可ス

明治廿八年十二月十三日

内務大臣子爵野村靖印

扶桑教教師檢定條規

第一章 總 則

第一條 本教々規第十八條ニ掲グル教師ノ新補昇級ハ總テ此檢定條規ニ依ル

第二條 左項ノ一ニ該當スルモノハ教師タルヲ得ス

- 一 年齡滿二十歲以下ノ者
- 一 瘋癲白痴ノ者
- 一 品行不正ナリト認ムル者
- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 一 身代限若クハ家資分産ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘテ一ケ年ヲ經過セザル者
- 一 本教又ハ他教派ニ於テ懲戒免職ノ處分ヲ受ケタル者ニケ年以上改心ノ實ヲ表セザル者

第二章 檢 定

第三條 檢定ヲ分テ左ノ二種トス

- 第一種 試験
- 第二種 認定

(指令朱書)

割 印

書面願之趣認可ス

明治廿八年十二月十三日

内務大臣子爵野村靖印

扶桑教教師檢定條規

第一章 總 則

第一條 本教々規第十八條ニ掲グル教師ノ新補昇級ハ總テ此檢定條規ニ依ル

第二條 左項ノ一ニ該當スルモノハ教師タルヲ得ス

一 年齡滿二十歲以下ノ者

一 瘋癲白痴ノ者

一 品行不正ナリト認ムル者

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

一 身代限若クハ家資分産ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘテ一ケ年ヲ經過セザル者

一本教又ハ他教派ニ於テ懲戒免職ノ處分ヲ受ケタル者ニケ年以上改心ノ實ヲ表セザル者

第二章 檢 定

第三條 檢定ヲ分テ左ノ二種トス

第一種

試験

第二種

認定

第四條 第一種ノ檢定ハ學業ノ試験ヲ行フモノトス學業試験分テ左ノ如シ

一 教義學科試験

一 普通學科試験

第五條 教義學科試験科目ハ別表第一號普通學科試験科目ハ別表第二號ニ依ル

第六條 新補試験ハ十二級以下トス

但シ高等官タリシモノ又ハ高等官タルノ資格ヲ有スル者ハ六級以下判任官タリ

第七條 昇級試験ハ越級ヲ許サスト雖モ現級滿二ケ年ヲ經過スル毎ニ二級以內越級

試験ヲ受クルヲ得

但シ十二級九級六級ハ必ス試験ニ依ル

第八條 第二種ノ檢定ハ第九條以下第十四條ノ場合ニ限リ檢定委員長及檢定委員其

實行ヲ檢定シ檢定委員長ニ報告シ檢定委員總長ハ意見ヲ具シテ管長ニ報告ス

第九條 一級二級ノ教師ハ試験ヲ要セス左項ノ定數ヲ限リ欠員アル場合ニ於テ上席

教師又ハ特別功勞アル者ヲ以テ之ヲ補ス

一 壹級 七名

一 貳級 拾五名

一 參級 拾五名

第十條 尋常中學校卒業生又ハ其學科程度ト全等以上ノ學校卒業生ハ普通學科試験ヲ免シ又判任官タリシモノ又判任タルノ資格ヲ有スルモノハ普通學科試験全部又ハ一部ヲ免ス

第十一條 教義ニ關スル自己ノ著書ヲ以テ檢定ヲ受ル者ハ教義學科試験ノ一部ヲ免ス

第十二條 左項ノ一ニ該當スルモノハ試験ニ依ラス各一級昇級スルヲ得  
但十二級九級六級ハ必ス試験ニ依ル

一 教義ニ關スル有益ノ著述ヲ爲シタル者

一 現級滿三年以上勤務シ其功績顯著ナル大教廳別院教務所ノ權少錄事相當以上ノ者

一 現級滿四年以上勤務シ其功績顯著ナルモノ

第十三條 本教々師タリシモノニシテ再ヒ本教ニ復職セントスル者ハ原等級ヨリ一級以下ニ補スルコトアルベシ

第十四條 神道他教派教師タルモノニシテ本教ノ教師タラントスル者ハ教義學科試験ノ一部又ハ普通學科試験ノ全部又ハ一部ヲ免ス

但シ原等級ヨリ一級以下ニ補スルコトアル可シ



第三章 試驗

- 第十五條 試驗ハ大教廳別院教務所教會所ニ於テ春秋二季ノ定期ニ於テ執行ス  
但シ本條ノ定期以外ニ於テ臨時試驗ノ必要アルハ檢定委員總長及檢定委員長  
ヨリ申請シテ特ニ管長ノ許可ヲ受クルモノトス
- 第十六條 試驗ノ總點數ハ百點トシ六十點以上ヲ及第トシ八十五點以上ヲ優等トス  
但シ各科通算シテ六十點以上ノ採點アルモノ一科四十點未滿ナルハ落第トス
- 第十七條 試驗ハ檢定委員長及檢定委員其口述講讀行為ニ關スルモノヲ審査シ其成  
點ヲ檢定委員總長ニ報告シ其筆答筆記ニ關スル者ハ之レヲ取纏メ直ニ檢定委員總  
長ニ送附スルモノトス
- 第十八條 前條ノ場合ニ於テ檢定委員總長ハ他ノ檢定委員ト共ニ筆答筆記ヲ審案シ  
檢定委員長ヨリ報告シタル成點ト通算シ其成績ヲ管長ニ報告ス
- 第十九條 試驗問題ハ檢定委員總長檢定委員長之ヲ定ム
- 第二十條 試驗ハ檢定委員參名以上出席ノ上之ヲ執行スルモノトス
- 第二十一條 檢定試驗ニ關スル一切ノ書類ハ十ヶ年間之ヲ保存スルモノトス
- 第四章 檢定委員
- 第二十二條 大教廳ニ檢定委員總長一名檢定委員若干名ヲ置キ別院教務所教會所ニ

- 檢定委員若干名ヲ置ク檢定委員長ハ檢定ノ都度又ハ豫メ管長之ヲ命ズ
- 第二十三條 檢定委員總長ハ二級以上ノ教師檢定委員長ハ六級以上ノ教師檢定委員  
ハ八級以上ノ教師ニ就キ管長之ヲ特撰ス
- 第二十四條 檢定委員總長及檢定委員長ハ管長ノ命ヲ受ケ檢定ニ關スル事務ヲ處理  
ス
- 第二十五條 被檢定人ハ檢定委員長ヨリ下級タル可シ
- 第五章 立會人
- 第二十六條 檢定委員試驗ヲ正確ニ執行スルヤ否ヤヲ監督スル爲メ管長ハ臨時六級  
以上ノ教師ヲ立會人ニ定ム
- 第二十七條 立會人ハ試驗ニ臨監シ試驗ノ實況ヲ直ニ管長ニ報告ス
- 第六章 懲 戒
- 第二十八條 檢定委員試驗問題ヲ漏洩シ或ハ密示シタルモノハ其情況ニ依リ委員若  
シクハ本職ヲ免ス受験者ニアリテハ十ヶ年間受験權ヲ失フモノトス
- 第二十九條 檢定委員不當ノ檢定ヲ爲シ又立會人虛偽ノ報告ヲナスモノハ前條ニ依  
ル
- 別表第一號

學科	等級	講義	口述及筆答	作文	作業及筆答	說教
扶桑教	三四級	扶桑教	六國史	宣命體	神禮式	立教大意
扶桑教	五六級	扶桑教	古事記	和命體文	神禮式	立教大意
扶桑教	七八級	扶桑教	古事記	和祝文	神禮式	立教大意
扶桑教	九級	扶桑教	古事記	祝文	神禮式	立教大意
扶桑教	十一級	扶桑教	古事記	祝文	神禮式	立教大意
扶桑教	十三級	扶桑教	古事記	祝文	神禮式	立教大意
扶桑教	十五級	扶桑教	古事記	祝文	神禮式	立教大意

別表第貳號  
 修身學 口述 國語 講讀 漢文 講讀 日本及萬國歷史 筆答 日本及萬國地理 筆答  
 理化學 筆答 數學 筆答 習字

未教達乙第二號  
 今般本教教師檢定條規被相定候ニ付テハ本年六月六日以前在職ノ教師モ右條規ニ準  
 シ一應ノ檢定執行可致旨内務大臣ニ届濟相成候條此段副テ相達候事  
 明治二十八年十二月 日

扶桑教管長 安野健丸

視教教師檢定條規

視第二十二號

檢定條規御認可願

本教教師檢定條規別冊之通相定候條御認可被成下度此段奉願候也

明治二十八年十二月十六日

視教管長 坂田 安治 印

內務大臣子爵野村靖殿

(指令朱書)

書面願ノ趣認可ス

割 印

明治二十八年十二月廿四日

內務大臣子爵野村 靖 印

### 視教教師檢定條規

#### 第一章 檢定

- 第一條 視教教師ノ分限及等級ハ檢定委員ノ檢定ニ合格スル者ニ非レハ之ヲ授與セス
- 第二條 左ノ項目ニ觸ル、者ハ教師タルヲ得ス
  - 一 品行修テサル者
  - 二 瘋癲 白痴 瘡癩ノ者
  - 三 男子ハ二十年女子ハ二十五年未滿ノ者
  - 四 重罪及定役ニ服スヘキ輕罪ニ處セラレタル者
  - 五 家資分産者破産者及身代限ノ處分ヲ受タル者又復權后若クハ辨償ヲ終ヘテ一ケ年ヲ經過セサル者
  - 六 本教又ハ他教派ニ於テ懲戒等ニ依リ免職ノ處分ヲ受ケ滿二ケ年ヲ經過シ悔悟ノ實證アラサル者
- 第三條 教師ノ檢定ヲ分テ左ノ二種トス
  - 甲種 試驗
  - 乙種 認定

#### 第二章 試驗

- 第四條 甲種檢定ハ學業ノ試驗ヲ行フモノトシ是ヲ分テ左ノ二種トス
  - 一 教義學科
  - 二 普通學科
- 第五條 教義學科試驗科目左ノ如シ

一種	視教要旨筆記	二種	視教要旨筆記	三種	視教要旨筆記	四種	視教要旨筆記	五種	視教要旨筆記	六種	視教要旨筆記	七種	視教要旨筆記
	口述		口述		口述		口述		口述		口述		口述
	六國史口述		日本紀口述		古事記口述		古事記口述		古事記口述		古事記口述		古事記口述
	萬葉集口述		法曹至要抄口述		櫻紀宣命口述		祝詞式口述		土佐日記口述		每朝神拜式口述		○
	延喜式筆記		令義解筆記		職原抄筆記		禁秘抄筆記		文祝詞		文祝詞		文祝詞
	作文筆記		作文筆記		作文筆記		作文筆記		作文筆記		作文筆記		作文筆記
	公文筆記		公文筆記		公文筆記		公文筆記		公文筆記		公文筆記		公文筆記
	神事筆記		神事筆記		神事筆記		神事筆記		神事筆記		神事筆記		神事筆記
	神儀式筆記		神儀式筆記		神儀式筆記		神儀式筆記		神儀式筆記		神儀式筆記		神儀式筆記
	神事筆記		神事筆記		神事筆記		神事筆記		神事筆記		神事筆記		神事筆記
	神儀式筆記		神儀式筆記		神儀式筆記		神儀式筆記		神儀式筆記		神儀式筆記		神儀式筆記
	神儀式筆記		神儀式筆記		神儀式筆記		神儀式筆記		神儀式筆記		神儀式筆記		神儀式筆記

第六條 普通學科試驗科目左ノ如シ  
但此科目ヲ及第セシ者ハ再度ノ試験ヲ要セス

一修 身述口  
 一日本歴史記 一萬國歷史記  
 一萬國地理記 一算術記  
 一漢文 一日本地理記

第七條 試験ノ種目ヲ分テ七種トシ二種以上ヲ高等トシ三種以下ヲ尋常トス  
 第八條 高等試験ハ毎年二期四月及十月、敎本院ニ於テ執行シ尋常試験ハ毎年四期八月十一月、  
 敎分支院ニ於テ執行スル者トス  
 但シ時宜ニ依リ臨時執行スルコトアルヘシ

第九條 地方ニ於テ高等試験ヲ請フ者アル時ハ管長ハ高等檢定委員ヲ受験者所轄ノ  
 分支院ヘ派出セシメ試験ヲ執行スルコトアルヘシ  
 但シ試験時期ハ前條ノ例ニ依ル

第十條 試験方法ハ高等尋常トモ通シテ左ノ如クス  
 一 項 問題ノ筆記ハ一書ニ付一節口述ハ一書ニ付三節トス  
 二 項 筆記ハ一節二時間作文ハ一題三時間トス  
 三 項 試験ノ點法左ノ如シ  
 一 項 各科百點ヲ以テ滿點トス  
 二 項 各科得點ヲ合算シ平均六十點以上ヲ及第トス

三項 平均六十點ヲ得ルモ一科若シ四十點ニ達セサレハ落第トス  
 四項 平均八十點以上ヲ甲點トシ以下ヲ乙點トス

第十二條 第十一條第四項ノ得點ニ依リ職級ヲ定ムル左ノ如シ  
 但七種ノ試験ハ此限ニアラス

種目	一 種	二 種	三 種	四 種	五 種	六 種	七 種
甲 點	三 級	五 級	七 級	九 級	十一 級	十三 級	
乙 點	四 級	六 級	八 級	十 級	十二 級	十四 級	敎導職試補

第十三條 試験ニ落第セシ者高等ハ滿一ケ年尋常ハ滿六ケ月ヲ經過セサレハ再試験ヲ請フヲ許サス

第十四條 新補試験ハ十三級以下トス尤高等官タリシ者又ハ高等官タルノ資格ヲ有スル者ハ直ニ六級以下ノ判任官タリシ者又ハ判任官タルノ資格ヲ有スル者ハ直ニ十級以下ノ試験ヲ受クルコトヲ得但本條ノ場合ニ於テハ六級ノ敎師ニ限り檢定委員ハ豫メ管長ノ許可ヲ得テ試験ヲ執行スルコトヲ要ス  
 但認定ハ第三章第十八條ノ規定ニ據ル

第十五條 昇級試験ハ現職滿ニケ年以上ノ者ニ非レハ之ヲ許サス  
第十六條 昇級試験ハ越級ヲ許サス

但特別ノ事情アル者ニ限り管長ハ檢定長檢定委員長及檢定委員ノ銜ヲ經テ特ニ越級試験ヲ受クルコトヲ許可スルコトアルヘシ此場合ト雖モ十二級十級及六級ヲ超越スルコトヲ許サス

第三章 認定

第十七條 正權大教正ハ試験ヲ要セス管長之ヲ特命ス  
但大教正五名權大教正十名ヲ超過スルコトヲ許サス

第十八條 認定ハ左項ノ一ニ該當スル者ニ限り教養學科普通學科ノ内試験ノ一部ヲ免除シ甲部ハ七級ニ乙部ハ八級以下ニ丙部ハ十三級以下ノ教師ニ補命スルヲ得但認定時期ハ第二章第八條ノ例ニ依ル

甲部

- 一 項 神宮權禰宜以上官國幣社正權宮司ノ職ニアリシ者
- 二 項 神宮皇學館本科ヲ卒業セシ者及皇典講究所學正タル者

乙部

- 一 項 高等官タリシ者及其資格ヲ有スル者
- 以上普通學科試験ヲ免除ス

丙部

- 一 項 神宮宮掌以上官國幣社主典以上ノ職ニ在リシ者
- 二 項 神宮皇學館專科卒業者及皇典講究所五等司業以上ノ者
- 三 項 滿十年以上府縣社以下ノ神職ニ在リシ者
- 四 項 教養ニ關スル著述ヲ爲シ學術上顯著ナル成績アル者
- 五 項 十年以上禮教ノ教徒ニシテ布教ニ熱心シ顯著ナル巧績アル者
- 以上教養學科試験ヲ免除ス
- 六 項 尋常師範學校尋常中學校以上公立學ヲ卒業セシ者
- 七 項 判任官タリシ者及其資格ヲ有スル者
- 以上普通學科試験ヲ免除ス

第十九條 禮教教師タリシ者ニシテ復職ヲ請ヒ及又明治十七年八月十一日以前教導職タリシ者及他教派ノ教師タリシ者ニシテ更ニ本教教師ヲ志願スル者ハ試験一部

又ハ全部ヲ免除シ原職級ニ相當スル等級以下ニ補命スルコトヲ得

第二十條 試補以上ノ教師ニ就職シ左表ノ年限ヲ經過シ教養上巧勞アル者ハ其成績



ヲ認定シ一級ヲ進ムルコトヲ得猶分支院組教會ノ理事者ニシテ巧績尤著ナル者ハ認定ノ上一年ヲ短縮スルコトアルヘシ  
 但七級ヨリ六級二十級ヨリ九級二十三級ヨリ十二級ニ昇級スル場合ハ必ス試験ヲ要ス

年限	年滿四	年滿四	年滿四	年滿四	年滿三	年滿三	年滿三	年滿三	年滿三	年滿三	年滿三	
職給	教權中	正少教	教權正	教大講	講權大	教中講	講權中	教少講	教佛少講	訓導	專權訓	試教訓補

第四章 檢定長及檢定委員

- 第二十一條 檢定ヲ行フ爲メ檢定長及檢定委員長檢定委員ヲ置ク
- 第二十二條 左ノ資格アル者ヲ以テ檢定長及高等檢定委員トス
  - 一 項 博士學士ノ稱號アリテ現職六級以上ノ者
  - 二 項 本教顧問ノ任ニアル者
  - 三 項 本教教師就職十ヶ年以上ニシテ現職六級以上ノ者
  - 四 項 明治十七年八月十一日以前六級以上ノ教導職ニシテ現職六級以上ノ者
  - 五 項 高等學校高等師範學校以上ノ公立學校教授タリシ者ニシテ現職六級以上ノ者

者

- 第二十三條 左ノ資格アル者ヲ以テ尋常檢定委員トス
  - 一 項 本教教師就職五ヶ年以上ニシテ現職六級以上ノ者
  - 二 項 明治十七年八月十一日以前八級以上ノ教導職ニシテ現職六級以上ノ者
  - 第二十四條 檢定長ハ正副二名トシ高等檢定委員資格者中ヨリ管長之ヲ特命ス
  - 第二十五條 檢定委員長及檢定委員ハ高等尋常共ニ第二十二條第二十三條各項ノ資格者中ヨリ管長之ヲ特命ス
  - 但シ定員ナシ
  - 第二十六條 試験臨場檢定委員ハ高等尋常共ニ委員長一名委員三名トス
  - 但シ委員長欠席ノ節ハ委員首座ノ者ヲ以テ之ニ充ツ
  - 第二十七條 高等檢定委員長及尋常檢定委員長ハ檢定委員ト共ニ受験者ノ筆記以外ニ關スル者ヲ審査シ其成點ヲ檢定長ニ報告シ其筆記ニ關スル者ハ其儘檢定長ニ廻付スルモノトス
  - 但シ算術ハ事宜ニ依リ檢定委員長ヲシテ審査セシムルコトヲ得
  - 第二十八條 檢定長ハ高等及尋常檢定委員長ヨリ廻付シタル筆記書類ヲ審査シ其成點ヲ高等及尋常檢定委員長ヨリ報告シタル成點ト合算シ其成績ヲ管長ニ具申ス

第二十九條 檢定長及高等檢定委員ハ高等ノ認定ヲ爲シ檢定長及尋常檢定委員ハ尋常ノ認定ヲ爲スモノトス

第三十條 檢定委員ハ檢定ニ關スル諸般ノコトヲ執行ス

第三十一條 檢定長及檢定委員長檢定委員ノ任期ハ高等尋常共ニ四ケ年トス但シ再任スルコトヲ得

第五章 試驗立會人

第三十二條 試驗立會人ハ高等尋常共ニ各一名トス

第三十三條 試驗立會人ハ試驗場ニ臨ミ試驗終了セハ其正否ヲ管長ニ申告ス

第三十四條 高等試驗立會人ハ現職六級以上ノ者尋常試驗立會人ハ現職八級以上ノ者トス

第三十五條 高等尋常共ニ試驗立會人ハ前條ノ資格者ニ就キ其都度管長之ヲ特命ス

第六章 懲戒

第三十六條 檢定委員ニシテ試験問題ヲ受験者ニ漏洩シ又ハ試験場外ニ於テ試験ニ關スル事務ヲ取扱或ハ試験點查ヲ口外シタル者ハ輕キハ委員ノ資格ヲ剝奪シ重キハ教規ニ照シ免職若クハ降級ス

第三十七條 試驗立會人ニシテ虚偽ノ申告ヲ爲シタル時ハ前條ノ例ニ依ル

第三十八條 第三十六條ノ場合ニ於テハ試験ヲ無効トシ其受験者ハ猶十ケ年間試験ヲ請フコトヲ許サス

第七章 附則

第三十九條 試験認定ニ關スル書類ハ總テ視教本院ニ保存ス

第四十條 教規ニ依リ既ニ教師分限及等級ヲ授與シタル者ト雖モ自今昇級ノ場合ニ於テハ本條規ニ依ル

第四十一條 檢定ニ關スル手續ハ別ニ之ヲ定ム

神道禊派教規

教規御認可願

當禊派教規別冊之通相定施行仕度奉存候ニ付御認可被成下度此段奉願候也

神道禊派教長

明治廿七年八月十五日

中教正坂田安治印

内務大臣伯爵井上馨殿

追テ本願書ハ明治廿六年六月廿六日當派獨立願書ニ添付セラレ度奉追願候也  
(指令朱書)

割印  
書面願之趣認可ス

明治廿七年十月十九日

内務大臣子爵野村靖印

### 神道禊派教規

#### 第一章 教旨

第一條 本教ハ禊祓ノ神教ヲ擴張スルヲ以テ本旨トス抑モ禊祓ハ伊邪那岐神須佐之男神二神ノ神事ニ起因シ中世以降神祇伯白川家ノ秘法ニシテ天保年間ニ至リ吾教祖井上正鏡ニ相傳シ坂田正安同鏡安教統ヲ傳繼シ教旨ヲ保全スル所ナリ

#### 第二章 主神

第二條 天之御中主神高皇產靈神神皇產靈神天照大御神以上ノ四神ヲ造化ノ伊邪那岐神須佐之男神以上ノ二神ヲ禊祓大國主神幽冥主宰ノ神祓所神須具姫神凡テ四神能事ヲ掌リ主神速佐產土神土地人民ノ吉凶禍福ヲ司リ玉ヲ神也及井上正鏡ノ神靈ヲ奉祭ス

#### 第三章 祭式

第三條 本院ノ神殿祭式及教祖神靈祭ノ祭式ヲ正略二儀トス  
但大祭ハ正儀ヲ行ヒ小祭ハ略儀ニ依ル

#### 正儀

先齋主以下祭官一同神前ニ列座 一揖  
沓鹽湯行事神前ヲ始メ席上四方ヲ清ム

次大麻ヲ据ウ神杖ニ四垂ヲ付ケ  
次祝詞教主心中ニ被所四柱大神ニ拜短手  
次大麻行事神前及殿物ヲ拂ヒ清メ祭官又參拜人々モ拂ヒ清ム  
次開扉祭主一拜短手  
此間奏樂  
次神饌ヲ供フ祭官俱供  
此間奏樂  
次祝詞祭主 四拜八平手  
次拜禮有位帶職級時者及教師職員信徒參拜人順次 二拜短手  
次撤饌祭官  
此間奏樂  
次閉扉祭主 二拜短手  
次退手  
次退出  
零儀  
先齋主以下神前ニ列座

次祝詞二拜短手

次大麻行事

次神饌ヲ供フ

次祝詞二拜短手

次拜禮二拜短手

次撤饌

次退手

次退出

第四條 第十一章第三十六條ニ掲グル式例ノ大祭日ハ凡テ正儀ヲ行ヒ遙拜ハ略儀トス

第五條 分支院祖ノ布教場ノ神殿及教會ニ於テ臨時ニ執行スル祭式モ凡テ第三條第四條ノ例ニ依ル

但神殿ノ設ケ無キ時ハ神籬ヲ建テ神座トス

第六條 本教教師役員信徒ノ家ニ於テ執行スル婚姻葬儀ノ祭式ヲ左ノ二例トス

婚姻例

先正牀ニ神座ヲ設ケ祭司新夫婦媒人雙方父母親族等列座ス

次盥湯行事

次祝詞

次降神

次神饌ヲ供フ

此間奏樂時宜ニヨリ略クテ在ヘシ以下同シ

此間奏樂

次祝詞ヲ奏ス

次神饌ヲ撤ス

次酒杯臺ヲ据ウ

次結婚式ヲ行フ

次拜禮

次昇神

右凡テ本教著書婚姻例ニ依テ行フヘシ

葬儀例

豫柩前ニ高案ヲ据其上ニ被褥ヲ置ク

先祭官喪主以下着座

次盥湯行事

次招魂

次供物ヲ獻ス

次神魂安定詞ヲ宣時宜ニヨリ略ク  
トモアルヘシ

次發葬詞ヲ告ス

次喪主及近親玉串ヲ獻テ拜禮

次會葬人祭官拜禮

次撤供

次靈主ヲ別室ニ安置ス

次出棺

葬所祭

先祭官喪主以下柩前ニ列座

次祭主ニ拜

次供物ヲ獻ス

次埋葬詞ヲ宣ル

次喪主近親玉串ヲ獻テ拜禮

次會葬人祭官拜禮

次撤供

次埋葬

右凡テ本教著書神葬祭略式ニ依テ行フ忌日靈祭モ同様タルヘシ

但奏樂ヲ用フルモ妨ケナシ

第四章 教憲及誓詞

第七條 明治五年壬申四月廿三日太政官ヨリ教部省へ渡サレタル教憲ヲ奉戴ス

第一條 敬神愛國ノ旨ヲ體スヘキ事

第二條 天理人道ヲ明ニスヘキ事

第三條 皇上ヲ奉戴シ朝旨ヲ遵守セシムヘキ事

第八條 本教信徒タル者ハ左ノ誓詞ヲ遵守スヘシ

宇氣比基登

一 神ヲ敬ヒ天皇ヲ尊ヒ奉ル心ハ動サジ

一 朝夕ニ神ヲ拜ム事ハ忘レジ

一 外國ノ異教ニハ感ハジ

一 國ニ報イ奉ル爲メ家ノ業怠ラジ



一教祖ノ大人ノ教言ニハ背カシ  
天津神國津神八百萬ノ神ノ御前ニ今如此宇氣比奉ル事ハ生ノカギリ恐ミ懷ミテ忘  
レシ穴賢

第五章 名稱

第九條 本教ヲ名ケテ神道禊瀆ト稱シ東京府下谷區西町ニ番地ニ本院ヲ置ク  
第十條 管長ニ隸屬シ本教一切ノ教務及事務ヲ處理スル所ヲ神道禊瀆本院ト稱シ其  
分轄スル所ヲ神道禊瀆分支院又ハ神道禊瀆某組ト稱ス

第六章 職員教師

第十一條 本教ニ左ノ職員ヲ置ク

總 監	一 名
時宜ニ依リ副總監一名ヲ置ク	
願 問	無 定 員
監 督	全
庶務課長	一 名
教務課長	一 名
會計課長	一 名

第十二條 分支院組ニ左ノ職員ヲ置ク

傳 令 使	無 定 員
庶務員	全
教務員	全
會計員	四 名
世話係長	無 定 員
世話係	全
長	一 名
監 督	無 定 員
庶務係	全
會計係	全
世話係長	全
世話係	全
第十三條 本教ニ左ノ教師ヲ置ク	
大 教 正	一 級
權 大 教 正	二 級

中教正	三級
中教正	四級
少教正	五級
大講義	六級
中講義	七級
中講義	八級
少講義	九級
少講義	十級
訓導	十一級
訓導	十二級
權導	十三級
權導	十四級
教導	十五級

第七條 撰舉

第十四條 本教ノ管長ハ一名ト定メ六級以上ノ教師中ヨリ會議ノ決議ヲ以テ撰定シ  
 總監之ニ添書シ内務大臣ノ認可ヲ仰ク可シ

但管長ノ任期ハ終身トス

第十五條 總監ハ教統傳繼ノ家門之レヲ繼承シ管長之ヲ命ス

第十六條 顧問ハ本教ニ功勞アルモノ若クハ本教ニ關係ヲ有スル委任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ又ハ顯著ナル名譽アルモノニ對シ總監ノ具狀ニ依リテ管長之ヲ命ス

第十七條 監督ハ本教ニ功勞アルモノ又顯著ナル名譽アルモノニ對シ總監ノ具狀ニ依リテ管長之ヲ命ス

第十八條 各課長以下ノ役員ハ總監ノ撰定ニ依テ管長之ヲ命ス

第十九條 分支部組長ハ教師中ヨリ總監ノ撰拔ニ依テ管長之ヲ命ス

第二十條 分支部組監督以下ノ役員ハ分支部組長ノ具狀ヲ以テ總監ヲ經由シ管長之ヲ命ス

第二十一條 教正以下教導職試補ハ試驗若クハ管長ノ特撰ニ依テ之ヲ命ス

第二十二條 公權停止以上ノ處分受ケタルモノ及未丁年者癡癩白痴ノ者ハ教師ニ補スルコト得ス

但公權停止ノ者ニシテ復權後悔悟ノ實跡アルモノハ此限ニ非ス

第八章 試驗及特選

第二十三條 試驗ハ總監及教師二名以上立會ノ上左ノ方法ニ依リ施行ス

第一科 三條教憲辨解祝教祭神神德大意ノ講述

但辨解說教或ハ書取隨意

右ニ及第スル者ハ試補タルヲ得ルモノトス

但落第ノ者ハ次期ニ應スヘシ以下倣之

第二科 玉鉉百首ノ内辨解一首 神教要旨ノ内解義一段

右ニ及第スル者甲ハ訓導乙ハ權訓導タルヲ得ルモノトス

第三科 大祓祠ノ内對問一段祝教書取探題說教

右ニ及第スル者甲ハ少講義乙ハ權少講義タルヲ得ル者トス

第四科 紀記二典ノ内講義一段 神葬祭式并ニ祝祠辨解

右ニ及第スル者甲ハ中講者乙ハ權中講義タルヲ得ルモノトス

第五科 紀記二典ノ内對問二段 祝祠探題作文

右ニ及第スルモノ甲ハ大講義乙ハ權大講義タルヲ得ルモノトス

右ハ敬神篤志ニシテ品行端正ナル者分支院組長ノ具狀ニ依リ臨時ニ試験シ合格ノ者ハ之ヲ採用ス此餘教者擴張ノ爲メ管長ノ特權ヲ以テ撰ニ中ル者ハ此限ニアラス

第二十四條 教正ハ必管長ノ特撰タルヘシ

第九章 職制

第二十五條 管長ハ教師職員ノ進退黜陟有功者ノ賞譽及教師職員ヲ懲戒シ教務ノ獎勵分支院及教會ノ廢置分合等ニ關スル一切ノ事ヲ統轄シ政府ニ對シテ其實ニ任ス

第二十六條 總監ハ管長ヲ補佐シ課長以下ヲ監督シ教務及事務ヲ整理ス

第二十七條 顧問ハ總監及教師ト稟議シ本教擴張ノ途ニ立チ教務ヲ補翼スルヲ本務トス

第二十八條 監督ハ本院ニ在リテハ管長ノ命ヲ受ケ分支院組ニ在リテハ其所屬長ノ指揮ニ從ヒ諸般ノ教務ヲ擔當シ專ラ教内ノ取締ニ從事ス

第二十九條 庶務教務會計ノ課長ハ管長及總監ノ命ヲ受ケ該課ノ事務教務ニ從事ス

第三十條 傳令使ハ教内ヲ巡回シ管長ノ命令ヲ傳達シ及說教以テ布教ヲ獎勵ス

第三十一條 分支院組長及教會長ハ管長ノ命ヲ受ケ部内ノ教師信徒ヲ管理シ教務及事務ヲ擔任ス

第三十二條 庶務教務會計員世話係ハ其所屬長ノ指揮ニ從ヒ各事務ヲ分掌ス

第三十三條 教師ハ本院ニ在リテハ管長ノ命ヲ受ケ分支院組ニ在リテハ其所屬長ノ指揮ニ從ヒ禮戒修行神事祈禱布教婚姻葬儀靈祭ノ禮典ヲ執行ス

第十章 服制

第三十四條 教師ノ服制ハ左ノ如シ

男子

引立烏帽子

直垂 紋ハ明治廿七年二月勅令第六號ニ依リテ要ス

中啓

通常靴

女子

上衣 一名舞衣

袴 祭大口

扇又ハ檜扇 但繪圖ハ別紙ニ添付ス

第三十五條 職員及信徒ハ袴羽織等通常ノ衣服ヲ着ス

第十一章 式 例

第三十六條 左ニ掲クル大祭祝日ハ本分支院組共國旗ヲ掲ケ祭典ヲ執行ス

一元 始 祭 一月三日

一孝明天皇祭 一月三十日

一祈年祭 二月四日

- 一紀元節 二月十一日
  - 一教祖神靈祭 三月十二日
  - 一春季皇靈祭 三月 日
  - 一神武天皇祭 四月三日
  - 一大 祝 六月三十日
  - 一秋季皇靈祭 九月 日
  - 一神嘗祭 十月十七日
  - 一主神祭 十月十七日
  - 一天長節 十一月三日
  - 一新嘗祭 十一月廿三日
- 第三十七條 本分支院組共左ノ日ヲ以テ春秋靈祭ヲ行フ
- 一祖靈祭 三月十三日
  - 一靈魂祭 十月十八日
- 第三十八條 毎月左ノ日ヲ以テ月次小祭ヲ行フ
- 一主神祭 十一月七日
  - 一教祖神靈祭 十二月二日

第三十九條 毎朝教師一同神拜式ヲ行フ

第十二章 布教場

第四十條 布教場教會所新設ハ規約及擔任教師ヲ定メ管長ノ承認ノ上添書ヲ付シ地方廳へ願出可シ

第四十一條 本教ヲ宣布スルハ専ラ布教場教會所ニ於テスト雖モ信徒ノ請求ニ依リテハ假ニ民家ニ於テ執行スルコトアルヘシ

第十三章 教會

第四十二條 教會ヲ別チテ直轄教會普通教會ノ二トス

第四十三條 信徒人員千名以上ニシテ分院ニ屬スル者ヲ直轄教會トシ千名以下ニシテ分院又ハ支院ニ屬スル者ヲ普通教會トス

但本教ニ於テ設立セシ教會ニアラスシテ既ニ結成セシ教會ニ附屬ヲ許セシ場合モ亦本文ノ例ニ準ス

第十四章 信徒人員調

第四十四條 本分支院組ニ於テ信徒ノ住所姓名ヲ詳記シタル人名簿ヲ製シ置キ常ニ入門者死亡者等ノ増減加除ヲ明瞭ニスヘシ

第四十五條 分支院組長ハ毎年六月十二月兩度入門者信徒及死亡者ノ人員ヲ取調ヘ

本院ニ届出ヘシ

第十五章 布教

第四十六條 教師ニ非レハ布教スルコトヲ得ス

第四十七條 本教ニ入門スル者ハ男女ヲ區別シ先五日又ハ七日間布教場教會所等ニ寄宿シ敎教ノ敎授ヲ受ケ本教ノ原由ヲ會得シ然シテ後初メテ敎教信徒タルヲ得ヘシ尤入門者ハ同時ニ五名ヲ限トシ信徒參集人ハ凡ソ二十名ヲ限リトス

但本文ノ場合ニ於テハ教師監督タル者男女ヲ區別シ席次ヲ正シ猥リニ出入スル事ヲ許サス

第四十八條 敎教ノ修行ハ人々既往ノ過誤ヲ解除シ修身齊家ノ要道ヲ敎示スルノ入門ナレハ信徒タル者ハ各風俗ヲ正シ品行ヲ慎ミ質素篤實ヲ以テ相親睦シ假ニモ他ノ指囑ヲ招カサル襟心掛ヘシ

第四十九條 敎内ノ子弟其父兄ノ敎誨ニ從ハス言行道ニ背キ又ハ人ニ對シテ信義ヲ失ハントスル者アルキハ敎師役員等懇切ノ敎諭ヲ加ヘ常ニ各自ノ信義ヲ厚フシ疾病艱難相救助シ惟神ノ道ヲ守リ本教ノ至善ニ感化セシムヘシ

第五十條 本教修行ハ左ノ順序ニヨリ執行ス

一 祓禊修行ハ先入門人各盥漱シテ敎師一名戒長トナリ一同神前ニ進マセ拜揖ス信

徒參集人之ニ從フ

次ニ身曾岐被ヲ唱フ一同之二十五度ニシテ唱ヘ罷メ二拜拍手シ退座別席ニ休息ス  
次ニ教師席ヲ正シ講義ス

天地神人ノ始ヨリ説キ起シテ皇統ノ由テ起ル所及ヒ道ノ根元天神ヨリ出テ而シ  
テ君臣父子倫常ノ備ハルノ理ヲ講シ畢テ休息ス

次ニ入門人被詞ヲ唱フル前ノ如シ  
次ニ教師講義ス

凡ソ天下ノ物質アレハ則名アリ名ハ實ノ實ナリ是ヲ以テ皇國ハ實ヲ實ンテ名ヲ  
後ニス唯誠ヲ之レ教トナス漢土天竺西洋等ノ如ク徒ラニ名義方便ヲ以テ教トナ  
スノ類ニアラス具ニ能ク大道ノ根元ヲ得テ萬國ニ冠絶タリト謂フヘシ教師宜シ  
ク此意ヲ體シテ三條ノ教憲ニ基キ丁寧ニ説キ明スヘシ

加此連日被詞ヲ唱フル數百度ニ及ヒ其間ニ於テ苟モ人タル者ハ四恩ノ德澤ニ因  
テ生育スルノ眞理報本反始ノ志ヲ立安心立命ヲ決定シ自然神明ノ德ヲ得テ心中百  
念ヲ解除シ至誠無爲ノ地ニ至ルヲ視テ更ニ別神殿ニ招キ席ニ就カシム

次ニ教師列座シ入門人ニ被詞ヲ授ケ之ヲ被教信徒トス  
次ニ信徒ヲシテ誓詞ヲ爲サシム

次ニ修行成就神拜式ヲ行ヒ一同退場ス

第五十一條 布教場教會所ニ於テ被修行ニ拘ラス説教講義ヲ爲スヘシ

第五十二條 布教場教會所ニ於テ男女混交猥褻等ノ事及喧囂ニ涉リ營業上ノ妨害等  
ヲ爲スヘカラス

第五十三條 禁服祈禱ハ法式ニ依テ之ヲ行フト雖凡病者ニ對シテハ醫師施藥ノ者ニ  
非レハ行フト得ス

第五十四條 布教ヲ名トシ營利ノ事業ヲナスヘカラス

第五十五條 本教ハ時々傳令使ヲ派出シ巡回布教スルヲ在ヘシ

第十六章 會 議

第五十六條 會議ハ通常臨時會ノ二トス

第五十七條 通常會ハ毎年三月ヲ以テ開會ス

第五十八條 會議ノ開閉期日ハ總監顧問監督ノ贊同ヲ得テ管長之ヲ定ム

第五十九條 議員ハ各分支院組長一名及管長ノ指名ニ係ル分支院組役員一名ヲ以テ  
組織ス

第六十條 議長ハ毎回議員中ヨリ互撰投票ヲ以テ定メ管長之ヲ命ス

其投票同數ナル時ハ年長者ヲ以テ當撰者トス副議長ノ撰舉モ本文ノ例ニ據ル



第六十一條 議長ハ議事ヲ整理シ事故アルハ副議長其事務ヲ代理ス

第六十二條 會議ハ議員過半数ノ出席ヲ以テ成立シ議事ハ出席議員過半数ヲ以テ決ス可ク同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニヨル

第六十三條 左ニ掲グル事項ハ會議ノ決議ヲ經ヘシ

- 一 教規變更
- 二 管長撰定
- 三 教費賦課方法
- 四 本院ノ位置變換
- 五 本院ノ地所建物什器及基本財産管理ノ方法
- 六 前項ニ記載シタル物件ノ賣買
- 七 豫算贊同
- 八 決算承諾
- 九 豫算外ノ支出豫算不足金ノ承諾

第六十四條 議案ハ總監顧問監督ニ於テ立案シ管長之ヲ提出ス

第六十五條 管長ハ議事ノ情況不穩當ト認ルルハ會議ヲ解散ルヲ得此場合ニ於テハ議長ハ更ニ議員ヲ改撰シ解散ノ日ヨリ三ヶ月以内ニ之レヲ召集スヘシ

第六十六條 議會ニ於テ豫算ヲ議決セス又ハ豫算成立ニ至ラサル時ハ管長ハ前年度ノ豫算ヲ施行ス

第十七章 會計

第六十七條 本教經費ハ寄附金及信徒月掛金ヲ以テ之レニ充ツ

第六十八條 本教所屬ノ財産ハ管長之ヲ管理ス

第六十九條 本教所屬ノ地所建物什器及基本財産ニ付テハ管長ハ總監顧問監督會計課長ヲシテ財産臺帳ヲ製セシメ其臺帳ニ右ノ財産ヲ明瞭ニ記載シ管長ハ總監顧問監督會計課長ト共ニ連署捺印シ通常會ノ檢閱ニ附シ本院ニ備置ヘシ

第七十條 本教所屬ノ地所建物什器基本財産ノ賣買等ハ通常會ノ贊同ヲ得テ之ヲ實行ス

第七十一條 本教ノ歳入歳出ハ毎年二月管長ハ會計課ヲシテ豫算案ヲ調製セシメ通常會ノ贊同ヲ經ヘシ

第七十二條 本教ノ歳入歳出ノ決算ハ會計課ニ於テ之ヲ調製シ次期ノ會議ノ承認ヲ經タル上毎年四月教内ニ報告ス

第七十三條 會計課長ハ一切ノ收入支出ヲ原簿ニ記載シ管長總監ノ檢閱ヲ受ク

第七十四條 教師及役員ハ執務時間中ニ本教ノ帳簿書類ヲ檢閱スルヲ得

第十八章 教費賦課

第七十五條 本分支院組ニ係ル教費ハ會議ノ決議ニ依テ賦課ノ方法ヲ定メ管長ノ令達ヲ以テ實行ス

第七十六條 教師ニシテ教費ヲ怠納スル者アルハ違例ニ問ヒ輕重ニ依テ處分ス

第七十七條 信徒ニシテ教費ヲ怠納スル者アルトキハ其輕キハ諭告シ重キハ本教名簿ヲ除キ其人名ヲ公告ス

第十九章 賞 譽

第七十八條 章内篤志ノ者ヲ左ノ概目ニ比準シ總監ノ具狀ニヨリ管長之ヲ賞譽ス  
但賞狀木盃書籍等ヲ授與ス

一 教義上功勞著明ナル者

二 孝悌節義ノ實跡アル者

三 本教ノ葬祭ニ改式セシ者

第二十章 違 例

第七十九條 教師タル者左ノ概目ニ觸ル、者アルキハ總監ニ於テ其實跡ヲ糺シ管長ニ具狀シ管長ハ其情狀ヲ酌量シ免職降級罷責謹慎等ノ處分ヲ爲ス  
一 管長ノ命令ヲ奉セサル者

二 教規遵守セサル者

三 忘リニ吉凶禍福ヲ説キ又祈禱神占禁厭ニ託シ人ヲ眩惑シ私利ヲ射ル者

四 竊ニ外國ノ異教ヲ信スル者

五 著シキ不品行ヲ以テ讒リテ來シ教師ノ跡面ヲ汚ス者

六 公權停止以上ノ處分ヲ受ケタル者

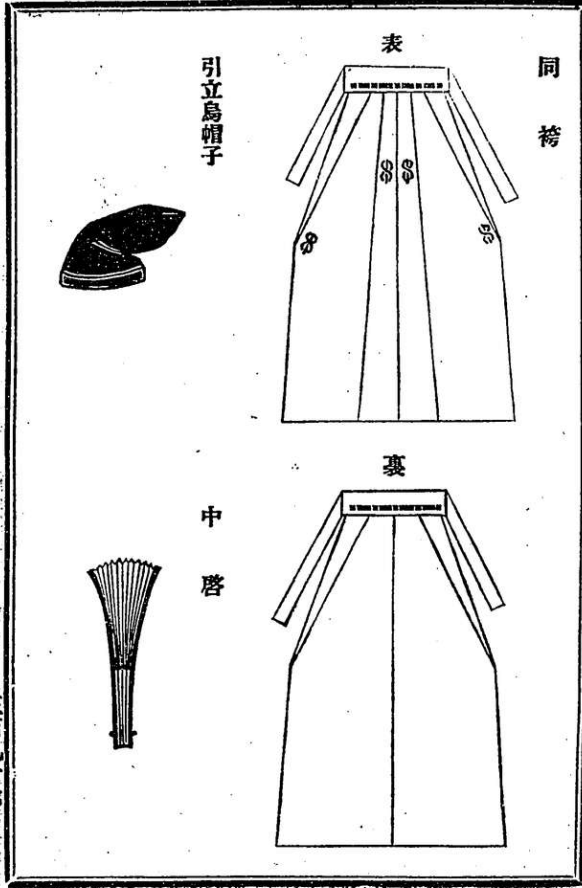
七 教費金納期ヲ怠ル者

第八十條 凡ソ德義上不應爲ノ所業アル者ハ此違例概目ニ比準シ總監ノ具狀ニ據リ管長之ヲ處分ス

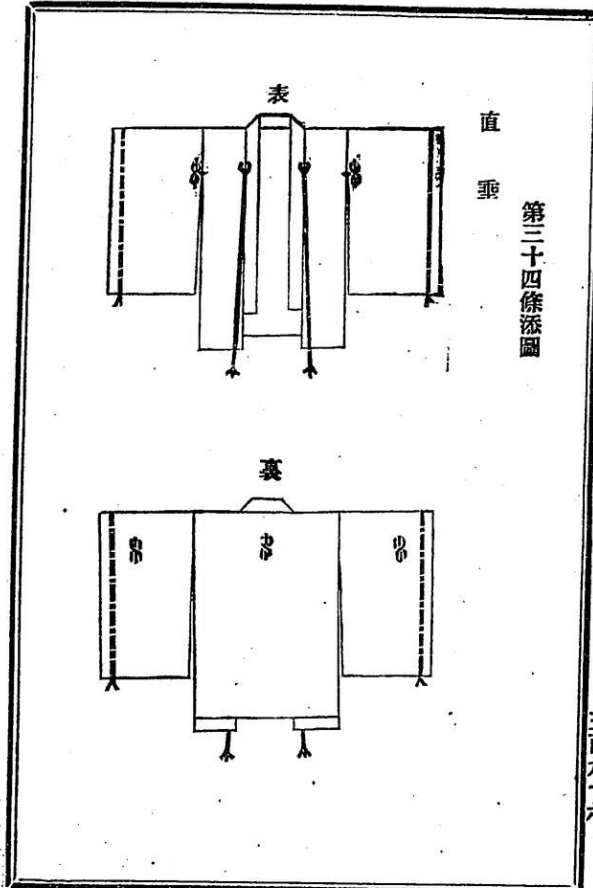
第八十一條 教師ニシテ此違例ニ觸レ懲戒ヲ受タル者ハ三年間新補及昇級スルヲ得ス

第二十一章 雜 則

第八十二條 時宜ニ依リ此教規ヲ修正變更スルノ場合ニ於テハ管長ハ總監ト稟議ノ上顧問ニ諮詢シ議會ノ協賛ヲ經内務大臣ノ認可ヲ得テ施行ス



三百九十七

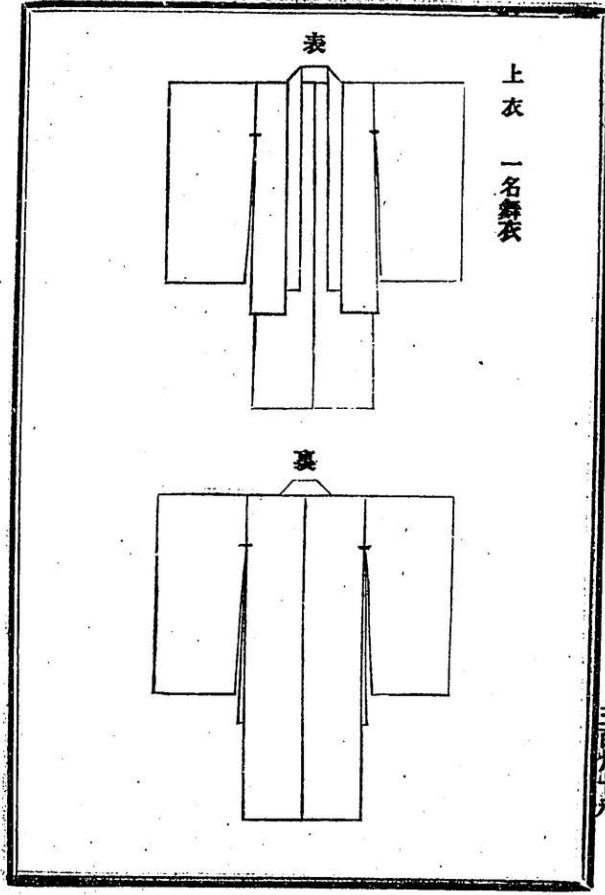


第二十四條添圖

三百九十六



三百九十九



三百九十八

禊教達第十五號

本年四月臨時會ニ於テ議會ノ協賛ヲ經テ本教教規修正ノ義本省へ出願ニ及置候處左ノ通御認可相成候條此旨相達候事

禊教管長坂田安治代理

明治二十八年六月二十一日

教務課長 中教正 關 秀 啓

禊第十二號 教規修正願

本教教規第十六章ニ依リ四月十五日ヨリ十七日マテ三日間臨時會議開會仕候テ同第

二十一章ノ規定ニ隨ヒ別紙ノ通り教規修正變更仕度候條御認可被下度此段奉願候也

明治二十八年四月二十二日

禊教管長 坂田 安 治 印

(指令朱書)

内務大臣子爵野村 靖 殿

書面願之趣認可ス

印割

明治二十八年六月十八日

内務大臣子爵野村 靖 印

教規第六章第十一條中會計員四名トアルヲ左ノ通り修正

會計員 無定員

理由會計員ノ定限ハ實際ト支アルヲ以テ無定員トシ事務ノ繁閑ニ依リ増減ス  
同第十一章第三十六條元始祭ノ前ニ左ノ一項ヲ加フ

一 一日一祭

理由教規制定ノ當時脱漏

同章同條主神祭十月十七日ヲ左ノ通り修正

一 主神祭 十月十九日

理由十月十九日ハ本教獨立許可ノ者ナルヲ以テ紀念ノ爲メ之レヲ改ム

同章第三十六條主神祭 一 日 左ノ通り改正

一 主神祭 一 日 十九日

理由前ニ同シ

同第十六條第五十九條左ノ通り修正

理由議員ハ本分支院組ニテ二名ト定メ長一名及役員一名互撰ヲ以テ組織ス

理由議員ヲ管長ノ指名ニ係ラシムルハ穩當ナラサルニ依ル

印刷

(指令朱書)

書面之趣認可候事

明治十八年六月廿二日

內務卿伯爵山縣有朋印

明治二十九年十月二十五日印刷  
明治二十九年十一月十九日發行

(定價金八拾錢)

編輯兼發行者

東京市京橋區銀座三丁目十八番地

竹內拙三

印刷者

東京市日本橋區南茅場町四十八番地

大石喜太郎

發行所

東京市京橋區銀座三丁目十八番地

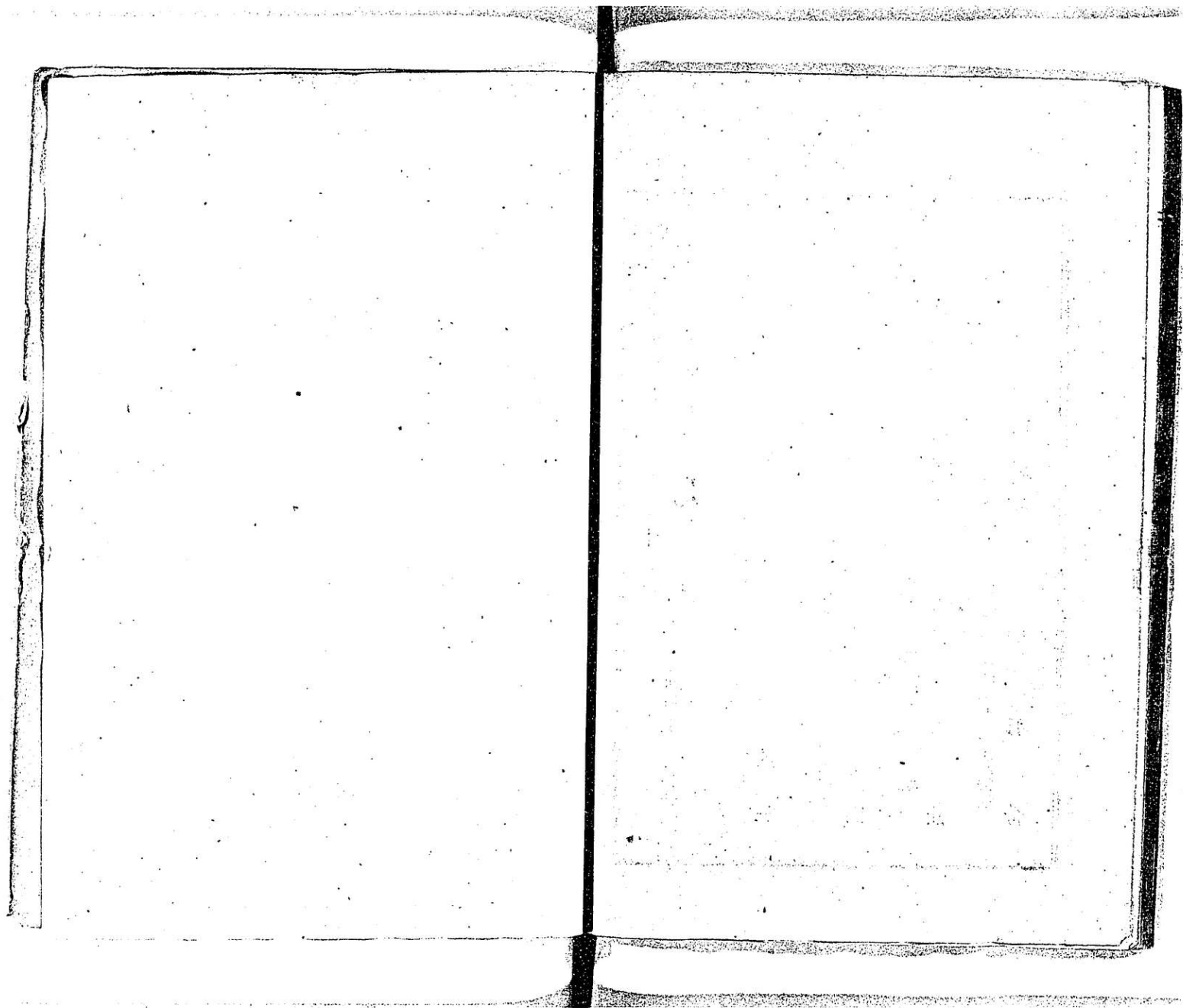
報行社

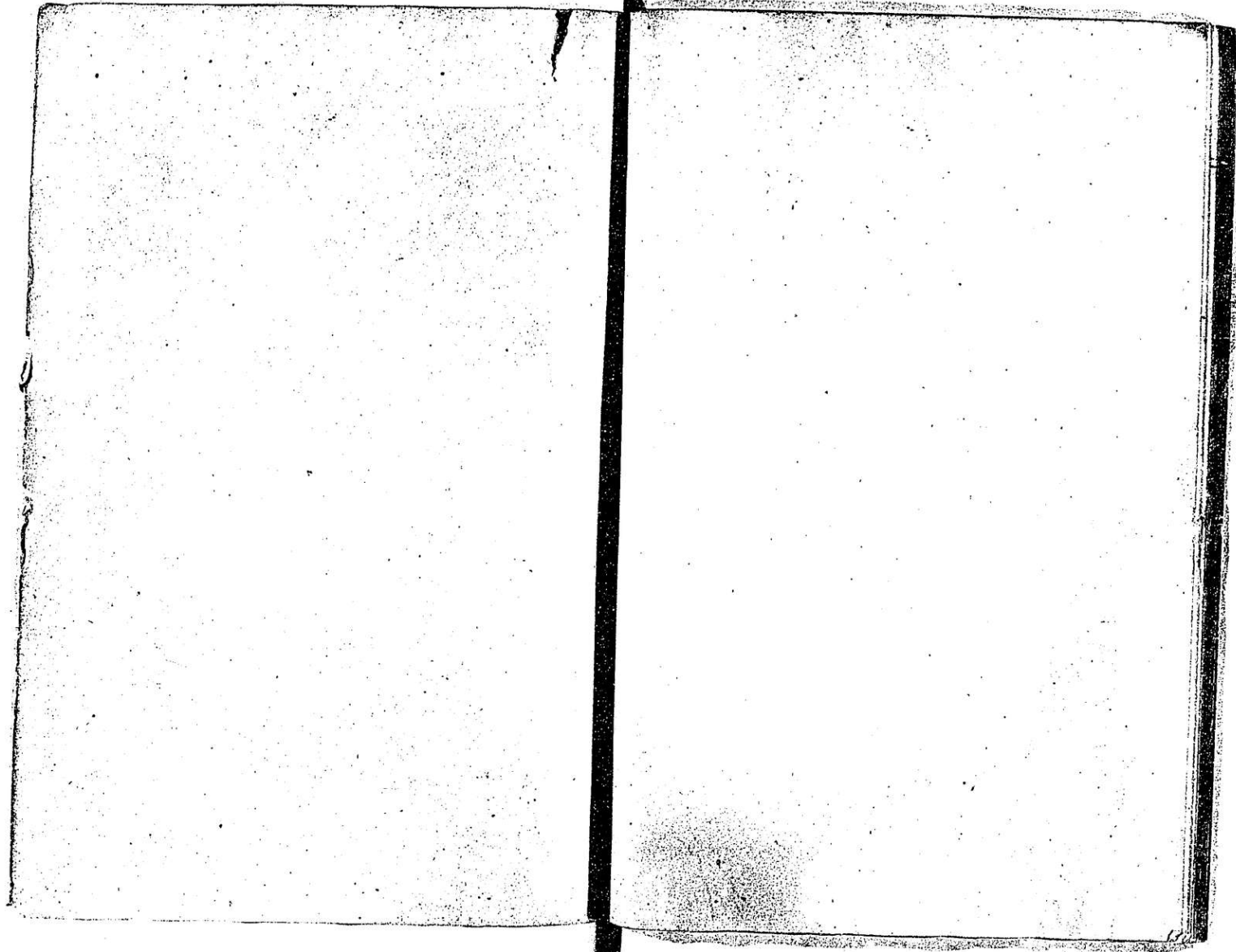
印刷所

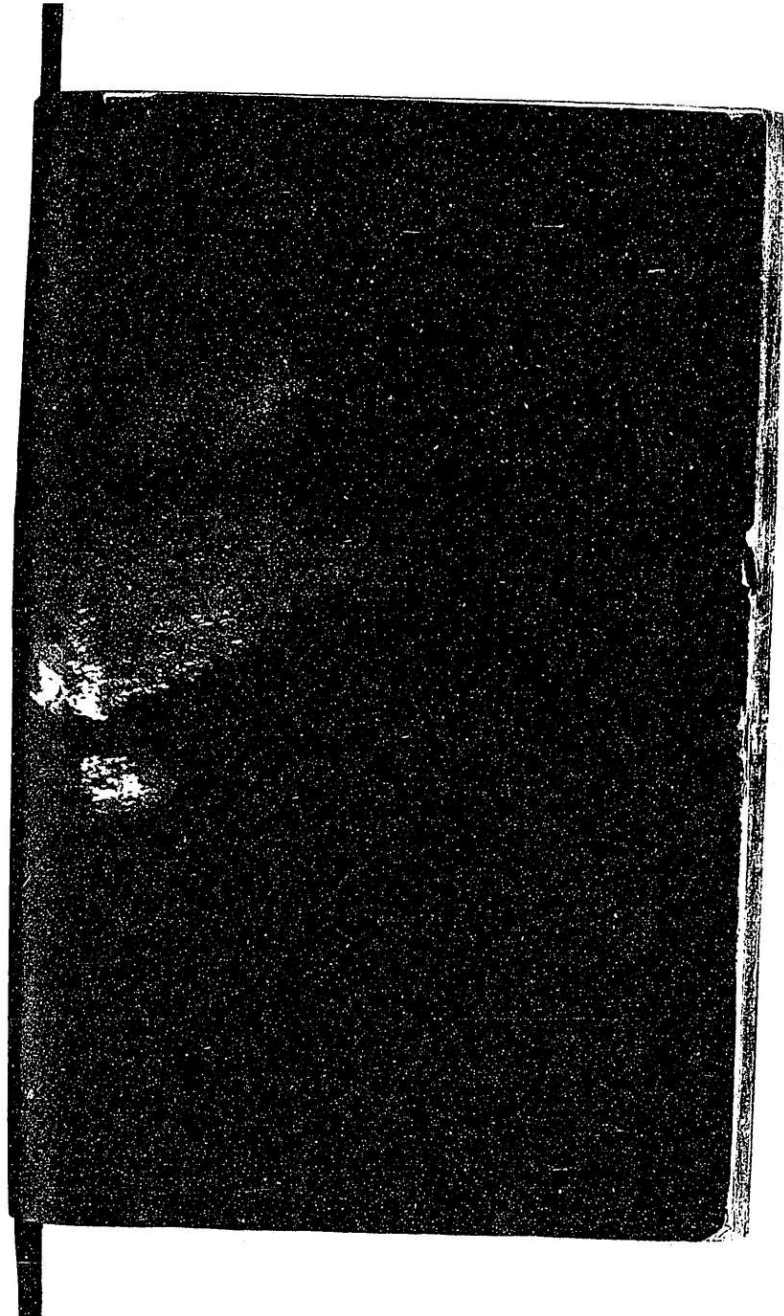
東京市日本橋區南茅場町四十八番地

明昇舍









014231-000-2

特18-114

神道教規大全(改正)

竹内 拙三/編

M29

ABB-0559

